

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2016-106916

(P2016-106916A)

(43) 公開日 平成28年6月20日(2016.6.20)

(51) Int.Cl. F 1 テーマコード (参考)
A 6 3 F 7/02 (2006.01) A 6 3 F 7/02 3 2 0 2 C 3 3 3

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 123 頁)

(21) 出願番号 特願2014-248645 (P2014-248645)
 (22) 出願日 平成26年12月9日 (2014.12.9)

(71) 出願人 000144153
 株式会社三共
 東京都渋谷区渋谷三丁目29番14号
 (72) 発明者 小倉 敏男
 東京都渋谷区渋谷三丁目29番14号 株
 式会社三共内
 Fターム(参考) 2C333 AA11 CA48 CA77

(54) 【発明の名称】 遊技機

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】変動表示中の演出の興趣を向上させる事が可能な遊技機の提供。

【解決手段】画像表示装置5の飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rで飾り図柄が変動表示を開始し(A)、やがて「左」、「右」の飾り図柄表示エリア5L、5Rにおいて飾り図柄が「7」で変動を停止してリーチが成立する(B)。その後、「中」の飾り図柄表示エリア5Cに青色のNEXT図柄5Cが表示(仮停止)される(C)。続いて、青色のNEXT図柄がその位置で徐々に拡大動作し、やがて「左」、「右」の飾り図柄の一部を覆う程度にまで拡大すると、その時点でNEXT図柄の種類が青色で確定する(D)。他方で、「中」の飾り図柄表示エリア5Cに青色のNEXT図柄が表示されてから、青色のNEXT図柄が徐々に拡大する間、NEXT図柄の色が青色から赤色に変化する(F)。

【選択図】 図46

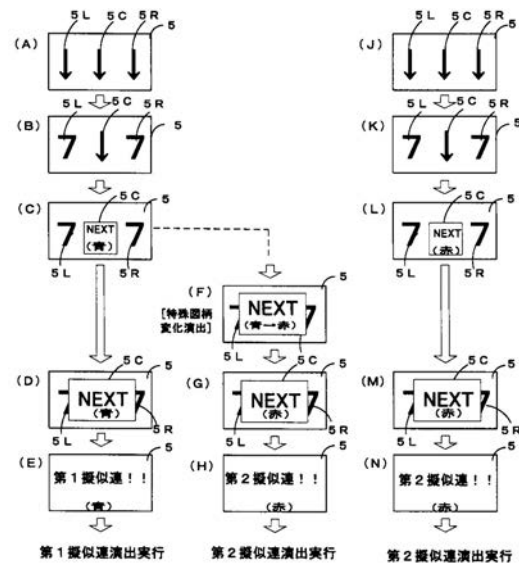


図46

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

変動表示を行ない、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、
変動表示の開始から表示結果の導出表示までに一旦仮停止させた後に変動表示を再度行
なう再変動表示演出を実行する再変動表示実行手段と、

変動表示に用いられる変動表示用画像とは異なる画像であって所定演出の実行を示唆す
る特殊画像を、変動表示中の前記所定演出の実行以前に変動表示用画像の表示領域に表示
可能な特殊画像表示手段と、

を備え、

前記特殊画像には、前記再変動表示演出を前記所定演出として実行を示唆する特殊画像
が含まれ、

前記特殊画像表示手段は、前記特殊画像として第 1 特殊画像を前記表示領域に表示し、
その後当該第 1 特殊画像とは異なる態様の第 2 特殊画像に変更して表示可能である、

ことを特徴とする遊技機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、パチンコ遊技機等の遊技機に関する。

【背景技術】

【0002】

この種の遊技機として一般的に知られているものとして、例えば、変動表示を行ない、
遊技者にとって有利な有利状態（大当たり遊技状態等）に制御可能な遊技機がある。

【0003】

このような遊技機の中には、変動表示に対する遊技者の期待感を高めるために、例えば
、変動表示を特殊図柄等の特殊画像で一旦仮停止させ、その特殊画像の種類によって大当
りとなる期待度が異なるものとされた遊技機がある（特許文献 1）。また、特殊画像が仮
停止するか否かの報知演出の実行時間に応じて大当たり期待度が異なるようにされた遊技機
も知られている（特許文献 2）。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献 1】特開 2009-39212 号公報

【特許文献 2】特開 2014-39745 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

しかしながら、この種の従来の遊技機では、特殊画像が表示された後の変化が乏しく、
変動表示中に特殊画像を表示する際の演出の興趣が十分ではなかった。

【0006】

本発明の目的は、変動表示中に特殊画像を表示する際の演出の興趣を向上させることが
可能な遊技機を提供することである。

【課題を解決するための手段】

【0007】

（1） 変動表示（特別図柄、飾り図柄の変動表示等）を行ない、遊技者にとって有利
な有利状態（大当たり遊技状態等）に制御可能な遊技機（パチンコ遊技機 1 等）であって、

変動表示中に所定演出（図 40 のリーチ発展演出の他、図 46 の擬似連演出、図 45 の
演出モード変更演出等）を実行する所定演出実行手段（演出制御用 CPU 120、図 25
の S532、図 22 の S172 等）と、

変動表示に用いられる変動表示用画像とは異なる画像であって前記所定演出の実行を示
唆する特殊画像（擬似連演出の場合は、図 46（C）の飾り図柄表示エリア 5C の青色 N

10

20

30

40

50

NEXT図柄、図46(L)の飾り図柄表示エリア5Cの赤色NEXT図柄等)を、変動表示中の前記所定演出の実行以前に変動表示用画像(「1」～「9」等の飾り図柄の画像等)の表示領域(飾り図柄表示エリア5C等)に表示可能な特殊画像表示手段(図45、図46の擬似連演出を実行する演出制御用CPU120、図25のS532、図22のS172等)と、

変動表示の開始から表示結果の導出表示までに一旦仮停止させた後に変動表示を再度行なう再変動表示演出(擬似連演出)を実行する再変動表示実行手段(図45、図46の擬似連演出を実行する演出制御用CPU120、図25のS532、図22のS172等)と、

を備え、

前記特殊画像には、前記再変動表示演出を所定演出として実行を示唆する特殊画像(図45の青色NEXT図柄、赤色NEXT図柄)が含まれ、

前記特殊画像表示手段は、前記特殊画像として第1特殊画像(擬似連演出の場合は、図46(C)の飾り図柄表示エリア5Cの青色NEXT図柄等)を前記表示領域に表示し、その後当該第1特殊画像とは異なる態様の第2特殊画像(図46(L)の飾り図柄表示エリア5Cの赤色NEXT図柄等)に変更して表示可能である(擬似連演出の場合は、図46(C)、(F)、(G)のように、青色NEXT図柄から赤色NEXT図柄に変更されたときに、図46(H)のように第2擬似連演出を実行する等)。

【0008】

このような構成によれば、変動表示中に特殊画像を表示する際の演出の興趣を向上させることが可能となる。

【0009】

(2) 前記(1)に記載の遊技機において、

変動表示の実行中に、当該変動表示に対応する変動対応表示(アクティブ表示等)を行なうことが可能な変動対応表示手段(演出制御用CPU120、図25のS532等)と、

変動表示の実行中に、前記変動対応表示の態様を変化させるときと、前記変動対応表示の態様を変化させないときとで共通で実行される共通演出(例えば、第1系統変化演出において、図形群Y1がアクティブ表示に衝突する前までの演出や、第2系統変化演出において、矢Y2がアクティブ表示を囲うアクティブ表示枠に衝突するまでの演出等)と、当該共通演出を実行した後に前記変動対応表示の態様を変化させる成功演出(例えば、第1系統変化演出において、アクティブ表示に図形群Y1のいずれかの形状「星」の図形が衝突して星の表示態様に変化する演出や、第2系統変化演出において、アクティブ表示枠に矢Y2が衝突してアクティブ表示枠の線の太さが変化する演出や、これらの第1系統変化演出と第2系統変化演出とを両方実行してアクティブ表示やアクティブ表示枠等の表示態様を変化させる演出等)または前記変動対応表示の態様を変化させない失敗演出(例えば、第1系統変化演出において、アクティブ表示に図形群Y1のいずれかの形状「星」の図形が衝突する前に消滅してアクティブ表示の表示態様を変化させない演出や、第2系統変化演出において、アクティブ表示枠に矢Y2が衝突する前に矢Y2が消滅して、アクティブ表示枠の線の太さが変化させない演出や、これらの第1系統変化演出と第2系統変化演出とを両方実行してアクティブ表示またはアクティブ表示枠の一方または両方の表示態様を変化させない演出等)とを実行可能な演出実行手段とをさらに備え、

変動表示の実行中における複数タイミングのうち、いずれのタイミングで前記共通演出を実行するかに応じて、前記成功演出を実行する割合が異なる。

【0010】

このような構成によれば、共通演出の実行タイミングに注目させることができる。また、実行タイミングに注目させることにより、遊技者の有利状態に対する期待感を向上させることができる。

【0011】

(3) 前記(1)または(2)に記載の遊技機において、

10

20

30

40

50

変動表示の開始から表示結果の導出表示までに一旦仮停止させた後に変動表示を再度行なう再変動表示演出（擬似連演出）を実行する再変動表示実行手段（図45、図46の擬似連演出をする演出制御用CPU120、図25のS532、図22のS172等）と、

変動表示中におけるリーチ演出を発展させるリーチ発展演出（図40のスーパーリーチ発展演出）を実行するリーチ演出発展手段（図40、図45のリーチ発展演出をする演出制御用CPU120、図25のS532、図22のS172等）と、

変動表示中における演出モードを移行させるモード移行演出（特別演出モード移行演出）を実行する演出モード移行手段（図45のZONE図柄の表示、背景画像の変化等の特別演出モード移行演出をする演出制御用CPU120、図25のS532、図22のS172等）とをさらに備え、

前記特殊画像には、前記再変動表示演出、前記リーチ発展演出、および、前記モード移行演出のうち、少なくともいずれかの演出を所定演出として実行を示唆する特殊画像（図45のNEXT図柄、青色のスーパーリーチ発展図柄、ZONE図柄）が含まれる。

【0012】

このような構成によれば、再変動表示演出、リーチ発展演出、および、モード移行演出を行なうときの各種演出の演出効果を高めることが可能となる。

【0013】

(4) 前記(1)～(3)のいずれかに記載の遊技機において、

変動表示の実行中に当該変動表示に対応する変動対応表示（図47に示すアクティブ表示）を実行可能であり、当該変動対応表示の表示態様を変化させる変動対応表示変化演出（図47に示す、球から星に変化するアクティブ表示変化演出）を実行可能であり、

前記特殊画像には、所定演出の実行と、前記変動対応表示変化演出の実行との両方を示唆する画像（図47に示す「青／星図柄」および「赤／星図柄」）が含まれる。

【0014】

このような構成によれば、所定演出の実行の示唆と関連付けて変動対応表示の変化に対する遊技者の期待感を高めることが可能となる。

【0015】

(5) 前記(1)～(4)のいずれかに記載の遊技機において、

前記特殊画像表示手段は、前記特殊画像を停止させた態様で前記特殊画像を表示させた（図40(C)、図43(C)のT1での青スーパーリーチ発展図柄の停止表示等）後、前記所定演出を実行する前（図43(C)のT3での第2スーパーリーチ演出を実行する前等）において、前記特殊画像の表示態様を変化させる（図40(F)のスーパーリーチ発展図柄の拡大表示）とともに、前記特殊画像を前記第1特殊画像から前記第2特殊画像に変更する（図40(F)、(G)、図43(C)のT2での青色スーパーリーチ発展図柄から赤色スーパーリーチ発展図柄に変化する表示等）。

【0016】

このような構成によれば、変化前の特殊図柄の表示態様を遊技者が確実に認識でき、特殊図柄が変化したことを遊技者が見逃してしまうことを極力防止できる。

【0017】

(6) 前記(1)～(5)のいずれかに記載の遊技機において、

変動表示の開始から表示結果の導出表示までに一旦仮停止させた後に変動表示を再度行なう再変動表示演出（擬似連演出）において、前記特殊画像（図45(F)に示す飾り図柄表示エリア5CのZONE図柄）の表示を伴って一旦仮停止させてから再度変動表示（図45(H)、(I)に示すNEXT図柄を用いた擬似連演出の再変動表示）を行なうとともに、所定演出（図45(F)～(I)に示す背景画像を特別の背景画像に変化させる演出等の特別演出モード移行演出）を実行する第1再変動表示実行手段（演出制御用CPU120、図25のS532、図22のS172等）と、

変動表示の開始から表示結果の導出表示までに一旦仮停止させた後に変動表示を再度行なう再変動表示演出（擬似連演出）において、前記特殊画像の表示を伴わずに一旦仮停止させてから再度変動表示（図45(J)、(K)に示すNEXT図柄を用いた擬似連演出

10

20

30

40

50

の再変動表示)をさせ、前記所定演出(特別演出モードに移行する演出モード移行演出)を実行しない第2再変動表示実行手段(演出制御用CPU120、図25のS532、図22のS172等)とをさらに備える。

【0018】

このような構成によれば、再変動表示演出と所定演出との両方を実行するときに、遊技者に対する両方の実行内容を認識させやすくすることができる。

【図面の簡単な説明】

【0019】

【図1】本発明の一態様によるパチンコ遊技機の正面図である。

【図2】パチンコ遊技機に搭載された各種の制御基板等を示す構成図である。

10

【図3】演出制御コマンドの内容の一例等を示す説明図である。

【図4】主基板の側でカウントされる遊技用乱数を例示する説明図である。

【図5】変動カテゴリ及び変動パターンを例示する図である。

【図6】特図表示結果決定テーブルの構成例を示す図である。

【図7】大当り種別決定テーブルの構成例を示す図である。

【図8】遊技制御用データ保持エリアの構成例を示すブロック図である。

【図9】演出制御パターンの構成例等を示す図である。

【図10】演出制御用データ保持エリアの構成例を示すブロック図等である。

【図11】遊技制御用タイマ割込み処理の一例を示すフローチャートである。

【図12】特別図柄プロセス処理の一例を示すフローチャートである。

20

【図13】特別図柄プロセス処理における始動入賞判定処理の一例を示すフローチャートである。

【図14】始動入賞時処理の一例を示すフローチャートである。

【図15】入賞時乱数値判定処理の一例を示すフローチャート等である。

【図16】変動カテゴリ決定テーブルの選択例を示す図である。

【図17】変動カテゴリ決定テーブルの構成例を示す図である。

【図18】特別図柄通常処理の一例を示すフローチャートである。

【図19】変動パターンの決定割合の設定例を示す図である。

【図20】演出制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。

【図21】コマンド解析処理の一例を示すフローチャートである。

30

【図22】演出制御プロセス処理を示すフローチャートである。

【図23】演出制御プロセス処理における入賞時演出決定処理の一例を示すフローチャートである。

【図24】保留表示の表示態様の決定割合の設定例を示す図である。

【図25】可変表示開始設定処理の一例を示すフローチャートである。

【図26】アクティブ表示変化演出実行有無決定テーブルによる決定割合の設定例を示す図である。

【図27】アクティブ表示変化演出実行時の演出態様の決定割合の設定例を示す図である。

【図28】第1系統変化演出実行時の演出実行タイミング決定テーブルによる決定割合の設定例を示す図である。

40

【図29A】画像表示装置における表示動作例を示す図である。

【図29B】画像表示装置における表示動作例を示す図である。

【図30A】画像表示装置における表示動作例を示す図である。

【図30B】画像表示装置における表示動作例を示す図である。

【図31A】画像表示装置における表示動作例を示す図である。

【図31B】画像表示装置における表示動作例を示す図である。

【図32A】画像表示装置における表示動作例を示す図である。

【図32B】画像表示装置における表示動作例を示す図である。

【図33A】画像表示装置における表示動作例を示す図である。

50

【図 3 3 B】画像表示装置における表示動作例を示す図である。

【図 3 4 A】画像表示装置における表示動作例を示す図である。

【図 3 4 B】画像表示装置における表示動作例を示す図である。

【図 3 5 A】画像表示装置における表示動作例を示す図である。

【図 3 5 B】画像表示装置における表示動作例を示す図である。

【図 3 6 A】画像表示装置における表示動作例を示す図である。

【図 3 6 B】画像表示装置における表示動作例を示す図である。

【図 3 7】保留表示の表示態様の決定割合の他の設定例を示す図である。

【図 3 8】アクティブ表示変化演出実行有無決定テーブルによる決定割合の他の設定例を示す図である。

10

【図 3 9】第 1 系統変化演出実行時の第 1 系統詳細パターン決定テーブルによる決定割合の設定例を示す図である。

【図 4 0】発展図柄を用いた演出の一例を示す図である（スーパーリーチ発展演出）。

【図 4 1】スーパーリーチ発展演出パターンテーブルを示す図である。

【図 4 2】発展演出選択テーブルを示す図である。

【図 4 3】ノーマルリーチ演出と対比したスーパーリーチ発展演出の態様を示すタイミングチャートである。

【図 4 4】発展図柄演出設定処理を示すフローチャートである。

【図 4 5】擬似連発展図柄を用いた演出の変形例の第 1 例を示す図である（特別演出モード発展演出）。

20

【図 4 6】発展図柄を用いた演出の変形例の第 2 例を示す図である（擬似連演出）。

【図 4 7】発展図柄を用いた演出の一例を示す図である（複数種類表示変化演出）。

【発明を実施するための形態】

【0020】

以下、図面を参照しつつ、本発明の実施形態を詳細に説明する。図 1 は、本発明の実施形態によるパチンコ遊技機の正面図であり、主要部材の配置レイアウトを示す。パチンコ遊技機（遊技機）1 は、大別して、遊技盤面を構成する遊技盤（ゲージ盤）2 と、遊技盤 2 を支持固定する遊技機用枠（台枠）3 とから構成されている。遊技盤 2 には、ガイドレールによって囲まれた、ほぼ円形状の遊技領域が形成されている。この遊技領域には、遊技媒体としての遊技球が、所定の打球発射装置から発射されて打込まれる。

30

【0021】

遊技盤 2 における遊技領域の下側部分には、普通入賞球装置 6 A と普通可変入賞球装置 6 B とが設けられている。普通入賞球装置 6 A は、例えば所定の玉受部材により常に一定の開放状態に保たれる始動領域（第 1 始動領域）としての第 1 始動入賞口を形成する。普通可変入賞球装置 6 B は、図 2 に示す普通電動役物用となるソレノイド 8 1 により、垂直位置となる通常開放状態と傾動位置となる拡大開放状態とに変化する一对の可動翼片を有する電動チューリップ型役物（普通電動役物）を備え、始動領域（第 2 始動領域）第 2 始動入賞口を形成する。

【0022】

一例として、普通可変入賞球装置 6 B では、普通電動役物用のソレノイド 8 1 がオフ状態であるときに可動翼片が垂直位置となることにより、遊技球が第 2 始動入賞口を通過（進入）しがたい通常開放状態となる。その一方で、普通可変入賞球装置 6 B では、普通電動役物用のソレノイド 8 1 がオン状態であるときに可動翼片が傾動位置となる傾動制御により、遊技球が第 2 始動入賞口を通過（進入）しやすい拡大開放状態となる。なお、普通可変入賞球装置 6 B は、通常開放状態であるときでも、第 2 始動入賞口には遊技球が進入可能であるものの、拡大開放状態であるときよりも遊技球が進入する可能性が低くなるように構成してもよい。あるいは、普通可変入賞球装置 6 B は、通常開放状態において、例えば第 2 始動入賞口を閉鎖すること等により、第 2 始動入賞口には遊技球が進入しないように構成してもよい。このように、第 2 始動領域としての第 2 始動入賞口は、遊技球が通過（進入）しやすい拡大開放状態と、遊技球が通過（進入）しにくいまたは通過（進入）

40

50

できない通常開放状態とに変化する。

【0023】

普通入賞球装置6Aが形成する第1始動入賞口を通過（進入）した遊技球は、例えば図2に示す第1始動口スイッチ22Aにより検出される。普通可変入賞球装置6Bが形成する第2始動入賞口を通過（進入）した遊技球は、例えば図2に示す第2始動口スイッチ22Bにより検出される。第1始動入賞口を通過（進入）した遊技球が第1始動口スイッチ22Aにより検出されることによる入賞を第1始動入賞と称する。また、第2始動入賞口を通過（進入）した遊技球が第2始動口スイッチ22Bにより検出されることによる入賞を第2始動入賞と称する。

【0024】

第1始動入賞口を通過（進入）した遊技球が第1始動口スイッチ22Aにより検出されたことに基づいて（第1始動入賞の発生に基づいて）、所定個数（例えば3個）の遊技球が賞球として払出されるとともに、第1特図保留記憶数（後述）が所定の上限値（例えば「4」）以下であれば、第1特別図柄表示装置4Aにおいて実行される第1特図ゲーム（後述）や画像表示装置5において実行される飾り図柄の可変表示（後述）といった可変表示ゲームを実行するための第1始動条件（第1実行条件とも称する）が成立する。また、第2始動入賞口を通過（進入）した遊技球が第2始動口スイッチ22Bにより検出されたことに基づいて（第2始動入賞の発生に基づいて）、所定個数（例えば3個）の遊技球が賞球として払出されるとともに、第2特図保留記憶数（後述）が所定の上限値（例えば「4」）以下であれば、第2特別図柄表示装置4Bにおいて実行される第2特図ゲーム（後述）や画像表示装置5において実行される飾り図柄の可変表示（後述）といった可変表示ゲームを実行するための第2始動条件（第2実行条件とも称する）が成立する。なお、第1始動入賞に基づいて払出される賞球の個数と、第2始動入賞に基づいて払出される賞球の個数とは、互いに同一の個数でもよく、異なる個数でもよい。

【0025】

第1特図保留記憶数とは、第1始動入賞の発生時には直ちに実行されずに実行が一旦保留されている可変表示ゲーム（第1始動入賞の発生による可変表示ゲーム）の数である。第1始動入賞の発生によって、第1特図ゲーム（後述）や飾り図柄の可変表示（後述）といった可変表示ゲームを実行するための第1始動条件は成立した場合であっても、第1始動入賞の発生による上述の可変表示ゲームの開始を許容する第1開始条件が成立していない場合（例えば、先に成立した第1開始条件又は第2開始条件に基づく可変表示ゲームが実行中であることやパチンコ遊技機1が大当り遊技状態に制御されている場合）には、当該可変表示ゲームの実行は保留される（当該可変表示ゲームは実行待ちの状態となる）。つまり、第1特図保留記憶数とは、実行待ちの状態となった第1始動入賞の発生による可変表示ゲームのゲーム数である。第1特図保留記憶数は、第1開始条件が1つ成立する毎に1つずつ減少する。

【0026】

ある第1始動入賞による第1始動条件は成立したが、当該第1始動入賞による可変表示ゲームの開始を許容する第1開始条件が成立していない当該第1始動入賞に対応する可変表示に関する情報は、当該第1始動入賞による可変表示ゲームの開始を許容する第1開始条件が成立する迄、保留データ（第1特図保留情報）として記憶（保留）される。換言すれば、保留されていた第1特図保留情報は第1開始条件が成立する毎に1つずつ消化され、消化される第1特図保留情報に基づく可変表示ゲームが実行される。

【0027】

第2特図保留記憶数とは、第2始動入賞の発生時には直ちに実行されずに実行が一旦保留されている可変表示ゲーム（第2始動入賞の発生による可変表示ゲーム）の数である。第2始動入賞の発生によって、第2特図ゲーム（後述）や飾り図柄の可変表示（後述）といった可変表示ゲームを実行するための第2始動条件は成立した場合であっても、第2始動入賞の発生による上述の可変表示ゲームの開始を許容する第2開始条件が成立していない場合（例えば、先に成立した第1開始条件又は第2開始条件に基づく可変表示ゲームが

実行中であることやパチンコ遊技機 1 が大当り遊技状態に制御されている場合) には、当該可変表示ゲームの実行は保留される (当該可変表示ゲームは実行待ちの状態となる)。つまり、第 2 特図保留記憶数とは、実行待ちの状態となった第 2 始動入賞の発生による可変表示ゲームのゲーム数である。第 2 特図保留記憶数は、第 2 開始条件が 1 つ成立する毎に 1 つずつ減少する。

【0028】

ある第 2 始動入賞による第 2 始動条件は成立したが、当該第 2 始動入賞による可変表示ゲームの開始を許容する第 2 開始条件が成立していない当該第 2 始動入賞に対応する可変表示に関する情報は、当該第 2 始動入賞による可変表示ゲームの開始を許容する第 2 開始条件が成立する迄、保留データ (第 2 特図保留情報) として記憶 (保留) される。換言すれば、保留されていた第 2 特図保留情報は第 2 開始条件が成立する毎に 1 つずつ消化され、消化される第 2 特図保留情報に基づく可変表示ゲームが実行される。

10

【0029】

第 1 始動入賞口と、第 2 始動入賞口とを特に区別しない場合には、単に「始動入賞口」とも称する。また、第 1 始動入賞と、第 2 始動入賞とを特に区別しない場合には、単に「始動入賞」とも称する。また、第 1 特図保留記憶数と第 2 特図保留記憶数とを加算した保留記憶数を「合計保留記憶数」と称する。第 1 特図保留記憶数と、第 2 特図保留記憶数と、合計保留記憶数とを特に区別しない場合には、通常、単に「特図保留記憶数」と称するが、単に「特図保留記憶数」と称した場合に、第 1 特図保留記憶数、第 2 特図保留記憶数、合計保留記憶数の何れか 1 つ又は 2 つを指すこともあるものとする。また、第 1 始動条件と、第 2 始動条件とを特に区別しない場合には、単に「始動条件」又は「実行条件」とも称する。また、第 1 開始条件と、第 2 開始条件とを特に区別しない場合には、単に「開始条件」とも称する。また、第 1 特図保留情報と、第 2 特図保留情報とを、特に区別しない場合には、単に「特図保留情報」とも称する。

20

【0030】

遊技盤 2 における遊技領域の下側部分 (普通入賞球装置 6 A と普通可変入賞球装置 6 B の下方) には、特別可変入賞球装置 7 が設けられている。特別可変入賞球装置 7 は、図 2 に示す大入賞口扉用となるソレノイド 8 2 により開閉駆動される大入賞口扉を備え、大入賞口扉により開放状態と閉鎖状態とに変化する特定領域としての大入賞口を形成する。

【0031】

一例として、特別可変入賞球装置 7 では、大入賞口扉用のソレノイド 8 2 がオフ状態であるときに大入賞口扉が大入賞口を閉鎖状態として、遊技球が大入賞口を通過 (進入) できなくする。その一方で、特別可変入賞球装置 7 では、大入賞口扉用のソレノイド 8 2 がオン状態であるときに大入賞口扉が大入賞口を開放状態として、遊技球が大入賞口を通過 (進入) しやすくする。このように、特定領域としての大入賞口は、遊技球が通過 (進入) しやすく遊技者にとって有利な開放状態と、遊技球が通過 (進入) できず遊技者にとって不利な閉鎖状態とに変化する。なお、遊技球が大入賞口を通過 (進入) できない閉鎖状態に代えて、あるいは閉鎖状態の他に、遊技球が大入賞口を通過 (進入) しにくい一部開放状態を設けてもよい。

30

【0032】

特別可変入賞球装置 7 が形成する大入賞口を通過 (進入) した遊技球は、例えば図 2 に示すカウントスイッチ 2 3 により検出される。カウントスイッチ 2 3 により遊技球が検出されたことに基づき、所定個数 (例えば 15 個) の遊技球が賞球として払出される。こうして、特別可変入賞球装置 7 において開放状態となった大入賞口を遊技球が通過 (進入) したときには、例えば第 1 始動入賞口や第 2 始動入賞口といった、他の入賞口を遊技球が通過 (進入) したときよりも多くの賞球が払出される。従って、特別可変入賞球装置 7 において大入賞口が開放状態となれば、その大入賞口に遊技球が進入可能となり、遊技者にとって有利な第 1 状態となる。その一方で、特別可変入賞球装置 7 において大入賞口が閉鎖状態となれば、大入賞口に遊技球を通過 (進入) させて賞球を得ることが不可能、又は、困難になり、遊技者にとって不利な第 2 状態となる。

40

50

【0033】

遊技盤2における遊技領域の右側部分には、第1特別図柄表示装置4Aと、第2特別図柄表示装置4Bとが設けられている。第1特別図柄表示装置4Aは、例えば7セグメントやドットマトリクスLED（発光ダイオード）等から構成される。第2特別図柄表示装置4Bについても同様である。第1特別図柄表示装置4Aは、各々を識別可能な複数種類の識別情報（特別識別情報）である特別図柄（「特図」ともいう）を変動可能に表示（変動表示または可変表示と呼ぶ）する。第2特別図柄表示装置4Bについても同様である。なお、第1特別図柄表示装置4Aにおいて可変表示される特別図柄（特図）を「第1特図」とも称し、第2特別図柄表示装置4Bにおいて可変表示される特別図柄（特図）を「第2特図」とも称する。また、識別情報の可変表示を伴って実行するゲーム（若しくは、識別情報の可変表示自体）を可変表示ゲームと称する。特に、第1特別図柄表示装置4Aが実行する可変表示ゲーム（第1特図を可変表示させる可変表示ゲーム）を第1特図ゲームとも称し、第2特別図柄表示装置4Bが実行する可変表示ゲーム（第2特図を可変表示させる可変表示ゲーム）を第2特図ゲームとも称する。また、第1特図ゲームと、第2特図ゲームとを区別しない場合には、単に「特図ゲーム」とも称する。

10

【0034】

第1特別図柄表示装置4A（第2特別図柄表示装置4Bも同様）は、特図ゲームとして、「0」～「9」を示す数字や「ー」を示す記号等から構成される複数種類の特別図柄を可変表示する。夫々の特別図柄には、夫々に対応した図柄番号が付されている。一例として、「0」～「9」を示す各数字には「0」～「9」の各図柄番号が付され、「ー」を示す記号には「10」の図柄番号が付されればよい。なお、特別図柄は、「0」～「9」を示す数字や「ー」を示す記号等から構成されるものに限定されない。例えば、7セグメントLEDにおいて点灯させるものと消灯させるものの組合せを異ならせた複数種類の点灯パターン（例えば、アルファベットのLやEのような点灯パターン）を予め設定しておき、特別図柄として表示してもよい。

20

【0035】

遊技盤2における遊技領域の右側部分（第1特別図柄表示装置4Aと第2特別図柄表示装置4Bの上部）には、第1保留表示器25Aと第2保留表示器25Bとが設けられている。第1保留表示器25Aは、例えば4個のLEDを含んで構成され、保留データ（第1特図保留情報）に基づく第1特図保留記憶数（第1特図ゲームの保留数）を特定可能に表示する第1保留表示が行われる。例えば、第1保留表示器25Aは、点灯させるLEDの数によって、第1特図保留記憶数を特定可能に表示する。例えば、新たな第1始動条件の成立によって第1特図ゲームの保留数が1つ増加した場合には点灯数を1つ増やし、新たな第1開始条件の成立によって第1特図ゲームの保留数が1つ減少した場合には点灯数を1つ減らせばよい。第2保留表示器25Bは、例えば4個のLEDを含んで構成され、保留データ（第2特図保留情報）に基づく第2特図保留記憶数（第2特図ゲームの保留数）を特定可能に表示する第2保留表示が行われる。例えば、第2保留表示器25Bは、点灯させるLEDの数により、第2特図保留記憶数を特定可能に表示する。例えば、新たな第2始動条件の成立によって第2特図ゲームの保留数が1つ増加した場合には点灯数を1つ増やし、新たな第2開始条件の成立によって第2特図ゲームの保留数が1つ減少した場合には点灯数を1つ減らせばよい。

30

40

【0036】

遊技盤2における遊技領域の左側部分には、通過ゲート41と、普通図柄表示器20と、普図保留表示器25Cとが設けられている。通過ゲート41を通過した遊技球は、例えば図2に示すゲートスイッチ21により検出される。通過ゲート41を通過した遊技球がゲートスイッチ21により検出されたことに基づいて、普図保留記憶数（後述）が所定の上限値（例えば「4」）以下であれば、普通図柄表示器20において実行される普図ゲーム（後述）を実行するための普図始動条件が成立する。

【0037】

普通図柄表示器20は、第1特別図柄表示装置4Aや第2特別図柄表示装置4Bと同様

50

に7セグメントやドットマトリクス of LED等から構成される。普通図柄表示器20は、特別図柄とは異なる複数種類の識別情報である普通図柄（「普図」あるいは「普通図」ともいう）を変動可能に表示（可変表示）する。普通図柄を可変表示させる可変表示ゲームを普図ゲーム（又は「普通図ゲーム」）とも称する。普図始動条件は成立したが普図開始条件（後述）が成立していない普図ゲームに関する情報は、保留データ（普図保留情報）として記憶（保留）される。

【0038】

普図保留表示器25Cは、例えば4個のLEDを含んで構成され、例えば点灯させるLEDの数により、保留データ（普図保留情報）に基づく普図保留記憶数を表示する。普図保留記憶数とは、通過ゲート41を通過した遊技球がゲートスイッチ21により検出されたときには直ちに実行されずに実行が一旦保留されている普図ゲームの数である。ゲートスイッチ21による遊技球の検出により、普図ゲームを実行するための普図始動条件は成立した場合であっても、普図ゲームの開始を許容する普図開始条件が成立していない場合（例えば、先に成立した普図ゲームが実行中である場合）には、当該普図ゲームの実行は保留される（当該普図ゲームは実行待ちの状態となる）。つまり、普図保留記憶数とは、実行待ちの状態となった普図ゲームのゲーム数である。普図保留記憶数は、普図開始条件が1つ成立する毎に1つずつ減少する。

【0039】

遊技盤2における遊技領域の中央付近には、画像表示装置5が設けられている。画像表示装置5は、例えばLCD（液晶表示装置）等から構成され、各種の演出画像を表示する表示領域を形成している。

【0040】

画像表示装置5の表示領域には、飾り図柄表示エリアが配置される。飾り図柄表示エリアでは、各々を識別可能な複数種類の識別情報（装飾識別情報）である飾り図柄が可変表示（変動表示とも呼ぶ）される。装飾識別情報（飾り図柄）の可変表示も、可変表示ゲームに含まれる。画像表示装置5は、第1特別図柄表示装置4Aが実行する第1特図ゲーム（第1特図を用いた特図ゲーム）、又は、第2特別図柄表示装置4Bが実行する第2特図ゲーム（第2特図を用いた特図ゲーム）に対応して、表示領域（飾り図柄表示エリア）において、複数種類の飾り図柄の可変表示を実行する。

【0041】

一例として図1に示すように、画像表示装置5の表示領域には、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rが配置される。第1特図ゲーム又は第2特図ゲームのうち何れかの特図ゲームの開始に対応して、即ち、第1特図又は第2特図のうち何れかの特図の変動の開始に対応して、飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rの夫々において、飾り図柄の変動（例えば上下方向のスクロール表示）が開始される。その後、特図ゲームの終了に対応して、即ち、特図の停止表示に対応して、飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rの夫々において、可変表示結果となる飾り図柄（確定飾り図柄、最終停止図柄とも称する）が停止表示される。つまり、画像表示装置5の表示領域（飾り図柄表示エリア5L、5C、5R）では、第1特図ゲーム（又は第2特図ゲーム）と連動（対応）して飾り図柄の変動が開始され、確定飾り図柄（最終停止図柄とも称する）が停止表示される。

【0042】

飾り図柄は、例えば8種類の図柄（英数字「1」～「8」あるいは漢数字や、英文字、所定のモチーフに関連する8個のキャラクタ画像、数字や文字あるいは記号とキャラクタ画像との組合せ等であればよく、キャラクタ画像は、例えば人物や動物、これら以外の物体、もしくは、文字等の記号、あるいは、その他の任意の図形を示す飾り画像であればよい）で構成される。夫々の飾り図柄には、夫々に対応する図柄番号が付される。一例として「1」～「8」を示す各英数字には「1」～「8」の各図柄番号が付されればよい。なお、飾り図柄は8種類に限定されず、大当たり組合せやハズレとなる組合せ等適当な数の組合せを構成可能であれば、何種類でもよい（例えば7種類や9種類等）。

【0043】

10

20

30

40

50

特別図柄の可変表示結果（特図表示結果とも称する）である確定特別図柄を停止表示して当該可変表示を終了させる停止表示や、飾り図柄の可変表示結果である確定飾り図柄（最終停止図柄）を停止表示して当該可変表示を終了させる停止表示や、普通図柄の可変表示結果（普図表示結果とも称する）である確定普通図柄を停止表示して当該可変表示を終了させる停止表示を、完全停止表示、最終停止表示、又は、導出表示（又は、単に「導出」）とも称する。なお、飾り図柄の変動開始タイミング及び変動終了タイミングは特別図柄の変動開始タイミング及び変動終了タイミングと必ずしも一致していなくてもよく、特別図柄の変動時間（特図変動時間）内に、飾り図柄の変動時間が収まればよい。

【0044】

即ち、飾り図柄の変動開始タイミングが特別図柄の変動開始タイミングよりも遅くてもよく、特別図柄の変動終了タイミング（確定特別図柄の停止表示タイミング）が飾り図柄の変動終了タイミング（確定飾り図柄の停止表示タイミング）よりも遅くてもよい。例えば、確定飾り図柄の停止表示後に所定演出の実行を開始し、当該所定演出の実行の終了時に確定特別図柄を停止表示させてもよい。上記所定演出の一例は、保留演出（後述）の一態様である単純保留演出（後述）である。

【0045】

また、完全停止表示（最終停止表示、導出表示）とは異なる停止表示を行ってもよい。例えば、飾り図柄の可変表示を開始してから確定飾り図柄が導出表示されるまでの可変表示中に飾り図柄を仮停止表示させてもよい。なお、仮停止表示には、変動速度が「0」となった飾り図柄が、例えば微少な揺れや伸縮等を生じさせつつ停留して表示させるものや、所定時間（例えば1秒間）よりも短い時間、微少な揺れや伸縮等も生じさせずに停止表示させるもの等が含まれる。

【0046】

また、画像表示装置5の表示領域には、第1始動入賞記憶表示エリア5HL、及び、第2始動入賞記憶表示エリア5HRが配置される。第1始動入賞記憶表示エリア5HLでは、第1保留表示器25Aと同様、第1特図保留記憶数を特定可能に表示する第1保留表示が行われる。つまり、現在、実行が保留されている第1特図ゲームの数を特定可能に表示する。第1始動入賞記憶表示エリア5HLでは、第2保留表示器25Bと同様、第2特図保留記憶数を特定可能に表示する第2保留表示が行われる。つまり、現在、実行が保留されている第2特図ゲームの数を特定可能に表示する。

【0047】

なお、第1始動入賞記憶表示エリア5HLでは、例えば右詰めで、第1保留表示が行われてもよい。つまり、新たな第1始動条件の成立によって第1特図ゲームの保留数が増加したときは、第1始動入賞記憶表示エリア5HLに他の第1保留表示がなければ、第1始動入賞記憶表示エリア5HLの右側（画像表示装置5の表示領域の中央側）に増加分の第1特図保留情報に対応する保留表示として新たな第1保留表示を追加し、第1始動入賞記憶表示エリア5HLに他の第1保留表示があれば、当該他の第1保留表示の左側（複数の他の第1保留表示があれば最も左側の第1保留表示の更に左側）に上記新たな第1保留表示を追加してもよい。また、第1始動入賞記憶表示エリア5HLに複数の第1保留表示がある場合に、新たな第1開始条件の成立によって第1特図ゲームの保留数が減少したときは、減少分の第1特図保留情報に対応する保留表示に相当する第1始動入賞記憶表示エリア5HLの最も右側に表示されている第1保留表示（一番古くから表示されている第1保留表示）を消去し、他の第1保留表示の夫々を、消去した第1保留表示側（右側）に移動（シフト）する。

【0048】

また、第2始動入賞記憶表示エリア5HRでは、例えば左詰めで、第2保留表示が行われてもよい。つまり、新たな第2始動条件の成立によって第2特図ゲームの保留数が増加したときは、第2始動入賞記憶表示エリア5HRに他の第2保留表示がなければ、第2始動入賞記憶表示エリア5HRの左側（画像表示装置5の表示領域の中央側）に増加分の第2特図保留情報に対応する保留表示として新たな第2保留表示を追加し、第2始動入賞記

憶表示エリア 5 H R に他の第 2 保留表示があれば、当該他の第 2 保留表示の右側（複数の他の第 2 保留表示があれば最も右側の第 2 保留表示の更に右側）に上記新たな第 2 保留表示を追加してもよい。

【0049】

また、第 2 始動入賞記憶表示エリア 5 H R に複数の第 2 保留表示がある場合に、新たな第 2 開始条件の成立によって第 2 特図ゲームの保留数が減少したときは、減少分の第 2 特図保留情報に対応する保留表示に相当する第 2 始動入賞記憶表示エリア 5 H R の最も左側に表示されている第 2 保留表示（一番古くから表示されている第 2 保留表示）を消去し、他の第 2 保留表示の夫々を、消去した第 2 保留表示側（左側）に移動（シフト）する。なお、第 1 始動入賞記憶表示エリア 5 H L と第 2 始動入賞記憶表示エリア 5 H R とを特に区別しない場合には、単に、「始動入賞記憶表示エリア 5 H」とも称する。

10

【0050】

また、画像表示装置 5 の表示領域には、保留表示のエリアとして、第 1 始動入賞記憶表示エリア 5 H L や第 2 始動入賞記憶表示エリア 5 H R の他に、第 1 始動入賞記憶表示エリア 5 H L や第 2 始動入賞記憶表示エリア 5 H R から消去された（移動された）保留表示（即ち、第 1 開始条件の成立によって消化される第 1 特図保留情報や、第 2 開始条件の成立によって消化される第 2 特図保留情報に基づき実行される飾り図柄の可変表示に対応する保留表示に応じたアクティブ表示（消化時表示、今回表示等とも称する）を含む情報を表した特別画像を表示するアクティブ表示エリア A H A（消化時表示領域、消化時表示エリア、今回保留表示領域、今回保留表示エリア、アクティブ保留表示領域、アクティブ保留表示エリア、アクティブ表示領域、今回表示領域、今回表示エリア、消化時表示部等とも称する。）が、例えば、第 1 始動入賞記憶表示エリア 5 H L と第 2 始動入賞記憶表示エリア 5 H R との間に配置されている。

20

【0051】

本実施形態におけるパチンコ遊技機 1 では、図 1 に示すように、第 1 始動入賞記憶表示エリア 5 H L と第 2 始動入賞記憶表示エリア 5 H R との間にアクティブ表示エリア A H A を配置しているが、アクティブ表示エリア A H A は、画像表示装置 5 の表示領域の何れかの位置に配置されればよい。また、本実施形態におけるパチンコ遊技機 1 では、アクティブ表示のほかには、アクティブ表示を囲うアクティブ表示枠、アクティブ表示またはアクティブ表示周囲やアクティブ表示枠の周囲に表示される文字や画像等のアクティブ表示に応じた情報等が特別画像により表示される。

30

【0052】

遊技盤 2 における遊技領域には、上記の構成以外にも、遊技球の流下方向や速度を変化させる風車及び多数の障害釘が設けられている。また、第 1 始動入賞口、第 2 始動入賞口及び大入賞口とは異なる入賞口として、例えば所定の玉受部材により常に一定の開放状態に保たれる単一又は複数の一般入賞口が設けられてもよい。この場合には、一般入賞口の何れかに進入した遊技球が所定の一般入賞球スイッチにより検出されたことに基づき、所定個数（例えば 10 個）の遊技球が賞球として払出されればよい。遊技領域の最下方には、いずれの入賞口にも進入しなかった遊技球が取込まれるアウト口が設けられている。

【0053】

遊技機用枠 3 の右下部位置には、遊技媒体としての遊技球を遊技領域に向けて発射するために遊技者等により操作される打球操作ハンドル（操作ノブ）が設けられている。例えば、打球操作ハンドルは、遊技者等による操作量（回転量）に応じて遊技球の弾発力を調整する。打球操作ハンドルには、打球発射装置が備える発射モータの駆動を停止させるための単発発射スイッチや、タッチリング（タッチセンサ）が設けられればよい。

40

【0054】

遊技領域の下方における遊技機用枠 3 の所定位置には、賞球として払出された遊技球や所定の球貸機により貸し出された遊技球を、打球発射装置へと供給可能に保持（貯留）する上皿（打球供給皿）が設けられている。遊技機用枠 3 の下部には、上皿から溢れた余剰球等を、パチンコ遊技機 1 の外部へと排出可能に保持（貯留）する下皿が設けられる。

50

【0055】

下皿を形成する部材には、例えば下皿本体の上面における手前側の所定位置（例えば下皿の中央部分）等に、遊技者が把持して傾倒操作が可能なスティックコントローラ31Aが取り付けられている。スティックコントローラ31Aは、遊技者が把持する操作桿を含み、操作桿の所定位置（例えば遊技者が操作桿を把持したときに操作手の人差し指が掛かる位置等）には、トリガボタンが設けられている。トリガボタンは、遊技者がスティックコントローラ31Aの操作桿を操作手（例えば左手等）で把持した状態において、所定の操作指（例えば人差し指等）で押引操作すること等により所定の指示操作ができるように構成されればよい。操作桿の内部には、トリガボタンに対する押引操作等による所定の指示操作を検知するトリガセンサが内蔵されればよい。

10

【0056】

スティックコントローラ31Aの下部における下皿の本体内部等には、操作桿に対する傾倒操作を検知する傾倒方向センサユニットが設けられればよい。例えば、傾倒方向センサユニットは、パチンコ遊技機1と正対する遊技者の側からみて操作桿の中心位置よりも左側で遊技盤2の盤面と平行に配置された2つの透過形フォトセンサ（平行センサ対）と、この遊技者の側からみて操作桿の中心位置よりも右側で遊技盤2の盤面と垂直に配置された2つの透過形フォトセンサ（垂直センサ対）とを組合せた4つの透過形フォトセンサを含んで構成されればよい。

【0057】

上皿を形成する部材には、例えば上皿本体の上面における手前側の所定位置（例えばスティックコントローラ31Aの上方）等に、遊技者が押下操作等により所定の指示操作を可能なプッシュボタン31Bが設けられている。プッシュボタン31Bは、遊技者からの押下操作等による所定の指示操作を、機械的、電氣的、あるいは、電磁的に、検出できるように構成されればよい。プッシュボタン31Bの設置位置における上皿の本体内部等には、プッシュボタン31Bに対してされた遊技者の操作行為を検知するプッシュセンサが設けられればよい。

20

【0058】

遊技機用枠3の遊技領域の周辺部には、音声出力部材が設けられている。図1に示した一例では、遊技機用枠3の左右上部位置に、スピーカ8UL、スピーカ8URを設置し、上皿の左右斜下部（下皿の左右斜上部）に、スピーカ8LL、スピーカ8LRを設置している。以下、スピーカ8UL、8UR、8LL、8LRの夫々を特に区別しない場合には、単に、スピーカ8と称する。スピーカ8は、音声（音及び声）を出力（再生）する。例えば、スピーカ8は、遊技機1の遊技の進行状況に応じて演出音（効果音とも称する）を出力し、遊技機1の状況に応じて警告音を出力する。

30

【0059】

演出音には、音楽、検出音、応答音、報知音等が含まれる。演出音における音楽とは、例えば、遊技の進行状況に応じて出力されるBGM、歌等である。演出音における検出音とは、例えば、スイッチやセンサによる検出結果（例えば、第1始動入賞口等への入賞の検出等）に応じて出力される音、声（セリフ、メッセージ）等である。演出音における応答音とは、例えば、プッシュボタン31Bへの操作行為に応じて出力される音、声等である。プッシュボタン31Bへの操作行為は、プッシュセンサにより検出されるものでもあるため、プッシュボタン31Bへの操作行為に応じて出力される応答音は検出音でもある。演出音における報知音とは、例えば、プッシュボタン31Bへの操作行為を要求するために報知する音、声や、リーチ状態（後述）の移行時にリーチ状態に移行する旨を報知する音、声や、大当たり遊技状態への移行前に大当たり遊技状態に移行する旨を予告又は示唆する音、声等である。

40

【0060】

警告音の一例は、遊技球が下皿に過剰に保持（貯留）されているときに出力される警告音、ガラス扉（非図示）が開放しているときに出力される警告音等である。

【0061】

50

遊技機用枠 3 の遊技領域の内部及び周辺部には、演出又は装飾として発光する発光部材（発光体）が設けられている。図 1 に示した一例では、画像表示装置 5 の上部位置に発光部材 9 C C、画像表示装置 5 の左右位置に発光部材 9 C L、発光部材 9 C R を設置し、遊技機用枠 3 の上部位置に発光部材 9 U、遊技機用枠 3 の左右位置に発光部材 9 S L、発光部材 9 S R を設置している。以下、発光部材 9 C C、9 C L、9 C R、9 U、9 S L、9 S R の夫々を特に区別しない場合には、総称してランプ 9 と称する。ランプ 9 は、例えば、1 以上の L E D から構成されたものでもよく、フラッシュランプから構成されるものでもよい。発光部材 9 U は、回転部を有する回転灯（例えばパトランプ）でもよい。また、上記以外にも、例えば、遊技領域における各構造物（例えば、特別可変入賞球装置 7 等）の周囲等に、種々の発光部材を設置してもよい。

10

【0062】

画像表示装置 5、スピーカ 8、ランプ 9 等は演出を実行する演出装置であるが、遊技機 1 は、演出装置として、駆動部を有する演出用模型等他の演出装置を備えてもよい。

【0063】

なお、各構成の配置位置（設置位置）は、一例であって、他の位置に配置されてもよい。例えば、第 1 特別図柄表示装置 4 A、第 2 特別図柄表示装置 4 B、普通図柄表示器 2 0 が、遊技領域の同一側（右側部分又は左側部分）に設けられてもよい。また例えば、第 1 保留表示器 2 5 A、第 2 保留表示器 2 5 B、普図保留表示器 2 5 C が、遊技領域の同一側（右側部分又は左側部分）に設けられてもよい。

【0064】

20

次に、パチンコ遊技機 1 における遊技の進行を概略的に説明する。

【0065】

パチンコ遊技機 1 では、普図始動条件が成立した後に普図開始条件が成立したことに基づいて、普通図柄表示器 2 0 による普図ゲームが開始される。普図ゲームでは、普通図柄の可変表示を開始させた後（普通図柄の変動を開始させた後）、普図変動時間となる所定時間が経過すると、普通図柄の可変表示結果となる確定普通図柄を停止表示（導出表示）する。このとき、確定普通図柄として、例えば「7」を示す数字といった、特定の普通図柄（普図当り図柄）が停止表示されれば、普通図柄の可変表示結果が「普図当り」となる。その一方、確定普通図柄として、例えば「7」を示す数字以外の数字や記号といった、普図当り図柄以外の普通図柄が停止表示されれば、普通図柄の可変表示結果が「普図ハズレ」となる。普通図柄の可変表示結果が「普図当り」となったことに対応して、普通可変入賞球装置 6 B を構成する電動チューリップの可動翼片が傾動位置となる拡大開放制御（傾動制御）が行われ、所定時間が経過すると垂直位置に戻る通常開放制御が行われる。

30

【0066】

パチンコ遊技機 1 では、第 1 始動条件が成立した後に第 1 開始条件が成立したことに基づいて、第 1 特別図柄表示装置 4 A による特図ゲーム（第 1 特図ゲーム）が開始され、第 2 始動条件が成立した後に第 2 開始条件が成立したことに基づいて、第 2 特別図柄表示装置 4 B による特図ゲーム（第 2 特図ゲーム）が開始される。特図ゲームでは、特別図柄の可変表示を開始させた後（特別図柄の変動を開始させた後）、特図変動時間としての可変表示時間が経過すると、特別図柄の可変表示結果となる確定特別図柄（特図表示結果）を導出表示する。このとき、確定特別図柄として特定の特別図柄（大当り図柄）が停止表示されれば、特定表示結果としての「大当り」となり、大当り図柄とは異なる所定の特別図柄（小当り図柄）が停止表示されれば、所定表示結果としての「小当り」となる。また、大当り図柄や小当り図柄とは異なる特別図柄が確定特別図柄として停止表示されれば「ハズレ」となる。

40

【0067】

特図ゲームでの可変表示結果が「大当り」になった後は、遊技者にとって有利なラウンド（「ラウンド遊技」ともいう）を所定回数実行する特定遊技状態（有利状態ともいう）としての大当り遊技状態に制御される。特図ゲームでの可変表示結果が「小当り」になった後は、大当り遊技状態とは異なる特殊遊技状態としての小当り遊技状態に制御される。

50

【0068】

本実施形態におけるパチンコ遊技機1では、一例として、「3」、「5」、「7」の数字を示す特別図柄を大当り図柄とし、「2」の数字を示す特別図柄を小当り図柄とし、「ー」の記号を示す特別図柄をハズレ図柄としている。なお、第1特別図柄表示装置4Aによる第1特図ゲームにおける大当り図柄や小当り図柄、ハズレ図柄といった各図柄は、第2特別図柄表示装置4Bによる第2特図ゲームにおける各図柄とは異なる特別図柄となってもよく、双方の特図ゲームにおいて共通の特別図柄が大当り図柄や小当り図柄、ハズレ図柄としてもよい。

【0069】

特図ゲームにおける確定特別図柄として大当り図柄が停止表示されて特定表示結果としての「大当り」となった後、大当り遊技状態において、特別可変入賞球装置7の大入賞口扉が、所定の上限時間（例えば29秒間や0.1秒間）が経過するまでの期間あるいは所定個数（例えば9個）の入賞球が発生するまでの期間で、大入賞口を開放状態とする。これにより、特別可変入賞球装置7を遊技者にとって有利な第1状態（開放状態）とするラウンドが実行される。

【0070】

ラウンドの実行中に大入賞口を開放状態とした大入賞口扉は、遊技盤2の表面を落下する遊技球を受け止め、その後に大入賞口を閉鎖状態とすることにより、特別可変入賞球装置7を遊技者にとって不利な第2状態（閉鎖状態）に変化させて、1回のラウンドを終了させる。大入賞口の開放サイクルであるラウンドは、その実行回数が所定の上限回数（例えば「15」等）に達するまで、繰返し実行可能である。なお、ラウンドの実行回数が上限回数に達する前であっても、所定条件の成立（例えば大入賞口に遊技球が入賞しなかったこと等）により、ラウンドの実行が終了してもよい。

【0071】

大当り遊技状態におけるラウンドのうち、特別可変入賞球装置7を遊技者にとって有利な第1状態（開放状態）とする上限時間が比較的に長い時間（例えば29秒等）となるラウンドは、通常開放ラウンドともいう。一方、特別可変入賞球装置7を第1状態（開放状態）とする上限時間が比較的に短い時間（例えば0.1秒等）となるラウンドは、短期開放ラウンドともいう。

【0072】

大当り図柄となる「3」、「5」、「7」の数字を示す特別図柄のうち、「3」、「7」の数字を示す特別図柄は通常開放ラウンド大当り図柄となり、「5」の数字を示す特別図柄は短期開放ラウンド大当り図柄となる。特図ゲームにおける確定特別図柄として通常開放ラウンド大当り図柄が導出された後に制御される通常開放ラウンド特定遊技状態としての大当り遊技状態（通常開放大当り状態）では、特別可変入賞球装置7の大入賞口扉が、第1期間となる所定の上限時間（例えば29秒間）が経過するまでの期間、あるいは所定個数（例えば9個）の入賞球が発生するまでの期間で大入賞口を開放状態とすることにより、特別可変入賞球装置7を遊技者にとって有利な第1状態（開放状態）に変化させるラウンドが実行される。通常開放大当り状態は、第1特定遊技状態ともいう。

【0073】

特図ゲームにおける確定特別図柄として短期開放ラウンド大当り図柄が導出された後に制御される短期開放ラウンド特定遊技状態としての大当り遊技状態（短期開放大当り状態）では、各ラウンドで特別可変入賞球装置7を遊技者にとって有利な第1状態に変化させる上限時間（大入賞口扉により大入賞口を開放状態とする期間の上限）が、通常開放大当り状態における第1期間よりも短い第2期間（例えば0.1秒間）となる。なお、短期開放大当り状態では、大入賞口の開放期間が第2期間となるように制御されればよく、それ以外の制御は通常開放大当り状態と同様に行われてもよい。あるいは、短期開放大当り状態では、ラウンドの実行回数が、通常開放大当り状態における第1ラウンド数（例えば「15」）よりも少ない第2ラウンド数（例えば「2」）となってもよい。

【0074】

このような短期開放大当り状態では、大入賞口に遊技球が入賞すれば所定個数（例えば15個）の出玉（賞球）が得られる。しかし、大入賞口の開放期間は第2期間（0.1秒間等）であって非常に短い。そのため、短期開放大当り状態は実質的には出玉（賞球）が得られない大当り遊技状態である。短期開放大当り状態は、第2特定遊技状態ともいう。

【0075】

また、短期開放ラウンド特定遊技状態としての大当り遊技状態は、通常開放ラウンド特定遊技状態としての大当り遊技状態に比べて、大入賞口の開放期間が短いものに限定されず、例えば大入賞口の開放期間（上限時間）は短期開放ラウンド特定遊技状態と通常開放ラウンド特定遊技状態とで同一である一方で、短期開放ラウンド特定遊技状態では大入賞口を開放状態とする上限回数（例えば2回）が通常開放ラウンド特定遊技状態での上限回数（例えば15回）に比べて少なくなるものでもよい。即ち、短期開放ラウンド特定遊技状態としての大当り遊技状態は、各ラウンドで大入賞口を遊技球が通過（進入）しやすい第1状態に変化させる期間が通常開放ラウンド特定遊技状態における第1期間よりも短い第2期間となることと、ラウンドの実行回数が通常開放ラウンド特定遊技状態における第1ラウンド数よりも少ない第2ラウンド数となることのうち、少なくとも何れか一方となるものであればよい。

【0076】

このように大当り遊技状態は、遊技者にとって有利となる有利状態である。遊技者にとって有利な有利状態としては、前述した大当り遊技状態の他に、確変状態（高確率状態）、時短状態、および、高ベース状態等のその他の有利状態が含まれてもよい。

【0077】

小当り図柄となる「2」の数字を示す特別図柄が特図ゲームにおける確定特別図柄として導出された後には、特殊遊技状態としての小当り遊技状態に制御される。この小当り遊技状態では、短期開放大当り状態と同様に特別可変入賞球装置7において大入賞口を遊技者にとって有利な第1状態（開放状態）に変化させる可変入賞動作が行われる。即ち、小当り遊技状態では、例えば特別可変入賞球装置7を第2期間にわたり第1状態（開放状態）とする動作が繰り返し実行される。

【0078】

画像表示装置5の表示領域に配置されている飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rでは、第1特別図柄表示装置4Aによる第1特図ゲームと、第2特別図柄表示装置4Bによる第2特図ゲームとのうち、何れかの特図ゲームが開始されることに対応して、飾り図柄の可変表示が開始される。そして、飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rでは、飾り図柄の可変表示が開始されてから確定飾り図柄の停止表示により可変表示が終了するまでの期間に、飾り図柄の可変表示状態が特定の可変表示の組合せの一部を構成する所定のリーチ状態となることがある。

【0079】

リーチ状態とは、画像表示装置5の表示領域で停止表示された飾り図柄が大当り組合せの一部を構成しているときに未だ停止表示されていない飾り図柄（「リーチ変動図柄」ともいう）については変動が継続している表示状態、あるいは、全部又は一部の飾り図柄が大当り組合せの全部又は一部を構成しながら同期して変動している表示状態のことである。なお、以下の説明において、リーチ状態となることをリーチが成立（リーチ成立）するとも称する。

【0080】

また、リーチ状態となったことに対応して、飾り図柄の変動速度を低下させたり、画像表示装置5の表示領域に飾り図柄とは異なるキャラクタ画像（人物等を模した演出画像）を表示させたり、背景画像の表示態様を変化させたり、飾り図柄とは異なる動画像を再生表示させたり、飾り図柄の変動態様を変化させたりすることで、リーチ状態となる以前とは異なる演出動作が実行される場合がある。このようなキャラクタ画像の表示や背景画像の表示態様の変化、動画像の再生表示、飾り図柄の変動態様の変化といった演出動作を、リーチ演出（又はリーチ演出表示）という。なお、リーチ演出には、画像表示装置5にお

ける表示動作のみならず、スピーカ 8 による音声出力動作や、ランプ 9 等の発光動作（点灯動作、点滅動作、消灯動作）等を、リーチ状態となる以前の動作態様とは異なる動作態様とすることが含まれてもよい。

【0081】

リーチ演出における演出動作としては、互いに動作態様（リーチ態様）が異なる複数種類の演出パターン（「リーチパターン」ともいう）が、予め用意されればよい。そして、演出パターンに応じて、リーチ演出後に大当たり組合せ等が最終停止表示される可能性（「大当たり期待度」あるいは「大当たり信頼度」ともいう）を異ならせてもよい。これにより、複数種類のリーチ演出のいずれが実行されるかに応じて、即ち、いずれのリーチ演出を出現させるかに応じて、大当たり期待度を異ならせることができる。一例として、本実施形態では、ノーマルリーチのリーチ態様と、ノーマルリーチに比べて大当たり期待度が高いスーパーリーチのリーチ態様とを予め設定（用意）している。

10

【0082】

大当たり期待度は、例えば、（大当たり時にその演出が実行される確率）×（大当たりになる確率）／{（大当たり時にその演出が実行される確率）×（大当たりになる確率）＋（大当たり時以外にその演出が実行される確率）×（大当たりにならない確率）}により算出される（大当たり期待度が「1」になる場合には、可変表示結果は必ず「大当たり」になる）。

【0083】

また、飾り図柄の可変表示中には、可変表示演出の一態様として、飾り図柄等の可変表示動作により実現される滑り演出や擬似連演出等が実行可能である。滑り演出では、飾り図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R における全部で飾り図柄を変動させてから、複数の飾り図柄（以下、「左」の飾り図柄表示エリア 5 L で表示される飾り図柄を左図柄、「中」の飾り図柄表示エリア 5 C で表示される飾り図柄を中図柄、「右」の飾り図柄表示エリア 5 R で表示される飾り図柄を右図柄、と呼ぶ場合がある）を仮停止表示させた後、その仮停止表示した飾り図柄表示エリアのうち所定数（例えば「1」又は「2」）の飾り図柄表示エリア（例えば「左」の飾り図柄表示エリア 5 L と「右」の飾り図柄表示エリア 5 R の何れか一方又は双方）で飾り図柄を再び変動させた後に停止表示させることで、停止表示する飾り図柄を変更させる演出表示が行われる。こうして、滑り演出では、飾り図柄の可変表示が開始されてから可変表示結果となる確定飾り図柄が導出表示されるまでに複数の飾り図柄を仮停止表示させた後、所定数の飾り図柄について可変表示を再度実行することにより、飾り図柄の可変表示状態がリーチ状態になるときと、リーチ状態とはならず非リーチ組合せを構成する飾り図柄が停止表示されるときとがある。

20

30

【0084】

擬似連演出では、特図ゲームの第 1 開始条件と第 2 開始条件の何れか一方が 1 回成立したことに対応して、飾り図柄の可変表示が開始されてから可変表示結果となる確定飾り図柄が導出表示されるまでに、飾り図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R における全部で飾り図柄（例えば予め定められた擬似連チャンス目等が飾り図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R のいずれか一部または全部に表示される）を一旦仮停止表示させた後、飾り図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R で、再び、全部の飾り図柄の可変表示を開始させる演出表示である再可変表示（再変動表示、再変動ともいう）を、所定回（例えば最大 4 回まで）行うことができる。

40

【0085】

本実施形態において、擬似連演出における再可変表示の回数（再可変表示回数）は、飾り図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R における、全部の飾り図柄が最初に仮停止するまでの可変表示（初回可変表示）の回数（1 回）と、全部の飾り図柄が最後に仮停止した後の再可変表示（最終可変表示）の回数（1 回）と、初回可変表示と最終可変表示の間の再可変表示の回数 X（X は 0 又は 1 以上）と、を合算した回数（X + 2）よりも 1 回少ない回数（X + 1）として把握される。また、再可変表示回数は、飾り図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R において全部の飾り図柄が仮停止表示される回数（仮停止回数）と同数となる。初

50

回可変表示～1回目の仮停止表示を1回目の擬似連とも称し、2回目の可変表示（1回目の再可変表示）～2回目の仮停止表示を2回目の擬似連とも称し、3回目の可変表示（2回目の再可変表示）～3回目の仮停止表示を3回目の擬似連とも称し、4回目の可変表示（3回目の再可変表示）～4回目の仮停止表示を4回目の擬似連とも称する。また、擬似連演出における擬似連の回数を擬似連変動回数（又は、擬似連回数）とも称する。つまり、擬似連変動回数と再可変表示回数と仮停止回数は同数となる。1回目、2回目、3回目、…と擬似連の回数が増えることを「擬似連が継続する」とも称する。

【0086】

「擬似連」の可変表示演出において、再可変表示（再変動）が1回～4回行われることにより、第1開始条件あるいは第2開始条件が1回成立したことに基づき、飾り図柄の可変表示があたかも2回～5回続けて開始されたかのように見せることができる。

10

【0087】

なお、擬似連演出は、当該変動においてリーチが成立する前（リーチ状態となる前に）に、飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rのいずれか一部または全部に擬似連チャンス目が仮停止表示されるように、全ての飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rにおける飾り図柄を一旦仮停止させてもよく、リーチが成立した後に、飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rのいずれか一部に擬似連チャンス目が仮停止表示されるように、全ての飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rにおける飾り図柄を一旦仮停止してもよい。つまり、擬似連演出における仮停止表示の演出態様には、少なくとも、リーチ状態となる前に仮停止表示させる演出態様と、リーチと状態となった後にチャンス図柄を仮停止表示させる演出態様とがあってもよい。

20

【0088】

滑り演出（擬似連演出も同様）は、何れかのリーチ演出、若しくはあるリーチ演出が実行される可能性があることや大当たり期待度が高いこと等を、遊技者に予告又は示唆するものでもよい。以下、何れかのリーチ演出若しくはあるリーチ演出が実行される可能性があることや大当たり期待度が高いこと等を、遊技者に予告又は示唆するための演出を予告演出と総称する場合がある。予告演出には、滑り演出や擬似連演出の他にも、滑り演出や擬似連演出とは異なる可変表示動作を利用するものがあってもよく、例えば、背景画像の表示、メッセージウィンドウの表示、保留表示、音声出力、発光（点灯、点滅、消灯）等のように可変表示演出とは異なる演出動作を利用するものがあってもよい。

30

【0089】

本実施形態では、予告演出として、当該変動に対応する保留表示に応じたアクティブ表示を含む情報を表した特別画像の表示態様を変化させるときと、特別画像の表示態様を変化させないときとで共通で実行される共通演出が含まれる。また、予告演出には、共通演出を実行した後に特別画像の表示態様を変化させる成功演出、および共通演出を実行した後に特別画像の表示態様を変化させない失敗演出が含まれる。なお、予告演出には、共通演出を示唆する示唆演出が含まれてもよい。また、示唆演出は、共通演出と同様に、特別画像の表示態様を変化させるときと、特別画像の表示態様を変化させないときとで共通で実行される演出でもよい。換言すれば、共通演出が実行されることを示唆する演出を示唆演出と称する場合と、成功演出または失敗演出のいずれかが実行されることを示唆する演出（共通演出、または、共通演出とは別の演出）を示唆演出と称する場合とがある。

40

【0090】

なお、予告演出は、当該予告演出が予告又は示唆する内容が実現されるか否かを遊技者が判別（実際に確認）できるよりも前に実行（開始）されればよい。例えば、ある遊技球の入賞による飾り図柄の可変表示状態がリーチ状態となる可能性があることを遊技者に予告又は示唆する予告演出は、少なくとも当該遊技球の入賞による飾り図柄の可変表示状態がリーチ状態（又は、非リーチ状態）となるより前に実行（開始）されればよい。また、ある遊技球の入賞による可変表示結果が「大当たり」となる可能性があることを遊技者に予告又は示唆する予告演出は、少なくとも当該遊技球の入賞による確定飾り図柄が停止表示されるよりも前に実行（開始）されればよい。

50

【0091】

予告演出のうちには、先読予告演出（「事前判定予告演出」ともいう）となるものが含まれればよい。先読予告演出は、当該予告対象となる可変表示を開始するより前に、当該可変表示を可変表示結果が「大当たり」となるか否か等の特図ゲームの保留情報等に基づいて判定し（先読みし）、当該判定結果に基づいて実行する予告演出である。以下の説明において、先読予告演出の対象とする保留情報をターゲットの保留情報と称し、ターゲットの保留情報に対応する第1保留表示をターゲットの第1保留表示と称し、ターゲットの保留情報に対応する第2保留表示をターゲットの第2保留表示と称し、ターゲットの保留情報に対応する可変表示をターゲットの可変表示とも称する。また、先読予告演出は、ターゲットの保留情報の消化中に実行する場合（ターゲットの可変表示中を含むターゲットの保留情報の消化処理中に実行する場合）と、ターゲットの保留情報よりも前の保留情報の消化中に実行する場合と、ターゲットの保留情報の消化中、及びターゲットの保留情報よりも前の保留情報の消化中に実行する場合とがある。

10

【0092】

ある遊技球の入賞による先読予告演出となる演出動作は、当該遊技球の入賞後（始動条件の成立後）、当該先読予告演出が予告する内容が実現されるか否かを遊技者が判別できるよりも前に実行（開始）されればよい。例えば、ある遊技球の入賞による、リーチ状態となる可能性があることを遊技者に予め報知（示唆）するための先読予告演出となる演出動作は、少なくとも当該遊技球の入賞による飾り図柄の可変表示状態がリーチ状態（又は非リーチ状態）となるより前に実行（開始）されればよい。また、ある遊技球の入賞による、可変表示結果が「大当たり」となる可能性があることを遊技者に予め報知（示唆）するための先読予告演出となる演出動作は、少なくとも当該遊技球の入賞による確定飾り図柄が停止表示されるよりも前に実行（開始）されればよい。

20

【0093】

なお、先読予告演出（事前判定予告演出）には、例えば、第1始動入賞記憶表示エリア5HLにおける第1保留表示の表示態様を変化させる保留変化演出や、第1始動入賞記憶表示エリア5HLにおける第1保留表示の表示態様を変化させない保留変化ガセ演出等の作用演出が用意されてもよい。また、先読予告演出（事前判定予告演出）には、例えば、第2始動入賞記憶表示エリア5HRにおける第2保留表示の表示態様を変化させる保留変化演出や、第2始動入賞記憶表示エリア5HRにおける第2保留表示の表示態様を変化させない保留変化ガセ演出等の作用演出が用意されてもよい。

30

【0094】

特図ゲームにおける確定特別図柄として、ハズレ図柄となる特別図柄が停止表示（導出）される場合には、飾り図柄の可変表示が開始されてから、飾り図柄の可変表示状態がリーチ状態とならずに、所定の非リーチ組合せとなる確定飾り図柄が停止表示されることがある。このような飾り図柄の可変表示態様は、可変表示結果が「ハズレ」となる場合における「非リーチ」（「通常ハズレ」ともいう）の可変表示態様と称される。

【0095】

特図ゲームにおける確定特別図柄として、ハズレ図柄となる特別図柄が停止表示（導出）される場合には、飾り図柄の可変表示が開始されてから、飾り図柄の可変表示状態がリーチ状態となったことに対応して、リーチ演出が実行された後等に、所定のリーチハズレ組合せとなる確定飾り図柄が停止表示されることがある。このような飾り図柄の可変表示結果は、可変表示結果が「ハズレ」となる場合における「リーチ」（「リーチハズレ」ともいう）の可変表示態様と称される。

40

【0096】

特図ゲームにおける確定特別図柄として、通常開放ラウンド大当たり図柄となる特別図柄のうち、「3」の数字を示す特別図柄といった通常大当たり図柄が停止表示される場合には、飾り図柄の可変表示状態がリーチ状態となったことに対応して、所定のリーチ演出が実行された後等に、複数種類の大当たり組合せのうち、所定の通常大当たり組合せ（「非確定大当たり組合せ」とも称する）となる確定飾り図柄が停止表示される。所定の通常大当たり組合

50

せとは、例えば、飾り図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R により形成される所定の有効ライン（例えば、横に一直線）上に同一種類の通常図柄（「非確変図柄」とも称する）が揃って最終停止表示する組合せである。通常図柄の一例は、図柄番号が「1」～「8」の 8 種類の飾り図柄のうち、図柄番号が偶数「2」、「4」、「6」、「8」の 4 種類の飾り図柄である。

【0097】

特図ゲームにおける確定特別図柄が通常大当り図柄となることに対応して、所定のリーチ演出が実行された後等に、通常大当り組合せの確定飾り図柄が停止表示される飾り図柄の可変表示態様は、可変表示結果が「大当り」となる場合における「非確変」（「通常大当り」ともいう）の可変表示態様（「大当り種別」ともいう）と称される。「非確変」の大当り種別で可変表示結果が「大当り」となったことに基づいて、通常開放大当り状態に制御され、その終了後には、時間短縮制御（時短制御）が行われる。

10

【0098】

時短制御が行われることにより、特図ゲームにおける特別図柄の可変表示時間（特図変動時間）は、通常状態に比べて短縮される。通常状態とは、大当り遊技状態等の特定遊技状態等とは異なる通常遊技状態であり、パチンコ遊技機 1 の初期設定状態（例えばシステムリセットが行われた場合のように、電源投入後に初期化処理を実行した状態）と同一の制御が行われる。時短制御は、大当り遊技状態の終了後に所定回数（例えば 100 回）の特図ゲームが実行されることと、可変表示結果が「大当り」となることのうち、何れかの条件が先に成立したときに、終了すればよい。

20

【0099】

特図ゲームにおける確定特別図柄として、通常開放ラウンド大当り図柄となる特別図柄のうち、「7」の数字を示す特別図柄といった確変大当り図柄が停止表示される場合には、飾り図柄の可変表示状態がリーチ状態となったことに対応して、飾り図柄の可変表示態様が「通常」である場合と同様のリーチ演出が実行された後等に、複数種類の大当り組合せのうち、所定の確変大当り組合せとなる確定飾り図柄が停止表示されることがある。換言すれば、特図ゲームにおいて確変大当り図柄が最終停止表示される場合には、所定の確変大当り組合せとなる飾り図柄が最終停止される場合と、所定の通常大当り組合せとなる飾り図柄が停止表示される場合とがある。所定の確変大当り組合せとは、例えば、上記有効ライン上に同一種類の確変図柄が揃って最終停止表示する組合せである。確変図柄の一例は、図柄番号が「1」～「8」の 8 種類の飾り図柄のうち、図柄番号が奇数「1」、「3」、「5」、「7」の 4 種類の飾り図柄である。

30

【0100】

確定飾り図柄が通常大当り組合せであるか確変大当り組合せであるかにかかわらず、特図ゲームにおける確定特別図柄として確変大当り図柄が停止表示される可変表示態様は、可変表示結果が「大当り」となる場合における「確変」の可変表示態様（「大当り種別」ともいう）と称される。「確変」の大当り種別で可変表示結果が「大当り」となったことに基づいて、通常開放大当り状態に制御され、その終了後には、時短制御とともに確率変動制御（確変制御）が行われる。確変制御が行われることにより、各回の特図ゲームにおいて可変表示結果（特図表示結果）が「大当り」となる確率は、通常状態に比べて高くなるように向上する。確変制御は、大当り遊技状態の終了後に可変表示結果が「大当り」となって再び大当り遊技状態に制御されるという条件が成立したときに、終了すればよい。なお、時短制御と同様に、大当り遊技状態の終了後に所定回数（例えば 100 回）の特図ゲームが実行されたときに、確変制御を終了してもよい。また、大当り遊技状態の終了後に特図ゲームが開始されるごとに実行される確変転落抽選で確変制御を終了させる「確変転落あり」の決定がされたときに、確変制御を終了してもよい。

40

【0101】

時短制御が行われるときには、普通図柄表示器 20 による普図ゲームにおける普通図柄の変動時間（普図変動時間）を通常状態のときよりも短くする制御や、各回の普図ゲームで普通図柄の可変表示結果が「普図当り」となる確率を通常状態のときよりも向上させる

50

制御、可変表示結果が「普図当り」となったことに基づく普通可変入賞球装置 6 B における可動翼片の傾動制御を行う傾動制御時間を通常状態のときよりも長くする制御、その傾動回数を通常状態のときよりも増加させる制御といった、遊技球が第 2 始動入賞口を通過（進入）し易くして第 2 始動条件が成立する可能性を高めることで遊技者にとって有利となる制御が行われる。このように、時短制御に伴い第 2 始動入賞口に遊技球が進入しやすくして遊技者にとって有利となる制御は、高開放制御ともいう。高開放制御としては、これらの制御の何れか 1 つが行われてもよく、複数の制御が組合せられて行われてもよい。

【0102】

高開放制御が行われることにより、第 2 始動入賞口は、高開放制御が行われていないときよりも拡大開放状態となる頻度が高められる。従って、第 2 特別図柄表示装置 4 B による第 2 特図ゲームを実行するための第 2 始動条件が成立しやすくなり、第 2 特図ゲームが頻繁に実行可能となることで、次に可変表示結果が「大当り」となるまでの時間が短縮される。高開放制御が実行可能となる期間は、高開放制御期間ともいい、この期間は、時短制御が行われる期間と同一であればよい。

【0103】

時短制御と高開放制御がともに行われる遊技状態は、時短状態あるいは高ベース状態ともいう。また、確変制御が行われる遊技状態は、確変状態あるいは高確状態ともいう。確変制御とともに時短制御や高開放制御が行われる遊技状態は、高確高ベース状態とも称される。確変制御のみが行われて時短制御や高開放制御が行われない確変状態は、高確低ベース状態とも称される。なお、確変制御とともに時短制御や高開放制御が行われる遊技状態のみを、特に「確変状態」ということもあり、高確低ベース状態とは区別するために、時短付確変状態ということもある。一方、確変制御のみが行われて時短制御や高開放制御が行われない確変状態（高確低ベース状態）は、高確高ベース状態と区別するために、時短なし確変状態ということもある。確変制御が行われずに時短制御や高開放制御が行われる時短状態は、低確高ベース状態とも称される。確変制御や時短制御、及び、高開放制御がいずれも行われない通常状態は、低確低ベース状態とも称される。通常状態以外の遊技状態において時短制御や確変制御の少なくとも何れかが行われるときには、特図ゲーム（第 2 特図ゲーム）が頻繁に実行可能となることや、各回の特図ゲーム（第 1 特図ゲーム、第 2 特図ゲーム）における可変表示結果が「大当り」となる確率が高められることにより、遊技者にとって有利な状態となる。大当り遊技状態とは異なる遊技者にとって有利な遊技状態は、特別遊技状態とも称される。

【0104】

特図ゲームにおける確定特別図柄として、「5」の数字を示す特別図柄といった短期開放ラウンド大当り図柄が停止表示される場合や、「2」の数字を示す特別図柄といった小当り図柄が停止表示される場合には、飾り図柄の可変表示状態がリーチ状態とならずに、開放チャンス目として予め定められた複数種類の確定飾り図柄の組合せの何れかが停止表示されることがある。また、特図ゲームにおける確定特別図柄として、短期開放ラウンド大当り図柄が停止表示される場合には、飾り図柄の可変表示状態がリーチ状態となったことに対応して、所定のリーチ演出が実行された後等に、所定のリーチ組合せとなる確定飾り図柄が停止表示されることもある。

【0105】

特図ゲームにおける確定特別図柄が短期開放ラウンド大当り図柄となることに対応して、各種の確定飾り図柄が停止表示される飾り図柄の可変表示態様は、可変表示結果が「大当り」となる場合における「突確」（「突確大当り」あるいは「突然確変大当り」ともいう）の可変表示態様（「大当り種別」ともいう）と称される。「突確」の大当り種別で可変表示結果が「大当り」となったことに基づいて、短期開放大当り状態に制御され、その終了後には、時短制御とともに確変制御が行われればよい。

【0106】

特図ゲームにおける確定特別図柄として、「2」の数字を示す特別図柄といった小当り図柄が停止表示されて可変表示結果が「小当り」となったことに基づいて、小当り遊技状

10

20

30

40

50

態に制御され、その終了後には、遊技状態の変更が行われず、可変表示結果が「小当り」となる以前の遊技状態に継続して制御される。但し、可変表示結果が「小当り」となる特図ゲームが実行されたときに、特別遊技状態における特図ゲームの実行回数が所定回数に達していれば、小当り遊技状態の終了後には、特別遊技状態が終了して通常状態となることがある。

【0107】

確定飾り図柄が非確変大当り組合せや確変大当り組合せとなる飾り図柄の可変表示中には、再抽選演出が実行されることがある。例えば、再抽選演出として、飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて、通常大当り組合せとなる飾り図柄を仮停止表示させた後に、同一の飾り図柄が揃った状態で再び変動させ、確変大当り組合せとなる飾り図柄（確変図柄）と、通常大当り組合せとなる飾り図柄（通常図柄）のうち何れかを、確定飾り図柄として最終停止表示されてもよい。

10

【0108】

通常大当り組合せとなる確定飾り図柄が導出表示された後には、大当り遊技状態の開始時や大当り遊技状態におけるラウンドの実行中、大当り遊技状態において何れかのラウンドが終了してから次のラウンドが開始されるまでの期間、大当り遊技状態において最終のラウンドが終了してから次の可変表示ゲームが開始されるまでの期間等で、確変状態に制御するか否かの確変報知演出となる大当り中昇格演出が実行されてもよい。なお、大当り中昇格演出と同様の報知演出が、大当り遊技状態の終了後における最初の可変表示ゲーム中等で実行されてもよい。大当り遊技状態において最終のラウンドが終了してから実行される大当り中昇格演出を、特に「エンディング昇格演出」ということもある。

20

【0109】

パチンコ遊技機1には、例えば図2に示すような主基板11、演出制御基板12、音声制御基板13、ランプ制御基板14といった、各種の制御基板が搭載されている。また、パチンコ遊技機1には、主基板11と演出制御基板12との間で伝送される各種の制御信号を中継するための中継基板15等も搭載されている。その他にも、パチンコ遊技機1における遊技盤2等の背面には、例えば払出制御基板、情報端子基板、発射制御基板、インタフェース基板等といった、各種の基板が配置されている。

【0110】

主基板11は、メイン側の制御基板であり、パチンコ遊技機1における遊技の進行を制御するための各種回路が搭載されている。主基板11は、主として、特図ゲームにおいて用いる乱数の設定機能、所定位置に配設されたスイッチ等からの信号の入力を行う機能、演出制御基板12等からなるサブ側の制御基板に宛てて、指令情報の一例となる制御コマンドを制御信号として出力して送信する機能、ホールの管理コンピュータに対して各種情報を出力する機能等を備えている。また、主基板11は、第1特別図柄表示装置4Aと第2特別図柄表示装置4Bを構成する各LED（例えばセグメントLED）等の点灯／消灯制御を行って第1特図や第2特図の可変表示を制御することや、普通図柄表示器20の点灯／消灯／発色制御等を行って普通図柄表示器20による普通図柄の可変表示を制御することといった、所定の識別情報の可変表示を制御する機能も備えている。

30

【0111】

主基板11には、例えば遊技制御用マイクロコンピュータ100や、遊技球検出用の各種スイッチからの検出信号を取込んで遊技制御用マイクロコンピュータ100に伝送するスイッチ回路110、遊技制御用マイクロコンピュータ100からのソレノイド駆動信号をソレノイド81、82に伝送するソレノイド回路111等が搭載されている。

40

【0112】

演出制御基板12は、主基板11とは独立したサブ側の制御基板であり、中継基板15を介して主基板11から伝送された制御信号を受信して、画像表示装置5、スピーカ8及びランプ9といった演出用の電気部品による演出動作を制御するための各種回路が搭載されている。即ち、演出制御基板12は、画像表示装置5における表示動作や、スピーカ8からの音声出力動作の全部又は一部、ランプ9等における点灯／消灯動作の全部又は一部

50

といった、演出用の電気部品に所定の演出動作を実行させるための制御内容を決定する機能を備えている。

【0113】

音声制御基板13は、演出制御基板12とは別個に設けられた音声出力制御用の制御基板であり、演出制御基板12からの指令や制御データ等に基づき、スピーカ8から音声を出力させるための音声信号処理を実行する処理回路等が搭載されている。ランプ制御基板14は、演出制御基板12とは別個に設けられたランプ出力制御用の制御基板であり、演出制御基板12からの指令や制御データ等に基づき、ランプ9等における点灯／消灯駆動を行うランプドライバ回路等が搭載されている。

【0114】

図2に示すように、主基板11には、ゲートスイッチ21、第1始動口スイッチ22A、第2始動口スイッチ22B、カウントスイッチ23からの検出信号を伝送する配線が接続されている。ゲートスイッチ21、第1始動口スイッチ22A、第2始動口スイッチ22B、カウントスイッチ23は、例えばセンサと称されるもの等のように、遊技媒体としての遊技球を検出できる任意の構成を有するものであればよい。なお、遊技機1は、ゲートスイッチ21、第1始動口スイッチ22A、第2始動口スイッチ22B、カウントスイッチ23に加え、同様に主基板11に接続する他のスイッチ（例えば、ガラス扉（非図示）の開閉状態を検知するスイッチ、遊技盤2自体の開閉状態を検知するスイッチ、不正な振動を検知するためのスイッチ、不正な電磁波を検知するためのスイッチ）を備えてもよい。また、主基板11には、第1特別図柄表示装置4A、第2特別図柄表示装置4B、普通図柄表示器20、第1保留表示器25A、第2保留表示器25B、普通図柄保留表示器25C等の表示制御を行うための指令信号を伝送する配線が接続されている。

【0115】

主基板11から演出制御基板12に向けて伝送される制御信号は、中継基板15により中継される。中継基板15を介して主基板11から演出制御基板12に対して伝送される制御コマンドは、例えば電気信号として送受信される演出制御コマンドである。

【0116】

図3(A)は、本実施形態で用いられる演出制御コマンドの内容の一例を示す説明図である。演出制御コマンドは、例えば2バイト構成であり、1バイト目はMODE（コマンドの分類）を示し、2バイト目はEXT（コマンドの種類）を表す。MODEデータの先頭ビット（ビット7）は必ず「1」とされ、EXTデータの先頭ビットは「0」とされる。なお、図3(A)に示されたコマンド形態は一例であって、他のコマンド形態を用いてもよい。また、この例では、制御コマンドが2つの制御信号で構成されることになるが、制御コマンドを構成する制御信号数は、1でもよく、3以上の複数でもよい。

【0117】

図3(A)に示す例において、コマンド8001Hは、第1特別図柄表示装置4Aによる第1特図ゲームにおける変動開始を指定する第1変動開始コマンドである。コマンド8002Hは、第2特別図柄表示装置4Bによる第2特図ゲームにおける変動開始を指定する第2変動開始コマンドである。コマンド81XXHは、特図ゲームにおける特別図柄の可変表示に対応して各飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rで可変表示される飾り図柄等の変動パターンを指定する変動パターン指定コマンドである。ここで、XXHは不特定の16進数であることを示し、演出制御コマンドによる指示内容に応じて任意に設定される値であればよい。変動パターン指定コマンドでは、指定する変動パターン等に応じて、異なるEXTデータが設定される。

【0118】

コマンド8CXXHは、特別図柄や飾り図柄等の可変表示結果を指定する可変表示結果通知コマンドである。可変表示結果通知コマンドでは、例えば図3(B)に示すように、可変表示結果が「ハズレ」であるか「大当たり」であるかの決定結果や大当たり種別の決定結果に応じて、異なるEXTデータが設定される。

【0119】

コマンド 8 F 0 0 H は、各飾り図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R における、最終停止図柄を指定する図柄確定コマンドである。コマンド 9 5 X X H は、パチンコ遊技機 1 における現在の遊技状態を指定する遊技状態指定コマンドである。遊技状態指定コマンドでは、例えばパチンコ遊技機 1 における現在の遊技状態に応じて、異なる E X T データが設定される。

【0120】

コマンド A 0 X X H は、大当り遊技状態や小当り遊技状態の開始を示す演出画像の表示を指定する当り開始指定コマンド（「ファンファーレコマンド」ともいう）である。コマンド A 1 X X H は、大当り遊技状態や小当り遊技状態において、大入賞口が開放状態となっている期間であることを通知する大入賞口開放中通知コマンドである。コマンド A 2 X X H は、大当り遊技状態や小当り遊技状態において、大入賞口が開放状態から閉鎖状態に変化した期間であることを通知する大入賞口開放後通知コマンドである。コマンド A 3 X X H は、大当り遊技状態や小当り遊技状態の終了時における演出画像の表示を指定する当り終了指定コマンドである。

【0121】

当り開始指定コマンドや当り終了指定コマンドでは、例えば可変表示結果通知コマンドと同様の E X T データが設定されること等により、事前決定結果や大当り種別決定結果に応じて異なる E X T データが設定されてもよい。あるいは、当り開始指定コマンドや当り終了指定コマンドでは、事前決定結果及び大当り種別決定結果と設定される E X T データとの対応関係を、可変表示結果通知コマンドにおける対応関係とは異ならせてもよい。大入賞口開放中通知コマンドや大入賞口開放後通知コマンドでは、例えば通常開放大当り状態や短期開放大当り状態におけるラウンドの実行回数（例えば「1」～「15」）に対応して、異なる E X T データが設定される。

【0122】

コマンド B 1 0 0 H は、普通入賞球装置 6 A が形成する第 1 始動入賞口を通過（進入）した遊技球が第 1 始動口スイッチ 2 2 A により検出されて第 1 始動入賞が発生したことに基つき、第 1 特別図柄表示装置 4 A による第 1 特図ゲームを実行するための第 1 始動条件が成立したことを通知する第 1 始動口入賞指定コマンドである。

【0123】

コマンド B 2 0 0 H は、普通可変入賞球装置 6 B が形成する第 2 始動入賞口を通過（進入）した遊技球が第 2 始動口スイッチ 2 2 B により検出されて第 2 始動入賞が発生したことに基つき、第 2 特別図柄表示装置 4 B による第 2 特図ゲームを実行するための第 2 始動条件が成立したことを通知する第 2 始動口入賞指定コマンドである。

【0124】

コマンド C 1 X X H は、第 1 始動入賞記憶表示エリア 5 H L 等で第 1 特図保留記憶数を特定可能に表示するために、第 1 特図保留記憶数を通知する第 1 保留記憶数通知コマンドである。コマンド C 2 X X H は、第 2 始動入賞記憶表示エリア 5 H R 等で特図保留記憶数を特定可能に表示するために、第 2 特図保留記憶数を通知する第 2 保留記憶数通知コマンドである。

【0125】

本実施形態では、保留記憶情報として、第 1 始動入賞口に始動入賞したか、第 2 始動入賞口に始動入賞したかを指定する第 1 始動口入賞指定コマンドや第 2 始動口入賞指定コマンドを送信するとともに、第 1 特図保留記憶数や第 2 特図保留記憶数を指定する第 1 保留記憶数通知コマンドや第 2 保留記憶数通知コマンドを送信する。なお、保留記憶数が増加したときに、第 1 特図保留記憶数又は第 2 特図保留記憶数が増加したことを示す保留記憶数加算指定コマンド（第 1 保留記憶数加算指定コマンド又は第 2 保留記憶数加算指定コマンド）を送信する一方、保留記憶数が減少したときに、第 1 特図保留記憶数又は第 2 特図保留記憶数が減少したことを示す保留記憶数減算指定コマンド（第 1 保留記憶数減算指定コマンド又は第 2 保留記憶数減算指定コマンド）を送信してもよい。

【0126】

第1保留記憶数通知コマンドや第2保留記憶数通知コマンドに代えて、合計保留記憶数を通知する合計保留記憶数通知コマンドを送信してもよい。また、合計保留記憶数の増加（又は減少）を通知するための合計保留記憶数加算指定コマンド（合計保留記憶数減算指定コマンド）を送信してもよい。

【0127】

コマンドC4XXH及びコマンドC6XXHは、入賞時判定結果の内容を示す演出制御コマンド（入賞時判定結果指定コマンド）である。このうち、コマンドC4XXHは、入賞時判定結果として、可変表示結果が「大当り」となるか否かや「小当り」となるか否かの判定結果、大当り種別の判定結果を示す図柄指定コマンドである。また、コマンドC6XXHは、入賞時判定結果として、変動カテゴリ（「変動パターン種別」とも称する）の判定結果を示す変動カテゴリコマンドである。変動カテゴリとは、飾り図柄の変動パターンを種類別に分類（集約）したときの名称である。換言すれば、変動カテゴリとは、共通のグループにカテゴリライズされる1以上の飾り図柄の変動パターンを含む、各グループのグループ名である。

【0128】

本実施形態では、入賞時乱数値判定処理（図15（A）参照）において、始動入賞の発生時に、特図表示結果決定用の乱数値MR1に基づいて可変表示結果が「大当り」に決定されるか否かや「小当り」に決定されるか否かを判定し、「大当り」に決定された場合には大当り種別決定用の乱数値MR2に基づいて大当りの種別を判定し、変動カテゴリ決定用の乱数値MR3に基づいて変動カテゴリ（変動パターン種別）を判定する。そして、図柄指定コマンドや変動カテゴリコマンドのEXTデータに、その判定結果に対応する値を設定し、演出制御基板12に対して送信する制御を行う。演出制御基板12に搭載された演出制御用CPU120は、図柄指定コマンドに設定されている値に基づいて、可変表示結果が「大当り」や「小当り」に決定されるか否かや大当り種別を認識できるとともに、変動カテゴリコマンドに設定されている値に基づいて変動カテゴリを認識できる。

【0129】

変動パターン指定コマンドや可変表示結果通知コマンド等の演出制御コマンドは、演出制御用CPU120が、1以上の演出装置（画像表示装置5、スピーカ8、ランプ9等）を制御する際に用いられる。以下、画像表示装置5における画像表示動作の制御に用いられる演出制御コマンドを表示制御コマンド、スピーカ8からの音声出力を制御するために用いられる演出制御コマンドを音声制御コマンド、ランプ9の発光動作（点灯動作、点滅動作、消灯動作）を制御するために用いられる演出制御コマンドをランプ制御コマンドとも称する。なお、演出制御コマンドのうちには、表示制御コマンド、かつ、音声制御コマンド、かつ、ランプ制御コマンドであるものが存在してもよい。

【0130】

主基板11に搭載された遊技制御用マイクロコンピュータ100は、例えば1チップのマイクロコンピュータであり、遊技制御用のプログラムや固定データ等を記憶するROM（Read Only Memory）101と、遊技制御用のワークエリアを提供するRAM（Random Access Memory）102と、遊技制御用のプログラムを実行して制御動作を行うCPU（Central Processing Unit）103と、CPU103とは独立して乱数値を示す数値データの更新を行う乱数回路104と、I/O（Input/Output port）105とを備えて構成される。

【0131】

一例として、遊技制御用マイクロコンピュータ100では、CPU103がROM101から読出したプログラムを実行することにより、パチンコ遊技機1における遊技の進行を制御するための処理が実行される。このときには、CPU103がROM101から固定データを読出す固定データ読出動作や、CPU103がRAM102に各種の変動データを書き込んで一時記憶させる変動データ書込動作、CPU103がRAM102に一時記憶されている各種の変動データを読出す変動データ読出動作、CPU103がI/O105を介して遊技制御用マイクロコンピュータ100の外部から各種信号の入力を受け付

ける受信動作、CPU103がI/O105を介して遊技制御用マイクロコンピュータ100の外部へと各種信号を出力する送信動作等も行われる。

【0132】

図4は、主基板11の側においてカウントされる乱数値を例示する説明図である。図4に示すように、本実施形態では、主基板11の側において、特図表示結果決定用の乱数値MR1、大当り種別決定用の乱数値MR2、変動カテゴリ決定用の乱数値MR3、普図表示結果決定用の乱数値MR4、変動パターン決定用の乱数値MR5のそれぞれを示す数値データが、カウント可能に制御される。なお、遊技効果を高めるために、これら以外の乱数値が用いられてもよい。こうした遊技の進行を制御するために用いられる乱数は、遊技用乱数ともいう。

10

【0133】

乱数回路104は、これらの乱数値MR1～MR5の一部又は全部を示す数値データをカウントするものであればよい。CPU103は、例えば図8に示す遊技制御カウンタ設定部154に設けられたランダムカウンタといった、乱数回路104とは異なるランダムカウンタを用いて、ソフトウェアにより各種の数値データを更新することで、乱数値MR1～MR5の一部を示す数値データをカウントしてもよい。

【0134】

続いて、飾り図柄の変動パターンについて説明する。以下、可変表示結果が「ハズレ」となる場合に対応した変動パターンを「ハズレ変動パターン」と称する。ハズレ変動パターンには、可変表示結果が「ハズレ」となる場合のうち飾り図柄の可変表示態様が「非リーチ」となる場合に対応した「非リーチ変動パターン（「非リーチハズレ変動パターン」「非リーチ（ハズレ）変動パターン」とも称する）」や、可変表示結果が「ハズレ」となる場合のうち飾り図柄の可変表示態様が「リーチ」となる場合に対応した「リーチ変動パターン（「リーチハズレ変動パターン」とも称する）」が含まれる。

20

【0135】

また、可変表示結果が「大当り」又は「小当り」となる場合に対応した変動パターンを「当たり変動パターン」と称する。当たり変動パターンには、可変表示結果が「大当り」である場合に対応した「大当り変動パターン」や、可変表示結果が「小当り」である場合に対応した「小当り変動パターン」が含まれる。大当り変動パターンとして、大当り種別の夫々に対応した複数の変動パターンを用意してもよい。

30

【0136】

非リーチ変動パターンには、合計保留記憶数が多い場合や、遊技状態が確変状態や時短状態である場合に実行される時短制御に対応し、変動時間が異なる複数の変動パターンを用意しておくもよい。これにより、合計保留記憶数や遊技状態に応じて、何れかの変動パターンが選択されることで、合計保留記憶数や遊技状態に応じて変動時間を短縮する制御が可能になる。

【0137】

大当り変動パターンやリーチ変動パターン等のようにリーチ演出を含む変動パターンには、夫々のリーチ演出のリーチ態様に応じた変動パターンが用意されている。なお、ノーマルリーチのリーチ演出が実行される変動パターンを「ノーマルリーチ変動パターン」と称し、スーパーリーチのリーチ演出が実行される変動パターンを「スーパーリーチ変動パターン」と称する。

40

【0138】

図5は、本実施形態における変動カテゴリ及び変動パターンの具体例を示している。図5において、変動カテゴリ「PA1」は、短縮・非リーチ（ハズレ）変動カテゴリである。変動カテゴリ「PA1」には、変動パターン「PA1-1」が属している。変動カテゴリ「PA2」は、非リーチ（ハズレ）変動カテゴリである。変動カテゴリ「PA2」には、変動パターン「PA2-1」～「PA2-3」が属している。変動カテゴリ「PA3」は、ノーマルリーチ（ハズレ）変動カテゴリである。変動カテゴリ「PA3」には、変動パターン「PA3-1」と「PA3-2」とが属している。変動カテゴリ「PA4」は、

50

スーパーリーチα（ハズレ）変動カテゴリである。変動カテゴリ「PA4」には、変動パターン「PA4-1」～「PA4-4」が属している。変動カテゴリ「PA5」は、スーパーリーチβ（ハズレ）変動カテゴリである。変動カテゴリ「PA5」には、変動パターン「PA5-1」～「PA5-4」が属している。変動カテゴリ「PB3」は、ノーマルリーチ（大当り）変動カテゴリである。変動カテゴリ「PB3」には、変動パターン「PB3-1」と「PB3-2」とが属している。変動カテゴリ「PB4」は、スーパーリーチα（大当り）変動カテゴリである。変動カテゴリ「PB4」には、変動パターン「PB4-1」～「PB4-4」が属している。変動カテゴリ「PB5」は、スーパーリーチβ（大当り）変動カテゴリである。変動カテゴリ「PB5」には、変動パターン「PB5-1」～「PB5-4」が属している。

10

【0139】

変動カテゴリ「PA2」に属する変動パターン「PA2-1」は、非リーチ（ハズレ）として特図変動時間が通常長さである非リーチ（ハズレ）変動パターンである。変動パターン「PA2-2」は、滑り演出が実行される非リーチ（ハズレ）変動パターンである。変動パターン「PA2-2」の特図変動時間は、滑り演出が実行されるため、変動パターン「PA2-1」の特図変動時間よりも長くなっている。滑り演出が実行される他の変動パターンについても同様である。また、変動パターン「PA2-3」は、擬似連変動（演出）が1回実行される非リーチ（ハズレ）変動パターンである。変動パターン「PA2-3」の特図変動時間は、擬似連変動（演出）が実行されるため、変動パターン「PA2-1」の特図変動時間よりも長くなっている。擬似連変動（演出）が実行される他の変動パターンについても同様である。変動カテゴリ「PA1」に属する変動パターン「PA1-1」は、変動パターン「PA2-1」よりも特図変動時間が短縮された非リーチ（ハズレ）変動パターンである。

20

【0140】

変動カテゴリ「PA3」に属する変動パターン「PA3-1」は、ノーマルリーチ（ハズレ）として特図変動時間が通常長さであるノーマルリーチ（ハズレ）変動パターンである。また、変動パターン「PA3-2」は、擬似連変動（演出）が1回実行されるノーマルリーチ（ハズレ）変動パターンである。変動カテゴリ「PA4」に属する変動パターン「PA4-1」は、スーパーリーチα（ハズレ）として特図変動時間が通常長さであるスーパーリーチα（ハズレ）変動パターンである。変動パターン「PA4-2」は、ガセとして擬似連変動（演出）が実行されるスーパーリーチα（ハズレ）変動パターンである。なお、変動パターン「PA4-2」の特図変動時間は、ガセとして擬似連変動（演出）が実行されるため、変動パターン「PA4-1」の特図変動時間よりも長くなっている。ガセとして擬似連変動（演出）が実行される他の変動パターンについても同様である。変動パターン「PA4-3」は、擬似連変動（演出）が1回実行されるスーパーリーチα（ハズレ）変動パターンである。また、変動パターン「PA4-4」は、擬似連変動（演出）が2回実行されるスーパーリーチα（ハズレ）変動パターンである。

30

【0141】

変動カテゴリ「PA5」に属する変動パターン「PA5-1」は、スーパーリーチβ（ハズレ）として特図変動時間が通常長さであるスーパーリーチβ（ハズレ）変動パターンである。変動パターン「PA5-2」は、ガセとして擬似連変動（演出）が実行されるスーパーリーチβ（ハズレ）変動パターンである。変動パターン「PA5-3」は、擬似連変動（演出）が1回実行されるスーパーリーチβ（ハズレ）変動パターンである。また、変動パターン「PA5-4」は、擬似連変動（演出）が2回実行されるスーパーリーチβ（ハズレ）変動パターンである。

40

【0142】

変動カテゴリ「PB3」に属する変動パターン「PB3-1」は、ノーマルリーチ（大当り）として特図変動時間が通常長さであるノーマルリーチ（大当り）変動パターンである。また、変動パターン「PB3-2」は、擬似連変動（演出）が1回実行されるノーマルリーチ（大当り）変動パターンである。変動カテゴリ「PB4」に属する変動パター

50

ン「PB4-1」は、スーパーリーチα（大当り）として特図変動時間が通常の長さであるスーパーリーチα（大当り）変動パターンである。変動パターン「PB4-2」は、ガセとして擬似連変動（演出）が実行されるスーパーリーチα（大当り）変動パターンである。変動パターン「PB4-3」は、擬似連変動（演出）が1回実行されるスーパーリーチα（大当り）変動パターンである。また、変動パターン「PB4-4」は、擬似連変動（演出）が2回実行されるスーパーリーチα（大当り）変動パターンである。

【0143】

変動カテゴリ「PB5」に属する変動パターン「PB5-1」は、スーパーリーチβ（大当り）として特図変動時間が通常の長さであるスーパーリーチβ（大当り）変動パターンである。変動パターン「PB5-2」は、ガセとして擬似連変動（演出）が実行されるスーパーリーチβ（大当り）変動パターンである。変動パターン「PB5-3」は、擬似連変動（演出）が1回実行されるスーパーリーチβ（大当り）変動パターンである。また、変動パターン「PB5-4」は、擬似連変動（演出）が2回実行されるスーパーリーチβ（大当り）変動パターンである。

【0144】

なお、図5において、小当り変動パターン、大当り変動パターンのうちの大当り種別が突確である場合の変動パターンに関する説明は省略しているが、同図において説明したハズレ変動パターン（非リーチ変動パターン、リーチハズレ変動パターン）や、大当り変動パターン（大当り種別が突確である場合を除く）と同様である。

【0145】

図2に示す遊技制御用マイクロコンピュータ100が備えるROM101には、ゲーム制御用のプログラムの他にも、遊技の進行を制御するために用いられる各種のデータが格納されている。例えば、ROM101には、CPU103が各種の判定や決定、設定を行うために用意された複数の判定テーブルや決定テーブル、設定テーブル等を構成するデータが記憶されている。また、ROM101には、CPU103が主基板11から各種の制御コマンドとなる制御信号を送信するために用いられる複数のコマンドテーブルを構成するデータ（例えば、制御コマンドの内容を特定する情報）や、図5に示すようなテーブルを構成するデータ等が記憶されている。

【0146】

図6は、ROM101に記憶される特図表示結果決定テーブルの構成例を示している。本実施形態では、特図表示結果決定テーブルとして、図6（A）に示す第1特図表示結果決定テーブル130Aと、図6（B）に示す第2特図表示結果決定テーブル130Bとが予め用意されている。第1特図表示結果決定テーブル130Aは、第1特別図柄表示装置4Aによる第1特図ゲーム（第1特図を用いた特図ゲーム）において可変表示結果となる確定特別図柄が導出表示される以前に、その可変表示結果を「大当り」として大当り遊技状態に制御するか否かや、可変表示結果を「小当り」として小当り遊技状態に制御するか否かを、特図表示結果決定用の乱数値MR1に基づいて決定するために参照されるテーブルである。第2特図表示結果決定テーブル130Bは、第2特別図柄表示装置4Bによる第2特図ゲーム（第2特図を用いた特図ゲーム）において可変表示結果となる確定特別図柄が導出表示される以前に、その可変表示結果を「大当り」として大当り遊技状態に制御するか否かや、可変表示結果を「小当り」として小当り遊技状態に制御するか否かを、特図表示結果決定用の乱数値MR1に基づいて決定するために参照されるテーブルである。

【0147】

第1特図表示結果決定テーブル130Aでは、パチンコ遊技機1における遊技状態が通常状態又は時短状態（低確状態）であるか、確変状態（高確状態）であるかに応じて、特図表示結果決定用の乱数値MR1と比較される数値（決定値）が、「大当り」や「小当り」、「ハズレ」の特図表示結果に割当てられている。第2特図表示結果決定テーブル130Bでは、遊技状態が通常状態又は時短状態（低確状態）であるか、確変状態（高確状態）であるかに応じて、特図表示結果決定用の乱数値MR1と比較される数値（決定値）が、「大当り」や「ハズレ」の特図表示結果に割当てられている。

【0148】

第1特図表示結果決定テーブル130Aと第2特図表示結果決定テーブル130Bの夫々では、遊技状態が確変状態（高確状態）であるときに、通常状態又は時短状態（低確状態）であるときよりも多くの決定値が、「大当り」の特図表示結果に割当てられている。これにより、パチンコ遊技機1において確変制御が行われる確変状態（高確状態）では、通常状態又は時短状態（低確状態）であるときに比べて、特図表示結果を「大当り」として大当り遊技状態に制御すると決定される確率が高くなる。

【0149】

第1特図表示結果決定テーブル130Aの設定例では、所定範囲の決定値（「30000」～「30350」の範囲の値）が「小当り」の特図表示結果に割当てられている。その一方で、第2特図表示結果決定テーブル130Bの設定例では、「小当り」の特図表示結果に決定値が割当てられていない。このような設定より、第2特図ゲームでは「小当り」とならないので、例えば時短状態（低確高ベース状態）や確変状態（高確高ベース状態）といった、普通可変入賞球装置6Bが形成する第2始動入賞口に遊技球が進入しやすい遊技状態において、賞球を得ることが困難な「小当り」の発生を回避して、遊技の間延びによる遊技興趣の低下を防止することができる。

【0150】

なお、第2特図表示結果決定テーブル130Bと、第1特図表示結果決定テーブル130Aとで、異なる所定範囲の決定値が「小当り」の特図表示結果に割当てられてもよい。例えば、第2特図表示結果決定テーブル130Bでは、第1特図表示結果決定テーブル130Aに比べて少ない決定値が「小当り」の特図表示結果に割当てられてもよい。これにより、普通可変入賞球装置6Bが形成する第2始動入賞口に遊技球が進入しやすい遊技状態における「小当り」の頻発を回避することができる。あるいは、第1特図ゲームと第2特図ゲームとで、共通の特図表示結果決定テーブルを参照して、特図表示結果の決定を行ってもよい。

【0151】

図7は、ROM101に記憶される大当り種別決定テーブル131の構成例を示している。大当り種別決定テーブル131は、特図表示結果を「大当り」として大当り遊技状態に制御すると決定されたときに、大当り種別決定用の乱数値MR2に基づき、大当り種別を複数種類の何れかに決定するために参照されるテーブルである。大当り種別決定テーブル131では、第1特別図柄表示装置4Aによる第1特図ゲーム（第1特図を用いた特図ゲーム）を実行するか、第2特別図柄表示装置4Bによる第2特図ゲーム（第2特図を用いた特図ゲーム）を実行するかに応じて、大当り種別決定用の乱数値MR2と比較される数値（決定値）が、「非確変」や「確変」、「突確」といった複数種類の大当り種別に割当てられている。

【0152】

大当り種別決定テーブル131の設定例では、第1特図ゲームを実行する場合、即ち、変動させる特図（変動特図とも称する）が第1特図である場合には、所定範囲の決定値（「82」～「99」の範囲の値）が「突確」の大当り種別に割当てられている一方、第2特図ゲームを実行する場合、変動特図が第2特図である場合には、「突確」の大当り種別に対して決定値が割当てられていない。このような設定により、第2特図ゲームでは「突確」とならないので、普通可変入賞球装置6Bが形成する第2始動入賞口に遊技球が進入しやすい遊技状態において、賞球を得ることが困難な「突確」の発生を回避して、遊技の間延びによる遊技興趣の低下を防止することができる。

【0153】

なお、変動特図が第1特図である場合と、変動特図が第2特図である場合とで、異なる所定範囲の決定値が「突確」の大当り種別に割当てられてもよい。例えば、変動特図が第2特図である場合には、変動特図が第1特図である場合に比べて少ない決定値が「突確」の大当り種別に割当てられてもよい。これにより、普通可変入賞球装置6Bが形成する第2始動入賞口に遊技球が進入しやすい遊技状態における「突確」の頻発を回避することが

できる。あるいは、変動特図が、第1特図である場合と第2特図である場合とで、共通のテーブルデータを参照して、大当たり種別の決定を行ってもよい。

【0154】

また、ROM101には、変動カテゴリを複数種類のうちの何れかに決定するために参照される変動カテゴリ決定テーブルが記憶されている。具体的には、ROM101には、当該変動カテゴリ決定テーブルにおいて決定され得る変動カテゴリの種類や夫々の決定割合等が互いに異なる複数の変動カテゴリ決定テーブルが記憶されている。変動カテゴリ決定テーブルには、変動カテゴリの夫々に、変動カテゴリ決定用の乱数値MR3と比較される数値（決定値）が割当てられている。つまり、ROM101には、複数種類の変動カテゴリのうち少なくとも1つの変動カテゴリに割当てられている上記決定値（例えば、決定値の範囲や個数等）が互いに異なる複数の変動カテゴリ決定テーブルが記憶されている。なお、複数の変動カテゴリ決定テーブルに代えて、全部の変動カテゴリ決定テーブルの情報を含む1つの大きな変動カテゴリ決定テーブルをROM101に記憶してもよい。

10

【0155】

また、ROM101には、変動パターンを複数種類のうちの何れかに決定するために参照される変動パターン決定テーブルが記憶されている。具体的には、ROM101には、当該変動パターン決定テーブルにおいて決定され得る変動パターンの種類や夫々の決定割合等が互いに異なる複数の変動パターン決定テーブルが記憶されている。変動パターン決定テーブルには、変動パターンの夫々に、変動パターン決定用の乱数値MR5と比較される数値（決定値）が割当てられている。つまり、ROM101には、複数種類の変動パターンのうち少なくとも1つの変動パターンに割当てられている上記決定値（例えば、決定値の範囲や個数等）が互いに異なる複数の変動パターン決定テーブルが記憶されている。なお、複数の変動パターン決定テーブルに代えて、夫々の変動パターン決定テーブルの情報を含む1つの大きな変動パターン決定テーブルをROM101に記憶してもよい。

20

【0156】

図2に示す遊技制御用マイクロコンピュータ100が備えるRAM102は、その一部又は全部が所定の電源基板において作成されるバックアップ電源によりバックアップされているバックアップRAMであればよい。即ち、パチンコ遊技機1に対する電力供給が停止しても、所定期間（バックアップ電源としてのコンデンサが放電してバックアップ電源が電力供給不能になるまで）は、RAM102の一部又は全部の内容は保存される。特に、少なくとも、遊技状態即ち遊技制御手段の制御状態に応じたデータと未払出賞球数を示すデータは、バックアップRAMに保存されるようにすればよい。遊技制御手段の制御状態に応じたデータとは、停電等が生じた後に復旧した場合に、そのデータにもとづいて、制御状態を停電等の発生前に復旧させるために必要なデータ（例えば特図プロセスフラグ等）である。また、制御状態に応じたデータと未払出賞球数を示すデータとを遊技の進行状態を示すデータと定義する。

30

【0157】

このようなRAM102には、パチンコ遊技機1における遊技の進行等を制御するために用いられる各種のデータを保持する領域として、例えば図8に示すような遊技制御用データ保持エリア150が設けられている。図8に示す遊技制御用データ保持エリア150は、第1特図保留記憶部151Aと、第2特図保留記憶部151Bと、普図保留記憶部151Cと、遊技制御フラグ設定部152と、遊技制御タイマ設定部153と、遊技制御カウンタ設定部154と、遊技制御バッファ設定部155と、を備えている。

40

【0158】

第1特図保留記憶部151Aは、普通入賞球装置6Aが形成する第1始動入賞口を遊技球が通過（進入）して第1始動入賞が発生したものの未だ開始されていない特図ゲーム（第1特別図柄表示装置4Aによる第1特図ゲーム）の保留データ（第1特図保留情報）を記憶する。一例として、第1特図保留記憶部151Aは、第1始動入賞口への入賞順（遊技球の検出順）に保留番号と関連付けて、その遊技球の通過（進入）に基づいてCPU103により乱数回路104等から抽出された乱数値MR1～MR3を示す数値データ等を

50

保留データ（第1特図保留情報）として、その記憶数が所定の上限値（例えば「4」）に達するまで記憶する。

【0159】

第2特図保留記憶部151Bは、普通可変入賞球装置6Bが形成する第2始動入賞口を遊技球が通過（進入）して第2始動入賞が発生したものの未だ開始されていない特図ゲーム（第2特別図柄表示装置4Bによる第2特図ゲーム）の保留データ（第2特図保留情報）を記憶する。一例として、第2特図保留記憶部151Bは、第2始動入賞口への入賞順（遊技球の検出順）に保留番号と関連付けて、その遊技球の通過（進入）に基づいてCPU103により乱数回路104等から抽出された乱数値MR1～MR3を示す数値データ等を保留データ（第2特図保留情報）として、その記憶数が所定の上限値（例えば「4」）に達するまで記憶する。

10

【0160】

なお、第1特別図柄表示装置4Aによる第1特図ゲームの保留データ（第1始動条件の成立に基づく第1特図保留情報）と、第2特別図柄表示装置4Bによる第2特図ゲームの保留データ（第2始動入賞の成立に基づく第2特図保留情報）とを、共通の保留記憶部で保留番号と対応付けて記憶してもよい。

【0161】

普図保留記憶部151Cは、通過ゲート41を通過した遊技球がゲートスイッチ21により検出されたにもかかわらず、未だ普通図柄表示器20により開始されていない普図ゲームに関する保留データ（普図保留情報）を記憶する。例えば、普図保留記憶部151Cは、遊技球が通過ゲート41を通過した順に保留番号と対応付けて、その遊技球の通過に基づいてCPU103により乱数回路104等から抽出された普図表示結果決定用の乱数値MR4を示す数値データ等を保留データ（普図保留情報）として、その記憶数が所定の上限値（例えば「4」）に達するまで記憶する。

20

【0162】

遊技制御フラグ設定部152には、パチンコ遊技機1における遊技の進行状況等に応じて状態を更新可能な複数種類のフラグが設けられている。例えば、遊技制御フラグ設定部152には、複数種類のフラグそれぞれについて、フラグの値を示すデータや、オン状態あるいはオフ状態を示すデータが記憶される。

【0163】

遊技制御タイマ設定部153には、パチンコ遊技機1における遊技の進行を制御するために用いられる各種のタイマが設けられている。例えば、遊技制御タイマ設定部153には、複数種類のタイマそれぞれにおけるタイマ値を示すデータが記憶される。

30

【0164】

遊技制御カウンタ設定部154には、パチンコ遊技機1における遊技の進行を制御するために用いられるカウンタ値を計数するためのカウンタが複数種類設けられている。例えば、遊技制御カウンタ設定部154には、第1特図保留記憶数を計数するための第1保留記憶数カウンタの格納値である第1保留記憶数カウンタ値、第2特図保留記憶数を計数するための第2保留記憶数カウンタの格納値である第2保留記憶数カウンタ値、合計保留記憶数を計数するための合計保留記憶数カウンタの格納値である合計保留記憶数カウンタ値等が記憶される。

40

【0165】

遊技制御バッファ設定部155には、パチンコ遊技機1における遊技の進行を制御するために用いられるデータを一時的に記憶する各種のバッファが設けられている。例えば、遊技制御バッファ設定部155には、複数種類のバッファそれぞれにおけるバッファ値を示すデータが記憶される。

【0166】

図2に示す遊技制御用マイクロコンピュータ100が備えるI/O105は、遊技制御用マイクロコンピュータ100に伝送された各種信号を取込むための入力ポートと、遊技制御用マイクロコンピュータ100の外部へと各種信号を伝送するための出力ポートとを

50

含んで構成されている。

【0167】

図2に示すように、演出制御基板12には、プログラムに従って制御動作を行う演出制御用CPU120と、演出制御用のプログラムや固定データ等を記憶するROM121と、演出制御用CPU120のワークエリアを提供するRAM122と、画像表示装置5における表示動作の制御内容を決定するための処理等を実行する表示制御部123と、演出制御用CPU120とは独立して乱数値を示す数値データの更新を行う乱数回路124と、I/O125とが搭載されている。

【0168】

一例として、演出制御基板12では、演出制御用CPU120がROM121から読出した演出制御用のプログラムを実行することにより、演出用の電気部品による演出動作を制御するための処理が実行される。このときには、演出制御用CPU120がROM121から固定データを読出す固定データ読出動作や、演出制御用CPU120がRAM122に各種の変動データを書き込んで一時記憶させる変動データ書込動作、演出制御用CPU120がRAM122に一時記憶されている各種の変動データを読出す変動データ読出動作、演出制御用CPU120がI/O125を介して演出制御基板12の外部から各種信号の入力を受け付ける受信動作、演出制御用CPU120がI/O125を介して演出制御基板12の外部へと各種信号を出力する送信動作等も行われる。

【0169】

演出制御用CPU120、ROM121、RAM122は、演出制御基板12に搭載された1チップの演出制御用マイクロコンピュータに含まれてもよい。

【0170】

演出制御基板12には、画像表示装置5に対する演出画像を示す情報信号（映像信号）を伝送するための配線や、音声制御基板13に対する指令を示す情報信号（演出音信号）を伝送するための配線、ランプ制御基板14に対する指令を示す情報信号（電飾信号）を伝送するための配線等が接続されている。さらに、演出制御基板12には、スティックコントローラ31Aに対する遊技者の操作行為を検出したことを示す情報信号（操作検出信号）を、コントローラセンサユニット35Aから伝送するための配線や、プッシュボタン31Bに対する遊技者の操作行為を検出したことを示す情報信号（操作検出信号）を、プッシュセンサ35Bから伝送するための配線も接続されている。

【0171】

演出制御基板12では、例えば乱数回路124等により、演出動作を制御するために用いられる各種の乱数値を示す数値データが更新可能にカウントされる。こうした演出動作を制御するために用いられる乱数は、演出用乱数ともいう。

【0172】

図2に示す演出制御基板12に搭載されたROM121には、演出制御用のプログラムの他にも、遊技の進行を制御するために用いられる各種のデータが格納されている。例えば、ROM121には、演出制御用CPU120が各種の判定や決定、設定を行うために用意された複数の判定テーブルや決定テーブル、設定テーブル等を構成するデータが記憶されている。

【0173】

例えば、ROM121には、第1始動入賞記憶表示エリア5HLに表示される第1保留表示の表示態様を複数種類のうちの何れかに決定するために参照される保留表示態様決定テーブルが記憶されている。具体的には、ROM121には、当該保留表示態様決定テーブルにおいて決定され得る表示態様の種類や夫々の決定割合等が互いに異なる複数の保留表示態様決定テーブルが記憶されている。保留表示態様決定テーブルには、第1保留表示の表示態様の夫々に、第1保留表示の表示態様決定用の乱数値MR6（非図示）と比較される数値（決定値）が割当てられている。なお、複数の保留表示態様決定テーブルに代えて、全部の保留表示態様決定テーブルの情報を含む1つの大きな保留表示態様決定テーブルをROM121に記憶してもよい。

【0174】

また、例えば、ROM121には、第2始動入賞記憶表示エリア5HRに表示される第2保留表示の表示態様を複数種類のうちの何れかに決定するために参照される保留表示態様決定テーブルが記憶されている。具体的には、ROM121には、当該保留表示態様決定テーブルにおいて決定され得る表示態様の種類や夫々の決定割合等が互いに異なる複数の保留表示態様決定テーブルが記憶されている。保留表示態様決定テーブルには、第2保留表示の表示態様の夫々に、第2保留表示の表示態様決定用の乱数値MR6（非図示）と比較される数値（決定値）が割当てられている。なお、複数の保留表示態様決定テーブルに代えて、全部の保留表示態様決定テーブルの情報を含む1つの大きな保留表示態様決定テーブルをROM121に記憶してもよい。

10

【0175】

また、ROM121には、保留演出（作用演出、保留変化演出とも称する）の実行有無を決定するために参照される保留演出実行有無決定テーブルが記憶されている。具体的に、保留演出実行有無決定テーブルには、保留演出の実行なし及び実行ありの夫々に、保留演出の実行有無決定用の乱数値MR7（非図示）と比較される数値（決定値）が割当てられている。本実施形態において、保留演出とは、第1始動入賞記憶表示エリア5HLに表示されている保留表示の表示態様を予告態様に変化させる先読予告演出と、第2始動入賞記憶表示エリア5HRに表示されている保留表示の表示態様を予告態様に変化させる先読予告演出とである。なお、保留演出には複数種類が存在し、画像表示装置5の表示領域においてキャラクタ等が保留表示に作用して保留表示の表示態様を変化させる保留変化演出も存在する。当該保留変化演出には、画像表示装置5の表示領域においてキャラクタ等が保留表示に作用するが保留表示の表示態様を変化させない保留変化ガセ演出も存在する。

20

【0176】

また、ROM121には、アクティブ表示を含む特別画像を変化させるアクティブ表示変化演出（成功演出）の実行有無を決定するために参照されるアクティブ表示変化演出実行有無決定テーブルが記憶されている。具体的には、アクティブ表示変化演出実行有無決定テーブルには、アクティブ表示変化演出の実行なし及び実行ありの夫々に、アクティブ表示変化演出の実行有無決定用の乱数値MR7（非図示）と比較される数値（決定値）が割当てられている。

【0177】

本実施形態において、アクティブ表示変化演出とは、特別画像を予告態様に変化させる演出（主予告演出）である。つまり、アクティブ表示や、アクティブ表示を囲うアクティブ表示枠や、アクティブ表示に応じた情報（例えば、アクティブ表示またはアクティブ表示周囲やアクティブ表示枠の周囲に表示される文字や画像等）等を予告態様に変化させる演出（主予告演出）である。アクティブ表示変化演出には、上述の如く、共通演出と、共通演出を実行した後に特別画像を変化させるときに実行される成功演出（アクティブ表示変化演出とも称される）と、共通演出を実行した後に特別画像を変化させないときに実行される失敗演出（アクティブ表示変化ガセ演出とも称される）とが含まれる。成功演出は、画像表示装置5の表示領域において特別画像に作用して特別画像の表示態様を変化させる演出である。一方、失敗演出は、画像表示装置5の表示領域において特別画像に作用しないことにより特別画像の表示態様を変化させない演出、または、画像表示装置5の表示領域において特別画像に作用するが特別画像の表示態様を変化させない演出である。

30

40

【0178】

また、アクティブ表示変化演出には、特別画像の態様を第1系統の変化であって複数の態様のうちのいずれかに変化させる第1系統変化演出と、特別画像の態様を第2系統の変化であって複数の態様のうちのいずれかに変化させる第2系統変化演出とが含まれる。第1系統変化演出には、当該第1系統変化演出に応じた、共通演出と、成功演出と、失敗演出とが存在し、第2系統変化演出には、当該第2系統変化演出に応じた、共通演出と、成功演出と、失敗演出とが存在する。なお、本実施形態においては、第1系統変化演出は、特別画像内のアクティブ表示（特別画像として表示されるアクティブ表示）の表示態様を

50

変化させる演出とし、第2系統変化演出は、特別画像内のアクティブ表示枠（特別画像として表示されるアクティブ表示枠）の表示態様を変化させる演出としている。

【0179】

また、ROM121には、アクティブ表示変化演出の一つである第1系統変化演出の実行タイミング（当該変動におけるいずれのタイミングで実行するか等のタイミング）を決定するために参照される第1系統変化演出の実行タイミング決定テーブルが記憶されている。この第1系統変化演出は、第1系統変化演出の実行タイミングにより、第1系統変化演出に係る成功演出が実行される割合が異なる。また、ROM121には、当該第1系統変化演出の実行タイミング決定テーブルにおいて決定され得る実行タイミングの種類や夫々の決定割合等が互いに異なる複数の第1系統変化演出の演出実行タイミング決定テーブルが記憶されていてもよい。この第1系統変化演出の実行タイミング決定テーブルには、実行タイミングの夫々に、第1系統変化演出の実行タイミング決定用の乱数値（非図示）と比較される数値（決定値）が割当てられている。また、複数の第1系統変化演出の実行タイミング決定テーブルに代えて、全部の第1系統変化演出の実行タイミング決定テーブルの情報を含む1つの大きな第1系統変化演出の実行タイミング決定テーブルをROM121に記憶してもよい。

10

【0180】

また、ROM121には、アクティブ表示変化演出の一つである第2系統変化演出の実行タイミング（当該変動におけるいずれのタイミングで実行するか等のタイミング）を決定するために参照される第2系統変化演出の実行タイミング決定テーブルが記憶されている。この第2系統変化演出は、第2系統変化演出の実行タイミングにより、第2系統変化演出に係る成功演出が実行される割合が異なる。また、ROM121には、当該第2系統変化演出の実行タイミング決定テーブルにおいて決定され得る実行タイミングの種類や夫々の決定割合等が互いに異なる複数の第2系統変化演出の演出実行タイミング決定テーブルが記憶されていてもよい。この第2系統変化演出の実行タイミング決定テーブルには、実行タイミングの夫々に、第2系統変化演出の実行タイミング決定用の乱数値（非図示）と比較される数値（決定値）が割当てられている。また、複数の第2系統変化演出の実行タイミング決定テーブルに代えて、全部の第2系統変化演出の実行タイミング決定テーブルの情報を含む1つの大きな第2系統変化演出の実行タイミング決定テーブルをROM121に記憶してもよい。

20

30

【0181】

なお、ROM121には、第1系統変化演出の実行タイミング決定テーブルおよび第2系統変化演出の実行タイミング決定テーブルにおいて決定され得る実行タイミングの種類や夫々の決定割合等が互いに異なる複数の第1系統変化演出の演出実行タイミング決定テーブルや第2系統変化演出の実行タイミング決定テーブルが1つの大きなアクティブ表示変化演出実行タイミング決定テーブルとして記憶されていてもよい。このアクティブ表示変化演出の実行タイミング決定テーブルには、実行タイミングの夫々に、第1系統変化演出の実行タイミング決定用の乱数値（非図示）と比較される数値（決定値）や、第2系統変化演出の実行タイミング決定用の乱数値（非図示）と比較される数値（決定値）や、第1系統変化演出および第2系統変化演出の両方の実行タイミング決定用の乱数値（非図示）と比較される数値（決定値）が割当てられてもよい。また、複数のアクティブ表示変化演出の実行タイミング決定テーブルに代えて、全部のアクティブ表示変化演出の実行タイミング決定テーブルの情報を含む1つの大きなアクティブ表示変化演出の実行タイミング決定テーブルをROM121に記憶してもよい。

40

【0182】

また、ROM121には、アクティブ表示変化演出の演出パターン（演出態様）を複数種類のうちの何れかに決定するために参照されるアクティブ表示変化演出パターン決定テーブルが記憶されている。具体的には、ROM121に記憶されているアクティブ表示変化演出の演出パターン決定テーブルには、アクティブ表示変化演出の演出パターンの夫々に、アクティブ表示変化演出の演出パターン決定用の乱数値（非図示）と比較される数値

50

(決定値) が割当てられている。

【0183】

なお、ROM121には、保留変化演出の実行タイミング（何個後の変動において実行するか等のタイミング）を決定するために参照される保留変化演出実行タイミング決定テーブルが記憶されていてもよい。また、ROM121には、当該保留変化演出実行タイミング決定テーブルにおいて決定され得る実行タイミングの種類や夫々の決定割合等が互いに異なる複数の保留変化演出実行タイミング決定テーブルが記憶されていてもよい。この保留変化演出実行タイミング決定テーブルには、実行タイミングの夫々に、保留変化演出の実行タイミング決定用の乱数値（非図示）と比較される数値（決定値）が割当てられればよい。また、複数の保留変化演出実行タイミング決定テーブルに代えて、全部の保留変化演出実行タイミング決定テーブルの情報を含む1つの大きな保留変化演出実行タイミング決定テーブルをROM121に記憶してもよい。

10

【0184】

なお、ROM121には、上述のアクティブ表示変化演出の他の主予告演出の演出パターン（演出態様）を複数種類のうちの何れかに決定するために参照される主予告演出パターン決定テーブルが記憶されていてもよい。この場合、具体的には、ROM121には、当該主予告演出パターン決定テーブルにおいて決定され得る主予告演出パターンの種類や夫々の決定割合等が互いに異なる複数の主予告演出パターン決定テーブルが記憶されていればよく、主予告演出パターン決定テーブルには、主予告演出パターンの夫々に、主予告演出パターン決定用の乱数値MR9（非図示）と比較される数値（決定値）が割当てられればよい。なお、複数の主予告演出パターン決定テーブルに代えて、全部の主予告演出パターン決定テーブルの情報を含む1つの大きな主予告演出パターン決定テーブルをROM121に記憶してもよい。

20

【0185】

なお、ROM121には、保留変化演出の演出パターン（演出態様）を複数種類のうちの何れかに決定するために参照される保留変化演出パターン決定テーブルが記憶されてもよい。この場合、ROM121には、保留変化演出パターン決定テーブルには、保留変化演出パターンの夫々に、保留変化演出パターン決定用の乱数値（非図示）と比較される数値（決定値）が割当てられればよい。

【0186】

なお、ROM121には、保留変化ガセ演出の実行有無を決定するために参照される保留変化ガセ演出実行有無決定テーブルが記憶されてもよい。この場合、保留変化ガセ演出実行有無決定テーブルには、保留変化ガセ演出の実行なし及び実行ありの夫々に、保留変化ガセ演出の実行有無決定用の乱数値（非図示）と比較される数値（決定値）が割当てられてもよい。

30

【0187】

なお、ROM121には、保留変化ガセ演出の実行タイミング（何個後の変動において実行するか等のタイミング）を決定するために参照される保留変化ガセ演出実行タイミング決定テーブルが記憶されてもよい。この場合、ROM121には、当該保留変化ガセ演出実行タイミング決定テーブルにおいて決定され得る実行タイミングの種類や夫々の決定割合等が互いに異なる複数の保留変化ガセ演出実行タイミング決定テーブルが記憶されればよい。この保留変化ガセ演出実行タイミング決定テーブルには、実行タイミングの夫々に、保留変化ガセ演出の実行タイミング決定用の乱数値（非図示）と比較される数値（決定値）が割当てられてもよい。なお、複数の保留変化ガセ演出実行タイミング決定テーブルに代えて、全部の保留変化ガセ演出実行タイミング決定テーブルの情報を含む1つの大きな保留変化ガセ演出実行タイミング決定テーブルをROM121に記憶してもよい。

40

【0188】

なお、ROM121には、保留変化ガセ演出の演出パターン（演出態様）を複数種類のうちの何れかに決定するために参照される保留変化ガセ演出パターン決定テーブルが記憶されていてもよい。この場合、ROM121には、保留変化ガセ演出パターン決定テーブル

50

ルには、保留変化ガセ演出パターンの夫々に、保留変化ガセ演出パターン決定用の乱数値（非図示）と比較される数値（決定値）が割当てられてもよい。

【0189】

また、ROM121には、アクティブ表示エリアAHAに表示されるアクティブ表示の表示態様を複数種類のうちの何れかに決定するために参照されるアクティブ表示態様決定テーブル（「消化時表示態様決定テーブル」とも称する）が記憶されていてもよい。この場合、ROM121には、アクティブ表示の表示態様決定テーブルにおいて決定され得る表示態様の種類や夫々の決定割合等が互いに異なる複数のアクティブ表示の表示態様決定テーブルが記憶されていてもよい。アクティブ表示の表示態様決定テーブルには、アクティブ表示の表示態様の夫々に、アクティブ表示の表示態様決定用の乱数値（非図示）と比較される数値（決定値）が割当てられればよい。つまり、ROM121には、複数種類のアクティブ表示の表示態様のうち少なくとも1つの表示態様に割当てられている上記決定値（例えば、決定値の範囲や個数等）が互いに異なる複数のアクティブ表示の表示態様決定テーブルが記憶されればよい。なお、複数のアクティブ表示の表示態様決定テーブルに代えて、全部のアクティブ表示の表示態様決定テーブルの情報を含む1つの大きなアクティブ表示の表示態様決定テーブルをROM121に記憶してもよい。

10

【0190】

また、ROM121には、演出制御用CPU120が各種の演出装置（例えば画像表示装置5、スピーカ8、ランプ9、演出用模型等）による演出動作を制御するために用いられる複数の演出制御パターンを構成するデータ等が記憶されている。演出制御パターンがセットされることにより、飾り図柄等の種々の可変表示動作や予告演出（先読予告演出を含む）等が実現される。

20

【0191】

各種演出制御パターンは、パチンコ遊技機1における遊技の進行状況に応じて実行される各種の演出動作の制御内容を示すデータ等から構成されている。例えば、演出制御パターンは、複数種類の変動パターンに対応して、特図ゲームにおいて特別図柄の変動が開始されてから特図表示結果となる確定特別図柄が導出表示されるまでの期間における、飾り図柄の可変表示動作やリーチ演出、再抽選演出等における演出動作、あるいは、飾り図柄の可変表示を伴わない各種の演出動作（例えば、第1始動入賞記憶表示エリア5HLにおける保留表示の表示態様に対する保留演出や、第2始動入賞記憶表示エリア5HRにおける保留表示の表示態様に対する保留演出等）といった、様々な演出動作の制御内容を示すデータ等から構成されている。

30

【0192】

図9（A）は、演出制御パターンの構成例を示している。演出制御パターンは、例えば演出制御プロセスタイマ判定値、表示制御データ、音声制御データ、ランプ制御データ、操作検出制御データ、終了コードといった、各種の演出動作を制御するための制御データから構成され、時系列的に、各種の演出制御の内容や、演出制御の切換タイミング等が設定されればよい。その他にも、演出制御パターンには、例えば遊技領域の内部又は外部に設けられた可動部材における動作制御の内容等を指定する可動部材制御データ等が、含まれてもよい。演出制御プロセスタイマ判定値は、演出制御用CPU120に内蔵された演出制御用RAMの所定領域に設けられた演出制御プロセスタイマの値（演出制御プロセスタイマ値）と比較される値（判定値）であって、各演出動作の実行時間（演出時間）に対応した判定値が予め設定されている。なお、演出制御プロセスタイマ判定値に代えて、例えば主基板11から所定の演出制御コマンドを受信したことや、演出制御用CPU120において演出動作を制御するための処理として所定の処理が実行されたことといった、所定の制御内容や処理内容に対応して、演出制御の切換タイミング等を示すデータが設定されてもよい。

40

【0193】

表示制御データには、例えば飾り図柄の可変表示中における各飾り図柄の変動態様を示すデータといった、画像表示装置5の表示領域における演出画像の表示態様を示すデータ

50

が含まれている。即ち、表示制御データは、画像表示装置 5 の表示領域における演出画像の表示動作を指定するデータである。音声制御データには、例えば飾り図柄の可変表示中における飾り図柄の可変表示動作に連動した演出音等の出力態様を示すデータといった、スピーカ 8 からの音声出力態様を示すデータが含まれている。即ち、音声制御データは、スピーカ 8 からの音声出力動作を指定するデータである。ランプ制御データには、例えばランプ 9（発光体）の発光動作態様を示すデータが含まれている。即ち、ランプ制御データは、ランプ 9 の発光動作（点灯動作、点滅動作、消灯動作）を指定するデータである。操作検出制御データには、例えば操作ボタン 30 といった操作部に対する操作を有効に検出する期間や、有効に検出した場合における演出動作の制御内容等を示すデータが含まれている。即ち、操作検出制御データは、操作部に対する操作に応じた演出動作を指定するデータである。なお、これらの制御データは、全ての演出制御パターンに含まれなければならないものではなく、各演出制御パターンによる演出動作の内容に応じて、一部の制御データを含んで構成される演出制御パターンがあってもよい。

10

【0194】

図 9（B）は、演出制御パターンの内容に従って実行される各種の演出動作を説明するための図である。演出制御用 CPU 120 は、演出制御パターンに含まれる各種の制御データに従って、演出動作の制御内容を決定する。例えば、演出制御プロセスタイマ値が演出制御プロセスタイマ判定値の何れかと合致したときには、その演出制御プロセスタイマ判定値と対応付けられた表示制御データにより指定される態様で飾り図柄を表示させるとともに、キャラクタ画像や背景画像といった演出画像を画像表示装置 5 の画面上に表示させる制御を行う。また、音声制御データにより指定される態様でスピーカ 8 から音声を出力させる制御を行うとともに、ランプ制御データにより指定される態様でランプ 9 を発光させる制御を行い、操作検出制御データにより指定される操作有効期間でスティックコントローラ 31A やプッシュボタン 31B に対する操作を受け付けて演出内容を決定する制御を行う。なお、演出制御プロセスタイマ判定値と対応していても制御対象にならない演出用部品に対応するデータには、ダミーデータ（制御を指定しないデータ）が設定されてもよい。

20

【0195】

図 9（B）に示す演出動作は、飾り図柄の変動が開始されてから最終停止するまでの期間全体に対応しているが、これに限定されるものではなく、飾り図柄の可変表示中における一部の期間（例えば予告演出を実行する期間等）に対応して演出動作を実行するための演出制御パターンが設けられてもよい。あるいは、飾り図柄の可変表示中以外の所定期間（例えば大当り遊技状態においてラウンドを実行中の期間や、大当り遊技状態の終了時にエンディング演出を実行する期間等）に対応して演出動作を実行するための演出制御パターンが設けられてもよい。

30

【0196】

演出制御パターンをセットする際には、該当する演出制御パターンを構成するパターンデータを、ROM 121 から読出して RAM 122 の所定領域に一時記憶させてもよく、該当する演出制御パターンを構成するパターンデータの ROM 121 における記憶アドレスを、RAM 122 の所定領域に一時記憶させて、ROM 121 における記憶データの読出位置を指定するだけでもよい。その後、演出制御プロセスタイマ値が更新されるごとに、演出制御プロセスタイマ判定値の何れかと合致したか否かの判定を行い、合致した場合には、対応する各種の制御データに応じた演出動作の制御を行う。このように、演出制御用 CPU 120 は、演出制御パターンに含まれるプロセスデータ #1～プロセスデータ #n（n は任意の整数）の内容に従って、演出装置（画像表示装置 5、スピーカ 8、ランプ 9、演出用模型が備える可動部材等）の制御を進行させる。なお、各プロセスデータ #1～プロセスデータ #n において、演出制御プロセスタイマ判定値 #1～#n と対応付けられた表示制御データ #1～表示制御データ #n、音声制御データ #1～音声制御データ #n、ランプ制御データ #1～ランプ制御データ #n、操作検出制御データ #1～操作検出制御データ #n は、演出装置における演出動作の制御内容を示し、演出制御の実行を指定

40

50

する演出制御実行データ# 1～演出制御実行データ# nを構成する。

【0197】

こうしてセットした演出制御パターンに従った指令が、演出制御用CPU120から表示制御部123、音声制御基板13、ランプ制御基板14等に対して出力される。演出制御用CPU120からの指令を受けた表示制御部123では、例えば所定のVDP等がその指令に示される画像データをCGROM等の画像データメモリから読出してVRAMに一時記憶させること等により展開させる。また、演出制御用CPU120からの指令を受けた音声制御基板13では、例えば音声合成用ICがその指令に示される音声データを音声データROMから読出して音声RAM等に一時記憶させること等により展開させる。

【0198】

図2に示す演出制御基板12に搭載されたRAM122には、演出動作を制御するために用いられる各種データを保持する領域として、例えば図10(A)に示すような演出制御用データ保持エリア190が設けられている。図10(A)に示す演出制御用データ保持エリア190は、演出制御フラグ設定部191と、演出制御タイマ設定部192と、演出制御カウンタ設定部193と、演出制御バッファ設定部194とを備えている。

【0199】

演出制御フラグ設定部191には、例えば画像表示装置5の画面上における演出画像の表示状態等といった演出動作状態や主基板11から伝送された演出制御コマンド等に応じて状態を更新可能な複数種類のフラグが設けられている。例えば、演出制御フラグ設定部191には、複数種類のフラグそれぞれについて、フラグの値を示すデータや、オン状態あるいはオフ状態を示すデータが記憶される。

【0200】

演出制御タイマ設定部192には、例えば画像表示装置5の画面上における演出画像の表示動作等といった各種演出動作の進行を制御するために用いられる複数種類のタイマが設けられている。例えば、演出制御タイマ設定部192には、複数種類のタイマそれぞれにおけるタイマ値を示すデータが記憶される。

【0201】

演出制御カウンタ設定部193には、各種演出動作の進行を制御するために用いられる複数種類のカウンタが設けられている。例えば、演出制御カウンタ設定部193には、複数種類のカウンタそれぞれにおけるカウント値を示すデータが記憶される。

【0202】

演出制御バッファ設定部194には、各種演出動作の進行を制御するために用いられるデータを一時的に記憶する各種のバッファが設けられている。例えば、演出制御バッファ設定部194には、複数種類のバッファそれぞれにおけるバッファ値を示すデータが記憶される。

【0203】

本実施形態では、図10(B)に示すような第1始動入賞時受信コマンドバッファ194Aを構成するデータが、演出制御バッファ設定部194の所定領域に記憶される。第1始動入賞時受信コマンドバッファ194Aには、合計保留記憶数の最大値(例えば「4」)に対応した格納領域(バッファ番号「1」～「4」に対応した領域)が設けられている。第1始動入賞口への始動入賞があったときには、始動口入賞指定コマンド(第1始動口入賞指定コマンド)、図柄指定コマンド、変動カテゴリコマンド、保留記憶数通知コマンド(第1保留記憶数通知コマンド)という4つのコマンドを1セットとして、主基板11から演出制御基板12へと送信される。第1始動入賞時受信コマンドバッファ194Aには、これらのコマンドのうち、図柄指定コマンド、変動カテゴリコマンド、第1保留記憶数通知コマンドを対応付けて格納できるように記憶領域が確保されている。

【0204】

演出制御用CPU120は、第1始動入賞時に受信した順番でコマンドを第1始動入賞時受信コマンドバッファ194Aの空き領域における先頭から格納していく。第1始動入賞時には、第1始動口入賞指定コマンド、図柄指定コマンド、変動カテゴリコマンド、第

10

20

30

40

50

1 保留記憶数通知コマンドの順にコマンド送信が行われる。従って、コマンド受信が正常に行われれば、図10(B)に示すように、バッファ番号「1」～「4」のそれぞれに対応する格納領域に、始動口入賞指定コマンド、図柄指定コマンド、変動カテゴリコマンド、第1保留記憶数通知コマンドの順に格納されていくことになる。なお、図10(B)では、バッファ番号「1」～「3」に対応する格納領域でコマンドが格納されている。

【0205】

図10(B)に示す第1始動入賞時受信コマンドバッファ194Aに格納されているコマンドは、第1特図ゲームに同期して飾り図柄の可変表示が開始されるごとに1つずつ削除され、バッファ番号(コマンド同士の入賞順)を維持しつつ、以降のコマンドがシフトされる。具体的には、第1特図ゲームに連動して飾り図柄の可変表示が開始される時には、第1始動口入賞指定コマンドに対応付けられたコマンドのうち最も小さいバッファ番号に対応した領域に格納されたコマンド(1セット)が1つ削除され、削除されたコマンドのバッファ番号よりも大きいバッファ番号に対応した領域に格納されているコマンド(第1始動口入賞指定コマンドに対応付けられたコマンド)が、入賞順(バッファ番号の大小関係)を維持しつつシフトされる。

10

【0206】

例えば、図10(B)に示す格納状態において第1特図ゲームに同期して飾り図柄の可変表示が開始される時には、バッファ番号「1」に対応した領域に格納されているコマンドが削除され、バッファ番号「2」に対応した領域に格納されているコマンドがバッファ番号「1」にシフトされ、バッファ番号「3」に対応した領域に格納されている各コマンドが、バッファ番号「2」にシフトされる。

20

【0207】

また、本実施形態では、図10(C)に示すような第2始動入賞時受信コマンドバッファ194Bを構成するデータが、演出制御バッファ設定部194の所定領域に記憶される。第2始動入賞時受信コマンドバッファ194Bには、合計保留記憶数の最大値(例えば「4」)に対応した格納領域(バッファ番号「1」～「4」に対応した領域)が設けられている。第2始動入賞口への始動入賞があったときには、始動口入賞指定コマンド(第2始動口入賞指定コマンド)、図柄指定コマンド、変動カテゴリコマンド、保留記憶数通知コマンド(第2保留記憶数通知コマンド)という4つのコマンドを1セットとして、主基板11から演出制御基板12へと送信される。第2始動入賞時受信コマンドバッファ194Bには、これらのコマンドのうち、図柄指定コマンド、変動カテゴリコマンド、保留記憶数通知コマンドを対応付けて格納できるように記憶領域が確保されている。

30

【0208】

演出制御用CPU120は、第2始動入賞時に受信した順番でコマンドを第2始動入賞時受信コマンドバッファ194Bの空き領域における先頭から格納していく。第2始動入賞時には、第2始動口入賞指定コマンド、図柄指定コマンド、変動カテゴリコマンド、保留記憶数通知コマンドの順にコマンド送信が行われる。従って、コマンド受信が正常に行われれば、図10(C)に示すように、バッファ番号「1」～「4」のそれぞれに対応する格納領域に、第2始動口入賞指定コマンド、図柄指定コマンド、変動カテゴリコマンド、保留記憶数通知コマンドの順に格納されていくことになる。なお、図10(C)では、バッファ番号「1」～「2」に対応する格納領域でコマンドが格納されている。

40

【0209】

図10(C)に示す第2始動入賞時受信コマンドバッファ194Bに格納されているコマンドは、第2特図ゲームに同期して飾り図柄の可変表示が開始されるごとに1つずつ削除され、バッファ番号(コマンド同士の入賞順)を維持しつつ、以降のコマンドがシフトされる。具体的には、第2特図ゲームに連動して飾り図柄の可変表示が開始される時には、第2始動口入賞指定コマンドに対応付けられたコマンドのうち最も小さいバッファ番号に対応した領域に格納されたコマンド(1セット)が1つ削除され、削除されたコマンドのバッファ番号よりも大きいバッファ番号に対応した領域に格納されているコマンド(第2始動口入賞指定コマンドに対応付けられたコマンド)が、入賞順(バッファ番号の大

50

小関係)を維持しつつシフトされる。

【0210】

例えば、図10(C)に示す格納状態において第2特図ゲームに同期して飾り図柄の可変表示が開始されるときには、バッファ番号「1」に対応した領域に格納されているコマンドが削除され、バッファ番号「2」に対応した領域に格納されているコマンドがバッファ番号「1」にシフトされる。

【0211】

また、本実施形態では、図10(D)に示すような第1先読予告バッファ194Cを構成するデータが、演出制御バッファ設定部194の所定領域に記憶される。第1先読予告バッファ194Cには、第1始動入賞時受信コマンドバッファ194Aを構成する各データに対応した格納領域(バッファ番号「1」~「4」に対応した領域)が設けられている。即ち、第1先読予告バッファ194Cには、演出制御用CPU120等により決定された夫々の保留情報に関する先読予告演出に関する決定内容等が、バッファ番号「1」~「4」に対応付けて記憶される。飾り図柄の可変表示の開始等により、図10(B)の第1始動入賞時受信コマンドバッファ194Aにおいて、あるバッファ番号に対応付けられた保留データ(1セットのコマンド)が削除されるときには、第1先読予告バッファ194Cにおいて、当該バッファ番号に対応付けられた内容も削除される。また、飾り図柄の可変表示の開始等により、図10(B)の第1始動入賞時受信コマンドバッファ194Aにおいて、あるバッファ番号に対応付けられた保留データ(1セットのコマンド)が他のバッファ番号にシフトされるときには、第1先読予告バッファ194Cにおいて、当該バッファ番号に対応付けられた内容も当該他のバッファ番号にシフトされる。

【0212】

また、本実施形態では、図10(E)に示すような第2先読予告バッファ194Dを構成するデータが、演出制御バッファ設定部194の所定領域に記憶される。第2先読予告バッファ194Dには、第2始動入賞時受信コマンドバッファ194Bを構成する各データに対応した格納領域(バッファ番号「1」~「4」に対応した領域)が設けられている。即ち、第2先読予告バッファ194Dには、演出制御用CPU120等により決定された夫々の保留情報に関する先読予告演出に関する決定内容等が、バッファ番号「1」~「4」に対応付けて記憶される。飾り図柄の可変表示の開始等により、図10(C)の第2始動入賞時受信コマンドバッファ194Bにおいて、あるバッファ番号に対応付けられた保留データ(1セットのコマンド)が削除されるときには、第2先読予告バッファ194Dにおいて、当該バッファ番号に対応付けられた内容も削除される。また、飾り図柄の可変表示の開始等により、図10(C)の第2始動入賞時受信コマンドバッファ194Bにおいて、あるバッファ番号に対応付けられた保留データ(1セットのコマンド)が他のバッファ番号にシフトされるときには、第2先読予告バッファ194Dにおいて、当該バッファ番号に対応付けられた内容も当該他のバッファ番号にシフトされる。

【0213】

次に、本実施形態におけるパチンコ遊技機1の動作(作用)を説明する。主基板11では、所定の電源基板からの電力供給が開始されると、遊技制御用マイクロコンピュータ100が起動し、CPU103により遊技制御メイン処理となる所定の処理が実行される。遊技制御メイン処理を開始すると、CPU103は、割込み禁止に設定した後、必要な初期設定を行う。この初期設定では、例えばRAM102がクリアされる。また、遊技制御用マイクロコンピュータ100に内蔵されたCTC(カウンタ/タイマ回路)のレジスタ設定を行う。これにより、以後、所定時間(例えば、2ミリ秒)ごとにCTCから割込み要求信号がCPU103へ送出され、CPU103は定期的にタイマ割込み処理を実行することができる。初期設定が終了すると、割込みを許可した後、ループ処理に入る。なお、遊技制御メイン処理では、パチンコ遊技機1の内部状態を前回の電力供給停止時における状態に復帰させるための処理を実行してから、ループ処理に入ってもよい。

【0214】

こうした遊技制御メイン処理を実行したCPU103は、CTCからの割込み要求信号

を受信して割込み要求を受け付けると、図 1 1 のフローチャートに示す遊技制御用タイマ割込み処理を実行する。図 1 1 に示す遊技制御用タイマ割込み処理を開始すると、C P U 1 0 3 は、まず、所定のスイッチ処理を実行することにより、スイッチ回路 1 1 0 を介してゲートスイッチ 2 1、第 1 始動口スイッチ 2 2 A、第 2 始動口スイッチ 2 2 B、カウントスイッチ 2 3 といった各種スイッチから入力される検出信号の状態を判定する（ステップ S 1 1）。以下、ステップ S は単に S と称する。続いて、所定のメイン側エラー処理を実行することにより、パチンコ遊技機 1 の異常診断を行い、その診断結果に応じて必要ならば警告を発生可能とする（S 1 2）。この後、所定の情報出力処理を実行することにより、例えばパチンコ遊技機 1 の外部に設置されたホール管理用コンピュータに供給される大当たり情報、始動情報、確率変動情報等のデータを出力する（S 1 3）。 10

【0 2 1 5】

情報出力処理に続いて、主基板 1 1 の側で用いられる乱数値 M R 1 ~ M R 5 といった遊技用乱数の少なくとも一部をソフトウェアにより更新するための遊技用乱数更新処理を実行する（S 1 4）。この後、C P U 1 0 3 は、特別図柄プロセス処理を実行する（S 1 5）。特別図柄プロセス処理では、遊技制御フラグ設定部 1 5 2 に設けられた特図プロセスフラグの値をパチンコ遊技機 1 における遊技の進行状況に応じて更新し、第 1 特別図柄表示装置 4 A や第 2 特別図柄表示装置 4 B における表示動作の制御や、特別可変入賞球装置 7 における大入賞口の開閉動作設定等を、所定の手順で行うために、各種の処理が選択されて実行される。 20

【0 2 1 6】

特別図柄プロセス処理に続いて、普通図柄プロセス処理が実行される（S 1 6）。C P U 1 0 3 は、普通図柄プロセス処理を実行することにより、普通図柄表示器 2 0 における表示動作（例えばセグメント L E D の点灯、消灯等）を制御して、普通図柄の可変表示や普通可変入賞球装置 6 B における可動翼片の傾動動作設定等を可能にする。 30

【0 2 1 7】

普通図柄プロセス処理を実行した後、C P U 1 0 3 は、コマンド制御処理を実行することにより、主基板 1 1 から演出制御基板 1 2 等のサブ側の制御基板に対して制御コマンドを送送させる（S 1 7）。一例として、コマンド制御処理では、遊技制御バッファ設定部 1 5 5 に設けられた送信コマンドバッファの値により指定されたコマンド送信テーブルにおける設定に対応して、I / O 1 0 5 に含まれる出力ポートのうち、演出制御基板 1 2 に対して演出制御コマンドを送信するための出力ポートに制御データをセットした後、演出制御 I N T 信号の出力ポートに所定の制御データをセットして演出制御 I N T 信号を所定時間にわたりオン状態としてからオフ状態とすること等により、コマンド送信テーブルでの設定に基づく演出制御コマンドの伝送を可能にする。コマンド制御処理を実行した後は、割込み許可状態に設定してから、遊技制御用タイマ割込み処理を終了する。 30

【0 2 1 8】

図 1 2 は、特別図柄プロセス処理として、図 1 1 に示す S 1 5 で実行される処理の一例を示すフローチャートである。この特別図柄プロセス処理において、C P U 1 0 3 は、まず、始動入賞判定処理を実行する（S 1 0 1）。図 1 3 は、始動入賞判定処理として、図 1 2 の S 1 0 1 で実行される処理の一例を示すフローチャートである。図 1 4 は、始動入賞時処理として、図 1 3 の S 2 0 8、S 2 1 1 で実行される処理の一例を示すフローチャートである。図 1 5 (A) は、入賞時乱数値判定処理として、図 1 4 の S 2 2 0 で実行される処理の一例を示すフローチャートである。 40

【0 2 1 9】

図 1 3 に示す特別図柄プロセス処理における始動入賞判定処理において、C P U 1 0 3 は、まず、普通入賞球装置 6 A が形成する第 1 始動入賞口に対応して設けられた第 1 始動口スイッチ 2 2 A からの検出信号に基づき、第 1 始動口スイッチ 2 2 A がオンであるか否かを判定する（S 2 0 1）。このとき、第 1 始動口スイッチ 2 2 A がオンであれば（S 2 0 1 ; Y e s）、第 1 特図保留記憶数（第 1 特図ゲームの保留数）が、所定の上限値（例えば上限記憶数としての「4」）であるか否かを判定する（S 2 0 2）。C P U 1 0 3 は 50

、例えば遊技制御カウンタ設定部154に設けられた第1保留記憶数カウンタの格納値である第1保留記憶数カウンタ値を読み取ることにより、第1特図保留記憶数を特定できればよい。S202で第1特図保留記憶数が上限値ではないときには(S202; No)、例えば遊技制御バッファ設定部155に設けられた始動口バッファの格納値を、「1」に設定する(S207)。

【0220】

S201で第1始動口スイッチ22Aがオフであるときや(S201; No)、S202で第1特図保留記憶数が上限値に達しているときや(S202; Yes)、S209の処理を実行した後は、普通可変入賞球装置6Bが形成する第2始動入賞口に対応して設けられた第2始動口スイッチ22Bからの検出信号に基づき、第2始動口スイッチ22Bがオンであるか否かを判定する(S203)。このとき、第2始動口スイッチ22Bがオンであれば(S203; Yes)、第2特図保留記憶数(第2特図ゲームの保留数)が、所定の上限値(例えば上限記憶数としての「4」)であるか否かを判定する(S204)。CPU103は、例えば遊技制御カウンタ設定部154に設けられた第2保留記憶数カウンタの格納値である第2保留記憶数カウンタ値を読み取ることにより、第2特図保留記憶数を特定できればよい。S204で第2特図保留記憶数が上限値ではないときには(S204; No)、例えば遊技制御バッファ設定部155に設けられた始動口バッファの格納値を、「2」に設定する(S210)。

【0221】

S207の処理を実行した後は、始動入賞時処理(図14)を実行し(S208)、始動口バッファの格納値を「0(初期化)」し(S209)、S203の処理に進む。S210の処理を実行した後は、始動入賞時処理(図14)を実行し(S211)、始動口バッファの格納値を「0(初期化)」し(S212)、始動入賞判定処理を終了する。これにより、第1始動口スイッチ22Aと第2始動口スイッチ22Bとにおいて、遊技球の始動入賞を同時に検出した場合であっても、それぞれの検出に基づく処理を完了させることができる。

【0222】

CPU103は、始動入賞時処理(S208、S211)として、始動口バッファの格納値である始動口バッファ値に応じた特図保留記憶数を1加算するように更新する(図14のS215)。例えば、始動口バッファ値が「1」であるときには第1保留記憶数カウンタ値を1加算する一方で、始動口バッファ値が「2」であるときには第2保留記憶数カウンタ値を1加算する。こうして、第1保留記憶数カウンタ値は、第1始動入賞口を遊技球が通過(進入)して第1始動条件が成立したときに、1増加するように更新される。また、第2保留記憶数カウンタ値は、第2始動入賞口を遊技球が通過(進入)して第2始動条件が成立したときに、1増加するように更新される。S215の処理に続いて、合計保留記憶数を1加算するように更新する(S216)。例えば、遊技制御カウンタ設定部154に設けられた合計保留記憶数カウンタの格納値である合計保留記憶数カウンタ値を、1加算するように更新すればよい。

【0223】

S216の処理を実行した後に、CPU103は、乱数回路104や遊技制御カウンタ設定部154のランダムカウンタにより更新されている数値データのうちから、特図表示結果決定用の乱数値MR1、大当たり種別決定用の乱数値MR2、変動カテゴリ決定用の乱数値MR3を示す数値データを抽出する(S217)。こうして抽出した各乱数値を示す数値データは、始動口バッファ値に応じた特図保留記憶部151における空きエントリの先頭に、保留情報としてセットされることで記憶される(S218)。例えば、始動口バッファ値が「1」であるときには、第1特図保留記憶部151Aに乱数値MR1~MR3を示す数値データがセットされる一方、始動口バッファ値が「2」であるときには、第2特図保留記憶部151Bに乱数値MR1~MR3を示す数値データがセットされる。

【0224】

S218の処理に続いて、始動口バッファ値に応じた始動口入賞指定コマンドの送信設

定が行われる（S 2 1 9）。例えば、始動口バッファ値が「1」であるときにはROM 1 0 1における第1始動口入賞指定コマンドテーブルの記憶アドレスを送信コマンドバッファにおいて送信コマンドポインタにより指定されたバッファ領域に格納すること等により、演出制御基板1 2に対して第1始動口入賞指定コマンドを送信するための設定を行う。これに対して、始動口バッファ値が「2」であるときにはROM 1 0 1における第2始動口入賞指定コマンドテーブルの記憶アドレスを送信コマンドバッファのバッファ領域に格納すること等により、演出制御基板1 2に対して第2始動口入賞指定コマンドを送信するための設定を行う。こうして設定された始動口入賞指定コマンドは、例えば特別図柄プロセス処理が終了した後、図1 1に示すS 1 7のコマンド制御処理が実行されること等により、主基板1 1から演出制御基板1 2に対して伝送される。

10

【0 2 2 5】

S 2 1 9の処理に続いて、入賞時乱数値判定処理を実行する（S 2 2 0）。その後、例えばROM 1 0 1における保留記憶数通知コマンドテーブルの記憶アドレスを送信コマンドバッファにおいて送信コマンドポインタにより指定されたバッファ領域に格納すること等により、演出制御基板1 2に対して保留記憶数通知コマンドを送信するための設定を行う（S 2 2 1）。こうして設定された保留記憶数通知コマンドは、例えば特別図柄プロセス処理が終了した後、図1 1に示すS 1 7のコマンド制御処理が実行されること等により、主基板1 1から演出制御基板1 2に対して伝送される。

【0 2 2 6】

CPU 1 0 3は、入賞時乱数値判定処理（S 2 2 0）として、例えば遊技制御フラグ設定部1 5 2等に設けられた時短フラグや確変フラグの状態を確認すること等により、パチンコ遊技機1における現在の遊技状態を特定する（図1 5（A）のS 4 0 1）。CPU 1 0 3は、確変フラグがオンであるときには確変状態であることを特定し、確変フラグがオフで時短フラグがオンであるときには時短状態であることを特定し、確変フラグと時短フラグがともにオフであるときには通常状態であることを特定すればよい。

20

【0 2 2 7】

S 4 0 1の処理に続いて、第1特図表示結果決定テーブル1 3 0 A又は第2特図表示結果決定テーブル1 3 0 Bを構成するテーブルデータから、始動口バッファ値（「1」又は「2」）や現在の遊技状態に対応して特図表示結果の決定に用いられる特図表示結果決定用テーブルデータを選択する（S 4 0 2）。例えば、始動口バッファ値が「1」である場合には第1特図表示結果決定テーブル1 3 0 Aを使用テーブルにセットする。一方、始動口バッファ値が「2」である場合には第2特図表示結果決定テーブル1 3 0 Bを使用テーブルにセットする。その後、図1 4のS 2 1 7で抽出された特図表示結果決定用の乱数値MR 1を示す数値データが所定の大当たり判定範囲内であるか否かを判定する（S 4 0 3）。大当たり判定範囲には、S 4 0 2の処理により選択された特図表示結果決定用テーブルデータにおいて「大当たり」の特図表示結果に割当てられた個々の決定値が設定され、CPU 1 0 3が乱数値MR 1と各決定値とを逐一比較することにより、乱数値MR 1と合致する決定値の有無を判定できればよい。あるいは、大当たり判定範囲に含まれる決定値の最小値（下限値）と最大値（上限値）とを示す数値を設定して、CPU 1 0 3が乱数値MR 1と大当たり判定範囲の最小値や最大値とを比較することにより、乱数値MR 1が大当たり判定範囲の範囲内であるか否かを判定できればよい。このとき、乱数値MR 1が大当たり判定範囲の範囲内であると判定されることにより、その乱数値MR 1を含む保留データに基づく可変表示結果が「大当たり」に決定されると判定（大当たり始動判定）できる。

30

40

【0 2 2 8】

S 4 0 3で大当たり判定範囲内ではないと判定された場合には（S 4 0 3；No）、その乱数値MR 1を示す数値データが所定の小当たり判定範囲内であるか否かを判定する（S 4 0 4）。CPU 1 0 3は、S 4 0 2の処理により選択された特図表示結果決定用テーブルデータにおいて「小当たり」の特図表示結果に割当てられた決定値について、大当たり判定範囲の場合と同様の処理を実行することにより、乱数値MR 1が小当たり判定範囲の範囲内であるか否かを判定できればよい。S 4 0 4で小当たり判定範囲内ではないと判定された場合

50

には（S 4 0 4 ; N o）、可変表示結果が「ハズレ」となる場合に応じた図柄指定コマンドを、演出制御基板 1 2 に対して送信するための設定を行う（S 4 0 5）。

【0 2 2 9】

S 4 0 4 で小当り判定範囲内であると判定された場合には（S 4 0 4 ; Y e s）、可変表示結果が「小当り」となる場合に応じた図柄指定コマンドを、演出制御基板 1 2 に対して送信するための設定を行う（S 4 0 7）。

【0 2 3 0】

S 4 0 3 で大当り判定範囲内であると判定された場合には（S 4 0 3 ; Y e s）、大当り種別決定用の乱数値 M R 2 に基づいて、大当り種別を判定する（S 4 0 9）。このとき、C P U 1 0 3 は、始動口バッファ値に対応して特定される変動特図（「1」に対応する「第 1 特図」又は「2」に対応する「第 2 特図」）に応じて、大当り種別決定テーブル 1 3 1 を構成するテーブルデータから大当り種別決定用テーブルデータを選択する。そして、選択した大当り種別決定用テーブルデータを参照することにより、大当り種別が複数種別のいずれに決定されるかを判定する。こうした S 4 0 9 の処理による判定結果に応じた図柄指定コマンドを、演出制御基板 1 2 に対して送信するための設定が行われる（S 4 1 0）。

【0 2 3 1】

S 4 0 5、S 4 0 7、S 4 1 0 の処理の何れかを実行した後は、変動カテゴリを判定する（S 4 1 2）。即ち、変動カテゴリを図 5 に示す複数種類の何れかに決定する。S 4 1 2 の処理では、C P U 1 0 3 は、R O M 1 0 1 に記憶されている複数の変動カテゴリ決定テーブル（当該変動カテゴリ決定テーブルにおいて決定され得る変動カテゴリの種類や夫々の決定割合等が互いに異なる複数種類の変動カテゴリ決定テーブル）のなかから使用テーブルとしてセットする何れかの変動カテゴリ決定テーブルを選択する。

【0 2 3 2】

具体的には、C P U 1 0 3 は、特図表示結果（例えば、S 4 0 3 や S 4 0 4 の判定結果等）や、保留記憶数（例えば、遊技制御カウンタ設定部 1 5 4 に設けられた第 1 保留記憶数カウンタの格納値である第 1 保留記憶数カウント値等）に基づいて使用テーブルとしてセットする何れかの変動カテゴリ決定テーブルを選択する。続いて、C P U 1 0 3 は、使用テーブルとしてセットされた変動カテゴリ決定テーブルと、例えば乱数回路 1 0 4 や遊技制御カウンタ設定部 1 5 4 のランダムカウンタ等から抽出した変動カテゴリ決定用の乱数値 M R 3 を示す数値データとに基づいて、複数種類の変動カテゴリのなかから何れかの変動カテゴリを決定する。

【0 2 3 3】

図 1 6 は、変動カテゴリ決定テーブルの選択例を示す図である。図 1 7 は、変動カテゴリ決定テーブルの構成例を示す図である。この変動カテゴリ決定テーブルの構成例は、変動カテゴリを複数種類のいずれかに決定するために参照される 4 種類の変動カテゴリテーブル。図 1 7（A）は、上述の 4 種類のうちのある変動カテゴリ決定テーブルによる変動カテゴリ決定テーブルの構成例（図中の「C - T B L 1」と表記）である。図 1 7（B）は、他の変動カテゴリ決定テーブルによる変動カテゴリ決定テーブルの構成例（図中の「C - T B L 2」と表記）である。図 1 7（C）は、更に他の変動カテゴリ決定テーブルによる変動カテゴリ決定テーブルの構成例（図中の「C - T B L 3」と表記）である。図 1 7（D）は、更に他の変動カテゴリ決定テーブルによる変動カテゴリ決定テーブルの構成例（図中の「C - T B L 4」と表記）である。なお、説明の簡略化のため、図 1 7（A）のような決定割合を設定した変動カテゴリ決定テーブルを、単に図 1 7（A）の変動カテゴリ決定テーブルと称する場合がある。図 1 7（B）～図 1 7（D）、及び、変動パターン決定テーブル等の他の決定テーブルについても同様である。図 1 6 は、図 1 7（A）～図 1 7（D）の 4 種類（設定「C - T B L 1」～設定「C - T B L 4」）のなかから何れかの設定を選択する選択例、即ち、上述の 4 種類の変動カテゴリ決定テーブルのなかから何れかの変動カテゴリ決定テーブルを選択する選択例である。

【0 2 3 4】

図17(A)の変動カテゴリ決定テーブル「C-TBL1」(図17(B)の変動カテゴリ決定テーブル「C-TBL2」、図17(C)の変動カテゴリ決定テーブル「C-TBL3」、図17(D)の変動カテゴリ決定テーブル「C-TBL4」も同様)は、変動カテゴリ決定用の乱数値MR3と比較される数値(決定値)が、複数種類の変動カテゴリに割当てられている。

【0235】

図17(A)の変動カテゴリ決定テーブル「C-TBL1」の設定例では、乱数値MR3の決定値の100個(「0」～「99」の範囲の値)のうち、0個が変動カテゴリ「PA1」に割当てられ、70個(「0」～「69」の範囲の値)が変動カテゴリ「PA2」に割当てられ、27個(「70」～「96」の範囲の値)が変動カテゴリ「PA3」に割当てられ、2個(「97」～「98」の範囲の値)が変動カテゴリ「PA4」に割当てられ、1個(値「99」)が変動カテゴリ「PA5」に割当てられている。つまり、図17(A)の変動カテゴリ決定テーブル「C-TBL1」の設定例では、変動カテゴリ「PA1」が0%($0 \div 100$)、変動カテゴリ「PA2」が70%($70 \div 100$)、変動カテゴリ「PA3」が27%($27 \div 100$)、変動カテゴリ「PA4」が2%($2 \div 100$)、変動カテゴリ「PA5」が1%($1 \div 100$)の割合で決定される。

【0236】

図17(B)の変動カテゴリ決定テーブル「C-TBL2」の設定例では、乱数値MR3の決定値の100個(「0」～「99」の範囲の値)のうち、4個(「0」～「3」の範囲の値)が変動カテゴリ「PA1」に割当てられ、85個(「4」～「88」の範囲の値)が変動カテゴリ「PA2」に割当てられ、8個(「89」～「96」の範囲の値)が変動カテゴリ「PA3」に割当てられ、2個(「97」～「98」の範囲の値)が変動カテゴリ「PA4」に割当てられ、1個(値「99」)が変動カテゴリ「PA5」に割当てられている。つまり、図17(B)の変動カテゴリ決定テーブル「C-TBL2」の設定例では、変動カテゴリ「PA1」が4%($4 \div 100$)、変動カテゴリ「PA2」が85%($85 \div 100$)、変動カテゴリ「PA3」が8%($8 \div 100$)、変動カテゴリ「PA4」が2%($2 \div 100$)、変動カテゴリ「PA5」が1%($1 \div 100$)の割合で決定される。

【0237】

図17(C)の変動カテゴリ決定テーブル「C-TBL3」の設定例では、乱数値MR3の決定値の100個(「0」～「99」の範囲の値)のうち、64個(「0」～「63」の範囲の値)が変動カテゴリ「PA1」に割当てられ、25個(「64」～「88」の範囲の値)が変動カテゴリ「PA2」に割当てられ、8個(「89」～「96」の範囲の値)が変動カテゴリ「PA3」に割当てられ、2個(「97」～「98」の範囲の値)が変動カテゴリ「PA4」に割当てられ、1個(値「99」)が変動カテゴリ「PA5」に割当てられている。つまり、図17(C)の変動カテゴリ決定テーブル「C-TBL3」の設定例では、変動カテゴリ「PA1」が64%($64 \div 100$)、変動カテゴリ「PA2」が25%($25 \div 100$)、変動カテゴリ「PA3」が8%($8 \div 100$)、変動カテゴリ「PA4」が2%($2 \div 100$)、変動カテゴリ「PA5」が1%($1 \div 100$)の割合で決定される。

【0238】

図17(D)の変動カテゴリ決定テーブル「C-TBL4」の設定例では、乱数値MR3の決定値の100個(「0」～「99」の範囲の値)のうち、20個(「0」～「19」の範囲の値)が変動カテゴリ「PB3」に割当てられ、40個(「20」～「59」の範囲の値)が変動カテゴリ「PB4」に割当てられ、40個(「60」～「99」の範囲の値)が変動カテゴリ「PB5」に割当てられている。つまり、図17(D)の変動カテゴリ決定テーブル「C-TBL4」の設定例では、変動カテゴリ「PB3」が20%($20 \div 100$)、変動カテゴリ「PB4」が40%($40 \div 100$)、変動カテゴリ「PB5」が40%($40 \div 100$)の割合で決定される。

【0239】

図17(A)～図17(C)の設定例では、特図表示結果が「ハズレ」である場合、保留記憶数が多いときには、保留記憶数が少ないときに比べて、短縮・非リーチ（ハズレ）変動カテゴリ（変動カテゴリ「PA1」）の決定割合を高くしている。具体的には、特図表示結果が「ハズレ」であって保留記憶数「4」のときに選択される変動カテゴリ決定テーブル「C-TBL3」における変動カテゴリ「PA1」の決定割合「64%」>特図表示結果が「ハズレ」であって保留記憶数「3」又「2」のときに選択される変動カテゴリ決定テーブル「C-TBL2」における変動カテゴリ「PA1」の決定割合「4%」>特図表示結果が「ハズレ」であって保留記憶数「1」のときに選択される変動カテゴリ決定テーブル「C-TBL1」における変動カテゴリ「PA1」の決定割合「0%」としている。

10

【0240】

また、図17(A)～図17(C)の設定例では、特図表示結果が「ハズレ」である場合、保留記憶数が多くても少くても、スーパーリーチ（ハズレ）の変動カテゴリ（変動カテゴリ「PA4」又は変動カテゴリ「PA5」）の決定割合を一定にしている。具体的には、変動カテゴリ決定テーブル「C-TBL1」、変動カテゴリ決定テーブル「C-TBL2」、変動カテゴリ決定テーブル「C-TBL3」のいずれであっても、変動カテゴリ「PA5」の決定割合「1%」とし、変動カテゴリ「PA4」の決定割合「2%」としている。

【0241】

また、図17(A)～図17(C)の設定例では、変動カテゴリ決定テーブル「C-TBL1」、変動カテゴリ決定テーブル「C-TBL2」、変動カテゴリ決定テーブル「C-TBL3」のいずれであっても、同一（共通）の変動カテゴリに対応する（同一の変動カテゴリが決定される）、乱数値MR3の決定値が存在するようにしている。つまり、乱数値MR3の決定値が、ある値であれば、変動カテゴリ決定テーブル「C-TBL1」、変動カテゴリ決定テーブル「C-TBL2」、変動カテゴリ決定テーブル「C-TBL3」のいずれであっても、同一の変動カテゴリが決定されるようにしている。例えば、乱数値MR3の決定値が「99」であるときには、変動カテゴリ決定テーブル「C-TBL1」、変動カテゴリ決定テーブル「C-TBL2」、変動カテゴリ決定テーブル「C-TBL3」のいずれであっても、変動カテゴリ「PA5」が決定されるようにしている。また、乱数値MR3の決定値が「97」～「98」の範囲の値であるときには、上記いずれの変動カテゴリ決定テーブルであっても、変動カテゴリ「PA4」が決定されるようにしている。

20

30

【0242】

また、乱数値MR3の決定値が「89」～「96」の範囲の値であるときには、上記いずれの変動カテゴリ決定テーブルであっても、変動カテゴリ「PA3」が決定されるようにしている。また、乱数値MR3の決定値が「64」～「69」の範囲の値であるときには、上記いずれの変動カテゴリ決定テーブルであっても、変動カテゴリ「PA2」が決定されるようにしている。これにより、乱数値MR3の決定値がある値（上述の各範囲の値）であれば、リーチとなることや、スーパーリーチとなることや、スーパーリーチαやスーパーリーチβとなることを、あらかじめ容易に判定することができる。従って、その始動入賞に対応した可変表示よりも以前に、それらを報知すること等もでき、遊技に対する興趣を向上させることができる。なお、図17(A)～図17(C)の設定例では、乱数値MR3の決定値が「0」～「69」の範囲の値であるときには、変動カテゴリ決定テーブル「C-TBL1」、変動カテゴリ決定テーブル「C-TBL2」、変動カテゴリ決定テーブル「C-TBL3」のいずれであっても、変動カテゴリ「PA1」又は「PA2」が決定されるようにしている。これにより、少なくともリーチとならないことを、あらかじめ容易に判定することもできる。

40

【0243】

その後、S412の処理による判定結果（決定結果）に応じて、図15(B)に示す変動カテゴリコマンドの何れかを、演出制御基板12に対して送信するための設定を行って

50

から（S 4 1 3）、入賞時乱数値判定処理を終了する。

【0 2 4 4】

図 1 2 の S 1 0 1 で始動入賞判定処理を実行した後、C P U 1 0 3 は、遊技制御フラグ設定部 1 5 2 に設けられた特図プロセスフラグの値に応じて、S 1 1 0 ～S 1 2 0 の処理の何れかを選択して実行する。

【0 2 4 5】

S 1 1 0 の特別図柄通常処理は、特図プロセスフラグの値が“ 0 ”のときに実行される。この特別図柄通常処理では、特別図柄や飾り図柄の可変表示結果を「大当たり」又は「小当たり」とするか否かを、その可変表示結果が導出表示される以前に決定（事前決定）等が行われる。特別図柄通常処理では、特別図柄や飾り図柄の可変表示結果を事前決定したときに、特図プロセスフラグの値が“ 1 ”に更新される。特別図柄通常処理については後述する。

【0 2 4 6】

S 1 1 1 の変動パターン設定処理は、特図プロセスフラグの値が“ 1 ”のときに実行される。この変動パターン設定処理には、変動パターンを図 5 に示す複数種類の何れかに決定する処理や、第 1 変動開始コマンド（又は第 2 変動開始コマンド）、変動パターン指定コマンド、可変表示結果通知コマンド等を送信するための送信設定処理等が含まれている。変動パターン設定処理が実行されて特別図柄の可変表示が開始されたときには、特図プロセスフラグの値が“ 2 ”に更新される。変動パターンの設定については後述する。

【0 2 4 7】

S 1 1 2 の特別図柄変動処理は、特図プロセスフラグの値が“ 2 ”のときに実行される。この特別図柄変動処理には、第 1 特別図柄表示装置 4 A や第 2 特別図柄表示装置 4 B において特別図柄を変動させるための設定を行う処理や、その特別図柄が変動を開始してからの経過時間を計測する処理等が含まれている。例えば、S 1 1 2 の特別図柄変動処理が実行されるごとに、遊技制御タイマ設定部 1 5 3 に設けられた特図変動タイマにおける格納値である特図変動タイマ値を 1 減算あるいは 1 加算して、第 1 特別図柄表示装置 4 A による第 1 特図ゲーム（第 1 特図を用いた特図ゲーム）であるか、第 2 特別図柄表示装置 4 B による第 2 特図ゲーム（第 2 特図を用いた特図ゲーム）であるかにかかわらず、共通のタイマにより経過時間の測定が行われる。また、計測された経過時間が変動パターンに対応する特図変動時間に達したか否かの判定も行われる。このように、S 1 1 2 の特別図柄変動処理は、第 1 特図ゲームや第 2 特図ゲームにおける特別図柄の変動を、共通の処理ルーチンにより制御する処理となればよい。そして、特別図柄の変動を開始してからの経過時間が特図変動時間に達したときには、特図プロセスフラグの値が“ 3 ”に更新される。

【0 2 4 8】

S 1 1 3 の特別図柄停止処理は、特図プロセスフラグの値が“ 3 ”のときに実行される。この特別図柄停止処理には、第 1 特別図柄表示装置 4 A や第 2 特別図柄表示装置 4 B で特別図柄の変動を停止させ、特別図柄の可変表示結果となる確定特別図柄を停止表示（導出）させるための設定を行う処理が含まれている。そして、遊技制御フラグ設定部 1 5 2 に設けられた大当たりフラグがオンとなっているか否かの判定等が行われ、大当たりフラグがオンである場合には特図プロセスフラグの値が“ 4 ”に更新される。その一方で、大当たりフラグがオフであり、小当たりフラグがオンである場合には、特図プロセスフラグの値が“ 8 ”に更新される。また、大当たりフラグと小当たりフラグがともにオフである場合には、特図プロセスフラグの値が“ 0 ”に更新される。

【0 2 4 9】

S 1 1 4 の大当たり開放前処理は、特図プロセスフラグの値が“ 4 ”のときに実行される。この大当たり開放前処理には、可変表示結果が「大当たり」となったこと等に基づき、大当たり遊技状態においてラウンドの実行を開始して大入賞口を開放状態とするための設定を行う処理等が含まれている。このときには、例えば大当たり種別が「非確変」、「確変」、「突確」のいずれであるかに対応して、大入賞口を開放状態とする期間の上限を設定してもよい。一例として、大当たり種別が「非確変」又は「確変」に対応して、大入賞口を開放状

10

20

30

40

50

態とする期間の上限を「29秒」に設定するとともに、ラウンドを実行する上限回数となる大入賞口の開放回数を「15回」に設定することにより、通常開放大当り状態とする設定が行われればよい。一方、大当り種別が「突確」に対応して、大入賞口を開放状態とする期間の上限を「0.1秒」に設定するとともに、ラウンドを実行する上限回数となる大入賞口の開放回数を「15回」に設定することにより、短期開放大当り状態とする設定が行われればよい。このときには、特図プロセスフラグの値が“5”に更新される。

【0250】

S115の大当り開放中処理は、特図プロセスフラグの値が“5”のときに実行される。この大当り開放中処理には、大入賞口を開放状態としてからの経過時間を計測する処理や、その計測した経過時間やカウントスイッチ23により検出された遊技球の個数等に基づいて、大入賞口を開放状態から閉鎖状態に戻すタイミングとなったか否かを判定する処理等が含まれている。そして、大入賞口を閉鎖状態に戻すときには、大入賞口扉用のソレノイド82に対するソレノイド駆動信号の供給を停止させる処理等を実行した後、特図プロセスフラグの値が“6”に更新される。

10

【0251】

S116の大当り開放後処理は、特図プロセスフラグの値が“6”のときに実行される。この大当り開放後処理には、大入賞口を開放状態とするラウンドの実行回数が大入賞口開放回数最大値に達したか否かを判定する処理や、大入賞口開放回数最大値に達した場合に大当り終了指定コマンドを送信するための設定を行う処理等が含まれている。そして、ラウンドの実行回数が大入賞口開放回数最大値に達していないときには、特図プロセスフラグの値が“5”に更新される一方、大入賞口開放回数最大値に達したときには、特図プロセスフラグの値が“7”に更新される。

20

【0252】

S117の大当り終了処理は、特図プロセスフラグの値が“7”のときに実行される。この大当り終了処理には、画像表示装置5やスピーカ8、ランプ9等といった演出装置により、大当り遊技状態の終了を報知する演出動作としてのエンディング演出が実行される期間に対応した待ち時間が経過するまで待機する処理や、大当り遊技状態の終了に対応して確変制御や時短制御を開始するための各種の設定を行う処理等が含まれている。こうした設定が行われたときには、特図プロセスフラグの値が“0”に更新される。

30

【0253】

S118の小当り開放前処理は、特図プロセスフラグの値が“8”のときに実行される。この小当り開放前処理には、可変表示結果が「小当り」となったことに基づき、小当り遊技状態において大入賞口を開放状態とするための設定を行う処理等が含まれている。一例として、可変表示結果が「小当り」となったときには、可変表示結果が「大当り」で大当り種別が「突確」となったときと同様に、大入賞口を開放状態とする期間の上限を「0.1秒」に設定するとともに、大入賞口の開放回数を「15回」に設定することにより、小当り遊技状態とする設定が行われればよい。このときには、特図プロセスフラグの値が“9”に更新される。

【0254】

S119の小当り開放中処理は、特図プロセスフラグの値が“9”のときに実行される。この小当り開放中処理には、大入賞口を開放状態としてからの経過時間を計測する処理や、その計測した経過時間等に基づいて、大入賞口を開放状態から閉鎖状態に戻すタイミングとなったか否かを判定する処理等が含まれている。大入賞口を閉鎖状態に戻すときには、大入賞口扉用のソレノイド82に対する駆動信号の供給を停止させる処理等が実行されればよい。このときには、特図プロセスフラグの値が“10”に更新される。

40

【0255】

S120の小当り終了処理は、特図プロセスフラグの値が“10”のときに実行される。この小当り終了処理には、画像表示装置5やスピーカ8、ランプ9等といった演出装置により、小当り遊技状態の終了を報知する演出動作が実行される期間に対応した待ち時間が経過するまで待機する処理等が含まれている。ここで、小当り遊技状態が終了するとき

50

には、確変フラグや時短フラグの状態を変更しないようにして、小当り遊技状態となる以前のパチンコ遊技機1における遊技状態を継続させる。小当り遊技状態の終了時における待ち時間が経過したときには、特図プロセスフラグの値が“0”に更新される。

【0256】

図18は、特別図柄通常処理として、図12のS110で実行される処理の一例を示すフローチャートである。図18に示す特別図柄通常処理において、CPU103は、まず、第2特図保留記憶数が「0」であるか否かを判定する(S231)。即ち、CPU103は、第2特図ゲームが保留されているか否かを判定する。例えば、S231の処理では、遊技制御カウンタ設定部154に記憶されている第2保留記憶数カウント値を読み出し、その読出値が「0」であるか否かを判定すればよい。

10

【0257】

S231で第2特図保留記憶数が「0」以外であるときには(S231; No)、第2特図保留記憶部151Bで保留番号「1」に対応して記憶されている保留データとして、特図表示結果決定用の乱数値MR1、大当り種別決定用の乱数値MR2をそれぞれ読出す(S232)。このとき読出された数値データは、例えば変動用乱数バッファ等に格納されて、一時記憶されればよい。

【0258】

S232の処理に続いて、例えば第2保留記憶数カウント値を1減算して更新すること等により、第2特図保留記憶数を1減算させるように更新するとともに、第2特図保留記憶部151Bで保留番号「1」より下位のエントリ(例えば保留番号「2」～「4」に対応するエントリ)に記憶された乱数値MR1～MR3を示す保留データを、1エントリずつ上位にシフトする(S233)。また、S233の処理では、遊技制御カウンタ設定部154で合計保留記憶数カウンタが記憶する合計保留記憶数カウント値を1減算するように更新してもよい。このときには、変動特図指定バッファの格納値である変動特図指定バッファ値を「2」に更新する(S234)。

20

【0259】

S231で第2特図保留記憶数が「0」であるときには(S231; Yes)、第1特図保留記憶数が「0」であるか否かを判定する(S235)。即ち、CPU103は、第1特図ゲームが保留されているか否かを判定する。例えば、S235の処理では、遊技制御カウンタ設定部154で第1保留記憶数カウンタが記憶する第1保留記憶数カウント値を読み出し、その読出値が「0」であるか否かを判定すればよい。

30

【0260】

このように、S235の処理を、S231で第2特図保留記憶数が「0」であると判定されたときに実行するようにしているため、第1特図ゲームと第2特図ゲームとが保留されている場合に、第2特図ゲームが第1特図ゲームよりも優先して実行されることになる。なお、第2特図ゲームが第1特図ゲームよりも優先して実行される態様に限定されず、始動入賞口(第1始動入賞口、第2始動入賞口)を遊技球が進入(通過)して始動入賞(第1始動入賞、第2始動入賞)が発生した順に、特図ゲーム(第1特図ゲーム、第2特図ゲーム)が実行されてもよい。この場合には、始動入賞が発生した順番を特定可能なデータを記憶するテーブルを設けて、その記憶データから第1特図ゲームと第2特図ゲームのいずれを実行するかが決定できればよい。

40

【0261】

S235で第1特図保留記憶数が「0」以外であるときには(S235; No)、第1特図保留記憶部151Aで保留番号「1」に対応して記憶されている保留データとして、特図表示結果決定用の乱数値MR1、大当り種別決定用の乱数値MR2を示す数値データをそれぞれ読出す(S236)。このとき読出された数値データは、例えば変動用乱数バッファ等に格納されて、一時記憶されればよい。

【0262】

S236の処理に続いて、例えば第1保留記憶数カウント値を1減算して更新すること等により、第1特図保留記憶数を1減算させるように更新するとともに、第1特図保留記

50

憶部 1 5 1 A で保留番号「1」より下位のエントリ（例えば保留番号「2」～「4」に対応するエントリ）に記憶された乱数値 MR 1 ～ MR 3 を示す保留データを、1 エントリずつ上位にシフトする（S 2 3 7）。また、S 2 3 7 の処理では、遊技制御カウンタ設定部 1 5 4 で合計保留記憶数カウンタが記憶する合計保留記憶数カウント値を 1 減算するように更新してもよい。このときには、変動特図指定バッファ値を「1」に更新する（S 2 3 8）。

【0 2 6 3】

S 2 3 4、S 2 3 8 の処理のいずれかを実行した後は、特別図柄の可変表示結果である特図表示結果を「大当り」と「ハズレ」のいずれとするかを決定するための使用テーブルとして、図 1 5（A）に示す S 4 0 2 の処理と同様に、特図表示結果決定用テーブルデータを選択する（S 2 3 9）。即ち、S 4 0 2 の処理では、始動口バッファ値（「1」又は「2」）に応じて第 1 特図表示結果決定テーブル 1 3 0 A 又は第 2 特図表示結果決定テーブル 1 3 0 B を使用テーブルにセットしたが、S 2 3 9 の処理では、変動特図指定バッファ値が「1」である場合には第 1 特図表示結果決定テーブル 1 3 0 A を使用テーブルにセットし、変動特図指定バッファ値が「2」である場合には第 2 特図表示結果決定テーブル 1 3 0 B を使用テーブルにセットすればよい。続いて、変動用乱数バッファに格納された特図表示結果決定用の乱数値 MR 1 を示す数値データを、「大当り」や「小当り」、「ハズレ」の各特図表示結果に割当てられた決定値と比較して、特図表示結果を「大当り」と「小当り」と「ハズレ」のいずれとするかを決定する（S 2 4 0）。

【0 2 6 4】

S 2 4 0 で特図表示結果を決定した後は、その特図表示結果が「大当り」であるか否かを判定する（S 2 4 1）。そして、「大当り」であると判定された場合には（S 2 4 1；Y e s）、遊技制御フラグ設定部 1 5 2 に設けられた大当りフラグをオン状態にセットする（S 2 4 2）。このときには、大当り種別を複数種類の何れかに決定するための使用テーブルとして、大当り種別決定テーブル 1 3 1 を選択してセットする（S 2 4 3）。こうしてセットされた大当り種別決定テーブル 1 3 1 を参照することにより、変動用乱数バッファに格納された大当り種別決定用の乱数値 MR 2 を示す数値データを、「非確変」、「確変」、「突確」の各大当り種別に割当てられた決定値のいずれと合致するかに応じて、大当り種別を複数種別のいずれとするかを決定する（S 2 4 4）。

【0 2 6 5】

こうして決定された大当り種別に対応して、例えば遊技制御バッファ設定部 1 5 5 に設けられた大当り種別バッファの格納値である大当り種別バッファ値を設定すること等により（S 2 4 5）、決定された大当り種別を記憶させる。一例として、大当り種別が「非確変」であれば大当り種別バッファ値を「0」とし、「確変」であれば「1」とし、「突確」であれば「2」とすればよい。

【0 2 6 6】

S 2 4 1 で「大当り」ではないと判定された場合には（S 2 4 1；N o）、その特図表示結果が「小当り」であるか否かを判定する（S 2 4 6）。そして、「小当り」であると判定されたときには（S 2 4 6；Y e s）、遊技制御フラグ設定部 1 5 2 に設けられた小当りフラグをオン状態にセットする（S 2 4 7）。

【0 2 6 7】

S 2 4 6 で「小当り」ではないと判定された場合や（S 2 4 6；N o）、S 2 4 5、S 2 4 7 の処理のいずれかを実行した後は、大当り遊技状態や小当り遊技状態に制御するか否かの事前決定結果、さらには、大当り遊技状態とする場合における大当り種別の決定結果に対応して、確定特別図柄を設定する（S 2 4 8）。

【0 2 6 8】

S 2 4 8 で確定特別図柄を設定した後は、特図プロセスフラグの値を変動パターン設定処理に対応した値である“1”に更新してから（S 2 4 9）、特別図柄通常処理を終了する。S 2 3 5 で第 1 特図を用いた特図ゲームの保留記憶数が「0」である場合には（S 2 3 5；Y e s）、所定のデモ表示設定を行ってから（S 2 5 0）、特別図柄通常処理を

終了する。このデモ表示設定では、例えば画像表示装置 5 において所定の演出画像を表示すること等によるデモンストレーション表示（デモ画面表示）を指定する演出制御コマンド（客待ちデモ指定コマンド）が、主基板 1 1 から演出制御基板 1 2 に対して送信済みであるか否かを判定する。このとき、送信済みであれば、そのままデモ表示設定を終了する。これに対して、未送信であれば、客待ちデモ指定コマンドを送信するための設定を行ってから、デモ表示設定を終了する。

【0269】

S 1 1 1 の変動パターン設定処理では、C P U 1 0 3 は、乱数回路 1 0 4 や遊技制御カウンタ設定部 1 5 4 のランダムカウンタにより更新されている数値データのうちから、変動カテゴリ決定用の乱数値 M R 3、変動パターン決定用の乱数値 M R 5 を示す数値データを抽出する。

10

【0270】

上述したように、保留記憶数に応じた夫々の変動カテゴリ決定テーブルの何れにおいても同一の変動カテゴリに対応する乱数値 M R 3 の判定値が存在する場合において、当該同一の変動カテゴリに対応する当該判定値に一致する乱数値 M R 3 が入賞時に抽出されたときは、入賞時乱数値判定処理（S 2 2 0）の実行時と当該変動パターン設定処理（S 1 1 1）の実行時とで保留記憶数が大きく異なっていたとしても、変動パターン設定処理では入賞時乱数値判定処理と同一の変動カテゴリが決定される。例えば、上述した、変動カテゴリ決定テーブル「C - T B L 1」～「C - T B L 3」の具体例では、入賞時に抽出された乱数値 M R 3 が例えば「9 9」であれば、保留記憶数に関係なく、入賞時乱数値判定処理でも変動パターン設定処理でも、変動カテゴリ「P A 5」が決定される。入賞時に抽出された乱数値 M R 3 が例えば「9 7」～「9 8」の範囲であれば、保留記憶数に関係なく、入賞時乱数値判定処理でも変動パターン設定処理でも、変動カテゴリ「P A 4」が決定される。なお、S 2 6 1 の処理では、保留データとして記憶されている変動カテゴリ決定用の乱数値 M R 3 を用いて変動カテゴリを判定することが好ましいが、C P U 1 0 3 は、新たに変動カテゴリ決定用の乱数値 M R 3 を抽出し、新たに抽出した変動カテゴリ決定用の乱数値 M R 3 を用いて変動カテゴリを決定してもよい。

20

【0271】

続いて、C P U 1 0 3 は、新たに抽出した変動カテゴリ決定用の乱数値 M R 3 を用いて、S 4 1 2 と同様、変動カテゴリを判定する。即ち、図 1 6 の示すように特図表示結果と保留記憶数とに基づき、図 1 7 の示した複数の変動カテゴリ決定テーブルのなかから使用する変動カテゴリ決定テーブルを選択し、選択した変動カテゴリ決定テーブルと変動カテゴリ決定用の乱数値 M R 3 とに基づいて変動カテゴリを判定する。続いて、C P U 1 0 3 は、判定結果である変動カテゴリに基づいて、R O M 1 0 1 に記憶されている複数の変動パターン決定テーブルのなかから使用テーブルとしてセットする何れかの変動パターン決定テーブルを選択する。続いて、C P U 1 0 3 は、使用テーブルとしてセットされた変動パターン決定テーブルと、上述の変動パターン決定用の乱数値 M R 5 を示す数値データとに基づき、複数種類の変動パターンの中から何れかの変動パターンを決定する。

30

【0272】

図 1 9 は、変動パターンの決定割合の設定例を示す図である。なお、R O M 1 0 1 には、変動カテゴリに応じた 8 種類の変動パターン決定テーブルが記憶されているものとする。図 1 9（A）は、上述の 8 種類のうち、変動カテゴリ「P A 1（短縮・非リーチハズレ）」であるときに選択される変動パターン決定テーブルによる変動パターンの決定割合の設定例である。図 1 9（B）は、上述の 8 種類のうち、変動カテゴリ「P A 2（非リーチ（ハズレ）」であるときに選択される変動パターン決定テーブルによる変動パターンの決定割合の設定例である。図 1 9（C）は、上述の 8 種類のうち、変動カテゴリ「P A 3（ノーマルリーチ（ハズレ）」であるときに選択される変動パターン決定テーブルによる変動パターンの決定割合の設定例である。以下、図 1 9（D）～図 1 9（H）についても同様である。

40

【0273】

50

以上のように、主基板 1 1 では、S 1 0 1 の始動入賞判定処理において、演出制御基板 1 2 に対して、始動口バッファ値に応じた始動口入賞指定コマンドを送信するための送信設定が行われ (S 2 1 9)、S 4 0 3、S 4 0 4、S 4 0 9 等において判定された特図表示結果に応じた図柄指定コマンドを送信するための送信設定が行われ (S 4 0 5、S 4 0 7、S 4 1 0)、S 4 1 2 において決定された変動カテゴリに応じた変動カテゴリコマンドを送信するための送信設定 (S 4 1 3) が行われ、保留記憶数通知コマンドを送信するための送信設定が行われる (S 2 2 1)。

【0274】

これらの処理が実行されてから、図 1 1 に示す S 1 7 のコマンド制御処理を実行することにより、始動入賞口 (第 1 始動入賞口、第 2 始動入賞口) を遊技球が通過 (進入) して第 1 始動条件や第 2 始動条件が成立したときには、始動口入賞指定コマンド (第 1 始動口入賞指定コマンド又は第 2 始動口入賞指定コマンド)、図柄指定コマンド、変動カテゴリコマンド、保留記憶数通知コマンド (第 1 保留記憶数通知コマンド又は第 2 保留記憶数通知コマンド) という 4 つのコマンドが 1 セットとして、1 タイマ割込内に一括して送信される。

10

【0275】

また、主基板 1 1 では、S 1 1 0 の特別図柄通常処理において、特図表示結果決定用の乱数値 M R 1 や大当り種別決定用の乱数値 M R 2 等を用いて特別図柄の可変表示結果となる確定特別図柄が決定され、S 1 1 1 の変動パターン設定処理において、変動カテゴリ決定用の乱数値 M R 3 や変動パターン決定用の乱数値 M R 5 等を用いて飾り図柄の変動パターンが決定される。

20

【0276】

更に、S 1 1 1 の変動パターン設定処理では、上述の如く決定された確定特別図柄を指定する可変表示結果通知コマンドや上述の如く決定された飾り図柄の変動パターンを指定する変動パターン指定コマンド等を、演出制御基板 1 2 に対して送信するための送信設定が行われる。これらの処理が実行されてから、図 1 1 に示す S 1 7 のコマンド制御処理を実行することにより、可変表示を開始するときには、可変表示結果通知コマンドや変動パターン指定コマンド等が、1 タイマ割込内に一括して送信される。なお、1 タイマ割込内に一括して送信されるものに限定されず、タイマ割込毎に S 1 7 のコマンド制御処理により 1 つずつコマンドが順次に送信されてもよい。

30

【0277】

つまり、特別図柄や飾り図柄の可変表示が開始されるタイミングで、特別図柄通常処理 (S 1 1 0) で特図表示結果 (特別図柄の可変表示結果) を「大当り」や「小当り」として大当り遊技状態や小当り遊技状態に制御するか否かの決定が行われ、変動パターン設定処理 (S 1 1 1) で飾り図柄の具体的な可変表示態様 (変動パターン) の決定等が行われ、夫々の演出制御コマンドにより決定された内容が演出制御基板 1 2 に送信される。また、これに先立って、遊技球が始動入賞口 (第 1 始動入賞口、第 2 始動入賞口) で検出されたタイミングで、入賞時乱数値判定処理 (S 2 2 0) により、「大当り」や「小当り」として大当り遊技状態や小当り遊技状態に制御されるか否かの判定や、飾り図柄の大まかな可変表示態様 (変動カテゴリ) の判定等が行われ、夫々の演出制御コマンドにより決定された内容が演出制御基板 1 2 に送信される。

40

【0278】

次に、演出制御基板 1 2 における動作を説明する。

【0279】

演出制御基板 1 2 では、電源基板等から電源電圧の供給を受けると、演出制御用 C P U 1 2 0 が起動して、図 2 0 のフローチャートに示すような演出制御メイン処理を実行する。図 2 0 に示す演出制御メイン処理を開始すると、演出制御用 C P U 1 2 0 は、まず、所定の初期化処理を実行して (S 7 1)、R A M 1 2 2 のクリアや各種初期値の設定、また演出制御基板 1 2 に搭載された C T C (カウンタ/タイマ回路) のレジスタ設定等を行う。その後、タイマ割込みフラグがオンとなっているか否かの判定を行う (S 7 2)。タイ

50

マ割込みフラグは、例えばC T Cのレジスタ設定に基づき、所定時間（例えば2ミリ秒）が経過するごとにオン状態にセットされる。このとき、タイマ割込みフラグがオフであれば（S 7 2 ; N o）、S 7 2の処理を繰返し実行して待機する。

【0280】

また、演出制御基板12の側では、所定時間が経過するごとに発生するタイマ割込みとは別に、主基板11から演出制御コマンド等を受信するための割込みが発生する。この割込みは、例えば主基板11からの演出制御I N T信号がオン状態となることにより発生する割込みである。演出制御I N T信号がオン状態となることによる割込みが発生すると、演出制御用C P U 1 2 0は、自動的に割込み禁止に設定するが、自動的に割込み禁止状態にならないC P Uを用いている場合には、割込み禁止命令（D I命令）を発行することが望ましい。演出制御用C P U 1 2 0は、演出制御I N T信号がオン状態となることによる割込みに対応して、例えば所定のコマンド受信割込み処理を実行する。このコマンド受信割込み処理では、I / O 1 2 5に含まれる入力ポートのうちで、中継基板15を介して主基板11から送信された制御信号を受信する所定の入力ポートより、演出制御コマンドとなる制御信号を取込む。

10

【0281】

このとき取込まれた演出制御コマンドは、例えば演出制御バッファ設定部194に設けられた演出制御コマンド受信用バッファに格納する。一例として、演出制御コマンドが2バイト構成である場合には、1バイト目（M O D E）と2バイト目（E X T）を順次受信して演出制御コマンド受信用バッファに格納する。その後、演出制御用C P U 1 2 0は、割込み許可に設定してから、コマンド受信割込み処理を終了する。

20

【0282】

S 7 2でタイマ割込みフラグがオンである場合には（S 7 2 ; Y e s）、タイマ割込みフラグをクリアしてオフ状態にするとともに（S 7 3）、コマンド解析処理を実行する（S 7 4）。S 7 4で実行されるコマンド解析処理では、例えば主基板11の遊技制御用マイクロコンピュータ100から送信されて演出制御コマンド受信用バッファに格納されている各種の演出制御コマンドを読み出した後に、その読み出された演出制御コマンドに対応した設定や制御等が行われる。

【0283】

S 7 4でコマンド解析処理を実行した後は、演出制御プロセス処理を実行する（S 7 5）。S 7 5の演出制御プロセス処理では、例えば画像表示装置5の表示領域における演出画像の表示動作、スピーカ8からの音声出力動作、ランプ9における発光動作、演出用模型における駆動動作といった、各種の演出装置を用いた演出動作の制御内容について、主基板11から送信された演出制御コマンド等に応じた判定や決定、設定等が行われる。

30

【0284】

S 7 5の演出制御プロセス処理に続いて、演出用乱数更新処理が実行され（S 7 6）、演出制御に用いる各種の乱数値として、演出制御カウンタ設定部193のランダムカウンタによりカウントされる演出用乱数を示す数値データを、ソフトウェアにより更新する。その後、S 7 2の処理に戻る。

【0285】

図21は、コマンド解析処理として、図20のS 7 4で実行される処理の一例を示すフローチャートである。図21に示すコマンド解析処理において、演出制御用C P U 1 2 0は、まず、演出制御コマンド受信用バッファの記憶内容を確認すること等により、中継基板15を介して伝送された主基板11からの受信コマンドがあるか否かを判定する（S 5 0 1）。このとき、受信コマンドがなければ（S 5 0 1 ; N o）、コマンド解析処理を終了する。

40

【0286】

S 5 0 1で受信コマンドがある場合には（S 5 0 1 ; Y e s）、例えば受信コマンドのM O D Eデータを確かめること等により、その受信コマンドが第1始動口入賞指定コマンドであるか否かを判定する（S 5 0 2）。そして、第1始動口入賞指定コマンドであると

50

きには (S 5 0 2 ; Y e s)、第 1 保留記憶数通知待ち時間を設定する (S 5 0 3)。例えば、S 5 0 3 の処理では、第 1 保留記憶数通知コマンドの受信待ち時間に対応して予め定められたタイマ初期値が、演出制御タイマ設定部 1 9 2 に設けられたコマンド受信制御タイマにセットされればよい。

【0 2 8 7】

S 5 0 2 で受信コマンドが第 1 始動口入賞指定コマンドではない場合には (S 5 0 2 ; N o)、その受信コマンドは第 2 始動口入賞指定コマンドであるか否かを判定する (S 5 0 4)。そして、第 2 始動口入賞指定コマンドであるときには (S 5 0 4 ; Y e s)、第 2 保留記憶数通知待ち時間を設定する (S 5 0 5)。例えば、S 5 0 5 の処理では、第 2 保留記憶数通知コマンドの受信待ち時間に対応して予め定められたタイマ初期値が、コマンド受信制御タイマにセットされればよい。

10

【0 2 8 8】

S 5 0 4 で受信コマンドが第 2 始動口入賞指定コマンドではない場合には (S 5 0 4 ; N o)、その受信コマンドは図柄指定コマンドであるか否かを判定する (S 5 0 6)。S 5 0 6 で受信コマンドが図柄指定コマンドではない場合には (S 5 0 6 ; N o)、その受信コマンドは変動カテゴリコマンドであるか否かを判定する (S 5 0 7)。S 5 0 7 で受信コマンドが変動カテゴリコマンドではない場合には (S 5 0 7 ; N o)、その受信コマンドは第 1 保留記憶数通知コマンドであるか否かを判定する (S 5 0 8)。そして、第 1 保留記憶数通知コマンドであるときには (S 5 0 8 ; Y e s)、例えばコマンド受信制御タイマによる計時動作を初期化すること等により、第 1 保留記憶数通知待ち時間をクリアする (S 5 0 9)。

20

【0 2 8 9】

S 5 0 8 で受信コマンドが第 1 保留記憶数通知コマンドではない場合には (S 5 0 8 ; N o)、その受信コマンドは第 2 保留記憶数通知コマンドであるか否かを判定する (S 5 1 0)。そして、第 2 保留記憶数通知コマンドであるときには (S 5 1 0 ; Y e s)、例えばコマンド受信制御タイマによる計時動作を初期化すること等により、第 2 保留記憶数通知待ち時間をクリアする (S 5 1 1)。

【0 2 9 0】

S 5 0 6 で受信コマンドが図柄指定コマンドである場合や (S 5 0 6 ; Y e s)、S 5 0 7 で受信コマンドが変動カテゴリコマンドである場合 (S 5 0 7 ; Y e s)、あるいは S 5 0 3、S 5 0 5、S 5 0 9、S 5 1 1 の処理の何れかを実行した後は、当該受信コマンドの 1 つ前に受信した受信コマンドに対する S 5 0 3 の処理において、第 1 保留記憶数通知待ち時間が設定されている場合、当該受信コマンドを第 1 始動入賞時受信コマンドバッファ 1 9 4 A における空き領域の先頭に格納してから (S 5 1 2)、S 5 0 1 の処理に戻る。

30

【0 2 9 1】

また、S 5 0 6 で受信コマンドが図柄指定コマンドである場合や (S 5 0 6 ; Y e s)、S 5 0 7 で受信コマンドが変動カテゴリコマンドである場合 (S 5 0 7 ; Y e s)、あるいは S 5 0 3、S 5 0 5、S 5 0 9、S 5 1 1 の処理の何れかを実行した後は、当該受信コマンドの 1 つ前に受信した受信コマンドに対する S 5 0 3 の処理において、第 2 保留記憶数通知待ち時間が設定されている場合、当該受信コマンドを第 2 始動入賞時受信コマンドバッファ 1 9 4 B における空き領域の先頭に格納してから (S 5 1 2)、S 5 0 1 の処理に戻る。

40

【0 2 9 2】

なお、第 1 変動開始コマンドとともに第 1 保留記憶数通知コマンドを受信した場合には、保留記憶数通知コマンドを第 1 始動入賞時受信コマンドバッファ 1 9 4 A に格納しなくてもよい。即ち、始動入賞の発生に対応して受信した演出制御コマンドを、第 1 始動入賞時受信コマンドバッファ 1 9 4 A における空き領域の先頭から順次に格納することができればよい。

【0 2 9 3】

50

また、第2変動開始コマンドとともに第2保留記憶数通知コマンドを受信した場合には、保留記憶数通知コマンドを第2始動入賞時受信コマンドバッファ194Bに格納しなくてもよい。即ち、始動入賞の発生に対応して受信した演出制御コマンドを、第2始動入賞時受信コマンドバッファ194Bにおける空き領域の先頭から順次に格納することができればよい。

【0294】

S510で受信コマンドが第2保留記憶数通知コマンドではない場合には(S510; No)、その他の受信コマンドに応じた設定を行ってから(S513)、S501の処理に戻る。例えば、受信コマンドが遊技状態指定コマンドである場合、その遊技状態指定コマンドを解析して、現在の遊技状態を特定する。また、例えば、受信コマンドが当り終了指定コマンドである場合、その当り終了指定コマンドを解析して、時短であるか否かを特定する。

10

【0295】

始動口入賞指定コマンド(第1始動口入賞指定コマンド又は第2始動口入賞指定コマンド)、図柄指定コマンド、変動カテゴリコマンド、保留記憶数通知コマンド(第1保留記憶数通知コマンド、第2保留記憶数通知コマンド)のように、始動入賞が発生したときに主基板11から受信する演出制御コマンドは、始動入賞時のコマンドともいう。また、第1保留記憶数通知コマンド、第2保留記憶数通知コマンドや第1始動口入賞指定コマンド、第2始動口入賞指定コマンドは、保留記憶情報ともいう。また、図柄指定コマンドや変動カテゴリコマンドは、判定結果情報ともいう。

20

【0296】

なお、第1始動入賞時受信コマンドバッファ194Aにおける空き領域の先頭から順次に受信コマンドを格納するときには、受信コマンドが図柄指定コマンド、変動カテゴリコマンド、第1保留記憶数通知コマンドのいずれであるかを区別せずに格納してもよく、各受信コマンドを区別して、対応する格納領域における空き領域の先頭に格納してもよい。

【0297】

また、第2始動入賞時受信コマンドバッファ194Bにおける空き領域の先頭から順次に受信コマンドを格納するときには、受信コマンドが図柄指定コマンド、変動カテゴリコマンド、第2保留記憶数通知コマンドのいずれであるかを区別せずに格納してもよく、各受信コマンドを区別して、対応する格納領域における空き領域の先頭に格納してもよい。

30

【0298】

図22は、演出制御プロセス処理として、図20のS75で実行される処理の一例を示すフローチャートである。図22に示す演出制御プロセス処理において、演出制御用CPU120は、まず、入賞時演出決定処理を実行する(S150)。図23は、入賞時演出決定処理として、図22のS150で実行される処理の一例を示すフローチャートである。

【0299】

図23に示す入賞時演出決定処理において、演出制御用CPU120は、まず、始動入賞時受信コマンドバッファ(第1始動入賞時受信コマンドバッファ194A又は第2始動入賞時受信コマンドバッファ194B)における記憶内容をチェックし(S151)、新たな受信コマンドとして、第1始動口入賞指定コマンドを受信しているか否かを判定する(S152)。S152で第1始動口入賞指定コマンドを受信していないと判定したときは(S152; No)、第2始動入賞時受信コマンドバッファ194Bにおける記憶内容をチェックし(S153)、新たな受信コマンドとして、第2始動口入賞指定コマンドを受信しているか否かを判定する(S153)。S154で第2始動口入賞指定コマンドを受信していないと判定したときは(S154; No)、入賞時演出決定処理を終了する。

40

【0300】

S152において第1始動口入賞指定コマンドを受信していると判定したときは(S152; Yes)、図21のコマンド解析処理におけるS513の処理において時短ではないことが特定されている場合には(S155; NO)、第1保留演出決定処理を実行する

50

(S160)。第1保留演出決定処理には、第1始動入賞記憶表示エリア5HLに追加表示させる際の保留表示の表示態様（追加時表示態様とも称する）を決定する処理が含まれている。なお、第1始動入賞記憶表示エリア5HLに追加表示させる際の保留表示に対する保留変化演出や保留変化ガセ演出を実行する場合には、当該ステップにおいて、保留変化演出、保留変化ガセ演出を実行するか否かを決定する処理や、保留演出を実行すると決定した場合に保留演出の実行タイミングを決定する処理等を行えばよい。

【0301】

まず、第1始動入賞記憶表示エリア5HLに追加表示させる際の保留表示の表示態様を決定する決定処理について説明する。図24は、保留表示の表示態様の決定割合の設定例を示す図である。なお、ROM121には、変動カテゴリに応じた7種類の保留表示態様決定テーブルが記憶されているものとする。図24(A)は、上述の7種類のうち、変動カテゴリ「PA1（短縮・非リーチハズレ）」、又は、変動カテゴリ「PA2（非リーチ（ハズレ）」であるときに選択される保留表示態様決定テーブルによる保留表示の表示態様の決定割合の設定例（H-TBL1）である。図24(B)は、上述の7種類のうち、変動カテゴリ「PA3（ノーマルリーチ（ハズレ）」であるときに選択される保留表示態様決定テーブルによる保留表示の表示態様の決定割合の設定例（H-TBL2）である。図24(C)は、上述の7種類のうち、変動カテゴリ「PA4（スーパーリーチα（ハズレ）」であるときに選択される保留表示態様決定テーブルによる保留表示の表示態様の決定割合の設定例（H-TBL3）である。

【0302】

図24(D)は、上述の7種類のうち、変動カテゴリ「PA5（スーパーリーチβ（ハズレ）」であるときに選択される保留表示態様決定テーブルによる保留表示の表示態様の決定割合の設定例（H-TBL4）である。図24(E)は、上述の7種類のうち、変動カテゴリ「PB3（ノーマルリーチ（大当たり）」であるときに選択される保留表示態様決定テーブルによる保留表示の表示態様の決定割合の設定例（H-TBL5）である。図24(F)は、上述の7種類のうち、変動カテゴリ「PB4（スーパーリーチα（大当たり）」であるときに選択される保留表示態様決定テーブルによる保留表示の表示態様の決定割合の設定例（H-TBL6）である。図24(G)は、上述の7種類のうち、変動カテゴリ「PB5（スーパーリーチβ（大当たり）」であるときに選択される保留表示態様決定テーブルによる保留表示の表示態様の決定割合の設定例（H-TBL7）である。

【0303】

図24によれば、例えば、リーチとなる場合には非リーチとなる場合に比べて、赤色や黄色が決定され易く、青色や白色（初期色）が決定され難くなっている。また、リーチとなる場合においては熱いリーチ（例えば、スーパーリーチ）となるときには熱くないリーチ（例えば、ノーマルリーチ）となるときに比べて、赤色や黄色が決定され易く、青色や白色が決定され難くなっている。あるいは、図16、図17及び図24によれば、特図表示結果が「大当たり」であるときには特図表示結果が「ハズレ」であるときに比べて、赤色や黄色が決定され易く、青色や白色が決定され難くなっている。換言すれば、赤色や黄色の表示態様は青色や白色の表示態様に比べて、熱い演出が実行される期待度や、大当たりとなる期待度が高い。より詳細には、赤色、黄色、青色、白色の順に、熱い演出が実行される期待度や、大当たりとなる期待度が高くなっている。

【0304】

即ち、第1保留演出決定処理（S160）において、演出制御用CPU120は、主基板11から伝送された変動カテゴリコマンドにより指定された変動カテゴリに基づいて、図24に示した複数の保留表示態様決定テーブルのなかから使用する保留表示態様決定テーブルを選択し、選択した保留表示態様決定テーブルと保留表示の表示態様決定用の乱数値MR6とに基づいて、第1始動入賞記憶表示エリア5HLに追加表示させる保留表示の表示態様（追加時表示態様）を決定する。

【0305】

第1保留演出決定処理（S160）を実行した後は、演出制御用CPU120は、第1保留演出決定処理の決定結果に基づいて第1保留演出決定処理の決定内容を記憶する（S161）。具体的には、例えば、演出制御用CPU120は、第1保留演出決定処理において保留表示の表示態様を、第1始動入賞時受信コマンドバッファ194Aにおける当該第1始動入賞のバッファ番号に対応する第1先読予告バッファ194Cのバッファ番号に対応付けて、第1保留演出決定処理の決定内容（追加時表示態様）を記憶する。

【0306】

なお、演出制御用CPU120は、第1保留演出決定処理において保留変化演出を実行するか否かを決定し、保留変化演出を実行すると決定した場合には、保留演出決定処理の決定内容（保留変化演出を実行する場合の実行タイミング、保留変化ガセ演出を実行する場合の実行タイミング、保留変化を実行する場合の実行タイミング）に対応する第1始動入賞時受信コマンドバッファ194Aにおけるバッファ番号に対応する第1先読予告バッファ194Cのバッファ番号に対応付けて、保留演出決定処理の決定内容（保留変化演出を実行する旨を示す情報（例えばフラグ）、保留変化ガセ演出を実行する旨を示す情報（例えばフラグ）、保留変化を実行する旨を示す情報（例えばフラグ））と、ターゲットの保留表示として保留演出によって変化される保留表示（即ち、当該第1始動入賞による保留表示）を特定する情報（例えば、第1始動入賞時受信コマンドバッファ194Aにおける当該第1始動入賞のバッファ番号に対応する第1先読予告バッファ194Cのバッファ番号））とを記憶してもよい。

【0307】

この場合、例えば、第1特図保留記憶数3個目の第1始動入賞時の第1保留演出決定処理において、追加時表示態様「白色」、保留演出「実行あり（保留変化演出実行あり）」、実行タイミング「次変動」のように決定していた場合には、演出制御用CPU120は、第1始動入賞時受信コマンドバッファ194Aにおける当該第1始動入賞のバッファ番号（例えば、バッファ番号「3」とする）に対応する第1先読予告バッファ194Cのバッファ番号（バッファ番号「3」）に対応付けて追加時表示態様「白色」を記憶するとともに、実行タイミング「次変動」に対応する第1始動入賞時受信コマンドバッファ194Aにおけるバッファ番号（バッファ番号「1」）に対応する第1先読予告バッファ194Cのバッファ番号（バッファ番号「1」）に対応付けて保留変化演出を実行する旨を示す情報とバッファ番号「3」とを記憶すればよい。

【0308】

なお、演出制御用CPU120は、第1保留演出決定処理において保留変化演出を実行すると決定した場合には、第1保留演出決定処理の実行タイミングに対応する第1始動入賞時受信コマンドバッファ194Aにおけるバッファ番号に対応する第1先読予告バッファ194Cのバッファ番号に対応付けて、ターゲットの保留表示（当該第1始動入賞による保留表示）を特定する情報のみを記憶してもよい（保留変化演出を実行する旨を示す情報は記憶しなくてもよい）。

【0309】

S161の処理を実行した後は、演出制御用CPU120は、第1保留演出決定処理（S160）において決定した保留表示の表示態様（第1始動入賞時受信コマンドバッファ194Aにおける当該第1始動入賞のバッファ番号に対応する第1先読予告バッファ194Cのバッファ番号に対応付けて記憶された追加時表示態様）に基づいて、第1始動入賞記憶表示エリア5HLに新たな保留表示を追加する第1保留追加処理を実行する（S162）。より詳細には、演出制御用CPU120は、上述の第1先読予告バッファ194Cのバッファ番号に対応付けて記憶された追加時表示態様による保留表示を第1始動入賞記憶表示エリア5HLに表示させる演出制御パターンを使用パターンとしてセットするとともに、セットされた演出制御パターンに含まれる、表示制御データが指定する表示制御指令を表示制御部123のVDP等に対して伝送させること等により、第1保留演出決定処理において決定した追加時表示態様による保留表示を第1始動入賞記憶表示エリア5HLに追加する。そして、入賞時演出決定処理を終了する。

【0310】

S154において第2始動口入賞指定コマンドを受信していると判定し（S154；Yes）、図21のコマンド解析処理におけるS513の処理において時短であることが特定されている場合には（S156：YES）、第2保留演出決定処理を実行する（S163）。第2保留演出決定処理には、第2始動入賞記憶表示エリア5HRに追加表示させる際の保留表示の表示態様（追加時表示態様とも称する）を決定する処理が含まれている。なお、第2始動入賞記憶表示エリア5HRに追加表示させる際の保留表示に対する保留変化演出や保留変化ガセ演出を実行する場合には、当該ステップにおいて、保留変化演出、保留変化ガセ演出を実行するか否かを決定する処理や、保留演出を実行すると決定した場合に保留演出の実行タイミングを決定する処理等を行えばよい。

10

【0311】

なお、第2始動口入賞に係るS163、S164、S165の夫々の処理は、第1始動口入賞に係るS160、S161、S162の夫々の処理に係る処理と同様であり、各ステップにおける「第1」を「第2」と読み替え、当該読み替えに対応して符号を読み替えることが可能であるため、説明を省略する。

【0312】

S152で第1始動口入賞指定コマンドを受信していると判定し（S152；Yes）、図21のコマンド解析処理におけるS513の処理において時短であることが特定されている場合（S155：YES）、演出制御用CPU120は、第1始動入賞記憶表示エリア5HLに追加表示させる第1保留表示の表示態様を、初期色（白色）に決定し、第1始動入賞時受信コマンドバッファ194Aにおける当該記憶内容に対応するバッファ番号と同一のバッファ番号に対応付けて、白色の表示態様の第1保留表示を第1始動入賞記憶表示エリア5HLに追加する（S166）。そして、入賞時演出決定処理を終了する。

20

【0313】

また、S154で第2始動口入賞指定コマンドを受信していると判定し（S154；Yes）、図21のコマンド解析処理におけるS513の処理において時短ではないことが特定されている場合（S156：YES）、演出制御用CPU120は、第2始動入賞記憶表示エリア5HRに追加表示させる第2保留表示の表示態様を、通常表示（白色の玉）に決定し、第2始動入賞時受信コマンドバッファ194Bにおける当該記憶内容に対応するバッファ番号と同一のバッファ番号に対応付けて、通常表示（白色の玉）の表示態様の第2保留表示を第2始動入賞記憶表示エリア5HRに追加する（S166）。そして、入賞時演出決定処理を終了する。

30

【0314】

図22及び図23に示したS150の入賞時演出決定処理を実行した後は、例えば演出制御フラグ設定部191等に設けられた演出プロセスフラグの値に応じて、以下のようなS170～177の処理の何れかを選択して実行する。

【0315】

S170の可変表示開始待ち処理は、演出プロセスフラグの値が初期値である“0”のときに実行される処理である。この可変表示開始待ち処理は、主基板11から伝送された第1変動開始コマンド（又は第2変動開始コマンド）、変動パターン指定コマンド、可変表示結果通知コマンド等を受信したか否かに基づき、画像表示装置5における飾り図柄の可変表示を開始するか否かを判定する処理等を含んでいる。飾り図柄の可変表示を開始すると判定したときには、演出プロセスフラグの値を“1”に更新する。

40

【0316】

S171の可変表示開始設定処理は、演出プロセスフラグの値が“1”のときに実行される処理である。この可変表示開始設定処理は、第1特別図柄表示装置4Aや第2特別図柄表示装置4Bによる特図ゲームにおいて特別図柄の可変表示が開始されることに伴って、画像表示装置5における飾り図柄の可変表示やその他の各種演出動作を行うために特別図柄の変動パターンや表示結果の種類等に応じた確定飾り図柄を決定する処理や、第1保留表示又は第2保留表示をシフトさせてアクティブ表示エリアAHAに第1保留表示ま

50

たは第2保留表示に対応するアクティブ表示に応じた情報を表す特別画像を表示する処理、各種の演出や各種演出の演出態様（例えば、主予告演出であるアクティブ表示変化演出や、当該アクティブ表示変化演出の演出態様）を決定する処理等を含んでいる。その後、演出プロセスフラグの値を“2”に更新する。

【0317】

S172の可変表示中演出処理は、演出プロセスフラグの値が“2”のときに実行される処理である。この可変表示中演出処理において、演出制御用CPU120は、演出制御タイマ設定部192に設けられた演出制御プロセスタイマにおけるタイマ値に対応して、可変表示開始設定処理において決定された演出制御パターンに基づいて、各種の制御データを読出し、各種の演出制御（例えば、飾り図柄の可変表示中における飾り図柄の可変表示制御）を行う。具体的には、演出制御用CPU120は、読出した制御データに基づき、映像信号（演出画像）を画像表示装置5に出力して画面上に表示させる制御、演出音信号を音声制御基板13に出力してスピーカ8から演出音を出力させる制御、電飾信号をランプ制御基板14に出力してランプ9を点灯／消灯／点滅させる制御といった各種の演出制御を実行する。

【0318】

こうした演出制御を行った後、例えば演出制御パターンから飾り図柄の可変表示終了を示す終了コードが読出されたこと、あるいは、主基板11から伝送される図柄確定コマンドを受信したこと等に対応して、飾り図柄の可変表示結果となる最終停止図柄としての確定飾り図柄を完全停止表示させる。演出制御パターンから終了コードが読出されたことに対応して確定飾り図柄を完全停止表示させるようにすれば、変動パターン指定コマンドにより指定された変動パターンに対応する可変表示時間が経過したときに、主基板11からの演出制御コマンドによらなくても、演出制御基板12の側で自律的に確定飾り図柄を導出表示して可変表示結果を確定させることができる。確定飾り図柄を完全停止表示したときには、演出プロセスフラグの値を“3”に更新する。

【0319】

S173の特図当り待ち処理は、演出プロセスフラグの値が“3”のときに実行される処理である。この特図当り待ち処理において、演出制御用CPU120は、主基板11から伝送された当り開始指定コマンドの受信があったか否かを判定する。そして、当り開始指定コマンドを受信したきに、その当り開始指定コマンドが大当り遊技状態の開始を指定するものであれば、演出プロセスフラグの値を大当り中演出処理に対応した値である“6”に更新する。これに対して、当り開始指定コマンドを受信したときに、その当り開始指定コマンドが小当り遊技状態の開始を指定するものであれば、演出プロセスフラグの値を小当り中演出処理に対応した値である“4”に更新する。また、当り開始指定コマンドを受信せずに、演出制御プロセスタイマがタイムアウトしたときには、特図ゲームにおける特図表示結果が「ハズレ」であったと判定して、演出プロセスフラグの値を初期値である“0”に更新する。

【0320】

S174の小当り中演出処理は、演出プロセスフラグの値が“4”のときに実行される処理である。この小当り中演出処理において、演出制御用CPU120は、例えば小当り遊技状態における演出内容に対応した演出制御パターン等を設定し、その設定内容に基づいて、各種の制御データを読出し、S172の可変表示中演出処理と同様に、映像信号や演出音信号や電飾信号等を出力する等して、小当り遊技状態における各種の演出制御を実行する。また、小当り中演出処理では、例えば主基板11からの当り終了指定コマンドを受信したことに対応して、演出プロセスフラグの値を小当り終了演出に対応した値である“5”に更新する。

【0321】

S175の小当り終了演出処理は、演出プロセスフラグの値が“5”のときに実行される処理である。この小当り終了演出処理において、演出制御用CPU120は、例えば小当り遊技状態の終了等に対応した演出制御パターン等を設定し、その設定内容に基づいて

、各種の制御データを読み出し、S 1 7 2 の可変表示中演出処理と同様に、映像信号や演出音信号や電飾信号等を出力する等して、小当り遊技状態の終了時における各種の演出制御を実行する。その後、演出プロセスフラグの値を初期値である“ 0 ”に更新する。

【 0 3 2 2 】

S 1 7 6 の大当り中演出処理は、演出プロセスフラグの値が“ 6 ”のときに実行される処理である。この大当り中演出処理において、演出制御用 C P U 1 2 0 は、例えば大当り遊技状態における演出内容に対応した演出制御パターン等を設定し、その設定内容に基づいて、各種の制御データを読み出し、S 1 7 2 の可変表示中演出処理と同様に、映像信号や演出音信号や電飾信号等を出力する等して、大当り遊技状態における各種の演出制御を実行する。また、大当り中演出処理では、例えば主基板 1 1 からの当り終了指定コマンドを受信したことに対応して、演出プロセスフラグの値をエンディング演出処理に対応した値である“ 7 ”に更新する。

10

【 0 3 2 3 】

S 1 7 7 のエンディング演出処理は、演出プロセスフラグの値が“ 7 ”のときに実行される処理である。このエンディング演出処理において、演出制御用 C P U 1 2 0 は、例えば大当り遊技状態の終了等に対応した演出制御パターン等を設定し、その設定内容に基づいて、各種の制御データを読み出し、S 1 7 2 の可変表示中演出処理と同様に、映像信号や演出音信号や電飾信号等を出力する等して、大当り遊技状態の終了時における各種の演出制御を実行する。その後、演出プロセスフラグの値を初期値である“ 0 ”に更新する。

【 0 3 2 4 】

図 2 5 は、可変表示開始設定処理として、図 2 2 の S 1 7 1 で実行される処理の一例を示すフローチャートである。図 2 5 に示す可変表示開始設定処理において、演出制御用 C P U 1 2 0 は、まず、例えば主基板 1 1 から伝送された可変表示結果通知コマンドにおける E X T データを読み取ること等により、特図表示結果が「ハズレ」となるか否かを判定する (S 5 2 2) 。特図表示結果が「ハズレ」となる旨の判定がされたときには (S 5 2 2 ; Y e s) 、例えば主基板 1 1 から伝送された変動パターン指定コマンドにおける E X T データを読み取ること等により、指定された変動パターンが飾り図柄の可変表示態様を「非リーチ」とする場合に対応した非リーチ変動パターン (即ち、図 5 の「 P A 1 - 1 」 「 P A 2 - 1 」 「 P A 2 - 2 」 「 P A 2 - 3 」) であるか否かを判定する (S 5 2 3) 。

20

【 0 3 2 5 】

S 5 2 3 で非リーチ変動パターンであると判定された場合には (S 5 2 3 ; Y e s) 、非リーチ組合せを構成する最終停止図柄となる確定飾り図柄の組合せを決定する (S 5 2 4) 。一例として、S 5 2 4 の処理では、まず、演出制御カウンタ設定部 1 9 3 に設けられたランダムカウンタ等により更新される左確定図柄決定用の乱数値を示す数値データを抽出し、R O M 1 2 1 等に予め記憶された所定の左確定図柄決定テーブルを参照すること等により、確定飾り図柄のうち画像表示装置 5 の表示領域における「左」の飾り図柄表示エリア 5 L に停止表示される左確定飾り図柄を決定する。

30

【 0 3 2 6 】

次に、演出制御カウンタ設定部 1 9 3 に設けられたランダムカウンタ等により更新される右確定図柄決定用の乱数値を示す数値データを抽出し、R O M 1 2 1 等に予め記憶された所定の右確定図柄決定テーブルを参照すること等により、確定飾り図柄のうち画像表示装置 5 の表示領域における「右」の飾り図柄表示エリア 5 R に停止表示される右確定飾り図柄を決定する。このときは、右確定図柄決定テーブルにおける設定等により、右確定飾り図柄の図柄番号が左確定飾り図柄の図柄番号とは異なるように決定されるとよい。続いて、演出制御カウンタ設定部 1 9 3 に設けられたランダムカウンタ等により更新される中確定図柄決定用の乱数値を示す数値データを抽出し、R O M 1 2 1 等に予め記憶された所定の中確定図柄決定テーブルを参照すること等により、確定飾り図柄のうち画像表示装置 5 の表示領域における「中」の飾り図柄表示エリア 5 C に停止表示される中確定飾り図柄を決定する。なお、S 5 2 4 の処理では、変動図柄予告を実行中である場合に対応して、所定のチャンス目図柄となる非リーチ組合せの確定飾り図柄を決定すればよい。

40

50

【0327】

S523で非リーチ変動パターンではないと判定された場合には（S523；No）、リーチ組合せを構成する最終停止図柄となる確定飾り図柄の組合せを決定する（S525）。一例として、S525の処理では、まず、演出制御カウンタ設定部193に設けられたランダムカウンタ等により更新される左右確定図柄決定用の乱数値を示す数値データを抽出し、ROM121等に予め記憶された所定の左右確定図柄決定テーブルを参照すること等により、確定飾り図柄のうち画像表示装置5の表示領域における「左」と「右」の飾り図柄表示エリア5L、5Rで揃って停止表示される図柄番号が同一の飾り図柄を決定する。さらに、演出制御カウンタ設定部193に設けられたランダムカウンタ等により更新される中確定図柄決定用の乱数値を示す数値データを抽出し、ROM121等に予め記憶された所定の中確定図柄決定テーブルを参照すること等により、確定飾り図柄のうち画像表示装置5の表示領域における「中」の飾り図柄表示エリア5Cで停止表示される中確定飾り図柄を決定する。

【0328】

ここで、例えば中確定飾り図柄の図柄番号が左確定飾り図柄及び右確定飾り図柄の図柄番号と同一になる場合のように、確定飾り図柄が大当たり組合せとなってしまう場合には、任意の値（例えば「1」）を中確定飾り図柄の図柄番号に加算又は減算すること等により、確定飾り図柄が大当たり組合せとはならずリーチ組合せとすればよい。あるいは、中確定飾り図柄を決定するときには、左確定飾り図柄及び右確定飾り図柄の図柄番号との差分（図柄差）を決定し、その図柄差に対応する中確定飾り図柄を設定してもよい。

【0329】

S522で特図表示結果が「ハズレ」ではないと判定されたときには（S522；No）、特図表示結果が「大当たり」で大当たり種別が「突確」である場合、又は、特図表示結果が「小当たり」である場合であるか、これら以外の場合であるかを判定する（S526）。「突確」又は「小当たり」であると判定されたときには（S526；Yes）、例えば開放チャンス目といった、「突確」の場合や「小当たり」の場合に対応した最終停止図柄となる確定飾り図柄の組合せを決定する（S527）。この場合には、演出制御カウンタ設定部193に設けられたランダムカウンタ等により更新されるチャンス目決定用の乱数値を示す数値データを抽出し、ROM121等に予め記憶された所定のチャンス目決定テーブルを参照すること等により、開放チャンス目の何れかを構成する確定飾り図柄の組合せを決定すればよい。

【0330】

S526で「突確」又は「小当たり」以外の「非確変」又は「確変」であると判定されたときには（S526；No）、大当たり組合せを構成する最終停止図柄となる確定飾り図柄の組合せを決定する（S528）。一例として、S528の処理では、まず、演出制御カウンタ設定部193のランダムカウンタ等により更新される大当たり確定図柄決定用の乱数値を示す数値データを抽出し、続いてROM121等に予め記憶された所定の大当たり確定図柄決定テーブルを参照すること等により、画像表示装置5の画面上で「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rに揃って停止表示される図柄番号が同一の飾り図柄を決定する。このときには、大当たり種別が「非確変」、「確変」のいずれであるかや、大当たり中における昇格演出の有無等に応じて、異なる飾り図柄を確定飾り図柄とする決定が行われてもよい。

【0331】

具体的な一例として、大当たり種別が「非確変」である場合には、複数種類の通常図柄のうち何れか1つの飾り図柄を選択して、非確変大当たり組合せを構成する確定飾り図柄に決定すればよい。また、大当たり種別が「確変」である場合には、複数種類の通常図柄又は確変図柄のうちから何れか1つの飾り図柄を選択して、非確変大当たり組合せ又は確変大当たり組合せを構成する確定飾り図柄に決定すればよい。このとき、非確変大当たり組合せの確定飾り図柄に決定された場合には、可変表示中の再抽選演出において確変状態に制御される旨の報知が行われず、大当たり遊技状態に対応して実行される大当たり中昇格演出等により確

変状態に制御される旨が報知されればよい。他方、確変大当り組合せの確定飾り図柄に決定された場合には、可変表示中の再抽選演出において、あるいは再抽選演出を実行することなく、確変状態に制御される旨の報知が行われる。

【0332】

図21のコマンド解析処理におけるS513の処理において時短ではないことが特定されている場合(S155:NO)、S524、S525、S527、S528の処理の何れかを実行した後は、保留消化処理を実行する(S531)。具体的には、当該変動に対応するアクティブ表示をアクティブ表示エリアAHAに表示させる(換言すれば、当該変動に対応するアクティブ表示を含む特別画像を表示させる)。例えば、第1特図ゲームと連動して飾り図柄の変動を開始するときには(今回の飾り図柄の可変表示が第1特図ゲームに連動したものであるときは)、第1始動入賞記憶表示エリア5HLの右端に表示されている保留表示に対応するアクティブ表示をアクティブ表示エリアAHAに表示させる(第1始動入賞記憶表示エリア5HLの右端に表示されている保留表示に対応するアクティブ表示を含む特別画像を表示させる)。より詳細には、演出制御用CPU120は、第1始動入賞記憶表示エリア5HLの右端に表示されている保留表示に対応するアクティブ表示をアクティブ表示エリアAHAに移動させてアクティブ表示を表示させる演出制御パターンを使用パターンとしてセットするとともに、セットされた演出制御パターンに含まれる、表示制御データが指定する表示制御指令を表示制御部123のVDP等に対して伝送させること等により、第1始動入賞記憶表示エリア5HLの右端に表示されている保留表示に対応するアクティブ表示をアクティブ表示エリアAHAに表示させる。なお、アクティブ表示エリアAHAにおけるアクティブ表示は、保留表示と同じ態様で表示してもよく、保留表示に対応するが保留表示とは異なる表示態様で表示されてもよい。第2特図ゲームと連動して飾り図柄の変動を開始するときも同様である。

【0333】

また、S531の処理では、演出制御用CPU120は、第1始動入賞記憶表示エリア5HLにおいて、消化する保留表示(アクティブ表示)の他に保留表示があるときは、当該他の保留表示を第1始動入賞記憶表示エリア5HLにおいてシフトし、第2始動入賞記憶表示エリア5HRにおいて、アクティブ表示の他に保留表示があるときは、当該他の保留表示を第2始動入賞記憶表示エリア5HRにおいてシフトする。

【0334】

S531の処理を実行した後は、演出実行設定処理を実行する(S532)。演出実行設定処理には、当該変動に対応するアクティブ表示に対するアクティブ表示変化演出を実行するか否かを決定する処理、実行するときのアクティブ表示変化演出の種類を決定する処理、実行するときのアクティブ表示変化演出の演出態様を決定する処理、実行するときのアクティブ表示変化演出の実行タイミングを決定する処理、これらの決定結果に基づいて演出制御パターンを設定(又は、再設定)する処理等が含まれている。詳細は後述する。

【0335】

S532の処理を実行した後は、その他の可変表示中における演出の実行設定を行う(S533)。一例として、S533の処理では、大当り告知音や大当り告知発光によって可変表示結果が「大当り」となることを直ちに告知(確定的に報知)する「一発告知演出」の実行設定を行ってもよい。大当り告知音の一例は、アラーム音、チャイム音、サイレン音等である。大当り告知発光の一例は、発光部材9CCを構成するフラッシュランプの発光等である。また、S533の処理では、可変表示結果が「大当り」となるか否かにかかわらず、例えば賑やかしのために所定態様の演出が実行されるように設定してもよい。例えば、所定のランプ9(例えば、発光部材9SL、9SR)が発光するような態様の演出が実行されるように設定してもよい。

【0336】

S533の処理を実行した後は、例えば変動パターン指定コマンドにより指定された変動パターンに対応して、演出制御タイマ設定部192に設けられた演出制御プロセスタ

イマの初期値を設定する（S 5 3 4）。続いて、画像表示装置 5 における飾り図柄等の変動を開始させるための設定を行う変動表示等開始設定処理を実行する（S 5 3 5）。例えば、S 5 3 2 の演出実行設定処理において使用パターンとしてセットされた演出制御パターンに含まれる、表示制御データが指定する表示制御指令を表示制御部 1 2 3 の V D P 等に対して伝送させること等により画像表示装置 5 の画面上で飾り図柄の変動を開始させるための設定や、上記演出制御パターンに含まれる音声制御データが指定する演出音信号を音声制御基板 1 3 に伝送すること等によりスピーカ 8 における音声出力を開始させるための設定や、上記演出制御パターンに含まれるランプ制御データが指定する電飾信号をランプ制御基板 1 4 に対して伝送させること等によりランプ 9 における発光を開始させるための設定を行う。

10

【0 3 3 7】

S 5 3 5 の処理を実行した後は、第 1 始動入賞時受信コマンドバッファ 1 9 4 A または第 2 始動入賞時受信コマンドバッファ 1 9 4 B に格納されているコマンドを消化する（S 5 3 6）。具体的には、演出制御用 C P U 1 2 0 は、第 1 特図ゲームに連動して飾り図柄の可変表示が開始されるときには、第 1 始動入賞時受信コマンドバッファ 1 9 4 A に対応付けられたコマンドのうち最も小さいバッファ番号に対応した領域に格納されたコマンド（1 セット）を削除するとともに、削除されたコマンドのバッファ番号よりも大きいバッファ番号に対応した領域に格納されているコマンド（第 1 始動口入賞指定コマンドに対応付けられたコマンドを、入賞順を維持しつつシフトする。第 2 特図ゲームに連動して飾り図柄の可変表示が開始されるときには、第 2 始動入賞時受信コマンドバッファに格納されているコマンドのうち最も小さいバッファ番号に対応した領域に格納されたコマンド（1 セット）を削除するとともに、削除されたコマンドのバッファ番号よりも大きいバッファ番号に対応した領域に格納されているコマンドを、入賞順を維持しつつシフトする。

20

【0 3 3 8】

また、S 5 3 6 の処理では、コマンドの削除やシフトに応じて、R A M 1 2 2 等に設けられる第 1 先読予告バッファ 1 9 4 C または第 2 先読予告バッファ 1 9 4 D に格納されている情報の削除やシフトも行われる。その後、演出プロセスフラグの値を可変表示中演出処理に対応した値である“2”に更新してから（S 5 3 7）、可変表示開始設定処理を終了する。

【0 3 3 9】

ここで、演出実行設定処理（S 5 3 2）について詳述する。まず、当該変動に対応するアクティブ表示に対するアクティブ表示変化演出を実行するか否かを決定する処理、およびアクティブ表示変化演出を実行すると決定したときのアクティブ表示変化演出の種類を決定する処理（どのアクティブ表示変化演出を実行するかを決定する処理）について説明する。

30

【0 3 4 0】

図 2 6 は、アクティブ表示変化演出実行有無決定テーブルによる決定割合の設定例を示す図である。当該設定例は、アクティブ表示変化演出を実行するか否かや、アクティブ表示変化演出の種類（どのアクティブ表示変化演出を実行するか）を実行するときのアクティブ表示変化演出の演出態様の決定割合の設定例である。アクティブ表示変化演出実行有無決定テーブルには、アクティブ表示変化演出の実行有無決定用の乱数値 M R 7（非図示）と比較される数値（決定値）が、「実行有」と、「実行無」との夫々に、図 2 6 に示すような決定割合で割当てられている。また、このアクティブ表示変化演出実行有無決定テーブルの「実行有」には、決定用の乱数値 M R 7（非図示）と比較される数値（決定値）が、「第 1 系統変化演出」と、「第 2 系統変化演出」と、「第 1 系統変化演出および第 2 系統変化演出」とのそれぞれに、図 2 6 に示すような決定割合で割当てられている。また、第 1 系統変化演出には、演出態様が類似する複数種類の演出態様が含まれる。第 2 系統変化演出には、演出態様が類似する複数種類の演出態様が含まれる。具体的には、第 1 系統変化演出は、アクティブ表示の表示態様に作用する演出であり、第 2 系統変化演出は、アクティブ表示枠の表示態様に作用する演出であり、第 1 系統変化演出と第 2 系統変化演

40

50

出とで作用する対象が異なる。

【0341】

なお、「実行有」「第1系統変化演出」は、第1系統変化演出をアクティブ表示変化演出として行う旨を表し、「実行有」「第2系統変化演出」は、第2系統変化演出をアクティブ表示変化演出として行う旨を表し、「実行有」「第1系統変化演出および第2系統変化演出」は、第1系統変化演出と第2系統変化演出との両方の変化演出をアクティブ表示変化演出として行う旨を表す。また、「実行無」は、アクティブ表示変化演出を行わない旨を表している。また、変動パターン1-Xは、図5に示す変動パターンPA1-1を表し、変動パターンPA2-Xは、図5に示す変動パターンPA2-1、PA2-2、PA2-3のいずれかを表し、変動パターンPA3-Xは、図5に示す変動パターンPA3-1、PA3-2のいずれかを表し、変動パターンPA4は、図5に示す変動パターンPA4-1、PA4-2、PA4-3、PA4-4のいずれかを表す。変動パターンPA5-X、PB4-X、PB5-Xについても同様である。

10

【0342】

図26によれば、変動パターン指定コマンドにより指定された当該変動（当該可変表示）の変動パターン（可変表示パターン）が、変動パターンPA1-X、PA2-Xである場合、「実行無」が100%であり、第1系統変化演出、第2系統変化演出のいずれも実行しないことを表している。つまり、当該変動が非リーチ（ハズレ）であるときには、アクティブ表示変化演出を実行しないことを表している。

20

【0343】

また、変動パターン指定コマンドにより指定された当該変動の変動パターンが、変動パターンPB3-X、PB4-X、PB5-Xである場合には、変動パターンPA3-X、PA4-X、PA5-Xである場合に比べて、「実行無」が決定される割合が低い。つまり、当該変動において「大当たり」となるときにアクティブ表示変化演出が実行される割合は、当該変動において「ハズレ」となるときにアクティブ表示変化演出が実行される割合よりも高い。即ち、アクティブ表示変化演出が実行されたときは、アクティブ表示変化演出が実行されないときに比べ、「大当たり」となる期待度が高い。

【0344】

また、変動パターン指定コマンドにより指定された当該変動の変動パターンが変動パターンPB3-X、PB4-X、PB5-Xである場合には、変動パターンPA3-X、PA4-X、PA5-Xである場合に比べて、「実行有」が決定されるときにおける「第1系統変化演出および第2系統変化演出」が決定される割合が高い。例えば、変動パターンPB3-Xである場合において「実行有」が決定されるときにおける「第1系統変化演出および第2系統変化演出」が決定される割合は約57%（ $40 \div 70$ ）であるのに対し、変動パターンPA3-Xである場合において「実行有」が決定されるときにおける「第1系統変化演出および第2系統変化演出」が決定される割合は約33%（ $10 \div 30$ ）である。あるいは、より詳細には、変動パターン指定コマンドにより指定された当該変動の変動パターンが、変動パターンPA3-X～PA5-Xのいずれであるか変動パターンPB3-X～PB5-Xのいずれであるかによる「第1系統変化演出および第2系統変化演出」が決定される割合の差（または比率）は、変動パターン指定コマンドにより指定された当該変動の変動パターンが、変動パターンPA3-X～PA5-Xのいずれであるか変動パターンPB3-X～PB5-Xのいずれであるかによる「第1系統変化演出」又は「第2系統変化演出」が決定される割合の差よりも大きい。例えば、変動パターンPB3-Xであるときに「第1系統変化演出および第2系統変化演出」が決定される割合と変動パターンPA3-Xであるときに「第1系統変化演出および第2系統変化演出」が決定される割合との差は30%（ $40\% - 10\%$ ）であるのに対し、変動パターンPB3-Xであるときに「第1系統変化演出」が決定される割合と変動パターンPA3-Xであるときに「第1系統変化演出」が決定される割合との差は5%（ $15\% - 10\%$ ）である。即ち、第1系統変化演出および第2系統変化演出が実行されたときは、そうでないときに比べ、「大当たり」となる期待度が高い。

30

40

50

【0345】

また、変動パターン指定コマンドにより指定された当該変動の変動パターンが変動パターンPA4-X、PA5-X、PB4-X、PB5-Xである場合には、変動パターンPA3-X、PB3-Xである場合に比べて、「実行無」が決定される割合が低い。つまり、当該変動においてスーパーリーチとなるときにアクティブ表示変化演出が実行される割合は、当該変動においてノーマルリーチとなるときにアクティブ表示変化演出が実行される割合よりも高い。即ち、アクティブ表示変化演出が実行されたときは、アクティブ表示変化演出が実行されないときに比べ、スーパーリーチとなる期待度が高い。

【0346】

同様に、第1系統変化演出および第2系統変化演出が実行されたときは、そうでないときに比べ、スーパーリーチとなる期待度が高い。

10

【0347】

すなわち、演出実行設定処理(S532)において、演出制御用CPU120は、アクティブ表示変化演出実行有無決定テーブルとアクティブ表示変化演出の実行有無決定用の乱数値MR7と、変動パターン指定コマンドにより指定された当該変動(当該可変表示)の変動パターン(可変表示パターン)とにより、アクティブ表示変化演出を実行するか否か、アクティブ表示変化演出を実行する場合には、複数のアクティブ表示変化演出の演出態様のうち、いずれのアクティブ表示変化演出を実行するかを決定する。

【0348】

なお、演出制御用CPU120は、先ずアクティブ表示変化演出の実行有無を決定し、「実行有」と決定したときには「第1系統変化演出」か「第2系統変化演出」か「第1系統変化演出および第2系統変化演出」の何れかを決定してもよい。

20

【0349】

次に、アクティブ表示変化演出を実行するアクティブ表示(変動)である場合に、実行するアクティブ表示変化演出の演出態様を決定する処理について説明する。図27(A)は、アクティブ表示変化演出として第1系統変化演出を実行する時の第1系統変化演出の演出態様の決定割合の設定例を示す図である。図27(B)は、アクティブ表示変化演出として第2系統変化演出を実行する時の第2系統変化演出の演出態様の決定割合の設定例を示す図である。また、図27(C)は、アクティブ表示変化演出として第1系統変化演出および第2系統変化演出の両方を実行する時の第1系統変化演出および第2系統変化演出の演出態様の決定割合の設定例を示す図である。

30

【0350】

図示する例において、変動パターン1-Xは、図5に示す変動パターンPA1-1を表し、変動パターンPA2-Xは、図5に示す変動パターンPA2-1、PA2-2、PA2-3のいずれかを表し、変動パターンPA3-Xは、図5に示す変動パターンPA3-1、PA3-2のいずれかを表し、変動パターンPA4は、図5に示す変動パターンPA4-1、PA4-2、PA4-3、PA4-4のいずれかを表す。変動パターンPA5-X、PB4-X、PB5-Xについても同様である。

【0351】

なお、ROM121には、図5に示した24種類の変動パターンに応じた4種類の第1系統変化演出の演出態様としてのアクティブ表示変化演出パターンが記憶されているものとする。また、ROM21には、図5に示した24種類の変動パターンに応じた3種類の第2系統変化演出の演出態様としてのアクティブ表示変化演出パターンが記憶されているものとする。また、ROM21には、図5に示した24種類の変動パターンに応じた12種類の第1系統変化演出および第2系統変化演出の演出態様としてのアクティブ表示変化演出パターンが記憶されているものとする。

40

【0352】

第1系統変化演出は、アクティブ表示を対象としてアクティブ表示の表示態様の变化を煽る作用演出であり、例えば、アクティブ表示の表示形状の変化を煽る作用演出である。図27(A)において、アクティブ表示変化演出パターン「BP1」は、デフォルトとし

50

て、当該変動に対応するアクティブ表示の表示形状が「球」であるものとする、アクティブ表示の表示形状を「球」のまま変化させない失敗演出（アクティブ表示変化ガセ演出）の演出パターンである。図示する例によれば、熱くないリーチ（例えば、ノーマルリーチ）となるときは、熱いリーチ（例えば、スーパーリーチ）となるときと比べて、決定割合が高い。また、変動パターンが「ハズレ」となるとき（例えば、変動パターン P A 3 - 1）は、「大当たり」となる変動パターン（例えば、変動パターン P B 3 - 1）と比べて、決定割合が高い。

【0353】

また、アクティブ表示変化演出パターン「B P 2」は、当該変動に対応するアクティブ表示の表示形状を、デフォルトの表示形状である「球」から「三角形」のアクティブ表示の表示形状に変化させる成功演出の演出パターンである。図示する例によれば、変動パターンが「ハズレ」となるとき（例えば、変動パターン P A 4 - 1）は、「大当たり」となる変動パターン（例えば、変動パターン P B 4 - 1）と比べて、決定割合が高い。また、熱いリーチ（例えば、スーパーリーチ）となるときは、熱くないリーチ（例えば、ノーマルリーチ）となるときと比べて、決定割合が高い。

【0354】

また、アクティブ表示変化演出パターン「B P 3」は、当該変動に対応するアクティブ表示の表示形状を、デフォルトの表示形状である「球」から「五角形」のアクティブ表示の表示形状に変化させる成功演出の演出パターンである。図示する例によれば、変動パターンが「大当たり」となるとき（例えば、変動パターン P B 3 - 1）は、「ハズレ」となる変動パターン（例えば、変動パターン P A 3 - 1）と比べて、決定割合が高い。また、熱いリーチ（例えば、スーパーリーチ）となるときは、熱くないリーチ（例えば、ノーマルリーチ）となるときと比べて、決定割合が高い。

【0355】

また、アクティブ表示変化演出パターン「B P 4」は、当該変動に対応するアクティブ表示の表示形状を、デフォルトの表示形状である「球」から「星」のアクティブ表示の表示形状に変化させる成功演出の演出パターンである。図示する例によれば、熱いリーチ（例えば、スーパーリーチ）となるときは、熱くないリーチ（例えば、ノーマルリーチ）となるときと比べて、決定割合が高い。また、変動パターンが「大当たり」となるとき（例えば、変動パターン P B 5 - 1）は、「ハズレ」となる変動パターン（例えば、変動パターン P A 5 - 1）と比べて、決定割合が高い。

【0356】

第2系統変化演出は、アクティブ表示枠を対象としてアクティブ表示枠の表示態様の变化を煽る作用演出であり、例えば、アクティブ表示枠の線の太さの変化を煽る作用演出である。図27(B)において、アクティブ表示変化演出パターン「C P 1」は、デフォルトとして、当該変動に対応するアクティブ表示を囲うアクティブ表示枠の線の太さが「通常」であるものとする、アクティブ表示枠の線の太さを「通常」のまま変化させない失敗演出（アクティブ表示変化ガセ演出）の演出パターンである。図示する例によれば、熱くないリーチ（例えば、ノーマルリーチ）となるときは、熱いリーチ（例えば、スーパーリーチ）となるときと比べて、決定割合が高い。また、変動パターンが「ハズレ」となるとき（例えば、変動パターン P A 3 - 1）は、「大当たり」となる変動パターン（例えば、変動パターン P B 3 - 1）と比べて、決定割合が高い。

【0357】

また、アクティブ表示変化演出パターン「C P 2」は、アクティブ表示を囲うアクティブ表示枠の線の太さを「通常」から「中太」に変化させる成功演出の演出パターンである。図示する例によれば、変動パターンが「ハズレ」となるとき（例えば、変動パターン P A 4 - 1）は、「大当たり」となる変動パターン（例えば、変動パターン P B 4 - 1）と比べて、決定割合が高い。また、熱いリーチ（例えば、スーパーリーチ）となるときは、熱くないリーチ（例えば、ノーマルリーチ）となるときと比べて、決定割合が高い。

【0358】

また、アクティブ表示変化演出パターン「C P 3」は、当該変動に対応するアクティブ表示を囲うアクティブ表示枠の線の太さを「通常」から「極太」に変化させる成功演出の演出パターンである。図示する例によれば、変動パターンが「大当たり」となるとき（例えば、変動パターン P B 3-1）は、「ハズレ」となる変動パターン（例えば、変動パターン P A 3-1）と比べて、決定割合が高い。また、熱いリーチ（例えば、スーパーリーチ）となるときは、熱くないリーチ（例えば、ノーマルリーチ）となるときと比べて、決定割合が高い。

【0359】

第1系統変化演出および第2系統変化演出は、上述の第1系統変化演出により、アクティブ表示の表示態様の变化を煽る作用演出と、上述の第2系統変化演出により、アクティブ表示を囲うアクティブ表示枠の表示態様の变化を煽る作用演出と、の両方を行う作用演出である。図27(C)において、アクティブ表示変化演出パターン「A P 1」は、デフォルトとして、当該変動に対応するアクティブ表示の表示形状が「球」であり、かつアクティブ表示を囲うアクティブ表示枠の線の太さが「通常」であるものとする、アクティブ表示の表示形状を「球」のまま、かつアクティブ表示枠の線の太さを「通常」のまま変化させない失敗演出（アクティブ表示変化ガセ演出）の演出パターンである。図示する例によれば、熱くないリーチ（例えば、ノーマルリーチ）となるときは、熱いリーチ（例えば、スーパーリーチ）となるときと比べて、決定割合が高い。また、変動パターンが「ハズレ」となるとき（例えば、変動パターン P A 3-1）は、「大当たり」となる変動パターン（例えば、変動パターン P B 3-1）と比べて、決定割合が高い。

【0360】

また、アクティブ表示変化演出パターン「A P 2」は、アクティブ表示の表示形状を「球」のまま、かつアクティブ表示を囲うアクティブ表示枠の線の太さを「通常」から「中太」に変化させる成功演出の演出パターンである。図示する例によれば、変動パターンが「ハズレ」となるとき（例えば、変動パターン P A 4-1）は、「大当たり」となる変動パターン（例えば、変動パターン P B 4-1）と比べて、決定割合が高い。また、熱くないリーチ（例えば、ノーマルリーチ）となるときは、熱いリーチ（例えば、スーパーリーチ）となるときと比べて、決定割合が高い。

【0361】

また、アクティブ表示変化演出パターン「A P 3」は、アクティブ表示の表示形状を「球」のまま、かつアクティブ表示を囲うアクティブ表示枠の線の太さを「通常」から「極太」に変化させる成功演出の演出パターンである。変動パターンが「大当たり」となるとき（例えば、変動パターン P B 3-1）は、「ハズレ」となる変動パターン（例えば、変動パターン P A 3-1）と比べて、決定割合が高い。また、熱いリーチ（例えば、スーパーリーチ）となるときは、熱くないリーチ（例えば、ノーマルリーチ）となるときと比べて、決定割合が高い。

【0362】

アクティブ表示変化演出パターン「A P 4」は、アクティブ表示の表示形状を「三角形」に変化させ、アクティブ表示枠の線の太さを「通常」のまま変化させない演出態様の演出パターンであり、アクティブ表示変化演出パターン「A P 5」は、アクティブ表示の表示形状を「三角形」に変化させ、アクティブ表示枠の線の太さを「中太」に変化させる演出態様の演出パターンであり、アクティブ表示変化演出パターン「A P 6」は、アクティブ表示の表示形状を「三角形」に変化させ、アクティブ表示枠の線の太さを「極太」に変化させる演出態様の演出パターンである。

【0363】

また、アクティブ表示変化演出パターン「A P 7」は、アクティブ表示の表示形状を「五角形」に変化させ、アクティブ表示枠の線の太さを「通常」のまま変化させない演出態様の演出パターンであり、アクティブ表示変化演出パターン「A P 8」は、アクティブ表示の表示形状を「五角形」に変化させ、アクティブ表示枠の線の太さを「中太」に変化させる演出態様の演出パターンであり、アクティブ表示変化演出パターン「A P 9」は、ア

クティブ表示の表示形状を「五角形」に変化させ、アクティブ表示枠の線の太さを「極太」に変化させる演出態様の演出パターンである。

【0364】

また、アクティブ表示変化演出パターン「AP10」は、アクティブ表示の表示形状を「星」に変化させ、アクティブ表示枠の線の太さを「通常」のまま変化させない演出態様の演出パターンであり、アクティブ表示変化演出パターン「AP11」は、アクティブ表示の表示形状を「星」に変化させ、アクティブ表示枠の線の太さを「中太」に変化させる演出態様の演出パターンであり、アクティブ表示変化演出パターン「AP12」は、アクティブ表示の表示形状を「星」に変化させ、アクティブ表示枠の線の太さを「極太」に変化させる演出態様の演出パターンである。

10

【0365】

即ち、演出実行設定処理（S532）において、演出制御用CPU120は、アクティブ表示変化演出パターン決定用の乱数値MR8と、変動パターン指定コマンドにより指定された当該変動（当該可変表示）の変動パターン（可変表示パターン）とにより、アクティブ表示変化演出を実行する場合のアクティブ表示変化演出の演出態様としてアクティブ表示変化演出パターンを決定する。

【0366】

次に、当該変動におけるアクティブ表示変化演出を実行するタイミングを決定する処理について説明する。図28は、第1系統変化演出実行時の演出実行タイミング決定テーブルによる決定割合の設定例を示す図である。なお、ROM121には、第1系統変化演出の演出実行タイミングとして図5に示した24種類の変動パターンに応じて複数（例えば4つ）の第1系統変化演出の実行タイミングが記憶されているものとする。タイミング1とは、例えば、当該変動の変動開始時に第1系統変化演出を実行するタイミングであり、タイミング2とは、擬似連変動時に第1系統変化演出を実行するタイミングであり、タイミング3とは、当該変動におけるリーチ成立時に第1系統変化演出を実行するタイミングであり、タイミング4とは、当該変動におけるリーチ成立後（リーチ中）に第1系統変化演出を実行するタイミングである。擬似連変動時とは、例えば、変動中の可変表示が仮停止したときのことである。

20

【0367】

また、「成功期待度「小」」に分類される変動パターンPA3-1、PA3-2は、成功演出が実行される期待度が「小」であることを表し、「成功期待度「中」」に分類される変動パターンPA4-1～PA4-4、PA5-1～PA5-4は、成功演出が実行される期待度が上記の成功期待度「小」よりも高い「中」であることを表す。また、「成功期待度「大」」に分類される変動パターンPB3-1、PB3-2は、成功演出が実行される期待度が成功期待度「中」よりも高い「大」であることを表し、「成功期待度「最大」」に分類される変動パターンPB4-1～PB4-4、PB5-1～PB5-4は、成功演出が実行される期待度が上記の成功期待度「大」よりも高い「最大」であることを表す。

30

【0368】

具体的には、図27において、変動パターンPA3-1、PA3-2は、第1系統変化演出の失敗演出であるアクティブ表示変化演出パターンBP1や、第2系統変化演出の失敗演出であるアクティブ表示変化演出パターンCP1や、第1系統変化演出および第2系統変化演出の失敗演出であるアクティブ表示変化演出パターンAP1に決定される割合が、その他のアクティブ表示変化演出パターンに決定される割合と比べて高くなっており、成功演出が実行され得る成功期待度が低く、上述のように「成功期待度「小」」に分類される。

40

【0369】

また、図27において、変動パターンPA3-1、PA3-2以外の変動パターンPA4-1～PA4-4、PA5-1～PA5-4、PB3-1～PB3-2、PB4-1～PB4-4、PB5-1～PB5-4では、第1系統変化演出の成功演出であるアクティ

50

ブ表示変化演出パターンBP2～BP4や、第2系統変化演出の成功演出であるアクティブ表示変化演出パターンCP2～CP3や、第1系統変化演出および第2系統変化演出の成功演出であるアクティブ表示変化演出パターンAP2～AP12に決定される割合が、その他のアクティブ表示変化演出パターンに決定される割合と比べて高くなっており、成功演出が実行され得る成功期待度が変動パターンPA3-1、PA3-2と比べて高い。即ち、図27に示すような変動パターンにより、成功演出が実行され得る期待度が高い。

【0370】

図示する例では、変動パターン指定コマンドにより指定された当該変動（当該可変表示）の変動パターン（可変表示パターン）が、擬似連変動ではない変動パターンPA3-1、PA4-1、PA4-2、PA5-1、PA5-2、PB3-1、PB4-1、PB4-2、PB5-1、PB5-2では、タイミング2では第1系統変化演出が実行されないことを表している。図28によれば、熱いリーチ（例えば、スーパーリーチ）となるときは、熱くないリーチ（例えば、ノーマルリーチ）となるときと比べて、早いタイミング（例えばタイミング1）に決定される決定割合が高い。また、「大当たり」となる変動パターンである場合には、「ハズレ」となる変動パターンと比べて第1系統変化演出の遅いタイミング（例えば、タイミング4）に決定される決定割合が高い。また、リーチ成立後（例えば、タイミング3、タイミング4）は、リーチ成立前（例えば、タイミング1、タイミング2）よりも成功演出の期待度が高い。また、擬似連変動における可変表示の仮停止後（例えば、タイミング3、タイミング4）は、擬似連変動における可変表示の仮停止前（例えば、タイミング1）よりも成功演出の期待度が高い。

【0371】

即ち、演出実行設定処理（S532）において、演出制御用CPU120は、アクティブ表示変化演出の事項タイミング決定用の乱数値MR9と、変動パターン指定コマンドにより指定された当該変動（当該可変表示）の変動パターン（可変表示パターン）とにより、アクティブ表示変化演出を実行する場合のアクティブ表示変化演出の実行タイミングを決定する。

【0372】

なお、タイミング2において、擬似連変動における可変表示の仮停止回数に応じて例えば、1回目の再可変表示の開始時または2回目の再可変表示の開始時の様に、再可変表示の開始直後を第1系統変化演出の実行タイミングとして決定してもよく、複数回の擬似連変動において、複数回の実行タイミングで第1系統変化演出の実行タイミングを決定してもよい。また、擬似連変動時のタイミング2は、リーチ成立後であってもよく、例えば、図28におけるリーチ成立時のタイミング3の後に、擬似連変動時のタイミング2を設定するように実行タイミングを設定してもよく、4つのタイミングを含む複数のタイミングを第1系統変化演出の実行タイミングとして設定してもよい。

【0373】

また、図27に示したアクティブ表示変化演出として第1系統変化演出を実行する時の第1系統変化演出の演出態様の決定割合の設定例と図28に示した第1系統変化演出の実行タイミングとを対応付けて1つのテーブルとして、ROM121が記憶していてもよい。なお、第2系統変化演出の実行タイミングや、第1系統変化演出と第2系統変化演出と両方を実行する実行タイミングも同様である。

【0374】

なお、第2系統変化演出の実行タイミング決定テーブルによる決定割合の設定例（非図示）は、図28に示すような第1系統変化演出実行時の演出実行タイミング決定テーブルによる決定割合の設定例と同一でもよく、第1系統変化演出実行時の演出実行タイミング決定テーブルによる決定割合の設定例とは異なる第2系統変化演出の実行タイミング決定テーブルによる決定割合の設定例でもよい。

【0375】

なお、図26において「第1系統変化演出および第2系統変化演出」を実行すると決定された場合に、第1系統変化演出と第2系統変化演出との実行タイミングを図28に示す

ような演出実行タイミング決定テーブルによる決定割合の設定例を用いて、第1系統変化演出と第2系統変化演出とを同タイミングで実行するように一括で決定してもよく、第1系統変化演出と第2系統変化演出とのそれぞれの実行タイミングが異なる実行タイミングとなることもあるように一括で決定してもよい。また、図26において「第1系統変化演出および第2系統変化演出」を実行すると決定された場合に、第1系統変化演出および第2系統変化演出のそれぞれの実行タイミングを図28に示すような演出実行タイミング決定テーブルによる決定割合の設定例を用いて、第1系統変化演出と第2系統変化演出とのそれぞれの実行タイミングを、別々に決定してもよい。

【0376】

次に、アクティブ表示変化演出の選択結果に基づいて演出制御パターンを設定（又は、再設定）する処理について説明する。

【0377】

演出制御用CPU120は、主基板11から伝送された変動パターン指定コマンドにより指定された変動パターンに基づいて決定したアクティブ表示変化演出の実行有無、アクティブ表示変化演出を実行する場合には、アクティブ表示変化演出の演出パターン、アクティブ表示変化演出の実行タイミングを演出制御パターンとして設定する。具体的には、演出制御用CPU120は、変動パターン指定コマンドにより指定された変動パターンに対応する演出制御パターンを演出制御パターンとしてセットするとともに、選択されたアクティブ表示変化演出の演出態様に対応する演出パターンを演出制御パターンとしてセットする。なお、変動パターン指定コマンドにより指定された変動パターンに対応する演出制御パターンが複数用意されている場合には、何れかを選択して演出制御パターンとしてセットする。そして、演出実行設定処理（S532）を終了する。

【0378】

次に、パチンコ遊技機1における制御の具体的な一例について説明する。

【0379】

パチンコ遊技機1の主基板11の側では、第1始動条件が成立した場合、CPU103は、第1保留記憶数を更新し、第2始動条件が成立した場合、CPU103は、第2保留記憶数を更新する（S215）。CPU103は、特図表示結果決定用の乱数値MR1、大当たり種別決定用の乱数値MR2、変動カテゴリ決定用の乱数値MR3を示す数値データを抽出する（S217）。CPU103は、特図表示結果決定用の乱数値MR1や大当たり種別決定用の乱数値MR2等を用いて特図表示結果を判定する（S403、S404）。CPU103は、判定結果である特図表示結果と、S215において更新した保留記憶数と、S217において抽出した変動カテゴリ決定用の乱数値MR3とに基づいて、変動カテゴリを判定する（S412）。変動カテゴリを判定したCPU103は、判定結果である変動カテゴリを指定する変動カテゴリコマンドの送信を設定し（S413）、コマンド制御処理（S17）を実行する。これにより、S412において判定された変動カテゴリを指定する変動カテゴリコマンド等が主基板11から演出制御基板12に伝送される。

【0380】

また、主基板11の側では、第1開始条件又は第2開始条件が成立した場合、CPU103は、変動パターン設定処理（S111）において、まず、S217で抽出された変動カテゴリ決定用の乱数値MR3を使用せずに、再度、変動カテゴリ決定用の乱数値MR3を抽出するとともに、変動パターン決定用の乱数値MR5を示す数値データを抽出する。続いて、CPU103は、新たに抽出した変動カテゴリ決定用の乱数値MR3を示す数値データや変動パターン決定用の乱数値MR5を示す数値データに基づいて変動パターンを決定する。変動パターンを決定したCPU103は、決定結果である変動パターンを指定する変動パターン指定コマンドの送信を設定し、コマンド制御処理（S17）を実行する。これにより、S111において決定された変動パターンを指定する変動パターン指定コマンド等が主基板11から演出制御基板12に伝送される。

【0381】

パチンコ遊技機1の演出制御基板12の側では、第1始動条件の成立した場合、演出制

御用CPU120は、保留演出決定処理（S160）において、第1始動入賞記憶表示エリア5HLまたは第2始動入賞記憶表示エリア5HRに追加表示させる際の保留表示の表示態様（追加時表示態様）を決定する。また、演出制御用CPU120は、保留演出決定処理の決定結果に基づいて保留演出決定処理の決定内容（例えば、追加時表示態様等）を第1先読予告バッファ194Cまたは第2先読予告バッファに記憶させるとともに（S161）、当該記憶内容（追加時表示態様）に基づいて保留表示を第1始動入賞記憶表示エリア5HLまたは第2始動入賞記憶表示エリア5HRに追加する（S162）。

【0382】

また、演出制御基板12の側では、第1開始条件が成立した場合、演出制御用CPU120は、第1先読予告バッファ194Cまたは第2先読予告バッファ194Dを参照し、当該可変表示において、主基板11から伝送された変動パターン指定コマンドにより指定された変動パターンに基づいて、演出制御パターンを設定する。

【0383】

図29は、画像表示装置5における表示動作例を示す図である。具体的には、図29A（A）の（a）～（d）、図29B（A）の（e）は、画像表示装置5における各場面を時系列に並べたものである。図29（B）の（a）～（d）、図29B（B）の（e）、についても同様である。なお、図29A、図29Bにおいて画像表示装置5内の矢印「↓」は、飾り図柄が変動中であることを表している。また、図29A（A）、図29B（A）は、第2系統変化演出の成功演出を表し、アクティブ表示変化演出の演出態様として、図27の（B）に示したアクティブ表示変化演出パターンCP3（変化有（太さ「極太」））がセットされているものとする。また、図29A（B）、図29B（B）は、第2系統変化演出の失敗演出を表し、アクティブ表示変化演出の演出態様として、図27の（B）に示したアクティブ表示変化演出パターンCP1（変化無（太さ「通常」））がセットされているものとする。

【0384】

図29A（A）の（a）は、アクティブ表示エリアAHAにアクティブ表示AH（当該可変表示を開始させるときに当該可変表示に対応する保留表示を所定のアクティブ表示エリアAHAに移動させたアクティブ表示、または、当該可変表示に対応するアクティブ表示に応じた情報を表す特別画像）が表示され、第1始動入賞記憶表示エリア5HLに保留表示H1、保留表示H2、及び、保留表示H3が表示されている場面である。ここで、アクティブ表示エリアAHAは、例えば画像表示装置5の中央下部に設けられる。このアクティブ表示エリアAHAには、少なくともアクティブ表示AHが表示され、当該アクティブ表示AHの他にこのアクティブ表示AHを囲うアクティブ表示枠AHWやアクティブ表示枠AHWを含む所定の範囲が含まれる。アクティブ表示AH自体やアクティブ表示枠AHWの内側または外側等の当該アクティブ表示エリアAHAには、文字や画像を表示することも可能である。

【0385】

なお、アクティブ表示AHが図29A（A）の（a）の如くアクティブ表示エリアAHAに表示される直前には、第1先読予告バッファ194Cのバッファ番号「1」に保留表示（アクティブ表示AH）に対応する演出内容として当該保留表示（アクティブ表示AH）の始動入賞時に決定された当該保留表示（アクティブ表示AH）の表示態様（追加時表示態様「白色」）が記憶され、第1先読予告バッファ194Cのバッファ番号「2」には保留表示H1に対応する演出内容として当該保留表示H1の始動入賞時に決定された当該保留表示H1の表示態様（追加時表示態様「白色」）が記憶され、第1先読予告バッファ194Cのバッファ番号「3」には保留表示H2に対応する演出内容として当該保留表示H2の始動入賞時に決定された当該保留表示H2の表示態様（追加時表示態様「白色」）が記憶され、第1先読予告バッファ194Cのバッファ番号「4」には保留表示H3に対応する演出内容として当該保留表示H3の始動入賞時に決定された当該保留表示H3の表示態様（追加時表示態様「白色」）が記憶されていたものとする。

【0386】

図29A(A)の(a)の場面は、アクティブ表示AHのアクティブ情報(アクティブ表示AHがアクティブ表示エリアAHAにアクティブ表示AHとして表示される直前の保留情報に対応する情報)の可変表示を開始させるときに、演出制御用CPU120は、主基板11から伝送された変動パターン指定コマンドにより指定された変動パターン「PA2-1(非リーチ(ハズレ))」に基づいて、飾り図柄の変動を開始したのち、確定飾り図柄(「3」「9」「4」)が停止表示された状態である。図29A(A)の(a)の場面から、第1始動入賞口を遊技球が1個通過(進入)して第1始動条件が成立した場合、CPU103は、第1保留記憶数を「4」に更新する(S215)。CPU103は、特図表示結果決定用の乱数値MR1、大当たり種別決定用の乱数値MR2、変動カテゴリ決定用の乱数値MR3を示す数値データを抽出し(S217)、特図表示結果決定用の乱数値MR1や大当たり種別決定用の乱数値MR2等を用いて特図表示結果を判定する(S403、S404)。

【0387】

例えば、特図表示結果として「ハズレ」を判定したものとする。CPU103は、特図表示結果「ハズレ」と保留記憶数「4」とに基づいて、複数の変動カテゴリ決定テーブル(図17)のなかから変動カテゴリ決定テーブル「C-TBL3」を選択し(図16)、変動カテゴリ決定テーブル「C-TBL3」と変動カテゴリ決定用の乱数値MR3とに基づいて変動カテゴリを判定する(S412)。例えば、変動カテゴリ「PB5(スーパーリーチβ(大当たり))」を判定したものとする。CPU103は、変動カテゴリ「PB5」を指定する変動カテゴリコマンドの送信を設定し(S413)、コマンド制御処理(S17)を実行することにより変動カテゴリ「PB5」を指定する変動カテゴリコマンド等が主基板11から演出制御基板12に伝送される。

【0388】

主基板11から変動カテゴリを指定する変動カテゴリコマンド等を受信した演出制御用CPU120は、変動カテゴリに基づいて、図24に示したような複数の保留表示態様決定テーブルのなかから使用する保留表示態様決定テーブルを選択し、選択した保留表示態様決定テーブルと保留表示の表示態様決定用の乱数値MR6とに基づいて、第1始動入賞記憶表示エリア5HLに追加表示させる保留表示の表示態様(追加時表示態様)を決定する。演出制御用CPU120は、第1始動入賞時受信コマンドバッファ194Aにおける当該第1始動入賞のバッファ番号に対応する第1先読予告バッファ194Cのバッファ番号に対応付けて、これらの保留演出決定処理の決定内容(追加時表示態様)を記憶する。

【0389】

図29A(A)の(b)の場面は、演出制御用CPU120は、第1始動入賞記憶表示エリアに表示された保留表示H1に対応するアクティブ表示AHをアクティブ表示エリアAHAに表示し、保留表示H1に対応するアクティブ表示AHの可変表示を開始したときの一例である。例えば、図29A(A)の(b)の場面において、アクティブ表示AHが第2系統変化演出を実行する変動であるとする。図29A(A)の(c)は、図29A(A)の(b)の場面において可変表示を開始した直後(例えば、図28のタイミング1)で第2系統変化演出が実行されたときの一例である。図29A(A)の(c)では、第2系統変化演出として画像表示装置5の左上部に「激熱」の文字が描画された矢Y2が表示されている。図29A(B)の(a)~図29A(B)の(c)も、図29A(A)の(a)~図29A(A)の(c)と同様である。つまり、図29A(A)の(b)から図29A(A)の(c)までと図29A(B)の(b)から図29A(B)の(c)までとが、第2系統変化演出における成功演出と失敗演出とで共通で実行される共通演出である。

【0390】

そして、図29A(A)の(d)の場面は、図29A(A)の(c)の場面において表示された第2系統変化演出である矢Y2が画像表示装置5の下部に向けて移動して、アクティブ表示枠AHWに衝突している場面である。図29B(A)の(e)の場面では、図29A(A)の(d)の場面においてアクティブ表示枠AHWに矢Y2が衝突した後、アクティブ表示枠AHWの線の太さが「極太」の表示態様として変化している。そして、図

29B(A)の(e)の場面において、飾り図柄表示エリア5Lの飾り図柄および飾り図柄表示エリア5Rの飾り図柄がリーチ態様となっている場面である。

【0391】

一方、図29A(B)の(d)の場面では、図29A(B)の(c)の場面において表示された第2系統変化演出である矢Y2が画像表示装置5の下部に向けて移動して、アクティブ表示枠AHWに衝突することなく画像表示装置5の下部に移動している場面である。図29B(B)の(e)の場面では、図29A(B)の(d)の場面においてアクティブ表示枠AHWに矢Y2が衝突せずに消滅したため、アクティブ表示枠AHWの線の太さが「通常」の表示態様のまま変化していない。そして、図29B(B)の(e)の場面において、飾り図柄表示エリア5Lの飾り図柄および飾り図柄表示エリア5Rの飾り図柄がリーチ態様となっている場面である。

10

【0392】

図30は、画像表示装置5における表示動作例を示す図である。具体的には、図30A(A)の(a)～(d)、図30B(A)の(e)～(f)は、画像表示装置5における各場面を時系列に並べたものである。図30(B)の(a)～(d)、図30B(B)の(e)～(f)についても同様である。なお、図30A、図30Bにおいて画像表示装置5内の矢印「↓」は、飾り図柄が変動中であることを表している。また、図30A(A)、図30B(A)は、第1系統変化演出の成功演出を表し、アクティブ表示変化演出の演出態様として、図27の(A)に示したアクティブ表示変化演出パターンBP4(変化有(形状「星」))がセットされているものとする。図30A(B)、図30B(B)は、第1系統変化演出の失敗演出を表し、アクティブ表示変化演出の演出態様として、図27の(A)に示したアクティブ表示変化演出パターンBP1(変化無(形状「球」))がセットされているものとする。

20

【0393】

図30A(A)の(a)は、アクティブ表示エリアAHAにアクティブ表示AH(当該可変表示を開始させるときに当該可変表示に対応する保留表示を所定のアクティブ表示エリアAHAに移動させたアクティブ表示、または、当該可変表示に対応するアクティブ表示に応じた情報を表す特別画像)が表示され、第1始動入賞記憶表示エリア5HLに保留表示H1、保留表示H2、及び、保留表示H3が表示されている場面である。

【0394】

30

図30A(A)の(a)の場面は、アクティブ表示AHのアクティブ情報(アクティブ表示AHがアクティブ表示エリアAHAにアクティブ表示AHとして表示される直前の保留情報に対応する情報)の可変表示を開始させるときに、演出制御用CPU120は、主基板11から伝送された変動パターン指定コマンドにより指定された変動パターン「PA2-1(非リーチ(ハズレ))」に基づいて、飾り図柄の変動を開始したのち、確定飾り図柄(「3」「9」「4」)が停止表示された状態である。

【0395】

図30A(A)の(b)の場面は、演出制御用CPU120は、第1始動入賞記憶表示エリアに表示された保留表示H1に対応するアクティブ表示AHをアクティブ表示エリアAHAに表示し、保留表示H1に対応するアクティブ表示AHの可変表示を開始したときの一例である。例えば、図30A(A)の(b)の場面において、アクティブ表示AHが第1系統変化演出を実行する変動であるとする。図30A(A)の(b)の場面では、可変表示を開始した直後(例えば、図28のタイミング1)で第1系統変化演出が実行されたときの一例である。図30A(A)の(b)では、第1系統変化演出として画像表示装置5の右上部に3つの図形(星Z1、三角形Z2、五角形Z3)が図形群Y1として表示されている。

40

【0396】

そして、図30A(A)の(c)の場面は、図30A(A)の(b)の場面において表示された第1系統変化演出である図形群Y1が画像表示装置5の下部に向けて移動しながら三角形Z2が消滅し、星Z1と五角形Z3が移動を続けている場面である。図30A(A)

50

A)の(d)の場面は、図30A(A)の(c)の場面からさらに第1系統変化演出である図形群Y1が画像表示装置5の下部に向けて移動し、図形群Y1を構成する星Z1と五角形Z3とのうち、五角形Z3が消滅し、星Z1のみが移動を続けている場面である。図30A(B)の(a)~図30A(B)の(d)も、図30A(A)の(a)~図30A(A)の(d)と同様である。つまり、図30A(A)の(b)から図30A(A)の(d)までと図30A(B)の(b)から図30A(B)の(d)までとが、第1系統変化演出における成功演出と失敗演出とで共通で実行される共通演出である。

【0397】

そして、図30B(A)の(e)の場面は、図30A(A)の(d)の場面において表示された第1系統変化演出である図形群Y1で消滅することなく残った星Z1が画像表示装置5の下部に向けてさらに移動して、アクティブ表示AHに衝突している場面である。図30B(A)の(f)の場面では、図30B(A)の(e)の場面においてアクティブ表示AHに図形群Y1で消滅することなく残った星Z1が衝突した後、アクティブ表示AHの表示形状が「星」に変化した表示態様で表示されている。そして、図30B(A)の(f)の場面において、飾り図柄表示エリア5Lの飾り図柄および飾り図柄表示エリア5Rの飾り図柄がリーチ態様となっている場面である。

10

【0398】

一方、図30B(B)の(e)の場面は、図30A(B)の(d)の場面において表示された第1系統変化演出である図形群Y1で消滅することなく残った星Z1が画像表示装置5の下部に向けてさらに移動するが、アクティブ表示AHに衝突する前に消滅している場面である。図30B(B)の(f)の場面では、図30B(B)の(e)の場面においてアクティブ表示AHに図形群Y1で消滅することなく残った星Z1が衝突せずに消滅したため、アクティブ表示AHの表示形状が「球」のままの表示態様で表示されている。そして、図30B(B)の(f)の場面において、飾り図柄表示エリア5Lの飾り図柄および飾り図柄表示エリア5Rの飾り図柄がリーチ態様となっている場面である。

20

【0399】

図31は、画像表示装置5における表示動作例を示す図である。具体的には、図31A(A)の(a)~(d)、図31B(A)の(e)~(g)は、画像表示装置5における各場面を時系列に並べたものである。図31(B)の(a)~(d)、図31B(B)の(e)~(g)についても同様である。なお、図31A、図31Bにおいて画像表示装置5内の矢印「↓」は、飾り図柄が変動中であることを表している。また、図31A(A)、図31B(A)は、第1系統変化演出および第2系統変化演出の成功演出を表し、アクティブ表示変化演出の演出態様として、図27の(C)に示したアクティブ表示変化演出パターンAP12(変化有(太さ「極太」、形状「星」))がセットされているものとする。図31A(B)、図31B(B)は、第1系統変化演出および第2系統変化演出の失敗演出を表し、アクティブ表示変化演出の演出態様として、図27の(C)に示したアクティブ表示変化演出パターンAP1(変化無(形状「球」、変化無(太さ「通常」))がセットされているものとする。

30

【0400】

図31A(A)の(a)は、アクティブ表示エリアAHAにアクティブ表示AH(当該可変表示を開始させるときに当該可変表示に対応する保留表示を所定のアクティブ表示エリアAHAに移動させたアクティブ表示、または、当該可変表示に対応するアクティブ表示に応じた情報を表す特別画像)が表示され、第1始動入賞記憶表示エリア5HLに保留表示H1、保留表示H2、及び、保留表示H3が表示されている場面である。

40

【0401】

図31A(A)の(a)の場面では、アクティブ表示AHのアクティブ情報(アクティブ表示AHがアクティブ表示エリアAHAにアクティブ表示AHとして表示される直前の保留情報に対応する情報)の可変表示を開始させるときに、演出制御用CPU120は、主基板11から伝送された変動パターン指定コマンドにより指定された変動パターン「PA2-1(非リーチ(ハズレ))」に基づいて、飾り図柄の変動を開始したのち、確定飾

50

り図柄（「3」「9」「4」）が停止表示された状態である。

【0402】

図31A(A)の(b)の場面は、第1始動入賞記憶表示エリアに表示された保留表示H1に対応するアクティブ表示AHをアクティブ表示エリアAHAに表示し、保留表示H1に対応するアクティブ表示AHの可変表示を開始したときの一例である。

【0403】

図31A(A)の(b)の場面は、第1始動入賞記憶表示エリアに表示された保留表示H1に対応するアクティブ表示AHをアクティブ表示エリアAHAに表示し、保留表示H1に対応するアクティブ表示AHの可変表示を開始したときの一例である。例えば、図31A(A)の(b)の場面において、アクティブ表示AHが第2系統変化演出を実行する変動であるとする。図31A(A)の(c)は、図31A(A)の(b)の場面において可変表示を開始した直後（例えば、図28のタイミング1）で第1系統変化演出および第2系統変化演出が実行されたときの一例である。図31A(A)の(c)では、第1系統変化演出として画像表示装置5の右上部に3つの図形（星Z1、三角形Z2、五角形Z3）が図形群Y1として表示され、第2系統変化演出として画像表示装置5の左上部に「激熱」の文字が描画された矢Y2が表示されている。図31A(B)の(a)～図31A(B)の(c)も、図31A(A)の(a)～図31A(A)の(c)と同様である。つまり、図31A(A)の(b)から図31A(A)の(c)までと図31A(B)の(b)から図31A(B)の(c)までとが、第1系統変化演出および第2系統変化演出における成功演出と失敗演出とで共通で実行される共通演出である。

【0404】

そして、図31A(A)の(d)の場面は、図30A(A)の(c)の場面において表示された第1系統変化演出である図形群Y1が画像表示装置5の下部に向けて移動しながら三角形Z2が消滅し、星Z1と五角形Z3が移動を続けている。また、図31A(A)の(c)の場面において表示された第2系統変化演出である矢Y2が画像表示装置5の下部に向けて移動して、アクティブ表示枠AHWに衝突している場面である。そして、図31B(A)の(e)の場面では、図31A(A)の(d)の場面においてアクティブ表示枠AHWに矢Y2が衝突した後、アクティブ表示枠AHWの線の太さが「極太」の表示態様として変化している。また、図31A(A)の(e)の場面では、図31A(A)の(d)の場面からさらに第1系統変化演出である図形群Y1が画像表示装置5の下部に向けて移動し、図形群Y1を構成する星Z1と五角形Z3とのうち、五角形Z3が消滅し、星Z1のみが移動を続けている場面である。

【0405】

そして、図31B(A)の(f)の場面は、図30A(A)の(e)の場面において表示された第1系統変化演出である図形群Y1で消滅することなく残った星Z1が画像表示装置5の下部に向けてさらに移動して、アクティブ表示AHに衝突している場面である。図31B(A)の(g)の場面では、図31B(A)の(f)の場面においてアクティブ表示AHに図形群Y1で消滅することなく残った星Z1が衝突した後、アクティブ表示AHの表示形状が「星」に変化した表示態様で表示されている。そして、図30B(A)の(g)の場面において、飾り図柄表示エリア5Lの飾り図柄および飾り図柄表示エリア5Rの飾り図柄がリーチ態様となっている場面である。

【0406】

一方、図31A(B)の(d)の場面では、図31A(B)の(c)の場面において表示された第2系統変化演出である矢Y2が画像表示装置5の下部に向けて移動して、アクティブ表示枠AHWに衝突することなく画像表示装置5の下部に移動している場面である。また、図31A(B)の(e)の場面では、図31A(B)の(d)の場面からさらに第1系統変化演出である図形群Y1が画像表示装置5の下部に向けて移動し、図形群Y1を構成する星Z1と五角形Z3とのうち、五角形Z3が消滅し、星Z1のみが移動を続けている場面である。そして、図31B(B)の(f)の場面は、図31A(B)の(e)の場面において表示された第1系統変化演出である図形群Y1で消滅することなく残った

星 Z 1 が画像表示装置 5 の下部に向けてさらに移動するが、アクティブ表示 A H に衝突する前に消滅している場面である。図 3 1 B (B) の (g) の場面では、図 3 1 B (B) の (f) の場面においてアクティブ表示 A H に図形群 Y 1 で消滅することなく残った星 Z 1 が衝突せずに消滅したため、アクティブ表示 A H の表示形状が「球」のままの表示態様で表示されている。また、図 3 1 B (B) の (g) の場面において、飾り図柄表示エリア 5 L の飾り図柄および飾り図柄表示エリア 5 R の飾り図柄がリーチ態様となっている場面である。

【0407】

図 3 2 は、画像表示装置 5 における表示動作例を示す図である。具体的には、図 3 2 A (A) の (a) ~ (d)、図 3 2 B (A) の (e) ~ (f) は、画像表示装置 5 における各場面を時系列に並べたものである。図 3 2 (B) の (a) ~ (d)、図 3 2 B (B) の (e) ~ (f) についても同様である。なお、図 3 2 A、図 3 2 B において画像表示装置 5 内の矢印「↓」は、飾り図柄が変動中であることを表している。また、図 3 2 A (A)、図 3 2 B (A) は、第 2 系統変化演出の成功演出を表し、アクティブ表示変化演出の演出態様として、図 2 7 の (B) に示したアクティブ表示変化演出パターン C P 3 (変化有 (太さ「極太」)) がセットされているものとする。また、図 3 2 A (B)、図 3 2 B (B) は、第 2 系統変化演出の失敗演出を表し、アクティブ表示変化演出の演出態様として、図 2 7 の (B) に示したアクティブ表示変化演出パターン C P 1 (変化無 (太さ「通常」)) がセットされているものとする。

【0408】

図 3 2 A (A) の (a) は、アクティブ表示エリア A H A にアクティブ表示 A H (当該可変表示を開始させるときに当該可変表示に対応する保留表示を所定のアクティブ表示エリア A H A に移動させたアクティブ表示、または、当該可変表示に対応するアクティブ表示に応じた情報を表す特別画像) が表示され、第 1 始動入賞記憶表示エリア 5 H L に保留表示 H 1、保留表示 H 2、及び、保留表示 H 3 が表示されている場面である。

【0409】

なお、アクティブ表示 A H が図 3 2 A (A) の (a) の如くアクティブ表示エリア A H A に表示される直前には、第 1 先読予告バッファ 1 9 4 C のバッファ番号「1」に保留表示 (アクティブ表示 A H) に対応する演出内容として当該保留表示 (アクティブ表示 A H) の始動入賞時に決定された当該保留表示 (アクティブ表示 A H) の表示態様 (追加時表示態様「白色」) が記憶され、第 1 先読予告バッファ 1 9 4 C のバッファ番号「2」には保留表示 H 1 に対応する演出内容として当該保留表示 H 1 の始動入賞時に決定された当該保留表示 H 1 の表示態様 (追加時表示態様「白色」) が記憶され、第 1 先読予告バッファ 1 9 4 C のバッファ番号「3」には保留表示 H 2 に対応する演出内容として当該保留表示 H 2 の始動入賞時に決定された当該保留表示 H 2 の表示態様 (追加時表示態様「白色」) が記憶され、第 1 先読予告バッファ 1 9 4 C のバッファ番号「4」には保留表示 H 3 に対応する演出内容として当該保留表示 H 3 の始動入賞時に決定された当該保留表示 H 3 の表示態様 (追加時表示態様「白色」) が記憶されていたものとする。

【0410】

図 3 2 A (A) の (a) の場面は、アクティブ表示 A H のアクティブ情報 (アクティブ表示 A H がアクティブ表示エリア A H A にアクティブ表示 A H として表示される直前の保留情報に対応する情報) の可変表示を開始させるときに、演出制御用 C P U 1 2 0 は、主基板 1 1 から伝送された変動パターン指定コマンドにより指定された変動パターン「P A 2-1 (非リーチ (ハズレ))」に基づいて、飾り図柄の変動を開始したのち、確定飾り図柄 (「3」「9」「4」) が停止表示された状態である。図 3 2 A (A) の (a) の場面から、第 1 始動入賞口を遊技球が 1 個通過 (進入) して第 1 始動条件が成立した場合、C P U 1 0 3 は、第 1 保留記憶数を「4」に更新する (S 2 1 5)。C P U 1 0 3 は、特図表示結果決定用の乱数値 M R 1、大当たり種別決定用の乱数値 M R 2、変動カテゴリ決定用の乱数値 M R 3 を示す数値データを抽出し (S 2 1 7)、特図表示結果決定用の乱数値 M R 1 や大当たり種別決定用の乱数値 M R 2 等を用いて特図表示結果を判定する (S 4 0 3

、S 4 0 4)。

【0 4 1 1】

例えば、特図表示結果として「ハズレ」を判定したものとする。C P U 1 0 3は、特図表示結果「ハズレ」と保留記憶数「4」とに基づいて、複数の変動カテゴリ決定テーブル(図1 7)のなかから変動カテゴリ決定テーブル「C - T B L 3」を選択し(図1 6)、変動カテゴリ決定テーブル「C - T B L 3」と変動カテゴリ決定用の乱数値M R 3とに基づいて変動カテゴリを判定する(S 4 1 2)。例えば、変動カテゴリ「P B 5(スーパーリーチβ(大当り))」を判定したものとする。C P U 1 0 3は、変動カテゴリ「P B 5」を指定する変動カテゴリコマンドの送信を設定し(S 4 1 3)、コマンド制御処理(S 1 7)を実行することにより変動カテゴリ「P B 5」を指定する変動カテゴリコマンド等が主基板1 1から演出制御基板1 2に伝送される。

10

【0 4 1 2】

主基板1 1から変動カテゴリを指定する変動カテゴリコマンド等を受信した演出制御用C P U 1 2 0は、変動カテゴリに基づいて、図2 4に示したような複数の保留表示態様決定テーブルのなかから使用する保留表示態様決定テーブルを選択し、選択した保留表示態様決定テーブルと保留表示の表示態様決定用の乱数値M R 6とに基づいて、第1始動入賞記憶表示エリア5 H Lに追加表示させる保留表示の表示態様(追加時表示態様)を決定する。演出制御用C P U 1 2 0は、第1始動入賞時受信コマンドバッファ1 9 4 Aにおける当該第1始動入賞のバッファ番号に対応する第1先読予告バッファ1 9 4 Cのバッファ番号に対応付けて、これらの保留演出決定処理の決定内容(追加時表示態様)を記憶する。

20

【0 4 1 3】

図3 2 A (A)の(b)の場面は、第1始動入賞記憶表示エリアに表示された保留表示H 1に対応するアクティブ表示A Hをアクティブ表示エリアA H Aに表示し、保留表示H 1に対応するアクティブ表示A Hの可変表示を開始したときの一例である。例えば、図3 2 A (A)の(b)の場面において、アクティブ表示A Hが第2系統変化演出を実行する変動であるとする。図3 2 A (A)の(c)は、図3 2 A (A)の(b)の場面において可変表示を開始してからリーチが成立し、飾り図柄表示エリア5 Lの飾り図柄および飾り図柄表示エリア5 Rの飾り図柄がリーチ態様となっている場面である。図3 2 A (A)の(d)の場面では、リーチ成立後(例えば、図2 8のタイミング3)で第2系統変化演出が実行されたときの一例である。図3 2 A (A)の(d)では、第2系統変化演出として画像表示装置5の左上部に「激熱」の文字が描画された矢Y 2が表示されている。図3 2 A (B)の(a)~図3 2 A (B)の(d)も、図3 2 A (A)の(a)~図3 2 A (A)の(d)と同様である。つまり、図3 2 A (A)の(b)から図3 2 A (A)の(d)までと図3 2 A (B)の(b)から図3 2 A (B)の(d)までとが、第2系統変化演出における成功演出と失敗演出とで共通で実行される共通演出である。

30

【0 4 1 4】

そして、図3 2 A (A)の(e)の場面は、図3 2 A (A)の(d)の場面において表示された第2系統変化演出である矢Y 2が画像表示装置5の下部に向けて移動して、アクティブ表示枠A H Wに衝突している場面である。図3 2 B (A)の(f)の場面では、図3 2 A (A)の(e)の場面においてアクティブ表示枠A H Wに矢Y 2が衝突した後、アクティブ表示枠A H Wの線の太さが「極太」の表示態様として変化している。

40

【0 4 1 5】

一方、図3 2 A (B)の(e)の場面では、図3 2 A (B)の(d)の場面において表示された第2系統変化演出である矢Y 2が画像表示装置5の下部に向けて移動して、アクティブ表示枠A H Wに衝突することなく画像表示装置5の下部に移動している場面である。図3 2 B (B)の(f)の場面では、図3 2 A (B)の(e)の場面においてアクティブ表示枠A H Wに矢Y 2が衝突せずに消滅したため、アクティブ表示枠A H Wの線の太さが「通常」の表示態様まま変化していない。なお、第2系統変化演出についても同様にリーチ成立後にアクティブ表示変化演出を実行してもよい。また、第1系統変化演出および第2系統変化演出も同様にリーチ成立後にアクティブ表示変化演出を実行してもよい。

50

【0416】

図33は、画像表示装置5における表示動作例を示す図である。具体的には、図33Aの(a)～(f)、図33Bの(g)～(h)は、画像表示装置5における各場面を時系列に並べたものである。なお、図33A、図33Bにおいて画像表示装置5内の矢印「↓」は、飾り図柄が変動中であることを表している。また、図33A、図33Bは、第2系統変化演出の成功演出を表し、アクティブ表示変化演出の演出態様として、図27の(B)に示したアクティブ表示変化演出パターンCP3(変化有(太さ「極太」))がセットされているものとする。ここで、図33A、図33Bに示す表示動作例と、図29A、図29Bに示した表示動作例とは、擬似連変動である点異なる。それ以外は同様であるので、異なる部分を中心に説明する。また失敗演出については説明を省略する。

10

【0417】

図33Aの(a)は、アクティブ表示エリアAHAにアクティブ表示AH(当該可変表示を開始させるときに当該可変表示に対応する保留表示を所定のアクティブ表示エリアAHAに移動させたアクティブ表示、または、当該可変表示に対応するアクティブ表示に応じた情報を表す特別画像)が表示され、第1始動入賞記憶表示エリア5HLに保留表示H1、保留表示H2、及び、保留表示H3が表示されている場面である。

【0418】

図33Aの(c)は、図32A(A)の(b)の場面において可変表示を開始してから飾り図柄表示エリア5Lの飾り図柄および飾り図柄表示エリア5Rの飾り図柄が、リーチ態様とは異なる表示態様で停止表示されている場面である。図33Aの(d)の場面では、飾り図柄表示エリア5Cに「好機」と表記されたチャンス図柄が低速スクロールで画像表示装置5に現れ、図33Aの(e)の場面においてチャンス図柄が飾り図柄表示エリア5Cに仮停止する。そして、図33Aの(f)の場面において、仮停止したすべての飾り図柄を再度可変表示(再可変表示)させる。

20

【0419】

図33Bの(g)では、第2系統変化演出として画像表示装置5の左上部に「激熱」の文字が描画された矢Y2が表示されている。図33Aの(a)から図33Bの(g)までが、第2系統変化演出における成功演出と失敗演出とで共通で実行される共通演出である。

【0420】

そして、図33Bの(h)の場面は、図33B(g)の場面において表示された第2系統変化演出である矢Y2が画像表示装置5の下部に向けて移動して、アクティブ表示枠AHWに衝突している場面である。図33Bの(i)の場面では、図33Bの(h)の場面においてアクティブ表示枠AHWに矢Y2が衝突した後、アクティブ表示枠AHWの線の太さが「極太」の表示態様として変化している。また、アクティブ表示枠AHWの線の太さが「極太」の表示態様として変化後、飾り図柄表示エリア5Lの飾り図柄および飾り図柄表示エリア5Rの飾り図柄がリーチ態様となっている場面である。

30

【0421】

図34は、画像表示装置5における表示動作例を示す図である。具体的には、図34Aの(a)～(f)、図34Bの(g)～(j)は、画像表示装置5における各場面を時系列に並べたものである。なお、図34A、図34Bにおいて画像表示装置5内の矢印「↓」は、飾り図柄が変動中であることを表している。また、図34A、図34Bは、第2系統変化演出の成功演出を表し、アクティブ表示変化演出の演出態様として、図27の(B)に示したアクティブ表示変化演出パターンCP3(変化有(太さ「極太」))がセットされているものとする。ここで、図34A、図34Bに示す表示動作例と、図29A、図29Bに示した表示動作例とは、擬似連変動である点異なる。それ以外は同様であるので、異なる部分を中心に説明する。また失敗演出については説明を省略する。

40

【0422】

図34Aの(a)は、アクティブ表示エリアAHAにアクティブ表示AH(当該可変表示を開始させるときに当該可変表示に対応する保留表示を所定のアクティブ表示エリアA

50

H Aに移動させたアクティブ表示、または、当該可変表示に対応するアクティブ表示に応じた情報を表す特別画像)が表示され、第1始動入賞記憶表示エリア5 H Lに保留表示H 1、保留表示H 2、及び、保留表示H 3が表示されている場面である。

【0423】

図34Aの(c)は、図34Aの(b)の場面において可変表示を開始してからリーチが成立して、飾り図柄表示エリア5 Lの飾り図柄および飾り図柄表示エリア5 Rの飾り図柄が、リーチ態様で停止表示されている場面である。図34Aの(d)の場面では、飾り図柄表示エリア5 Cに「好機」と表記されたチャンス図柄が低速スクロールで画像表示装置5に現れ、図34Aの(e)の場面においてチャンス図柄が飾り図柄表示エリア5 Cに仮停止する。そして、図34Aの(f)の場面において、仮停止したすべての飾り図柄を再度可変表示(再可変表示)させる。

10

【0424】

また、図34Aの(f)では、第2系統変化演出として画像表示装置5の左上部に「激熱」の文字が描画された矢Y 2が表示されている。ここで、図34Aの(a)から図34Aの(f)までが、第2系統変化演出における成功演出と失敗演出とで共通で実行される共通演出である。

【0425】

そして、図34Bの(g)の場面は、図34B(f)の場面において再可変表示中に表示された第2系統変化演出である矢Y 2が画像表示装置5の下部に向けて移動して、アクティブ表示枠A H Wに衝突している場面である。図34Bの(h)の場面では、図34Bの(g)の場面においてアクティブ表示枠A H Wに矢Y 2が衝突した後、アクティブ表示枠A H Wの線の太さが「極太」の表示態様として変化し、飾り図柄表示エリア5 Lの飾り図柄および飾り図柄表示エリア5 Rの飾り図柄がリーチ態様となっている場面である。そして、図34Bの(i)の場面では、アクティブ表示枠A H Wの線の太さが「極太」の表示態様として変化した後、飾り図柄表示エリア5 Lの飾り図柄および飾り図柄表示エリア5 Rの飾り図柄がリーチ態様となっているときに、画像表示装置5にチャンス図柄が表示され、図34Bの(j)の場面において、このチャンス図柄が飾り図柄表示エリア5 Cに仮停止することなく、飾り図柄表示エリア5 Lの飾り図柄および飾り図柄表示エリア5 Rの飾り図柄がリーチ態様として確定される。

20

【0426】

図35は、画像表示装置5における表示動作例を示す図である。具体的には、図35Aの(a)～(f)、図35Bの(g)～(i)は、画像表示装置5における各場面を時系列に並べたものである。なお、図35A、図35Bにおいて画像表示装置5内の矢印「↓」は、飾り図柄が変動中であることを表している。また、図35A、図35Bは、第2系統変化演出の成功演出を表し、アクティブ表示変化演出の演出態様として、図27の(B)に示したアクティブ表示変化演出パターンC P 3(変化有(太さ「極太」))がセットされているものとする。ここで、図35A、図35Bに示す表示動作例と、図34A、図34Bに示した表示動作例とは、リーチ成立のタイミングが異なる。それ以外は同様であるので、異なる部分を中心に説明する。また失敗演出については説明を省略する。

30

【0427】

図35Aの(a)は、アクティブ表示エリアA H Aにアクティブ表示A H(当該可変表示を開始させるときに当該可変表示に対応する保留表示を所定のアクティブ表示エリアA H Aに移動させたアクティブ表示、または、当該可変表示に対応するアクティブ表示に応じた情報を表す特別画像)が表示され、第1始動入賞記憶表示エリア5 H Lに保留表示H 1、保留表示H 2、及び、保留表示H 3が表示されている場面である。

40

【0428】

図35Aの(c)は、図35Aの(b)の場面において可変表示を開始してから第2系統変化演出として画像表示装置5の左上部に「激熱」の文字が描画された矢Y 2が表示されている。ここで、図35Aの(a)から図35Aの(c)までが、第2系統変化演出における成功演出と失敗演出とで共通で実行される共通演出である。そして、図35Aの(

50

d)の場面は、図35B(c)の場面において再可変表示中に表示された第2系統変化演出である矢Y2が画像表示装置5の下部に向けて移動して、アクティブ表示枠AHWに衝突している場面である。そして、図35Aの(e)の場面では、アクティブ表示枠AHWに矢Y2が衝突した後、アクティブ表示枠AHWの線の太さが「極太」の表示態様として変化し、飾り図柄表示エリア5Lの飾り図柄および飾り図柄表示エリア5Rの飾り図柄が、リーチ態様とは異なる表示態様で停止表示されている場面である。

【0429】

図35Aの(f)の場面では、飾り図柄表示エリア5Cに「好機」と表記されたチャンス図柄が低速スクロールで画像表示装置5に現れ、図35Bの(g)の場面においてチャンス図柄が飾り図柄表示エリア5Cに仮停止する。そして、図35Bの(h)の場面において、仮停止したすべての飾り図柄を再度可変表示(再可変表示)させる。そして、図35Bの(i)の場面において、擬似連変動が終了して飾り図柄表示エリア5Lの飾り図柄および飾り図柄表示エリア5Rの飾り図柄がリーチ態様となって表示される。

【0430】

図36は、画像表示装置5における表示動作例を示す図である。具体的には、図36Aの(a)~(f)、図36Bの(g)~(i)は、画像表示装置5における各場面を時系列に並べたものである。なお、図36A、図36Bにおいて画像表示装置5内の矢印「↓」は、飾り図柄が変動中であることを表している。また、図36A、図36Bは、第2系統変化演出の成功演出を表し、アクティブ表示変化演出の演出態様として、図27の(B)に示したアクティブ表示変化演出パターンCP3(変化有(太さ「極太」))がセットされているものとする。ここで、図35A、図35Bに示す表示動作例と、図35A、図35Bに示した表示動作例とは、リーチ成立のタイミングが異なる。それ以外は同様であるので、異なる部分を中心に説明する。また失敗演出については説明を省略する。

【0431】

図36Aの(a)は、アクティブ表示エリアAHAにアクティブ表示AH(当該可変表示を開始させるときに当該可変表示に対応する保留表示を所定のアクティブ表示エリアAHAに移動させたアクティブ表示、または、当該可変表示に対応するアクティブ表示に応じた情報を表す特別画像)が表示され、第1始動入賞記憶表示エリア5HLに保留表示H1、保留表示H2、及び、保留表示H3が表示されている場面である。

【0432】

図36Aの(c)は、図36Aの(b)の場面において可変表示を開始してから第2系統変化演出として画像表示装置5の左上部に「激熱」の文字が描画された矢Y2が表示されている。ここで、図35Aの(a)から図35Aの(c)までが、第2系統変化演出における成功演出と失敗演出とで共通で実行される共通演出である。そして、図36Aの(d)の場面は、図35B(c)の場面において再可変表示中に表示された第2系統変化演出である矢Y2が画像表示装置5の下部に向けて移動して、アクティブ表示枠AHWに衝突している場面である。そして、図36Aの(e)の場面では、アクティブ表示枠AHWに矢Y2が衝突した後、アクティブ表示枠AHWの線の太さが「極太」の表示態様として変化し、飾り図柄表示エリア5Lの飾り図柄および飾り図柄表示エリア5Rの飾り図柄が、リーチ態様で停止表示されている場面である。

【0433】

図36Aの(f)の場面では、飾り図柄表示エリア5Cに「好機」と表記されたチャンス図柄が低速スクロールで画像表示装置5に現れ、図36Bの(g)の場面においてチャンス図柄が飾り図柄表示エリア5Cに仮停止する。そして、図36Bの(h)の場面において、仮停止したすべての飾り図柄を再度可変表示(再可変表示)させる。そして、図36Bの(i)の場面において、擬似連変動が終了して飾り図柄表示エリア5Lの飾り図柄および飾り図柄表示エリア5Rの飾り図柄がリーチ態様となって表示される。

【0434】

ここで、図36A、図36Bにおいて、飾り図柄表示エリア5Lの飾り図柄および飾り図柄表示エリア5Rの飾り図柄がリーチ態様で表示される場面例は、図36A(e)と図

36B(i)とがあるが、図36A、図36Bの様に、リーチが成立した後に擬似連変動となる場合には、図28における「タイミング3」を図36B(i)のタイミングとして扱うものとする。つまり、図36A、図36Bにおけるリーチ成立とは、擬似連変動が終了して飾り図柄表示エリア5Lの飾り図柄および飾り図柄表示エリア5Rの飾り図柄がリーチ態様となって表示された図36Bの(i)の場面のことである。

【0435】

なお、図29～図36では、アクティブ表示変化演出（第1系統変化演出、第2系統変化演出、第1系統変化演出および第2系統変化演出）が実行されるタイミングによって成功演出が実行され得る期待度が異なり、例えば、当該変動において第1タイミングで実行されるアクティブ表示変化演出と第1タイミングよりも遅い第2タイミングで実行される

10

【0436】

（変形例） なお、保留表示の表示態様は、図24に示す大当りに対する期待度を表す表示態様でなくてもよく、通常（デフォルト、初期色）の表示態様である通常態様と、通常態様とは異なる特殊態様と、通常態様および特殊態様とは異なる態様である第1特別態様と第2特別態様とを含んでもよい。図37、図38、図39を参照して詳述する。

【0437】

例えば、図24に示した保留表示の表示態様の決定割合の代わりに、図37に示す保留表示の表示態様の決定割合の他の設定例を用いてもよい。図37は、保留表示の表示態様の決定割合の他の設定例を示す図である。なお、ROM121には、変動カテゴリに応じた7種類の保留表示態様決定テーブルが記憶されていてもよい。図37(A)は、上述の7種類のうち、変動カテゴリ「PA1（短縮・非リーチハズレ）」、又は、変動カテゴリ「PA2（非リーチ（ハズレ）」であるときに選択される保留表示態様決定テーブルによる保留表示の表示態様の決定割合の設定例（H-TBL1）である。図37(B)は、上述の7種類のうち、変動カテゴリ「PA3（ノーマルリーチ（ハズレ）」であるときに選択される保留表示態様決定テーブルによる保留表示の表示態様の決定割合の設定例（H-TBL2）である。図37(C)は、上述の7種類のうち、変動カテゴリ「PA4（スーパーリーチα（ハズレ）」であるときに選択される保留表示態様決定テーブルによる保留表示の表示態様の決定割合の設定例（H-TBL3）である。

20

30

【0438】

図37(D)は、上述の7種類のうち、変動カテゴリ「PA5（スーパーリーチβ（ハズレ）」であるときに選択される保留表示態様決定テーブルによる保留表示の表示態様の決定割合の設定例（H-TBL4）である。図37(E)は、上述の7種類のうち、変動カテゴリ「PB3（ノーマルリーチ（大当り）」であるときに選択される保留表示態様決定テーブルによる保留表示の表示態様の決定割合の設定例（H-TBL5）である。図37(F)は、上述の7種類のうち、変動カテゴリ「PB4（スーパーリーチα（大当たり）」であるときに選択される保留表示態様決定テーブルによる保留表示の表示態様の決定割合の設定例（H-TBL6）である。図37(G)は、上述の7種類のうち、変動カテゴリ「PB5（スーパーリーチβ（大当たり）」であるときに選択される保留表示

40

【0439】

図37と図24とを比較すると、図24における各保留表示態様決定テーブルにおける「白色」に対する決定割合の一部が、図37では、「灰色」に割当てられている点異なる。具体的には、各保留表示態様決定テーブルにおける「白色」における決定割合を、図37の各保留表示態様決定テーブルにおける「白色」に対する決定割合と「灰色」に対する決定割合とが4:1となるように決定割合が割当てられた設定例である。この設定例では、「白色」は通常の保留表示の表示態様（通常態様）であり、「灰色」は通常態様とは異なる特殊態様である。特殊態様とは、通常態様と大当りに対する期待度は同じであるが

50

、「灰色」の保留表示がアクティブ表示となったときに、アクティブ表示の表示態様を変化させるアクティブ表示変化演出を実行する割合が高いことを表す表示態様である。

【0440】

当該設定例には、通常態様および特殊態様とは異なり、大当りに対する期待度が異なる（例えば、通常態様および特殊態様よりも大当りに対する期待度が高い）第1特別態様である青色や、通常態様および特殊態様とは異なり、大当りに対する期待度が異なる（例えば、第1特別態様よりも大当りに対する期待度が高い）第2特別態様である黄色や、通常態様および特殊態様とは異なり、大当りに対する期待度が異なる（例えば、第2特別態様よりも大当りに対する期待度が高い）第3特別態様である赤色等も含まれてもよい。

【0441】

例えば、第1保留演出決定処理（S160）において、演出制御用CPU120は、主基板11から伝送された変動カテゴリコマンドにより指定された変動カテゴリに基づいて、図37に示した複数の保留表示態様決定テーブルのなかから使用する保留表示態様決定テーブルを選択し、選択した保留表示態様決定テーブルと保留表示の表示態様決定用の乱数値MR6とに基づいて、第1始動入賞記憶表示エリア5HLに追加表示させる保留表示の表示態様（追加時表示態様）を決定すればよい。

【0442】

そして、第1保留演出決定処理（S160）を実行した後は、演出制御用CPU120は、第1保留演出決定処理の決定結果に基づいて第1保留演出決定処理の決定内容を記憶する（S161）。具体的には、例えば、演出制御用CPU120は、第1保留演出決定処理において保留表示の表示態様を、第1始動入賞時受信コマンドバッファ194Aにおける当該第1始動入賞のバッファ番号に対応する第1先読予告バッファ194Cのバッファ番号に対応付けて、第1保留演出決定処理の決定内容（追加時表示態様）を記憶する。

【0443】

そして、S161の処理を実行した後は、演出制御用CPU120は、第1保留演出決定処理（S160）において決定した保留表示の表示態様（第1始動入賞時受信コマンドバッファ194Aにおける当該第1始動入賞のバッファ番号に対応する第1先読予告バッファ194Cのバッファ番号に対応付けて記憶された追加時表示態様）に基づいて、第1始動入賞記憶表示エリア5HLに新たな保留表示を追加する第1保留追加処理を実行する（S162）。より詳細には、演出制御用CPU120は、上述の第1先読予告バッファ194Cのバッファ番号に対応付けて記憶された追加時表示態様による保留表示を第1始動入賞記憶表示エリア5HLに表示させる演出制御パターンを使用パターンとしてセットするとともに、セットされた演出制御パターンに含まれる、表示制御データが指定する表示制御指令を表示制御部123のVDP等に対して伝送させること等により、第1保留演出決定処理において決定した追加時表示態様による保留表示を第1始動入賞記憶表示エリア5HLに追加する。

【0444】

そして、図25の演出実行設定処理におけるS532の処理において、当該変動に対応するアクティブ表示に対するアクティブ表示変化演出を実行するか否かを決定する処理や、アクティブ表示変化演出を実行する場合、どのアクティブ表示変化演出を実行するかを決定する処理、当該アクティブ表示変化演出を実行するアクティブ表示（変動）である場合には、実行するアクティブ表示変化演出の演出態様を決定する処理や、当該変動におけるアクティブ表示変化演出を実行するタイミングを決定する処理や、アクティブ表示変化演出の選択結果に基づいて演出制御パターンを設定（又は、再設定）する処理等を実行する。

【0445】

ここで、演出実行設定処理（S532）について詳述する。まず、当該変動に対応するアクティブ表示に対するアクティブ表示変化演出を実行するか否かを決定する処理、およびアクティブ表示変化演出を実行する場合、どのアクティブ表示変化演出を実行するかを

10

20

30

40

50

決定する処理について説明する。図 3 7 に示す保留表示の表示態様の決定割合を用いる場合には、図 2 6 に示したアクティブ表示変化演出実行有無決定テーブルの代わりに図 3 8 に示すアクティブ表示変化演出実行有無決定テーブルを用いればよい。ここで、図 2 6 に示したアクティブ表示変化演出実行有無決定テーブルによる決定割合の設定例と図 3 8 に示すアクティブ表示変化演出実行有無決定テーブルによる決定割合の設定例とは、当該変動に対応するアクティブ表示の表示態様が特殊態様であるか否かによって、別のアクティブ表示変化演出実行有無決定テーブルによる決定割合の設定例を参照する点異なる。

【0446】

図 3 8 は、アクティブ表示変化演出実行有無決定テーブルによる決定割合の他の設定例を示す図である。具体的には、図 3 8 (A) は、当該変動に対応するアクティブ表示の表示態様が特殊態様（灰色）でない場合に参照されるアクティブ表示変化演出実行有無決定テーブルによる決定割合の設定例であり、図 3 8 (B) は、当該変動に対応するアクティブ表示の表示態様が特殊態様（灰色）である場合に参照されるアクティブ表示変化演出実行有無決定テーブルによる決定割合の設定例である。図 3 8 (A)、図 3 8 (B) に示すそれぞれの設定例は、図 2 6 に示した設定例と同様にアクティブ表示変化演出を実行するか否かや、アクティブ表示変化演出を実行するときのアクティブ表示変化演出の演出態様の決定割合の設定例である。図 3 8 (A)、図 3 8 (B) に示すそれぞれの設定例は、アクティブ表示変化演出実行有無決定テーブルには、アクティブ表示変化演出の実行有無決定用の乱数値 MR 7（非図示）と比較される数値（決定値）が、「実行有」と、「実行無」との夫々に、図 3 8 (A)、図 3 8 (B) のそれぞれに示すような決定割合で割当てられている。また、このアクティブ表示変化演出実行有無決定テーブルの「実行有」には、アクティブ表示変化演出実行有無決定用の乱数値 MR 7（非図示）と比較される数値（決定値）が、「第 1 系統変化演出」と、「第 2 系統変化演出」と、「第 1 系統変化演出および第 2 系統変化演出」とのそれぞれに、図 3 8 (A)、図 3 8 (B) のそれぞれに示すような決定割合で割当てられている。

【0447】

なお、「実行有」「第 1 系統変化演出」は、第 1 系統変化演出をアクティブ表示変化演出として行う旨を表し、「実行有」「第 2 系統変化演出」は、第 2 系統変化演出をアクティブ表示変化演出として行う旨を表し、「実行有」「第 1 系統変化演出および第 2 系統変化演出」は、第 1 系統変化演出と第 2 系統変化演出との両方の変化演出をアクティブ表示変化演出として行う旨を表す。また、「実行無」は、アクティブ表示変化演出を行わない旨を表している。また、変動パターン 1-X は、図 5 に示す変動パターン PA 1-1 を表し、変動パターン PA 2-X は、図 5 に示す変動パターン PA 2-1、PA 2-2、PA 2-3 のいずれかを表し、変動パターン PA 3-X は、図 5 に示す変動パターン PA 3-1、PA 3-2 のいずれかを表し、変動パターン PA 4 は、図 5 に示す変動パターン PA 4-1、PA 4-2、PA 4-3、PA 4-4 のいずれかを表す。変動パターン PA 5-X、PB 4-X、PB 5-X についても同様である。

【0448】

図 3 8 によれば、変動パターン指定コマンドにより指定された当該変動（当該可変表示）の変動パターン（可変表示パターン）が、変動パターン PA 1-X、PA 2-X である場合、「実行無」が 100% であり、第 1 系統変化演出、第 2 系統変化演出、第 1 系統変化演出および第 2 系統変化演出のいずれも実行しないことを表している。また、アクティブ表示変化演出を実行する場合（図 3 8 (A)、図 3 8 (B) の「実行有」の場合）、熱いリーチ（例えば、スーパーリーチ）となるときは、熱くないリーチ（例えばノーマルリーチ）となるときと比べて、第 2 系統変化演出よりも第 1 系統変化演出が実行される割合が高い。また、変動パターンが「大当たり」となるときは、「ハズレ」となるときと比べて、第 2 系統変化演出よりも第 1 系統変化演出が実行される割合が高い。また、熱いリーチ（例えば、スーパーリーチ）となるときは、熱くないリーチ（例えばノーマルリーチ）となるときと比べて、第 1 系統変化演出および第 2 系統変化演出の両方が実行される割合が高い。また、変動パターンが「大当たり」となるときは、「ハズレ」となるときと比べて、

第1系統変化演出および第2系統変化演出の両方が実行される割合が高い。

【0449】

また、当該変動に対応するアクティブ表示が特殊態様であるか否かによって、アクティブ表示変化演出の実行有無の決定割合がことなり、当該変動に対応するアクティブ表示が特殊態様である場合は、当該変動に対応するアクティブ表示が特殊態様でない場合と比べてアクティブ表示変化演出が実行される決定割合が高い。また、図26に示すような特殊態様を考慮しない場合と、図38(A)に示すような特殊態様を考慮し、当該変動に対応するアクティブ表示が特殊態様でない場合と、図38(B)に示すような特殊態様を考慮し、当該変動に対応するアクティブ表示が特殊態様である場合と、のそれぞれとを比較すると、図38(A)に示すアクティブ表示変化演出実行有無決定テーブルによる決定割合、図26に示すアクティブ表示変化演出実行有無決定テーブルによる決定割合、図38(B)に示すアクティブ表示変化演出実行有無決定テーブルによる決定割合の順にアクティブ表示変化演出が実行される決定割合が高い。

10

【0450】

即ち、演出実行設定処理(S532)において、演出制御用CPU120は、アクティブ表示変化演出実行有無決定テーブルとアクティブ表示変化演出の実行有無決定用の乱数値MR7と、変動パターン指定コマンドにより指定された当該変動(当該可変表示)の変動パターン(可変表示パターン)とにより、アクティブ表示変化演出を実行するか否か、アクティブ表示変化演出を実行する場合には、複数のアクティブ表示変化演出の演出態様のうち、いずれのアクティブ表示変化演出を実行するかを決定する。

20

【0451】

なお、演出制御用CPU120は、先ずアクティブ表示変化演出の実行有無を決定し、「実行有」と決定したときには「第1系統変化演出」か「第2系統変化演出」か「第1系統変化演出および第2系統変化演出」の何れかを決定してもよい。

【0452】

なお、第1系統変化演出として表示する図形群Y1は、図形群Y1を構成する図形の組合せにより、大当りに対する期待度が変化するように決定してもよい。図39を参照して詳述する。

【0453】

図39は、第1系統変化演出実行時の第1系統詳細パターン決定テーブルによる決定割合の設定例を示す図である。図39に示すそれぞれの設定例では、第1系統変化演出の第1系統詳細パターン決定テーブルには、例えば三角形、五角形、星の3つの図形の組合せに応じた10種類の第1系統詳細パターンSHP1～SHP10が含まれる。この第1系統詳細パターンは、第1系統変化演出のみを実行する場合(図27(A)のアクティブ表示変化演出パターンBP1～BP4のいずれかに決定された場合)、および第1系統変化演出と第2系統変化演出との両方を実行する場合(図27(C)のアクティブ表示変化演出パターンAP1～AP12のいずれかに決定された場合)に参照される。

30

【0454】

この第1系統詳細パターンは、第1系統詳細パターン決定用の乱数値MR8(非図示)と比較される数値(決定値)が、アクティブ表示変化演出パターンにより、図39に示すような決定割合で割当てられている。

40

【0455】

なお、ROM121には、図27に示した16種類のアクティブ表示変化演出パターンに応じた10種類の第1系統変化演出の演出態様としての第1系統詳細パターンが記憶されているものとする。

【0456】

図39において、第1系統詳細パターン「SHP1」は、図形群Y1を構成する3つの図形が全て三角形で構成されるとき演出パターンである。図示する例によれば、AP1～AP3およびBP1は、図27において熱くないリーチ(例えば、ノーマルリーチ)となるときに決定される決定割合が高く、熱くないリーチ(例えば、ノーマルリーチ)とな

50

るときは、熱いリーチ（例えば、スーパーリーチ）となるときと比べて、第1系統詳細パターンSHP1に決定される決定割合が高い。また、図27において決定されたアクティブ表示変化演出パターンによって、当該変動に対応するアクティブ表示の表示態様が決定されており、決定された当該変動に対応するアクティブ表示の表示態様となり得る第1系統詳細パターンが決定される。

【0457】

同様に、第1系統詳細パターン「SHP2」は、図形群Y1を構成する3つの図形が五角形、三角形、三角形で構成されるとき演出パターンであり、第1系統詳細パターン「SHP3」は、図形群Y1を構成する3つの図形が五角形、五角形、三角形で構成されるとき演出パターンであり、第1系統詳細パターン「SHP4」は、図形群Y1を構成する3つの図形が五角形、五角形、五角形で構成されるとき演出パターンであり、第1系統詳細パターン「SHP5」は、図形群Y1を構成する3つの図形が星、三角形、三角形で構成されるとき演出パターンであり、第1系統詳細パターン「SHP6」は、図形群Y1を構成する3つの図形が星、五角形、三角形で構成されるとき演出パターンであり、第1系統詳細パターン「SHP7」は、図形群Y1を構成する3つの図形が星、五角形、五角形で構成されるとき演出パターンであり、第1系統詳細パターン「SHP8」は、図形群Y1を構成する3つの図形が星、星、三角形、三角形で構成されるとき演出パターンであり、第1系統詳細パターン「SHP9」は、図形群Y1を構成する3つの図形が星、星、五角形で構成されるとき演出パターンであり、第1系統詳細パターン「SHP10」は、図形群Y1を構成する3つの図形の全てが星で構成されるとき演出パターンである。図示する例によれば、図形群Y1を構成する図形の組合せにより、成功演出が実行され得る期待度が異なる。

【0458】

なお、図37、図38に示すように特殊態様を考慮する場合において、特殊態様で表示される保留表示に対応するアクティブ表示に対してアクティブ表示変化演出を実行するときに、上述した共通演出を、成功演出と失敗演出とを示唆する示唆演出として実行してもよく、特殊態様で表示される保留表示に対応するアクティブ表示に対するアクティブ表示変化演出を示唆する示唆演出（例えば、成功演出と失敗演出とで共通で実行される共通演出を示唆する示唆演出）を同じまたは異なる態様で実行してもよい。なお、図37、図38に示すように特殊態様を考慮する場合において、アクティブ表示に対するアクティブ表示変化演出について説明したが、始動入賞記憶表示エリア5Hに表示された保留表示の表示態様が特別態様である場合に、特別態様で表示される保留表示に対してアクティブ表示変化演出と同様または異なる演出態様で実行される保留変化演出を実行してもよい。

【0459】

なお、図39において、当初表示（組合せ）により構成される図形群Y1のうち、共通演出において消去する図形を期待度が低いアクティブ表示の表示態様となる図形から消去してもよい。例えば、成功演出として第1系統詳細パターンSHP6が決定された場合、「星」、「五角形」、「三角形」の3つの図形から構成される図形群のうち成功演出が実行された後の表示態様となる図形（例えば、「五角形」）以外の2つのうち、期待度が低い図形（例えば「三角形」）を最初に消去し、次に期待度が低い図形（例えば、「星」）を消去してもよく、失敗演出である場合には、「星」、「五角形」、「三角形」の3つの図形から構成される図形群のうち「三角形」「五角形」、「星」の順に消去してもよい。

【0460】

以上、上記実施形態による遊技機1は、遊技領域に設けられた始動領域（例えば、第1始動入賞口、第2始動入賞口等）を遊技媒体が通過した後に、可変表示（例えば、特図の可変表示、飾り図柄の可変表示、特図及び飾り図柄の可変表示等）の開始を許容する開始条件の成立に基づいて識別情報の可変表示を実行して表示結果（例えば、確定飾り図柄、確定特別図柄等）を導出表示する可変表示手段に特定表示結果が導出表示されたときに、遊技者にとって有利な特定遊技状態（例えば、大当り遊技状態等）に制御する遊技機（例えば、遊技機1等）であって、遊技媒体が前記始動領域を通過したが可変表示の開始条件

が成立していない識別情報の可変表示について、所定の上限数を限度に保留情報を記憶する保留記憶手段（例えば、第1特図保留記憶部151A、第2特図保留記憶部151B、第1始動入賞時受信コマンドバッファ194A、第2始動入賞時受信コマンドバッファ194B等）と、前記保留記憶手段に記憶されている保留情報の各々に対して所定の表示態様で保留表示を行う保留表示手段（例えば、S162の第1保留追加処理において第1始動入賞記憶表示エリア5HLに保留表示を追加する処理や、S165の第2保留追加処理において第2始動入賞記憶表示エリア5HRに保留表示を追加する処理等）と、可変表示の開始条件が成立したことに基づいて、当該可変表示に対応する保留表示に応じた消化時表示を含む情報を表した特別画像（例えば、当該可変表示に対応する保留表示を所定のアクティブ表示エリアAHAに移動させたアクティブ表示、または、当該可変表示に対応するアクティブ表示に応じた情報を表す特別画像等）を所定領域（例えば、アクティブ表示エリアAHAは、例えば画像表示装置5の中央下部に設けられる。このアクティブ表示エリアAHAには、少なくともアクティブ表示AHが表示され、当該アクティブ表示AHの他にこのアクティブ表示AHを囲うアクティブ表示枠AHWやアクティブ表示枠AHWを含む所定の範囲を含む領域等）に表示する特別画像表示手段と、識別情報の可変表示の実行中に、前記特別画像の表示態様を変化させるときと、前記特別画像の表示態様を変化させないときとで共通で実行される共通演出（例えば、第1系統変化演出において、図形群Y1がアクティブ表示に衝突する前までの演出や、第2系統変化演出において、矢Y2がアクティブ表示を囲うアクティブ表示枠に衝突するまでの演出等）と、当該共通演出を実行した後に前記特別画像の表示態様を変化させる成功演出（例えば、第1系統変化演出において、アクティブ表示に図形群Y1のいずれかの形状「星」の図形が衝突して星の表示態様に変化する演出や、第2系統変化演出において、アクティブ表示枠に矢Y2が衝突してアクティブ表示枠の線の太さが変化する演出や、これらの第1系統変化演出と第2系統変化演出とを両方実行してアクティブ表示やアクティブ表示枠等の表示態様を変化させる演出等）または前記特別画像の表示態様を変化させない失敗演出（例えば、第1系統変化演出において、アクティブ表示に図形群Y1のいずれかの形状「星」の図形が衝突する前に消滅してアクティブ表示の表示態様を変化させない演出や、第2系統変化演出において、アクティブ表示枠に矢Y2が衝突する前に矢Y2が消滅して、アクティブ表示枠の線の太さが変化する演出や、これらの第1系統変化演出と第2系統変化演出とを両方実行してアクティブ表示またはアクティブ表示枠の一方または両方の表示態様を変化させない演出等）とを実行可能な演出実行手段と、を備え、識別情報の可変表示の実行中における複数タイミングのうち、いずれのタイミングで前記共通演出を実行するかに応じて、前記成功演出を実行する割合が異なる。

【0461】

このような構成によれば、遊技機は、当該可変表示に対応する保留表示に応じた消化時表示を含む情報を表した特別画像の表示態様を変化するかを煽る共通演出の実行タイミングに注目させることができる。また、遊技機は、実行タイミングに注目させることにより、遊技者の期待感を向上させることができる。

【0462】

また、遊技機1において、前記共通演出が実行され得る複数のタイミングは、前記特定表示結果の一部を構成するリーチ表示態様が表示される前後を含んでもよい。

【0463】

このような構成によれば、遊技機は、リーチ表示態様が表示される前後（リーチ成立の前後）にわたって遊技者の期待感を向上させることができる。

【0464】

また、遊技機1において、前記共通演出は、実行中の識別情報の可変表示の第1のタイミングで実行される場合よりも当該可変表示の前記第1のタイミングよりも後の第2のタイミングで実行される場合の方が、前記成功演出が実行される割合が高くてよい。

【0465】

このような構成によれば、実行中の識別情報の可変表示の前半から後半までの、より長

い期間にわたって、遊技者の期待感を向上させることができる。

【0466】

また、遊技機1において、特定表示結果とするか否かを可変表示の表示結果を導出表示する以前に決定する事前決定手段（例えば、CPU103によるS412の処理において、特図表示結果と保留記憶数とに基づいて、図17に示す複数の変動カテゴリ決定テーブルの中から使用する変動カテゴリ決定テーブルを選択し、選択した変動カテゴリ決定テーブルと変動カテゴリ決定用の乱数値MR3とに基づいて変動カテゴリを判定する処理、S220の入賞時乱数値判定処理において、特図表示結果や大当り種別を決定する処理等）と、前記事前決定手段の決定前に、前記保留記憶手段に記憶されている前記保留情報に基づく可変表示の表示結果が特定表示結果となるか否かを判定する特定判定手段（例えば、S110の特別図柄通常処理における、特別図柄や飾り図柄の可変表示結果を「大当り」又は「小当り」とするか否かを、その可変表示結果が導出表示される以前に決定する処理等）と、前記特定判定手段の判定対象となった保留情報に対応する保留表示を複数種類のうちのいずれかの表示態様で表示する保留予告演出を実行可能な演出実行手段と、保留表示の表示態様が変化するか否かを示唆する示唆演出を実行可能な示唆演出実行手段と、を備え、保留表示の表示態様は、通常態様と、前記通常態様とは異なる特殊態様と、前記通常態様および前記特殊態様とは異なる態様である第1特別態様と第2特別態様とを含み、前記演出実行手段は、前記特定判定手段の判定結果に応じて、異なる割合で当該特定判定手段の判定対象となった保留情報に対応する保留表示を前記第1特別態様または前記第2特別態様で表示するものであって、また、複数タイミングで保留表示を前記第1特別態様または前記第2特別態様に变化させて表示することが可能であり、前記示唆演出実行手段は、保留表示が前記特殊態様で表示されているときには、保留表示が前記特殊態様で表示されていないときよりも高い頻度で示唆演出を実行してもよい。

【0467】

このような構成によれば、保留表示の表示態様を特殊態様で表示している場合は、示唆演出の実行頻度を高めることができるため、遊技者の期待感を高めることができる。

【0468】

なお、上記説明では、アクティブ表示に対するアクティブ表示変化演出について説明したが、始動入賞記憶表示エリア5Hに表示される保留表示に対してアクティブ表示変化演出と同様の演出態様である保留変化演出を実行してもよい。

【0469】

また、図37、図38に示すように保留表示が特殊態様で表示された後に、上述した共通演出を、成功演出と失敗演出とを示唆する示唆演出として実行する実行割合が異なるように、例えば、高くしてもよく、保留表示が特殊態様で表示された後に、保留表示に対応するアクティブ表示に対するアクティブ表示変化演出を示唆する示唆演出（例えば、成功演出と失敗演出とで共通で実行される共通演出を示唆する示唆演出）を同じまたは異なる態様で実行する実行割合が異なるように、例えば、高くしてもよい。なお、図37、図38に示すような始動入賞記憶表示エリア5Hに表示された保留表示の表示態様が特別態様である場合に、特別態様で表示される保留表示に対してアクティブ表示変化演出と同様または異なる演出態様で実行される保留変化演出を実行する実行割合が異なるように、例えば、高くしてもよい。

【0470】

なお、上記説明では、アクティブ表示変化演出等の主予告演出について説明したが、この主予告演出に影響しない場合には、他の主予告演出や先読予告演出等の予告演出を同じ変動で実行してもよく、他の主予告演出や先読予告演出等の予告演出に影響しない場合には、この主予告演出を同じ変動で実行してもよい。ここで、影響しない場合とは、当該変動において、複数の予告演出（主予告演出、先読予告演出）を実行する場合に各予告演出を実行する実行時間が当該変動の特図変動時間において十分である場合や、当該変動において、複数の予告演出（主予告演出、先読予告演出）を実行する場合に各予告演出の演出態様により遊技者にとって見づらくない場合等である。

【0471】

なお、上記説明では、アクティブ表示に対するアクティブ表示変化演出について説明したが、例えば、保留表示に対する保留演出がハンマーを持ったキャラクタが登場し、第1保留表示をハンマーで叩く作用演出を実行することにより保留表示の表示態様を変化させる演出態様であったり、飾り図柄が英数字「1」～「8」の8種類と1つのキャラクタ画像との合計9種類で構成される場合に、飾り図柄であるキャラクタ画像からキャラクタが飛び出してターゲットの保留表示に対して作用演出を実行する演出態様であったりしてもよい。

【0472】

なお、上記説明では、保留表示の追加時表示態様について説明したが、追加時表示態様で表示された保留表示の表示態様を変化させるか否かを決定し、保留表示の表示態様を変化させる場合には、図24や、図37のような保留表示の表示態様決定テーブルによる設定例に基づいて保留表示の表示態様を決定し、保留表示の表示態様を変化させるタイミングを決定してもよい。この保留表示の表示態様を変化させるタイミングは、次変動等の予め定められたタイミングでもよい。

10

【0473】

なお、上記説明では、第1系統変化演出として複数の図形の組合せにより構成される図形群によりアクティブ表示の表示態様を変化させる演出態様、および第2系統変化演出として矢によってアクティブ表示枠の表示態様を変化させる演出態様について説明したが、図形や矢でなくてもよく例えば、キャラクタ等を登場させてアクティブ表示やアクティブ表示枠等を含む特別画像の表示態様を変化させるような演出態様でもよい。

20

【0474】

なお、上記説明では、追加表示される保留表示の表示態様（追加時表示態様）が白色の一例について説明したが、図24、図37に示したような保留表示態様決定テーブルによる設定例のように、例えば4色（例えば、赤色、黄色、青色、白色）または5色（例えば、赤色、黄色、青色、白色、灰色）のいずれかで追加表示されるように保留表示の表示態様が決定されてもよく、上記3色以下や6色以上の表示態様によって追加表示されるように保留表示の表示態様が決定されてもよく、保留表示の色や保留表示に描かれた文字や記号によって追加表示されるように保留表示の表示態様を決定してもよく、保留表示の形状（例えば、ハート型、星型、キャラクタ型等）によって追加表示されるように保留表示の表示態様を決定してもよく、保留表示の動き（例えば、キャラクタ型の保留表示における当該キャラクタの動作パターン等）等によって追加表示されるように保留表示の表示態様を決定してもよい。

30

【0475】

なお、上記説明では、アクティブ表示は、飾り図柄最終停止の直前に画像表示装置5から消去されてもよく、飾り図柄表示エリア5Lの飾り図柄の変動が停止したときにアクティブ表示を消去してもよく、変動開始から所定時間経過した後にアクティブ表示を消去してもよい。

【0476】

なお、上記説明では、アクティブ表示エリアAHAに表示されたアクティブ表示に対して共通演出を実行した後に、当該可変表示に対応する保留表示に応じたアクティブ表示を含む情報を表した特別画像の表示態様を変化させる成功演出や当該可変表示に対応する保留表示に応じたアクティブ表示を含む情報を表した特別画像の表示態様を変化させない失敗演出を実行する一例について説明したが、始動入賞記憶表示エリア5Hに表示された保留表示のうちのいずれかに対しても成功演出と失敗演出とで共通で実行される共通演出を実行した後に、保留表示の表示態様を変化させる成功演出や保留表示の表示態様を変化させない失敗演出を実行してもよい。

40

【0477】

また、始動入賞記憶表示エリア5Hに表示された保留表示のいずれかに対して成功演出または失敗演出をした後、この保留表示が当該可変表示となり、当該可変表示に対応する

50

この保留表示に応じたアクティブ表示を含む情報を表した特別画像に対して、さらに成功演出または失敗演出を実行してもよい。この場合、例えば、第1始動入賞口または第2始動入賞口への始動入賞があったときには、図23におけるステップ160やステップ163において、始動入賞記憶表示エリア5Hに表示された保留表示のそれぞれに対して、保留表示に対する成功演出や失敗演出の実行有無、演出態様、演出を実行する実行タイミング、保留表示の表示態様等を変動カテゴリに応じて決定し、さらにそれぞれの保留表示が対応するアクティブ表示となったときのアクティブ表示を含む情報を表した特別画像に対する成功演出や失敗演出の実行有無、演出態様、特別表示の表示態様等を変動カテゴリ等に応じて決定して、図10に示すような第1先読予告バッファ194Cや第2先読予告バッファ194Dに決定内容を記憶させればよい。

10

【0478】

なお、上記説明では、一例として「激熱」の文字が描画された矢Y2による演出態様の第2系統変化演出について説明したが、矢Y2に文字が描画されていなくてもよく、他の文字が描画されてもよく、キャラクタ等が描画されてもよい。また、第2系統変化演出として複数種類の演出態様が存在する場合には、複数種類の第2系統変化演出のうち、どの第2系統変化演出の演出態様が選択されるかによって、成功演出が実行される期待度が異ならせてもよい。また、第2系統変化演出は、この第2系統変化演出の演出態様によって、成功演出実行後の特別画像の表示態様を示唆する演出でもよい。

【0479】

次に、図40～図47を順次参照して、変動表示中の様々な演出のうち所定演出の実行を、変動表示のために用いる飾り図柄（表示結果として導出表示され得る図柄）とは異なる特殊画像によって事前に示唆する演出をする様々な手法について説明する。このような演出を特殊画像演出と呼ぶ場合がある。ここでは、そのような特殊画像を画像表示装置5の飾り図柄表示エリア5L，5C，5Rに表示することを例に挙げる。もちろん、そのような特殊画像は、画像表示部5の飾り図柄表示エリア外に表示してもよい。また、画像表示装置5以外の表示部に表示することを制限するものでもない。なお、図40、図45～図47においては、画像表示装置5に表示される演出表示例が示されるが、これら図中においては、特殊画像演出を明確化するために、本来表示されるアクティブ表示および保留表示の記載は省略されている。

20

【0480】

以下では、特殊画像演出として、特殊画像を、変動表示を一旦停止させて表示させることを例として説明し、また、そのような特殊画像のことを、それが表示されることで飾り図柄による変動表示演出の発展に期待が持てることから「発展図柄」（「特殊図柄」と呼ぶ場合もある）と称することにする。ここで、飾り図柄による変動表示演出が長い程、大当りに対する期待度が高く、遊技者としては、飾り図柄による変動表示演出が発展（変動表示演出の継続）によって大当りに対する期待感が高まることとなる。このような発展図柄の代表例は、例えば、スーパーリーチに発展する発展演出の際に表示される「スーパーリーチ発展図柄」、特別演出モードの演出の実行前に表示される「特別演出発展図柄（たとえば、後述する特別擬似連図柄）」、および、擬似連の演出の際に表示される「擬似連専用図柄」（擬似連チャンス目の一種）である。変動表示中にこのような発展図柄が表示され

30

40

【0481】

この実施の形態では、変動表示中において、このような特殊画像演出により所定演出を示唆した後は、直ちに当該変動表示が終了する場合はなく、必ず当該変動表示が継続して実行され、擬似連演出等の所定演出が実行されることとなる。

【0482】

各種特殊画像演出の概要を先に説明すると、前述した所定演出には、スーパーリーチ演出が含まれる（図40）。この場合の特殊画像演出は、発展図柄の表示後にスーパーリーチへと発展（移行）する演出となる。所定演出には、特別演出モードの演出が含まれる（図45（G））。この場合の特殊画像演出は、発展図柄の表示後に特別演出モードへと発

50

展（移行）する演出となる。なお、特別演出モードは後に詳しく説明する。また、所定演出には、擬似連演出が含まれる（図４６）。この場合の特殊画像演出は、発展図柄の表示後に擬似連へと発展（移行）する演出となる。さらに、所定演出には、アクティブ表示変化演出が含まれる（図４７）。この場合の特殊画像演出は、発展図柄の表示後にアクティブ表示の態様が発展（変化）する演出となる。

【０４８３】

以下の説明においては、特殊画像演出として、スーパーリーチ演出に発展する演出と、特別演出モードの演出と、擬似連演出とについて別個に説明するが、これら特殊画像演出は、パチンコ遊技機１において、すべてを実行可能としてもよく、いずれか１つを実行可能としてもよく、いずれか２つを実行可能としてもよい。したがって、特殊画像演出に用いる特殊画像としては、スーパーリーチに発展する発展演出の際に表示される「スーパーリーチ発展図柄」、特別演出モードの演出の実行前に表示される「特別演出発展図柄（たとえば、後述する特別擬似連図柄）、および、擬似連の演出の際に表示される「擬似連専用図柄」（擬似連チャンス目の一種）のうち、少なくともいずれかの特殊画像が含まれる。これにより、特殊画像を用いた演出の変化による効果をより一層高め、演出の興趣をより一層向上させることが可能となる。

10

【０４８４】

所定演出について注目すべき点は、一旦表示された発展図柄の態様が一の態様から他の態様へと変化（発展）し得る点である。これにより、遊技者に対して発展図柄が表示された段階のみならず、その後においても、もしかして発展図柄が変化するのではないか、さらには発展図柄が変化したことで最初の発展図柄が示唆する演出とは異なる演出が実行されるのではないか等といった期待感を遊技者に与えることができる。

20

【０４８５】

以下、発展図柄の代表例として、まずは、スーパーリーチの発展を示唆する「スーパーリーチ発展図柄」（以下、単に「発展図柄」と呼ぶ場合がある）を採りあげて、図４０～図４４を用いて詳細に説明する。その後、その変形例を、図４５～図４７を用いて順番に説明する。

【０４８６】

＜発展図柄の変化（第１スーパーリーチから第２スーパーリーチへの変化）＞

図４０に基づいて、発展図柄としてスーパーリーチ発展図柄を用いた特殊画像演出を説明する。図４０は、発展図柄を用いた演出の一例を示す図である（スーパーリーチ発展演出）。スーパーリーチ発展図柄は、青色または赤色を背景色とした、スーパーリーチ（Super reach）の「Ｓ」をかたどった図柄である。

30

【０４８７】

図４０には、青色の発展図柄が変動表示の途中で表示された後に、第１スーパーリーチへと発展する第１のケース（（Ａ）～（Ｅ））と、赤色のスーパーリーチ発展図柄が変動表示の途中で表示された後に、第２スーパーリーチへと発展する第２のケース（（Ｊ）～（Ｎ））と、青色のスーパーリーチ発展図柄が変動表示の途中で表示された後に、そのスーパーリーチ発展図柄が青から赤に変化し、その後に第２スーパーリーチへと発展する第３のケース（（Ａ）～（Ｃ）、（Ｆ）～（Ｈ））とが例示されている。

40

【０４８８】

第１のケース（（Ａ）～（Ｅ））では、（Ａ）のように画像表示装置５の飾り図柄表示エリア５Ｌ、５Ｃ、５Ｒで飾り図柄が変動表示を開始し、やがて（Ｂ）のように「左」、「右」の飾り図柄表示エリア５Ｌ、５Ｒにおいて左、右の飾り図柄が「７」で変動を停止してリーチ状態が成立する。その後、（Ｃ）のように「中」の飾り図柄表示エリア５Ｃに青色のスーパーリーチ発展図柄が表示される。このとき、青色のスーパーリーチ発展図柄は一旦停止（仮停止）した状態で、一定期間、表示される。

【０４８９】

続いて、（Ｄ）のように青色の発展図柄が表示された位置で徐々に拡大動作し、やがて左、右の飾り図柄の一部を覆う程度にまで拡大すると、その時点でスーパーリーチ発展図

50

柄の種類が青色で確定する。その後、(E)のように全背景が青色に切替わるとともに第1スーパーリーチへ発展するメッセージが表示される。その後、第1スーパーリーチの演出が実行される。このように、青色のスーパーリーチ発展図柄が表示されると、その後に第1スーパーリーチへ発展するため、青色のスーパーリーチ発展図柄は、第1スーパーリーチを示唆する発展図柄である。

【0490】

このように、青色のスーパーリーチ発展図柄の表示から第1スーパーリーチへと発展する演出を「第1発展演出」と称する。

【0491】

第2のケース((J)~(N))は、(J)のように画像表示装置5の飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rで飾り図柄が変動表示を開始し、やがて「左」、「右」の飾り図柄表示エリア5L、5Rにおいて、左、右の飾り図柄が「7」で変動を停止してリーチが成立する(K)。その後、(L)のように「中」の飾り図柄表示エリア5Cに赤色のスーパーリーチ発展図柄が表示される。このとき、赤色のスーパーリーチ発展図柄は一旦仮停止した状態で、一定期間、表示される。

【0492】

続いて、(M)のように赤色のスーパーリーチ発展図柄が表示された位置で徐々に拡大動作し、やがて左、右の飾り図柄表示エリア5L、5Rにおいて左、右の飾り図柄の一部を覆う程度にまで拡大すると、その時点で発展図柄の種類が赤色で確定する。その後、(N)のように全背景が赤色に切替わるとともに第2スーパーリーチ(第1スーパーリーチよりも大当りの期待度が高い)へ発展するメッセージが表示される。その後、第2スーパーリーチの演出が実行される。このように、赤色のスーパーリーチ発展図柄が表示されると、その後に第2スーパーリーチへ発展するため、赤色のスーパーリーチ発展図柄は、第2スーパーリーチを示唆する発展図柄である。

【0493】

このように、赤色のスーパーリーチ発展図柄の表示から第2スーパーリーチへと発展する演出を「第2発展演出」と称する。

【0494】

第3のケース((A)~(C)、(F)~(H))は、(C)のように「中」の飾り図柄表示エリア5Cに青色のスーパーリーチ発展図柄が表示されてからが、第1のケースと異なる。すなわち、(F)のように青色のスーパーリーチ発展図柄が徐々に拡大する間、スーパーリーチ発展図柄の色が青から赤に変化する。このように発展図柄が変化する演出を「発展図柄変化演出」という(図40の(F))。なお、発展図柄の変化の態様は様々な態様を採用することができる。例えば、波が押し寄せるように、図柄の一方から他方向へと徐々に色を切替えてもよく、あるいは、全体の色彩が青系統から赤系統へと徐々に切替わるようにしてもよい。やがて(G)のように左、右の飾り図柄表示エリア5L、5Rにおける飾り図柄の一部を覆う程度にまで拡大すると、その時点でスーパーリーチ発展図柄の種類が赤で確定する。なお、(G)の大きさまで拡大した時点で一気に色を変更してもよい。そして、(H)のように全背景が赤に切替わるとともに第2スーパーリーチへ発展するメッセージが表示された後、第2スーパーリーチの演出が実行される。

【0495】

この実施の形態では、変動表示中において、スーパーリーチ発展図柄が青色から赤色に変化したときに、必ず赤色でのスーパーリーチの演出が継続して実行される。なお、変動表示中において、スーパーリーチ発展図柄が青色で確定したときには、所定割合で青色でのスーパーリーチの演出が継続して実行されない、所謂ガセ演出を実行してもよい。

【0496】

このように、青色のスーパーリーチ発展図柄の表示からスーパーリーチ発展図柄の色の変化を経て第2スーパーリーチへと発展する演出を「第3発展演出」あるいは「発展図柄変化演出」と称する。

【0497】

以上、図40を用いて説明したように、青色のスーパーリーチ発展図柄のままで第1スーパーリーチ演出へと発展する第1のケースと、その途中でスーパーリーチ発展図柄の色が変化してより大当たり期待度の高い第1スーパーリーチ演出へと発展する第3のケースとを実行可能とすることで、遊技者に対して、スーパーリーチ発展図柄が変更されるかもしれないという期待感を抱かせることができる。その結果、第1のケースおよび第2のケースのみが実行可能な場合と比較して、変動表示中において、演出の変化による効果を高め、演出の興趣を向上させることが可能となる。

【0498】

また、スーパーリーチ発展図柄は、拡大表示される前に停止した状態で、一定期間、表示されるため、仮にその後にスーパーリーチ発展図柄が変化したとしても、変化前の図柄を遊技者が確実に認識できる。

【0499】

図41は、スーパーリーチ発展演出パターンテーブルを示す図である。また、図42は、発展演出選択テーブルを示す図である。図40に示した第1～第3発展演出の選択は、演出制御用CPU120が図41および図42に示すテーブルを用いて行う。

【0500】

図41に示すテーブルには、実行するリーチの種類がスーパーリーチαの場合に第1発展演出が選択される一方、実行するリーチの種類がスーパーリーチβの場合に第2発展演出および第3発展演出（発展図柄変化演出）のいずれか一方が選択されることが示されている。また、スーパーリーチβの場合の第2発展演出と第3発展演出との選択割合は、は

【0501】

スーパーリーチαおよびスーパーリーチβは、図5に示した。図5を参照して、ここで対象となるスーパーリーチαおよびスーパーリーチβは、擬似連変動に発展しないものを想定しているので、変動パターンPA4-1、PA5-1、PB4-1、PB5-1である。PA4-1は表示結果がはずれとなるスーパーリーチα、PA5-1は表示結果がはずれとなるスーパーリーチβ、PB4-1は表示結果が大当たりとなるスーパーリーチα、PB5-1は表示結果が大当たりとなるスーパーリーチβである。演出制御用CPU120は、受信した変動パターンコマンドに基づき、今回の変動表示が変動パターンPA4-1、PA5-1、PB4-1、PB5-1のいずれかであることを特定する。

【0502】

スーパーリーチβのときに第2発展演出および第3発展演出のいずれを実行するかは、演出制御用CPU120が乱数抽選により決定する。その乱数抽選のために演出制御用CPU120が使用するランダムカウンタが図42に示すMR10である。図42(A)に示されるとおり、はずれのスーパーリーチβのときの第2発展演出と第3発展演出との選択割合は6対4である。一方、図42(B)に示されるとおり、大当たりのスーパーリーチβのときの第2発展演出と第3発展演出との選択割合は逆に4対6である。

【0503】

その結果、第3発展演出が実行されたときには、第2発展演出が実行されたときよりも大当たり期待度が高くなる。つまり、結果的に赤色のスーパーリーチ発展図柄が確定して第2スーパーリーチに発展する場合であっても、青色から赤色へのスーパーリーチ発展図柄の変化を経た方がそうでない場合よりも大当たりに対する期待が持てる。それゆえ、赤色よりも大当たり期待度の低い青色のスーパーリーチ発展図柄が一旦表示されたときでも、もしかして赤色に変化して、第1スーパーリーチよりも大当たり期待度の高い第2スーパーリーチの演出に発展するのではないかという期待感を遊技者に抱かせることが可能となる。

【0504】

なお、ここでは、青色から赤色に変化することにより期待度が高くなる、所謂「成り上がり」の場合を示したが、逆に、赤色から青色に変化することにより期待度が低くなる、所謂「成り下がり」があるようにしてもよく、または、そのような「成り下がり」は決して発生しないようにしてもよい。

10

20

30

40

50

【0505】

図43は、ノーマルリーチ演出と対比したスーパーリーチ発展演出の態様を示すタイミングチャートである。特に、図43には、図40を用いて説明した第1発展演出～第3発展演出を含むスーパーリーチ発展演出の例が示されている。

【0506】

図43(A)は、表示結果がはずれとなるノーマルリーチ演出の例である。ノーマルリーチ演出は、大当たり期待度が他のリーチ演出（スーパーリーチ演出等）に比較して低く、変動表示の開始から表示結果の導出までの変動時間も短めに設定されている。変動表示の開始時から第1図柄（左の飾り図柄）および第2図柄（右の飾り図柄）の停止期間が経過すると左、右の飾り図柄が同じ図柄で停止してリーチ状態が開始し、表示結果がはずれとなる場合には所定のノーマルリーチ期間を経てはずれ図柄が停止し、変動が終了する。

10

【0507】

ノーマルリーチ演出に比べて、第1発展演出～第3発展演出を含むリーチ演出の演出期間は長期間である（(B)～(D)）。図43(B)は、第1発展演出の例である。変動開始時からリーチ状態開始時まではノーマルリーチ演出の場合と同様であるが、変動開始時からの経過時間T1、T2、T3で第1発展演出が実行される。まず、T1で図40(C)のように青色のスーパーリーチ発展図柄が仮停止する。その後、T2までは、図40(C)のように青色のスーパーリーチ発展図柄が停止した状態が維持される。このため、表示されたスーパーリーチ発展図柄を遊技者が確実に認識できる。

20

【0508】

その後、T3でスーパーリーチ発展図柄の拡大動作の進行が停止してスーパーリーチ発展図柄の種類が青に確定する。その後、図40(E)のようにリーチ演出を報知するメッセージが表示され、第1スーパーリーチ演出へと移行する。第1スーパーリーチ演出の演出期間は、図43から理解されたとおり、ノーマルリーチ演出の期間に比べて極めて長い。第1スーパーリーチ演出の演出期間が終了すると、変動表示が終了する。

【0509】

図43(C)は、第2発展演出の例である。変動開始時からリーチ状態開始時まではノーマルリーチ演出の場合と同様であるが、変動開始からの経過時間T1、T2、T3で第2発展演出が実行される。まず、T1で赤色のスーパーリーチ発展図柄が仮停止する。その後、T2までは、赤色のスーパーリーチ発展図柄が停止した状態が維持される。このため、表示されたスーパーリーチ発展図柄を遊技者が確実に認識できる。

30

【0510】

やがて、T2になると、スーパーリーチ発展図柄が拡大し始める。その後、T3でスーパーリーチ発展図柄の拡大動作の進行が停止してスーパーリーチ発展図柄の種類が赤色に確定する。その後、図40(M)のようにリーチ演出を報知するメッセージが表示され、第2スーパーリーチ演出へと移行する。第2スーパーリーチ演出の演出期間は、図43から理解されたとおり、ノーマルリーチ演出の期間に比べて極めて長い。第2スーパーリーチ演出の演出期間が終了すると、変動表示が終了する。

【0511】

図43(D)は、第3発展演出の例である。変動開始時から青色の発展図柄の停止時までは、図43(B)と同様である。T1で青色の発展図柄が仮停止してから、T2までは、青色のスーパーリーチ発展図柄が停止した状態が維持される。このため、その後にスーパーリーチ発展図柄が変化する訳であるが、変化前のスーパーリーチ図柄を遊技者が確実に認識できる。したがって、その後にスーパーリーチ発展図柄が変化したにも関わらず、その変化を遊技者が見逃してしまうことを極力防止できる。

40

【0512】

やがて、T2になると、スーパーリーチ発展図柄が拡大し始める。このとき、T3に至るまでにスーパーリーチ発展図柄が青色から赤色に変化する。その変化の態様はすでに説明したとおりであり、例えば、波が押し寄せるように、図柄の一方向から他方向へと徐々に色を切替える演出等が実行される。その後、スーパーリーチ発展図柄の拡大動作が停止

50

してスーパーリーチ発展図柄の種類が赤に確定する。その後、図40(M)のようにリーチ演出を報知するメッセージが表示され、第2スーパーリーチ演出へと移行する。

【0513】

なお、第2スーパーリーチ演出の演出期間は、第1スーパーリーチ演出と同じとしてもよく、または、第1スーパーリーチ演出の演出期間よりも長くし、遊技者の期待感の持続期間を引き延ばすことが可能となるようにしてもよい。

【0514】

図44は、発展図柄演出設定処理（特殊図柄演出設定処理）を示すフローチャートである。この処理は、図25の可変表示開始設定処理のS532の一部の処理である。まず、今回の変動表示は、擬似連演出と関連しないスーパーリーチαか否かを判定する（S700）。当該スーパーリーチαであるか否かは、今回の変動表示にあたり受信した変動パターンコマンドに基づいて判定される。擬似連演出と関連しないスーパーリーチαであれば、第1発展演出の演出内容を選択し設定する（S701）。その後、処理が終了する。

【0515】

擬似連演出と関連しないスーパーリーチαでなければ、それが擬似連演出と関連しないスーパーリーチβか否かを判定する（S702）。当該スーパーリーチβであるか否かは今回の変動表示にあたり受信した変動パターンコマンドに基づいて判定される。擬似連演出と関連しないスーパーリーチβであれば、今回の変動表示は大当たり表示結果であるか否かを判定する（S703）。

【0516】

S703で大当たり表示結果であれば、大当たり決定時発展演出選択テーブル（図42(B)）を用い、第2発展演出または第3発展演出の演出内容を選択し設定する（S704）。一方、大当たり表示結果でなければ、はずれ決定時発展演出選択テーブル（図42(A)）を用い、第2発展演出または第3発展演出の演出内容を選択し設定する（S705）。

【0517】

S701、S704、およびS705の後、または、S702において擬似連演出と関連しないスーパーリーチβでもないとは判定されたときには、処理が終了する。

【0518】

発展図柄演出設定処理が実行されることによって、擬似連以外のスーパーリーチαまたはスーパーリーチβの実行が決定されているときに、先に説明した発展図柄を伴う第1～第3発展演出のいずれかが実行される。なお、S701、S704、S705の少なくともいずれかにおいて、第1～第3発展演出のいずれにも決定されない場合が、ある定められた割合で発生するようにしてもよい。

【0519】

以下、その他の種類の発展図柄を用いた特殊画像演出に関する変形例を図面に基づいて順番に説明する。

【0520】

<発展図柄の変化の変形例1（第1スーパーリーチから特別演出モードへの変化）>

図45に基づいて、特殊画像として特別擬似連演出図柄を用いた特殊画像演出を説明する。図45は、発展図柄を用いた演出の変形例の第1例を示す図である（特別演出モード発展演出）。

【0521】

まず、特別演出モードについて説明する。特別演出モードは、擬似連演出の演出モードの1つである。擬似連演出には、特別演出モードでの演出が実行される特別演出擬似連と、特別演出モードでの演出が実行されない特別演出なし擬似連（以下、通常演出擬似連とも呼ぶ）とが含まれる。特別演出モードでの演出は、チャンスゾーン演出とも呼ばれ、遊技者にとって有利な状況（チャンスゾーン）に移行していることを擬似連の変動表示中に特別の演出モードに属する演出パターンを用いて示唆する演出である。ここでは、特別演出モードでの演出として、その他の演出モードでは表示されない特別の背景画像（演出図柄の背景を構成する画像）を所定期間に亘り表示する演出を一例として示す。

【0522】

このような特別演出モードでの演出は、擬似連の変動表示が実行されるときに他に、後述するような先読み演出が実行されるときにも、先読み特別演出として表示される場合がある。なお、特別演出モードでの演出としては、特別の背景画像を継続的に表示する演出以外に、特別の画像を継続的に表示したり、特別の演出音を継続的に出力したりするような演出等であってもよく、特別の背景画像の継続表示、特別の画像の継続表示、および、特別の演出音の継続出力等を組合せた演出であってもよい。

【0523】

特別演出擬似連は、仮停止図柄として特別擬似連図柄のような特別画像が表示されたときに実行される。特別演出擬似連は、仮停止図柄として特別擬似連図柄以外の通常擬似連図柄のような所定画像が表示されたときには実行されない。擬似連の演出のうち、特別演出擬似連の方が通常演出擬似連よりも、特別図柄の変動表示結果が大当たり表示結果となるときに選択される割合が高くなるように設定されている。したがって、特別演出擬似連において実行される特別演出モードでの演出は、遊技者にとって有利な状態であることを示唆する演出である。

【0524】

通常擬似連図柄は、「NEXT」という文字が付された図柄（以下、「NEXT図柄」とも呼ぶ）であり、通常擬似連演出、および、特別擬似連演出のそれぞれで用いられる擬似連専用図柄である。特別擬似連図柄は、「ZONE」という文字が付された図柄（以下、「ZONE図柄」とも呼ぶ）「図柄」であり、特別擬似連演出のみで用いられる擬似連専用図柄である。「ZONE図柄」および「NEXT図柄」は、「擬似連専用図柄」の一種である。擬似連専用図柄は、通常の変動表示に用いられる数字図柄（0～9）等とは異なる図柄であって、擬似連演出においてのみ用いられる図柄である。このような擬似連専用図柄は、通常の変動表示には用いられない。例えば、擬似連専用図柄は、擬似連演出の仮停止時（一旦停止時）において、停止される数字図柄と差替えられる態様で出現する表示がされる。このような「ZONE図柄」と、「NEXT図柄」とは、前述した「スーパーリーチ発展図柄」と同様に擬似連を示唆する発展図柄（「擬似連発展図柄」とも呼ばれる）でもある。

【0525】

演出制御用CPU120が実行する制御処理において、所定の演出移行条件が成立したときに、演出制御用CPU120により制御される演出モードが、例えば演出制御プロセス処理（S750）で、通常演出モードから特別演出モードに移行したときにおいては、例えば、可変表示開始設定処理（S171）および可変表示中演出処理（S172）により、変動表示中における演出モードを特別演出モードに移行させる特別演出モード移行演出が実行される（図45参照）。具体的に、特別演出モード移行演出としては、「ZONE図柄」を表示する演出、および、背景画像を特別の背景画像に変化させる演出等の特別な演出が実行される。

【0526】

図45に基づいて発展図柄として特別擬似連図柄を用いた演出を説明する。図45では、第1発展演出と、発展図柄変化演出と、通常演出擬似連とを対比して説明する。

【0527】

第1発展演出は、図40と同様に第1スーパーリーチを示唆する青色のスーパーリーチ発展図柄が表示されて第1スーパーリーチに発展するケースの演出である。発展図柄変化演出は、一旦表示された青色のスーパーリーチ発展図柄が特別演出モードを示唆する発展図柄としての特別擬似連図柄に変化した後特別演出モードに発展し、特別演出擬似連が実行されるケースの演出である。通常演出擬似連は、特別演出モードを示唆する発展図柄としての特別擬似連図柄が表示されることなく、通常演出擬似連が実行されるケースの演出である。なお、図40に示したような第2スーパーリーチを示唆する赤色の発展図柄が表示されて第2スーパーリーチに発展するケース（第2発展演出）は、実行可能であるが図示を省略する。

【0528】

また、図45の(A)～(E)については、第1発展演出を示す図であるが、これは図40と同様であるので、ここでは説明を省略する。

【0529】

図45の(J)～(K)には、特別演出モードを示唆する発展図柄が表示されることなく、通常演出擬似連に移行するケースの演出が示されている。図45において、(B)のように、リーチが成立している状態で、(J)のように「中」の飾り図柄表示エリア5Cで、「NEXT図柄」のような通常擬似連図柄が仮停止（一旦停止）して擬似連が示唆（報知）される。その後、(K)のように背景画像が変化することなく、擬似連の再変動表示が実行される。このように、最初に「ZONE図柄」のような特別擬似連図柄が仮停止されずに「NEXT図柄」のような通常擬似連図柄が仮停止したときは、特別演出モードでの演出は実行されず、通常演出モードで擬似連の再変動表示が実行される。

10

【0530】

図45の(F)～(I)は、発展図柄変化演出として、発展図柄が、スーパーリーチ発展図柄から特別演出モードを示唆する発展図柄としての特別擬似連図柄に変化した後、特別演出モードの演出が実行される特別演出擬似連に移行するケースの演出が示されている。図45において、(C)のように、一旦は、青色のスーパーリーチ発展図柄が表示された後、徐々にその図柄が拡大動作し、(F)のように、その拡大動作中の期間に、その発展図柄が特別演出モードへの移行を示唆する「ZONE図柄」のような特別擬似連図柄に変化する。そして、(G)のように、左、中、右のすべての飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rで飾り図柄が擬似連の再変動表示を開始するとともに、変動表示中の背景が特別演出モードに対応する特別の背景画像に変化する。つまり、特別演出モードとなる。これは、図40に示した「第3発展演出」の他の演出例である。

20

【0531】

そして、(H)のように「NEXT図柄」のような通常擬似連図柄が仮停止（一旦停止）し、擬似連となることが示唆（報知）される。その後、(I)のように特別演出モードにおける特別の背景画像が継続表示されるとともに、擬似連の再変動表示がさらに実行される。

【0532】

このような例によれば、再変動表示と特別演出モードの演出との両方を実行するときに、演出図柄を一旦仮停止させるときに、特別擬似連図柄（ZONE図柄）を表示した後、擬似連の再変動表示を実行するとともに、背景画像を特別背景画像にする演出を実行することにより、再変動と所定演出との両方を実行するときに、遊技者に対する両方の実行内容を認識させやすくすることができる。また、擬似連の種類として、特別演出モードでの演出が行なわれる特別演出擬似連と、特別演出モードでの演出が行なわれない通常演出擬似連との複数種類の演出を設けることで、擬似連の演出のバリエーションを増やすことができる。また、特別演出モードに対応した「ZONE図柄」のような特別擬似連図柄が表示されることに対する期待感を高めることができる。さらには、発展図柄が、スーパーリーチに対応した発展図柄（スーパーリーチ発展図柄）が特別演出モードに対応した発展図柄（特別擬似連図柄）に変化する場合があるため、意外性のある演出を提供できる。

30

40

【0533】

なお、上記の例では、特殊画像が、青色のスーパーリーチ発展図柄から「ZONE図柄」のような特別擬似連図柄に変化する例を示したが、特殊画像が、赤色のスーパーリーチ発展図柄から「ZONE図柄」のような特別擬似連図柄に変化するものとしてもよく、いずれの場合も発生し得るようにしてもよい。また、逆に、特殊画像が、「ZONE図柄」のような特別擬似連図柄から青色または赤色のスーパーリーチ発展図柄に変化する場合があるようにしてもよい。

【0534】

また、特別演出としては、特別の背景画像を継続的に表示する演出以外に、背景画像以後の特別の画像（たとえば、キャラクタ画像等）を継続的に表示したり、特別の演出音を

50

継続的に出力したりするような演出等であってもよく、背景画像以後の特別の背景画像の継続表示、特別の画像の継続表示、及び特別の演出音の継続出力等を組合せた演出であってもよい。

【0535】

また、特別演出擬似連を複数種類用意してもよい。例えば、第1特別演出が実行される第1特別演出擬似連と、第2特別演出が実行される第2特別演出擬似連とが含まれるようにしてもよい。第1特別演出擬似連では、特別演出（第1特別演出）として、第1特別背景画像が表示され、第2特別演出擬似連では、特別演出（第2特別演出）として、第1特別背景画像とは異なる第2特別背景画像が表示されるものとする。さらに、第2特別演出擬似連の方が第1特別演出擬似連よりも、特別図柄の変動表示結果が大当たり表示結果となるとときに選択される割合が高くなるように設定してもよい。

10

【0536】

その場合、第1特別演出擬似連に対応する第1特別演出発展図柄（たとえば、第1のZONE図柄）と、第2特別演出擬似連に対応する第2特別演出発展図柄（たとえば、第2のZONE図柄）とを設けてもよい。さらには、一旦、いずれか一方の特別演出発展図柄を表示し、それを図45（C）～（F）のような変更態様で、他方の特別演出発展図柄に変更するようにしてもよい。

【0537】

なお、この例では、特殊画像としての特別擬似連演出図柄を、「左」、「右」の飾り図柄がリーチ状態となったときの「中」の飾り図柄として仮停止する例を示した。しかし、これに限らず、特殊画像としての特別擬似連演出図柄は、「左」、「右」の飾り図柄がリーチ状態以外の図柄の組合せ（たとえば、予め定められたチャンス目の組合せ）となったときの「中」の飾り図柄として、仮停止させてもよい。

20

【0538】

＜発展図柄の変化の変形例2（第1擬似連から第2擬似連への変化）＞

図46に基づいて、特殊画像として擬似連図柄を用いた特殊画像演出を説明する。図46は、発展図柄（特殊画像）を用いた演出の変形例の第2例を示す図である（擬似連演出）。図5に示したように、擬似連演出として、擬似連変動（演出）が1回実行されるパターン（初回可変表示＋最終可変表示の合計2回の変動表示が実行されるパターン）と、擬似連変動（演出）が2回実行されるパターン（初回可変表示＋最終可変表示＋これらの間の1回の再可変表示の合計3回の変動表示が実行されるパターン）との2パターンを設けることが考えられる。この場合、2種類の発展図柄を用いて、いずれのパターンの擬似連に移行するのかを示唆してもよい。さらには、一方の種類の発展図柄を一旦表示し、それを他方の発展図柄に変化させることによって、示唆対象の擬似連変動パターンを変更するようにすることが考えられる。図46は、このようなパターンを示す。

30

【0539】

ここでは、一例として、擬似連変動（演出）で初回変動表示と再変動表示1回との合計2回の変動表示が実行される演出を第1擬似連演出と称し、擬似連変動（演出）で初回変動表示と最終変動表示とその間の再変動1回との合計3回の変動表示が実行される演出を第2擬似連演出と称する。また、擬似連を示唆する発展図柄である「NEXT図柄」として、第1擬似連演出に対応する「青色のNEXT図柄」と、第2擬似連演出に対応する「赤色のNEXT図柄」とを設ける。擬似連演出については、大当たり表示結果となるとときに、ハズレ表示結果となると比べて、変動回数（再変動回数）が多い擬似連演出が選択されやすくなるように設定されている。したがって、「赤色のNEXT図柄」が表示されたときは、「青色のNEXT図柄」が表示されたときと比べて、大当たり表示結果となる期待度が高い。

40

【0540】

まず、青色のNEXT図柄が表示されて第1擬似連演出に発展するケース（（A）～（E））を説明する。図46において、（A）のように画像表示装置5の飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rで飾り図柄が変動表示を開始し、やがて（B）のように「左」、「右

50

」の飾り図柄表示エリア 5 L, 5 Rにおいて飾り図柄が「7」で変動を停止してリーチが成立する。その後、(C)のように「中」の飾り図柄表示エリア 5 Cに青色のNEXT図柄が表示(仮停止)される。続いて、(D)のように青色のNEXT図柄がその位置で徐々に拡大動作し、やがて「左」、「右」の飾り図柄の一部を覆う程度にまで拡大すると、その時点でNEXT図柄の種類が青色で確定する。その後、(E)のように全背景が青色に切替わるとともに第1疑似連の演出へ発展するメッセージが表示される。その後、第1疑似連の演出が実行される。これは、図40に示した「第1発展演出」の他の例(特殊画像として疑似連図柄を用いた場合の第1発展演出例)である。

【0541】

次に、赤色のNEXT図柄が表示されて第2疑似連演出に発展するケース((J)~(N))を説明する。図46において、(J)のように画像表示装置5の飾り図柄表示エリア 5 L, 5 C, 5 Rで飾り図柄が変動表示を開始し、やがて(K)のように「左」、「右」の飾り図柄表示エリア 5 L, 5 Rにおいて飾り図柄が「7」で変動を停止してリーチが成立する。その後、(L)のように「中」の飾り図柄表示エリア 5 Cに赤色のNEXT図柄が表示される。続いて、(M)のように赤色のNEXT図柄がその位置で徐々に拡大動作し、やがて「左」、「右」の飾り図柄表示エリア 5 L, 5 Rの飾り図柄の一部を覆う程度にまで拡大すると、その時点でNEXT図柄の種類が赤色で確定する。その後、(N)のように全背景が赤色に切替わるとともに第2疑似連演出へ発展するメッセージが表示される。その後、第2疑似連演出が実行される。これは、図40に示した「第2発展演出」の他の例(特殊画像として疑似連図柄を用いた場合の第2発展演出例)である。

【0542】

次に、一旦、青色のNEXT図柄が表示され、それが赤色に変化して第2疑似連演出に発展するケース((C)~(H))を説明する。図46において、(C)のように「中」の飾り図柄表示エリア 5 Cに青色のNEXT図柄が表示されてから、(F)のように青色のNEXT図柄が徐々に拡大する間、NEXT図柄の色が青色から赤色に変化する。このようにNEXT図柄が変化する演出は、図40を用いて説明した「特殊図柄変化演出」(図40の(F)参照)の他の例である。なお、変化の態様は、図40を用いて説明したとおり、様々な態様を採用することができる。やがて(G)のように「左」、「右」の飾り図柄表示エリア 5 L, 5 Rの飾り図柄の一部を覆う程度にまで拡大すると、その時点でNEXT図柄の種類が赤で確定する。その後、(H)のように全背景が赤に切替わるとともに第2疑似連へ発展するメッセージが表示される。その後、第2疑似連演出が実行される。これは、図40に示した「第3発展演出」の他の例(特殊画像として疑似連図柄を用いた場合の第3発展演出例)である。

【0543】

この実施の形態では、変動表示中において、疑似連図柄(NEXT図柄)が青色から赤色に変化したときに、必ず疑似連の演出が継続して実行される。なお、変動表示中において、疑似連図柄(NEXT図柄)が青色で確定したときには、所定割合で疑似連の演出が継続して実行されない、所謂ガセ演出を実行するようにしてもよい。

【0544】

なお、前述のように、第1疑似連演出よりも第2疑似連演出の方が大当たり期待度が高くなるように設計するのが好ましい。図46の(F)のような発展図柄(疑似連図柄)の変化により遊技者の期待感を高められるからである。もちろん、発展図柄(疑似連図柄)の変化は、青から赤への変化とは逆方向の変化である赤から青への変化が存在するようにしてもよい。また、第1疑似連演出および第2疑似連演出の違いとしての疑似連演出での変動回数(再変動回数)は、前述した回数に限られない。それぞれの仮停止回数に違いがあればよい。また、仮停止の回数で違いを設けることに代えて、または、それに加えて、仮停止時間等や仮停止図柄等で違いを設けるようにしてもよい。あるいは、第1疑似連演出および第2疑似連演出で大当たりに対する期待度に変化が生じるようにしていれば仮停止回数が同じであってもよい。

【0545】

なお、この例では、特殊画像としての通常擬似連演出図柄を、「左」、「右」の飾り図柄がリーチ状態となったときの「中」の飾り図柄として仮停止する例を示した。しかし、これに限らず、特殊画像としての特別擬似連演出図柄は、「左」、「右」の飾り図柄がリーチ状態以外の図柄の組合せ（たとえば、予め定められたチャンス目の組合せ）となったときの「中」の飾り図柄として、仮停止させてもよい。

【0546】

＜発展図柄の変化の変形例3（スーパーリーチ発展演出とアクティブ表示との示唆）＞

図47に基づいて、特殊画像としてスーパーリーチ発展図柄とアクティブ表示とを用いた特殊画像演出を説明する。図47は、発展図柄（特殊画像）を用いた演出の一例を示す図である（複数種類表示変化演出）。図47では、発展図柄によって複数種類の演出をまとめて示唆する演出例を説明する。発展図柄が示唆する複数種類の演出の例として、スーパーリーチ発展演出とアクティブ表示との2つを採りあげる。

10

【0547】

発展図柄は、図47の（D）、（G）に示すように、長方形の図柄を右上がりのラインで2つに仕切った一方領域に「青色または赤色のS」が描かれ、他方領域に「星のマーク」が描かれた図柄である。「青色または赤色のS」は、図40に示した発展図柄と同じ機能を有し、それぞれ、第1スーパーリーチおよび第2スーパーリーチを示唆する。「星のマーク」は、現在のアクティブ表示が「星」に変化することを示唆する。

【0548】

以下では、便宜上、発展図柄の一方領域（左上領域）に「青色のS」が描かれ、他方領域に「星のマーク」が描かれた図柄を「青／星図柄」と記し、発展図柄の一方領域に「赤色のS」が描かれ、他方領域（右下領域）に「星のマーク」が描かれた図柄を「赤／星図柄」と記す。ここでは、アクティブ表示が「星」の場合には、単なる「球」に比べて大当り期待度が高いことを示すものとする。

20

【0549】

まず、「青／星図柄」が表示されて第1スーパーリーチに発展するとともにアクティブ表示が星に変化するケース（（A）～（E））を説明する。（A）のように画像表示装置5の飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rで飾り図柄が変動表示を開始し、やがて「左」、「右」の飾り図柄表示エリア5L、5Rにおいて、「左」、「右」の飾り図柄が「7」で変動を停止してリーチが成立する（B）。なお、その間、アクティブ表示エリアAHAには、大当り期待度の高低を示唆しない「球」が表示されている。

30

【0550】

その後、（C）のように「中」の飾り図柄表示エリア5Cに「青／星図柄」が表示される。続いて、（D）のように「青／星図柄」がその位置で徐々に拡大動作し、やがて「左」、「右」の飾り図柄表示エリア5L、5Rにおいて、「左」、「右」の飾り図柄の一部を覆う程度にまで拡大すると、その時点で発展図柄の種類が「青／星図柄」で確定する。その後、（E）のようにアクティブ表示エリアAHAの表示が「星」に変化する（アクティブ表示変化演出）とともに第1スーパーリーチへ発展するメッセージが表示される。やがて、第1スーパーリーチの演出が実行される。これは、図40に示した「第1発展演出」の他の例（特殊画像としてスーパーリーチ発展図柄およびアクティブ表示を用いた場合の第1発展演出例）である。

40

【0551】

次に、一旦、「青／星図柄」が表示され、それが「赤／星図柄」に変化して第2スーパーリーチに発展するとともにアクティブ表示が星に変化するケース（（F）～（H））を説明する。図47において、（C）のように「中」の飾り図柄表示エリア5Cに「青／星図柄」表示されてから、（F）のように「青／星図柄」が徐々に拡大動作する間、それが「赤／星図柄」に変化する。このように「青／星図柄」が変化する演出は、図40を用いて説明した「特殊図柄変化演出」の他の例である（図40の（F）参照）。なお、変化の様子は、図40を用いて説明したとおり、様々な様式を採用することができる。やがて、「左」、「右」の飾り図柄表示エリア5L、5Rにおいて、「左」、「右」の飾り図柄の

50

一部を覆う程度にまで拡大すると、その時点でNEXT図柄の種類が「赤／星図柄」で確定する（G）。その後、アクティブ表示エリアAHAの表示が「星」に変化する（アクティブ表示変化演出）とともに第2スーパーリーチへ発展するメッセージが表示される（H）。やがて、第2スーパーリーチの演出が実行される。これは、図40に示した「第3発展演出」の他の例である（特殊画像としてスーパーリーチ発展図柄およびアクティブ表示を用いた場合の第3発展演出例）である。

【0552】

以上、図47に示した例によれば、スーパーリーチの発展の示唆と関連付けてアクティブ表示の変化に対する遊技者の期待感を高めることが可能となる。

【0553】

なお、ここでは、特殊画像演出として、スーパーリーチへの発展とアクティブ表示の変化とを1つの発展図柄で示唆する例を採りあげて説明したが、これに限られない。例えば、スーパーリーチへの発展と次回以降の変動表示に対応する保留表示の変化とを1つの発展図柄で示唆するものとしてもよい。保留表示の変化とは、ある保留表示を対象にして、大当たり期待度を示す表示態様に変化させることをいう。例えば、保留表示を通常色（白）と、大当たり期待度が高い（例えば、20%程度）ことを示す青色と、大当たり期待度がさらに高い（例えば、50%程度）ことを示す赤色とで行うようにし、発展図柄でスーパーリーチへの発展と保留表示の赤変化とを示唆するものとする。なお、このような保留表示の変化は、既に説明した「先読予告演出」の技術を用いることによって保留記憶情報を変動表示を実行する前に把握することにより、実現できる。

【0554】

また、2つに限られず、3つ以上の事象（例えば、スーパーリーチと、アクティブ表示と、保留表示との3つ等）の変化を1つの発展図柄で示唆するようにしてもよい。

【0555】

さらには、複数の事象を第1発展図柄で一旦示唆した後、その第1発展図柄をそのうちの1つの事象のみを示唆する第2発展図柄に変化させてもよい。例えば、スーパーリーチとアクティブ表示の変化とを示唆する図47（C）のような発展図柄から、スーパーリーチのみを示唆する図45（D）のような発展図柄に変化させたり、その逆に変化させたりしてもよい。また、複数の事象を第1発展図柄で一旦示唆した後、その第1発展図柄をそのうちの事象数が減った（たとえば、3つの事象から2つの事象に減った等）態様で複数の事象を示唆する第2発展図柄に変化させてもよい。

【0556】

＜発展図柄を用いた演出のその他の変形例＞

（A） 上記の各種の発展図柄を表示するタイミングとして、上記の説明で「左」、「右」の第1飾り図柄（左図柄）および第2飾り図柄（右図柄）が停止することでリーチが成立してから第3飾り図柄（中図柄）が変動しているタイミングを例示した。しかしながら、発展図柄の表示タイミングはこれに限定されない。例えば、第1飾り図柄が変動しているときに、その第1飾り図柄の停止タイミングで第1飾り図柄の変動領域に表示する（第1飾り図柄として発展図柄が仮停止する）ものとしてもよい。または、第2飾り図柄が変動しているときに、その第2図柄の停止タイミングで第2飾り図柄の変動領域に表示する（第2飾り図柄として発展図柄が仮停止する）ものとしてもよい。または、第3飾り図柄が変動しているときに、その第3飾り図柄の停止タイミングで第3飾り図柄の変動領域に表示する（第3飾り図柄として発展図柄が仮停止する）ものとしてもよい。

【0557】

（B） また、このような第1飾り図柄（左図柄）、第2飾り図柄（中図柄）、および、第3飾り図柄（右図柄）のそれぞれの停止タイミングで、発展図柄を停止表示可能とし（発展図柄と通常の図柄とのいずれかが停止表示される）、第1飾り図柄、第2飾り図柄、および、第3飾り図柄のすべてについて、発展図柄が停止したときに、前述した所定演出を示唆する特殊画像演出を実行してもよい。その場合においては、前述した「先読予告演出」の技術を用いることにより、保留記憶情報を保留表示の段階で先読みし、第1飾り

図柄、第2飾り図柄、および、第3飾り図柄のすべてについて、発展図柄が停止したときに、所定演出として、特別演出モードの演出の実行、または、保留表示の表示態様を変化させる演出等を実行してもよい。

【0558】

(C) また、上記の説明では、1つの発展図柄によって将来に実行される演出を示唆した。しかし、複数の発展図柄によって将来に実行される演出を示唆してもよい。例えば、第1飾り図柄（左図柄）、第2飾り図柄（中図柄）、および、第3飾り図柄（右図柄）が一斉に変動を開始してから最終的な表示結果が導出表示されるまでに、そのうちの2つを発展図柄で仮停止させる。その仮停止した発展図柄の組合せによって将来に実行される演出を示唆してもよい。具体的には、仮停止した発展図柄がいずれも同じ（例えば、図40の青色の発展図柄同士）であれば、その発展図柄が示唆する演出が実行されるものとし、異なっている場合（図40の青色の発展図柄と、図40の赤色の発展図柄）には、示唆する演出が実行されなくしてもよい。もちろん、第1～第3の飾り図柄のすべてを発展図柄で仮停止し、その組合せ種類によって、将来に実行される演出を示唆してもよい。

10

【0559】

(D) 発展図柄の種類は拡大表示を経て確定させが、拡大表示が発生することなく、表示された時点で発展図柄が確定させてもよい。また、発展図柄が変化する場合にも拡大表示を経て変化する場合を説明したが、拡大表示を伴うことなく、第1発展図柄がある時間表示された後に第2発展図柄に変化させてもよい。また、第1発展図柄が表示された後、所定の変化示唆演出（例えば、キャラクタが登場して第1発展図柄に作用する演出等）を伴うと、第2発展図柄に変化させてもよい。

20

【0560】

(E) 発展図柄を表示した場合に、その発展図柄の透過度を高めて、その背景で飾り図柄が変動を継続している状態としてもよい。つまり、発展図柄は仮停止図柄でなくてもよい。

【0561】

(F) 発展図柄が変化すると、それに伴って示唆する演出の種類が変化するものとしたが、単に発展図柄のデザインが変化するだけで示唆する演出を変化させないようにしてもよい。例えば、第1スーパーリーチを示唆する発展図柄として、図40(D)に示す青色のスーパーリーチ発展図柄に加えて、青が縞模様となっているスーパーリーチ発展図柄を採用し、一方から他方へと変化する可能性があるようにしてもよい。これによって、見た目の面白さを高めることができる。もちろん、この場合、一方よりも他方の方が、同じ第1スーパーリーチを示唆するものであっても大当たり期待度が高いものとしてもよい。

30

【0562】

(G) 上記の実施の形態では、発展図柄として、スーパーリーチを示唆する発展図柄と、擬似連を示唆する発展図柄と、特別演出モードを示唆する発展図柄とを示した。しかしながら、その他の演出を示唆する発展図柄を加えてもよい。また、それらのうちの1の発展図柄から他の発展図柄に変化する等（たとえば、スーパーリーチを示唆する発展図柄から擬似連を示唆する発展図柄に変化する等）、別系統の演出に発展するような演出をし

40

【0563】

(H) ZONE図柄は、変動表示の開始から結果の導出表示までのいずれのタイミングで表示してもよい。また、ZONE図柄にも上記のような擬似連に関連する演出の示唆をするものと、擬似連に関連しない演出（例えば、特別演出モードとして、保留記憶の先読み表示が行なわれる演出モード）への移行を示唆するものとを設けてもよい。さらに、それら2つのZONE図柄の一方を一旦表示し、それを他方に変更してもよい。

【0564】

(I) 各種特殊図柄については、大当たり期待度に応じて2種類の特殊図柄を用いる例を示したが、これに限らず、3種類以上の複数種類の特殊図柄を用いてもよい。

【0565】

50

(J) スーパーリーチを示唆する発展図柄については、青色の発展図柄と赤色の発展図柄とを用いる例を示したが、いずれの色の発停図柄が停止されても、発展先が同じ発展先となるようにする演出をしてもよい。

【0566】

次に、前述した実施の形態により得られる主な効果を説明する。

(1) スーパーリーチ発展演出の場合は、図40(C)、(F)、(G)のように、特殊画像演出により、青色スーパーリーチ発展図柄から赤色スーパーリーチ発展図柄に変更されたときに、図40(H)のように第2スーパーリーチ演出に発展し、当該演出を実行するので、変動表示中において、特殊画像を用いた演出の変化による効果を高め、変動表示中に特殊画像を表示する際の演出の興趣を向上させることが可能となる。また、特殊画像を用いた演出に意外性を持たせることができ、遊技の興趣を向上させることが可能となる。

10

【0567】

(2) 文字アイコンの表示、および、キャラクタアイコンの表示については、図26(F)～(M)のように、表示態様変化演出実行後に、実際に表示態様が変化する割合が、保留表示中と、アクティブ表示中とで等しい。したがって、保留表示が文字アイコンの表示態様であるときは、キャラクタアイコンの表示態様であるときと比べて、保留表示の方がアクティブ表示中よりも表示態様変化演出が実行される割合が高く、キャラクタアイコンの表示態様であるときは、保留表示が文字アイコンの表示態様であるときと比べて、アクティブ表示中の方が保留表示よりも表示態様変化演出が実行される割合が高いことに基づけば、保留表示が文字アイコン表示と、キャラクタアイコンの表示とのいずれで表示されるかに応じて、保留表示中とアクティブ表示中とで、アイコンの表示態様に変化する頻度が異なり、保留表示中とアクティブ表示中とのいずれで表示態様を変化させるかを選択する割合が異なる。これにより、アイコン形状で表示された保留表示の表示態様の変化とアクティブ表示の表示態様変化とについて、変化対象の表示の種別および表示態様変化のタイミングに遊技者を注目させることができ、表示態様の変化について遊技の興趣を向上させることができる。また、実行タイミングに注目させることにより、遊技者の大当りに対する期待感を向上させることができる。

20

【0568】

(3) 前述したように、特殊画像演出に用いる特殊画像としては、スーパーリーチに発展する発展演出の際に表示される「スーパーリーチ発展図柄」、特別演出モードの演出の実行前に表示される「特別演出発展図柄（たとえば、後述する特別擬似連図柄）」、および、擬似連の演出の際に表示される「擬似連専用図柄」（擬似連チャンス目の一種）のうち、少なくともいずれかの画像が含まれるので、擬似連演出、リーチ発展演出、および、特別演出モード移行演出を行なうときの各種演出の演出効果を高めることが可能となる。

30

【0569】

(4) 図47に示すように、発展図柄によって、たとえば、スーパーリーチ発展演出とアクティブ表示とのような複数種類の演出をまとめて示唆する演出を実行することにより、スーパーリーチの発展の実行の示唆と関連付けてアクティブ表示の変化に対する遊技者の期待感を高めることが可能となる。また、変動表示に対する遊技者の期待を高めて興趣を向上させることができる。

40

【0570】

(5) 特殊画像演出として、図43(C)のT1での青スーパーリーチ発展図柄の停止表示等示すように、特殊画像を停止させた態様で特殊画像を表示させた後、図43(C)のT3で所定演出としての第2スーパーリーチ演出を実行する前における図43(C)のT2～T3前のタイミングで、青スーパーリーチ発展図柄を拡大表示して表示態様を変化させるとともに、スーパーリーチ発展図柄を青色の図柄から赤色の図柄に変更する演出が実行されるので、変化前の特殊図柄の表示態様を遊技者が確実に認識でき、特殊図柄が変化したことを遊技者が見逃してしまうことを極力防止できる。また、特殊図柄の停止タイミングと表示変化のタイミングとを明確に視認可能となるため、演出内容を明確に遊

50

技者に伝えることができる。

【0571】

(6) 図45に示すように、再変動表示と所定演出との両方を実行するときに、演出図柄を一旦仮停止させるとときに、特別擬似連図柄(ZONE図柄)を表示した後、再変動表示を実行するとともに、背景画像を特別背景画像にする演出を実行することにより、再変動と所定演出との両方を実行するときに、遊技者に対する両方の実行内容を認識させやすくすることができる。再変動表示の演出のバリエーションを増やすことができる。

【0572】

また、上記実施形態による遊技機1は、遊技領域に設けられた始動領域(例えば、第1始動入賞口、第2始動入賞口等)を遊技媒体が通過した後に、可変表示(例えば、特図の可変表示、飾り図柄の可変表示、特図及び飾り図柄の可変表示等)の開始を許容する開始条件の成立に基づいて識別情報の可変表示を実行して表示結果(例えば、確定飾り図柄、確定特別図柄等)を導出表示する可変表示手段に特定表示結果が導出表示されたときに、遊技者にとって有利な特定遊技状態(例えば、大当り遊技状態等)に制御する遊技機(例えば、遊技機1等)であって、遊技媒体が前記始動領域を通過したが可変表示の開始条件が成立していない識別情報の可変表示について、所定の上限数を限度に保留情報を記憶する保留記憶手段(例えば、第1特図保留記憶部151A、第2特図保留記憶部151B、第1始動入賞時受信コマンドバッファ194A、第2始動入賞時受信コマンドバッファ194B等)と、前記保留記憶手段に記憶されている保留情報の各々に対して所定の表示態様で保留表示を行う保留表示手段(例えば、S162の第1保留追加処理において第1始動入賞記憶表示エリア5HLに保留表示を追加する処理や、S165の第2保留追加処理において第2始動入賞記憶表示エリア5HRに保留表示を追加する処理等)と、可変表示の開始条件が成立したことに基いて、当該可変表示に対応する保留表示に応じた消化時表示を含む情報を表した特別画像(例えば、当該可変表示に対応する保留表示を所定のアクティブ表示エリアAHAに移動させたアクティブ表示、または、当該可変表示に対応するアクティブ表示に応じた情報を表す特別画像等)を所定領域(例えば、アクティブ表示エリアAHAは、例えば画像表示装置5の中央下部に設けられる。このアクティブ表示エリアAHAには、少なくともアクティブ表示AHが表示され、当該アクティブ表示AHの他にこのアクティブ表示AHを囲うアクティブ表示枠AHWやアクティブ表示枠AHWを含む所定の範囲を含む領域等)に表示する特別画像表示手段と、識別情報の可変表示の実行中に、前記特別画像の表示態様を変化させるときと、前記特別画像の表示態様を変化させないときとで共通で実行される共通演出(例えば、第1系統変化演出において、図形群Y1がアクティブ表示に衝突する前までの演出や、第2系統変化演出において、矢Y2がアクティブ表示を囲うアクティブ表示枠に衝突するまでの演出等)と、当該共通演出を実行した後に前記特別画像の表示態様を変化させる成功演出(例えば、第1系統変化演出において、アクティブ表示に図形群Y1のいずれかの形状「星」の図形が衝突して星の表示態様に変化する演出や、第2系統変化演出において、アクティブ表示枠に矢Y2が衝突してアクティブ表示枠の線の太さが変化する演出や、これらの第1系統変化演出と第2系統変化演出とを両方実行してアクティブ表示やアクティブ表示枠等の表示態様を変化させる演出等)または前記特別画像の表示態様を変化させない失敗演出(例えば、第1系統変化演出において、アクティブ表示に図形群Y1のいずれかの形状「星」の図形が衝突する前に消滅してアクティブ表示の表示態様を変化させない演出や、第2系統変化演出において、アクティブ表示枠に矢Y2が衝突する前に矢Y2が消滅して、アクティブ表示枠の線の太さが変化させない演出や、これらの第1系統変化演出と第2系統変化演出とを両方実行してアクティブ表示またはアクティブ表示枠の一方または両方の表示態様を変化させない演出等)とを実行可能な演出実行手段と、を備え、識別情報の可変表示の実行中における複数タイミングのうち、いずれのタイミングで前記共通演出を実行するかに応じて、前記成功演出を実行する割合が異なる。

【0573】

このような構成によれば、遊技機は、当該可変表示に対応する保留表示に応じた消化時

10

20

30

40

50

表示を含む情報を表した特別画像の表示態様を変化するかを煽る共通演出の実行タイミングに注目させることができる。また、遊技機は、実行タイミングに注目させることにより、遊技者の期待感を向上させることができる。

【0574】

また、遊技機1において、前記共通演出が実行され得る複数のタイミングは、前記特定表示結果の一部を構成するリーチ表示態様が表示される前後を含んでもよい。

【0575】

このような構成によれば、遊技機は、リーチ表示態様が表示される前後（リーチ成立の前後）にわたって遊技者の期待感を向上させることができる。

【0576】

また、遊技機1において、前記共通演出は、実行中の識別情報の可変表示の第1のタイミングで実行される場合よりも当該可変表示の前記第1のタイミングよりも後の第2のタイミングで実行される場合の方が、前記成功演出が実行される割合が高くてよい。

【0577】

このような構成によれば、実行中の識別情報の可変表示の前半から後半までの、より長い期間にわたって、遊技者の期待感を向上させることができる。

【0578】

また、遊技機1において、特定表示結果とするか否かを可変表示の表示結果を導出表示する以前に決定する事前決定手段（例えば、CPU103によるS412の処理において、特図表示結果と保留記憶数とに基づいて、図17に示す複数の変動カテゴリ決定テーブルの中から使用する変動カテゴリ決定テーブルを選択し、選択した変動カテゴリ決定テーブルと変動カテゴリ決定用の乱数値MR3とに基づいて変動カテゴリを判定する処理、S220の入賞時乱数値判定処理において、特図表示結果や大当り種別を決定する処理等）と、前記事前決定手段の決定前に、前記保留記憶手段に記憶されている前記保留情報に基づく可変表示の表示結果が特定表示結果となるか否かを判定する特定判定手段（例えば、S110の特別図柄通常処理における、特別図柄や飾り図柄の可変表示結果を「大当り」又は「小当り」とするか否かを、その可変表示結果が導出表示される以前に決定する処理等）と、前記特定判定手段の判定対象となった保留情報に対応する保留表示を複数種類のうちのいずれかの表示態様で表示する保留予告演出を実行可能な演出実行手段と、保留表示の表示態様に変化するか否かを示唆する示唆演出を実行可能な示唆演出実行手段と、を備え、保留表示の表示態様は、通常態様と、前記通常態様とは異なる特殊態様と、前記通常態様および前記特殊態様とは異なる態様である第1特別態様と第2特別態様とを含み、前記演出実行手段は、前記特定判定手段の判定結果に応じて、異なる割合で当該特定判定手段の判定対象となった保留情報に対応する保留表示を前記第1特別態様または前記第2特別態様で表示するものであって、また、複数タイミングで保留表示を前記第1特別態様または前記第2特別態様に変化させて表示することが可能であり、前記示唆演出実行手段は、保留表示が前記特殊態様で表示されているときには、保留表示が前記特殊態様で表示されていないときよりも高い頻度で示唆演出を実行してもよい。

【0579】

このような構成によれば、保留表示の表示態様を特殊態様で表示している場合は、示唆演出の実行頻度を高めることができるため、遊技者の期待感を高めることができる。

【0580】

なお、上記説明では、アクティブ表示に対するアクティブ表示変化演出について説明したが、始動入賞記憶表示エリア5Hに表示される保留表示に対してアクティブ表示変化演出と同様の演出態様である保留変化演出を実行してもよい。

【0581】

また、図37、図38に示すように保留表示が特殊態様で表示された後に、上述した共通演出を、成功演出と失敗演出とを示唆する示唆演出として実行する実行割合が異なるように、例えば、高くしてもよく、保留表示が特殊態様で表示された後に、保留表示に対応するアクティブ表示に対するアクティブ表示変化演出を示唆する示唆演出（例えば、成功

10

20

30

40

50

演出と失敗演出とで共通で実行される共通演出を示唆する示唆演出)を同じまたは異なる態様で実行する実行割合が異なるように、例えば、高くしてもよい。なお、図37、図38に示すような始動入賞記憶表示エリア5Hに表示された保留表示の表示態様が特別態様である場合に、特別態様で表示される保留表示に対してアクティブ表示変化演出と同様または異なる演出態様で実行される保留変化演出を実行する実行割合が異なるように、例えば、高くしてもよい。

【0582】

なお、上記説明では、アクティブ表示変化演出等の主予告演出について説明したが、この主予告演出に影響しない場合には、他の主予告演出や先読予告演出等の予告演出を同じ変動で実行してもよく、他の主予告演出や先読予告演出等の予告演出に影響しない場合には、この主予告演出を同じ変動で実行してもよい。ここで、影響しない場合とは、当該変動において、複数の予告演出（主予告演出、先読予告演出）を実行する場合に各予告演出を実行する実行時間が当該変動の特図変動時間において十分である場合や、当該変動において、複数の予告演出（主予告演出、先読予告演出）を実行する場合に各予告演出の演出態様により遊技者にとって見づらくない場合等である。

【0583】

なお、上記説明では、アクティブ表示に対するアクティブ表示変化演出について説明したが、例えば、保留表示に対する保留演出がハンマーを持ったキャラクタが登場し、第1保留表示をハンマーで叩く作用演出を実行することにより保留表示の表示態様を変化させる演出態様であったり、飾り図柄が英数字「1」～「8」の8種類と1つのキャラクタ画像との合計9種類で構成される場合に、飾り図柄であるキャラクタ画像からキャラクタが飛び出してターゲットの保留表示に対して作用演出を実行する演出態様であったりしてもよい。

【0584】

なお、上記説明では、保留表示の追加時表示態様について説明したが、追加時表示態様で表示された保留表示の表示態様を変化させるか否かを決定し、保留表示の表示態様を変化させる場合には、図24や、図37のような保留表示の表示態様決定テーブルによる設定例に基づいて保留表示の表示態様を決定し、保留表示の表示態様を変化させるタイミングを決定してもよい。この保留表示の表示態様を変化させるタイミングは、次変動等の予め定められたタイミングでもよい。

【0585】

なお、上記説明では、第1系統変化演出として複数の図形の組合せにより構成される図形群によりアクティブ表示の表示態様を変化させる演出態様、および第2系統変化演出として矢によってアクティブ表示枠の表示態様を変化させる演出態様について説明したが、図形や矢でなくてもよく例えば、キャラクタ等を登場させてアクティブ表示やアクティブ表示枠等を含む特別画像の表示態様を変化させるような演出態様でもよい。

【0586】

なお、上記説明では、追加表示される保留表示の表示態様（追加時表示態様）が白色の一例について説明したが、図24、図37に示したような保留表示態様決定テーブルによる設定例のように、例えば4色（例えば、赤色、黄色、青色、白色）または5色（例えば、赤色、黄色、青色、白色、灰色）のいずれかで追加表示されるように保留表示の表示態様が決定されてもよく、上記3色以下や6色以上の表示態様によって追加表示されるように保留表示の表示態様が決定されてもよく、保留表示の色や保留表示に描かれた文字や記号によって追加表示されるように保留表示の表示態様を決定してもよく、保留表示の形状（例えば、ハート型、星型、キャラクタ型等）によって追加表示されるように保留表示の表示態様を決定してもよく、保留表示の動き（例えば、キャラクタ型の保留表示における当該キャラクタの動作パターン等）等によって追加表示されるように保留表示の表示態様を決定してもよい。

【0587】

なお、上記説明では、アクティブ表示は、飾り図柄最終停止の直前に画像表示装置5か

ら消去されてもよく、飾り図柄表示エリア 5 L の飾り図柄の変動が停止したときにアクティブ表示を消去してもよく、変動開始から所定時間経過した後にアクティブ表示を消去してもよい。

【0588】

なお、上記説明では、アクティブ表示エリア A H A に表示されたアクティブ表示に対して共通演出を実行した後に、当該可変表示に対応する保留表示に応じたアクティブ表示を含む情報を表した特別画像の表示態様を変化させる成功演出や当該可変表示に対応する保留表示に応じたアクティブ表示を含む情報を表した特別画像の表示態様を変化させない失敗演出を実行する一例について説明したが、始動入賞記憶表示エリア 5 H に表示された保留表示のうちのいずれかに対して成功演出と失敗演出とで共通で実行される共通演出を実行した後に、保留表示の表示態様を変化させる成功演出や保留表示の表示態様を変化させない失敗演出を実行してもよい。

10

【0589】

また、始動入賞記憶表示エリア 5 H に表示された保留表示のいずれかに対して成功演出または失敗演出をした後、この保留表示が当該可変表示となり、当該可変表示に対応するこの保留表示に応じたアクティブ表示を含む情報を表した特別画像に対して、さらに成功演出または失敗演出を実行してもよい。この場合、例えば、第 1 始動入賞口または第 2 始動入賞口への始動入賞があったときには、図 23 におけるステップ 160 やステップ 163 において、始動入賞記憶表示エリア 5 H に表示された保留表示のそれぞれに対して、保留表示に対する成功演出や失敗演出の実行有無、演出態様、演出を実行する実行タイミング、保留表示の表示態様等を変動カテゴリに応じて決定し、さらにそれぞれの保留表示が対応するアクティブ表示となったときのアクティブ表示を含む情報を表した特別画像に対する成功演出や失敗演出の実行有無、演出態様、特別表示の表示態様等を変動カテゴリ等に応じて決定して、図 10 に示すような第 1 先読予告バッファ 194 C や第 2 先読予告バッファ 194 D に決定内容を記憶させればよい。

20

【0590】

なお、上記説明では、一例として「激熱」の文字が描画された矢 Y 2 による演出態様の第 2 系統変化演出について説明したが、矢 Y 2 に文字が描画されていなくてもよく、他の文字が描画されてもよく、キャラクタ等が描画されてもよい。また、第 2 系統変化演出として複数種類の演出態様が存在する場合には、複数種類の第 2 系統変化演出のうち、どの第 2 系統変化演出の演出態様が選択されるかによって、成功演出が実行される期待度が異ならせてもよい。また、第 2 系統変化演出は、この第 2 系統変化演出の演出態様によって、成功演出実行後の特別画像の表示態様を示唆する演出でもよい。

30

【0591】

次に、以上に説明した実施の形態の変形例や特徴点等を以下に列挙する。

(1) 以上、本発明の実施形態について説明したが、パチンコ遊技機 1 の装置構成、データ構成、フローチャートで示した処理、画像表示装置 5 の表示領域における演出画像の表示動作を含めた各種の演出動作等は、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で、任意に変更及び修正が可能である。

【0592】

40

(2) アクティブ表示エリア A H A に表示されたアクティブ表示の表示態様が特殊態様であるときに、始動入賞記憶表示エリア 5 H に表示された保留表示のいずれかに対して、保留変化演出を実行してもよく、始動入賞記憶表示エリア 5 H に表示された保留表示のいずれかに特殊態様で表示される保留表示がある場合、始動入賞記憶表示エリア 5 H に表示された保留表示のいずれか、またはアクティブ表示に対して保留変化演出またはアクティブ表示変化演出を実行してもよい。

【0593】

(3) 第 1 系統変化演出または第 2 系統変化演出のいずれかがアクティブ表示の表示態様におけるアクティブ表示の色を変化させる演出でもよい。この場合、例えば、形状を変化させる第 1 系統変化演出やアクティブ表示枠の線の太さを変化させる第 2 系統変化演出

50

出の様に、始動入賞記憶表示エリア 5 H に表示された保留表示に表示されていた保留表示の色と比べて大当りの期待度が高い色（例えば、青色で表示されていた保留表示の場合には黄色や赤色等の色）の表示態様となるようにアクティブ表示の表示態様における色を変化させればよい。

【0594】

（４） アクティブ表示エリア A H A に表示された特別画像に含まれるアクティブ表示の色によって、成功演出が実行される期待度が異なるように、例えば、アクティブ表示の色ごとに図 27（A）～図 27（C）のように設定された演出態様の決定割合の設定例を用いてもよく、アクティブ表示エリア A H A に表示された特別画像に含まれるアクティブ表示の色によって、アクティブ表示に対する成功演出を実行した後のアクティブ表示の色等のアクティブ表示の表示態様の決定割合が異なるように設定された表示態様の決定割合の設定例を用いてもよい。

10

【0595】

（５） 例えば、図 26 におけるアクティブ表示変化演出実行有無決定テーブルによる決定割合の設定例における変動パターン「P A 4－X」のアクティブ表示変化演出の「実行有」と「実行無」と割合の様に、45%（第 1 系統変化演出 15%、第 2 系統変化演出 10%、第 1 系統変化演出および第 2 系統変化演出 20% の和）対 55% の様に「実行有」と「実行無」とのそれぞれに割合が設定されてもよく、図 26 における変動パターン「P A 1－X」の様に「実行有」と「実行無」との割合が、0% 対 100% の様に、本実施形態に係る割合とは、複数のうちいずれかが 0% として設定されるような割合が設定されてもよい。

20

【0596】

（６） 確変制御において、大入賞口内に予め特定領域を設け、この特定領域を遊技球が通過したことに基づいて、確変状態に制御する遊技機でもよい。例えば、大当り種別決定用の乱数値 M R 2 に基づき、「非確変」や「確変」、「突確」といった複数種類の大当り種別に割当てられたことにより、大入賞口内の特定領域に遊技球が進入しやすい遊技状態に制御し、この特定領域を遊技球が通過したことに基づいて、確変状態に制御する遊技機でもよい。

【0597】

（７） その他にも、パチンコ遊技機 1 の装置構成、データ構成、フローチャートで示した処理、画像表示装置 5 の表示領域における演出画像の表示動作を含めた各種の演出動作等は、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で任意に変更及び修正が可能である。

30

【0598】

（８） プリペイドカードや会員カード等の遊技用記録媒体の記録情報より特定される大きさの遊技価値である度数を使用して、遊技に使用するための遊技得点を付与するとともに、付与された遊技得点又は遊技による入賞により付与された遊技得点を使用して遊技機内に封入された遊技球を遊技領域に打込んで遊技者が遊技を行う遊技機にも本発明を適用することができる。

【0599】

即ち、遊技領域に設けられた始動領域を遊技媒体が通過したことに基づいて、各々が識別可能な複数種類の識別情報の可変表示を行い表示結果を導出表示する可変表示手段を備え、当該可変表示手段に予め定められた特定表示結果が導出表示されたときに、遊技者にとって有利な特定遊技状態に制御する遊技機であるが、遊技得点が 0 でないときに遊技得点を使用して遊技機内に封入された遊技球を遊技領域に打込んで遊技が行われ、遊技球の打込みに応じて遊技得点を減算し、遊技領域に設けられた入賞領域に遊技球が入賞することに応じて遊技得点を加算する遊技機にも本発明を適用できる。そのような遊技機は、遊技得点の加算に使用可能な遊技用価値の大きさを特定可能な情報が記録された遊技用記録媒体を挿入するための遊技用記録媒体挿入口と、遊技用記録媒体挿入口に挿入された遊技用記録媒体に記録されている記録情報の読出しを行う遊技用記録媒体処理手段を備えてもよい。

40

50

【0600】

(9) 上記説明では、変動時間及びリーチ演出の種類や擬似連の有無等の変動態様を示す変動パターンを演出制御マイクロコンピュータ（演出制御用CPU120）に通知するために、変動を開始するときに1つの変動パターンコマンドを送信する例を示したが、2つ乃至それ以上のコマンドにより変動パターンを演出制御マイクロコンピュータに通知する様にしてもよい。具体的には、2つのコマンドにより通知する場合、遊技制御用マイクロコンピュータ100（CPU103）は、1つ目のコマンドでは擬似連の有無、滑り演出の有無等、リーチとなる以前（リーチとならない場合には所謂第2停止の前）の変動時間や変動態様を示すコマンドを送信し、2つ目のコマンドではリーチの種類や再抽選演出の有無等、リーチとなった以降（リーチとならない場合には所謂第2停止の後）の変動時間や変動態様を示すコマンドを送信する様にしてもよい。この場合、演出制御マイクロコンピュータは2つのコマンドの組合せから導かれる変動時間に基づいて変動表示における演出制御を行う様にすればよい。なお、遊技制御用マイクロコンピュータ100の方では2つのコマンドのそれぞれにより変動時間を通知し、それぞれのタイミングで実行される具体的な変動態様については演出制御マイクロコンピュータの方で選択を行う様にしてもよい。2つのコマンドを送る場合、同一のタイマ割込内で2つのコマンドを送信する様にしてもよく、1つ目のコマンドを送信した後、所定時間が経過してから（例えば次のタイマ割込において）2つ目のコマンドを送信する様にしてもよい。なお、それぞれのコマンドで示される変動態様はこの例に限定されるわけではなく、送信する順序についても適宜変更可能である。このように2つ乃至それ以上のコマンドにより変動パターンを通知する様にすることで、変動パターンコマンドとして記憶しておかなければならないデータ量を削減することができる。

【0601】

(10) 本発明を実現するためのプログラム及びデータは、パチンコ遊技機1に含まれるコンピュータ装置等に対して、着脱自在の記録媒体により配布・提供される形態に限定されるものではなく、予めコンピュータ装置等の有する記憶装置にプリインストールしておくことで配布される形態を採っても構わない。さらに、本発明を実現するためのプログラム及びデータは、通信処理部を設けておくことにより、通信回線等を介して接続されたネットワーク上の、他の機器からダウンロードすることによって配布する形態を採っても構わない。

【0602】

(11) そして、ゲームの実行形態も、着脱自在の記録媒体を装着することにより実行するものだけではなく、通信回線等を介してダウンロードしたプログラム及びデータを、内部メモリ等に一旦格納することにより実行可能とする形態、通信回線等を介して接続されたネットワーク上における、他の機器側のハードウェア資源を用いて直接実行する形態としてもよい。さらには、他のコンピュータ装置等とネットワークを介してデータの交換を行うことによりゲームを実行するような形態とすることもできる。

【0603】

(12) 前述した実施の形態では「割合（比率、確率）」を例示したが、「割合（比率、確率）」は、これに限るものではなく、例えば0%～100%の範囲内の値のうち、0%を含む値、100%を含む値、0%および100%を含まない値でもよい。

【0604】

(13) 前述した実施の形態では、確変大当りとして、変動表示結果が導出表示された後、大当り遊技状態の終了後に、無条件で確変状態に制御される確変状態制御例を示した。しかし、これに限らず、特別可変入賞球装置7における大入賞口内に設けられた特定領域を遊技球が通過したことが検出手段により検出されたときに、確変状態に制御される、確変判定装置タイプの確変状態制御が実行されるようにしてもよい。

【0605】

(14) 上記実施の形態では、「0」～「9」を示す数字や「-」を示す記号、あるいは数字や記号に限定されない各セグメントの点灯パターン等から構成される複数種類の

特別図柄を可変表示（変動表示）する例を示した。しかし、第1特別図柄表示装置4Aや第2特別図柄表示装置4Bにおいて表示される可変表示結果（変動表示結果）や可変表示される特別図柄は、「0」～「9」を示す数字や「ー」を示す記号等から構成されるものに限定されない。例えば、特別図柄の可変表示中の点灯パターンには、LEDを全て消灯したパターンが含まれてもよく、全て消灯したパターンと少なくとも一部のLEDを点灯させた1つのパターン（例えば、ハズレ図柄）とを交互に繰り返すものも特別図柄の可変表示に含まれる（この場合、前記1つのパターン（例えばハズレ図柄）が点滅して見える）。また、可変表示中に表示される特別図柄と、可変表示結果として表示される特別図柄とは、異なるものであってもよい。特別図柄の可変表示として、例えば「ー」を点滅させる表示を行ない、可変表示結果として、それ以外の特別図柄（「大当たり」であれば「7」、「ハズレ」であれば「1」など）を表示することも特別図柄の可変表示に含まれる。また、一種類の飾り図柄を点滅表示又はスクロール表示することなども飾り図柄の可変表示に含まれる。普通図柄の可変表示中の点灯パターンには、LEDを全て消灯したパターンが含まれてもよく、全て消灯したパターンと少なくとも一部のLEDを点灯させた1つのパターン（例えば、ハズレ図柄）とを交互に繰り返すことなども普通図柄の可変表示に含まれる。また、可変表示中に表示される飾り図柄や普通図柄と、可変表示結果として表示される飾り図柄や普通図柄とは、異なるものであってもよい。

10

【0606】

（15）なお、今回開示された実施の形態はすべての点で例示であって制限的なものではないと考えられるべきである。本発明の範囲は上記した説明ではなく特許請求の範囲によって示され、特許請求の範囲と均等の意味および範囲内でのすべての変更が含まれることが意図される。

20

【符号の説明】**【0607】**

1 パチンコ遊技機、151A 第1特図保留記憶部、151B 第2特図保留記憶部、194A 第1始動入賞時受信コマンドバッファ、194B 第2始動入賞時受信コマンドバッファ、5 画像表示装置、102 RAM、5HL 第1始動入賞記憶表示エリア、5HR 第2始動入賞記憶表示エリア、120 演出制御用CPU、Y1 図形群、Y2 矢、AHA アクティブ表示エリア。

【図 5】

変動パターン (変動パターン種別)	内容	変動パターン	特図変動時間 (ms)	内容
PA1	短縮・非リリーチ (ハズレ)	PA1-1	3000	短縮あり・非リリーチ (ハズレ)
PA2	非リリーチ (ハズレ)	PA2-1	12000	非リリーチ (ハズレ)
		PA2-2	16000	非リリーチ・非リリーチ (ハズレ)
		PA2-3	20000	非リリーチ・非リリーチ (ハズレ)
PA3	ノーマルリリーチ (ハズレ)	PA3-1	20000	ノーマルリリーチ (ハズレ)
		PA3-2	28000	ノーマルリリーチ・非リリーチ (ハズレ)
PA4	スーパーリリーチα (ハズレ)	PA4-1	40000	スーパーリリーチα (ハズレ)
		PA4-2	42000	スーパーリリーチα・非リリーチ (ハズレ)
		PA4-3	48000	スーパーリリーチα・非リリーチ (ハズレ)
		PA4-4	56000	スーパーリリーチα・非リリーチ (ハズレ)
PA5	スーパーリリーチβ (ハズレ)	PA5-1	60000	スーパーリリーチβ (ハズレ)
		PA5-2	62000	スーパーリリーチβ・非リリーチ (ハズレ)
		PA5-3	68000	スーパーリリーチβ・非リリーチ (ハズレ)
		PA5-4	76000	スーパーリリーチβ・非リリーチ (ハズレ)
PB3	ノーマルリリーチ (大当り)	PB3-1	20000	ノーマルリリーチ (大当り)
		PB3-2	28000	ノーマルリリーチ (大当り)
PB4	スーパーリリーチα (大当り)	PB4-1	40000	スーパーリリーチα (大当り)
		PB4-2	42000	スーパーリリーチα・非リリーチ (大当り)
		PB4-3	48000	スーパーリリーチα・非リリーチ (大当り)
		PB4-4	56000	スーパーリリーチα・非リリーチ (大当り)
PB5	スーパーリリーチβ (大当り)	PB5-1	60000	スーパーリリーチβ (大当り)
		PB5-2	62000	スーパーリリーチβ・非リリーチ (大当り)
		PB5-3	68000	スーパーリリーチβ・非リリーチ (大当り)
		PB5-4	76000	スーパーリリーチβ・非リリーチ (大当り)

【図 8】

150

遊技制御用データ保持エリア

151A

第1特図保留記憶部

保留番号	MR1	MR2	MR3
1	19	39	80
2	22832	2	74
3	6104	55	8
4	_____	_____	_____

151B

第2特図保留記憶部

保留番号	MR1	MR2	MR3
1	81	99	46
2	52679	17	54
3	_____	_____	_____
4	_____	_____	_____

151C

普図保留記憶部

保留番号	MR4
1	5
2	12
3	_____
4	_____

遊技制御フラグ設定部

152

遊技制御タイマ設定部

153

遊技制御カウンタ設定部

154

遊技制御バッファ設定部

155

【図 6】

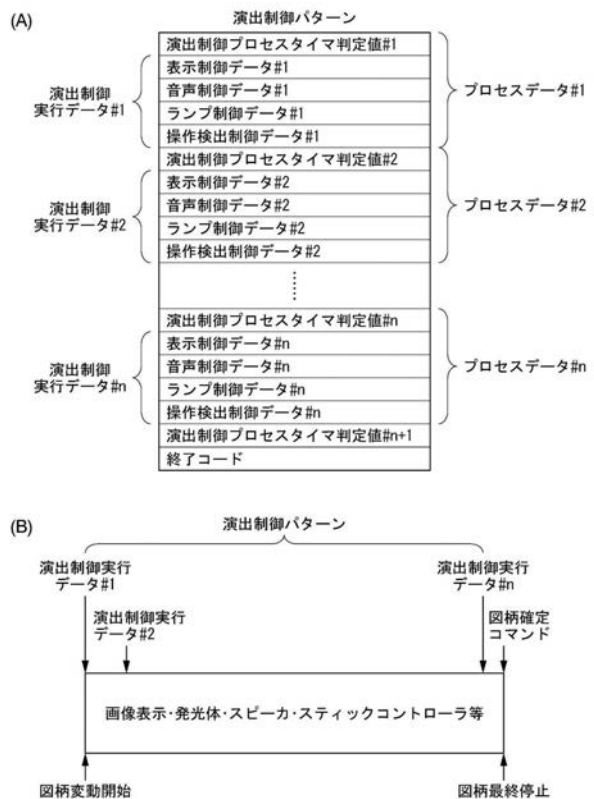
遊技状態	判定値(MR1)	特図表示結果
通常状態または時短状態	8000~8189	大当り
	30000~30350	小当り
	上記数値以外	ハズレ
確変状態	8000~9899	大当り
	30000~30350	小当り
	上記数値以外	ハズレ

遊技状態	判定値(MR1)	特図表示結果
通常状態または時短状態	1000~1189	大当り
	上記数値以外	ハズレ
確変状態	1000~2899	大当り
	上記数値以外	ハズレ

【図 7】

変動特図	判定値(MR2)	大当り種別
第1特図	0~35	非確変
	36~81	確変
	82~99	突確
第2特図	0~35	非確変
	36~99	確変

【図 9】



【図 10】

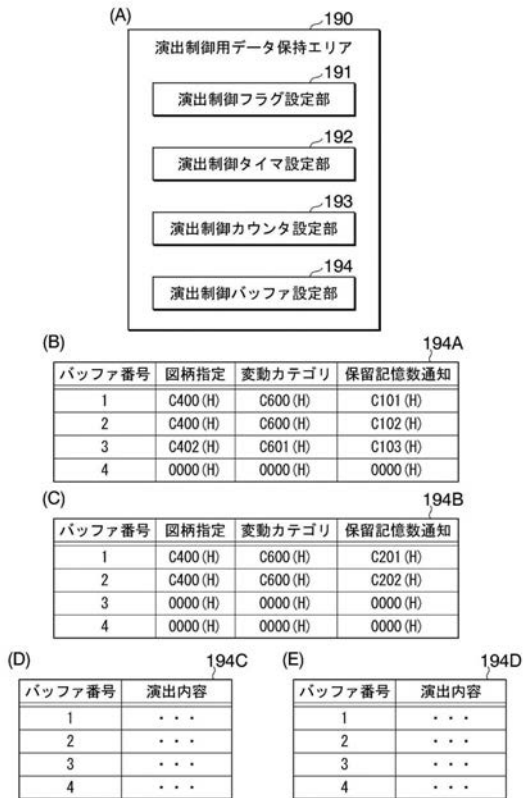


図 10

【図 11】

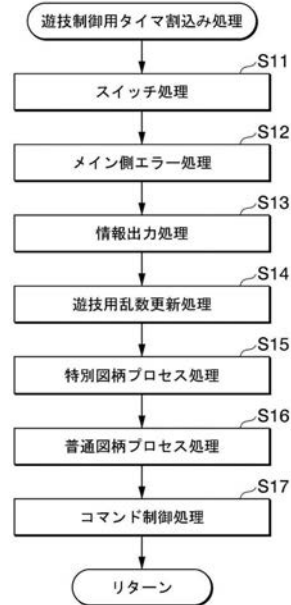


図 11

【図 12】

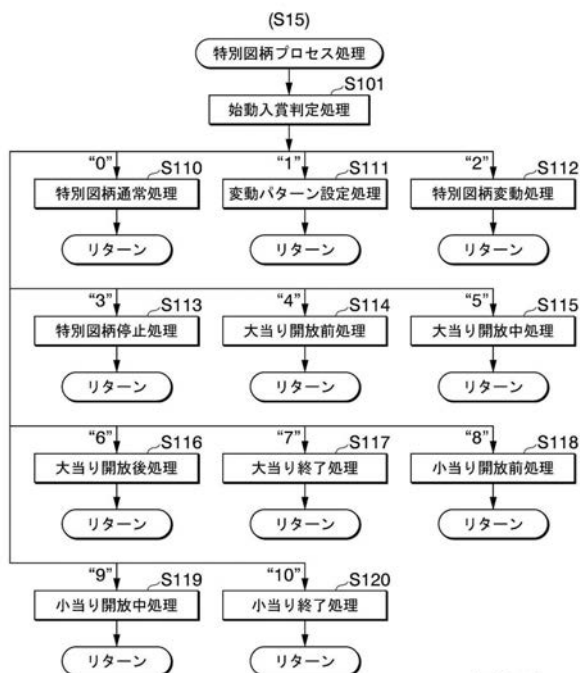


図 12

【図 13】

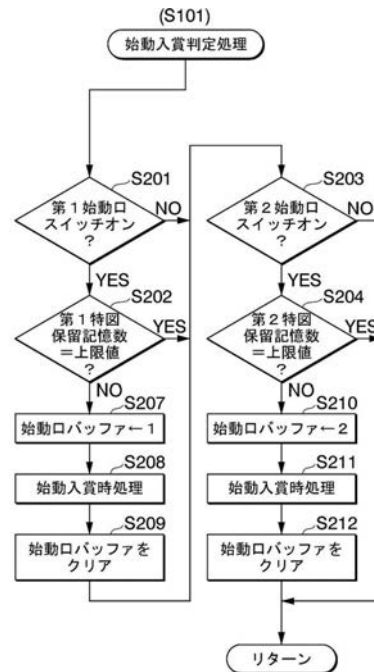


図 13

【図 1 4】

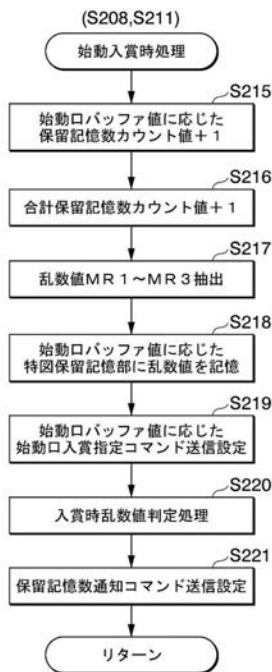


図 1 4

【図 1 5】

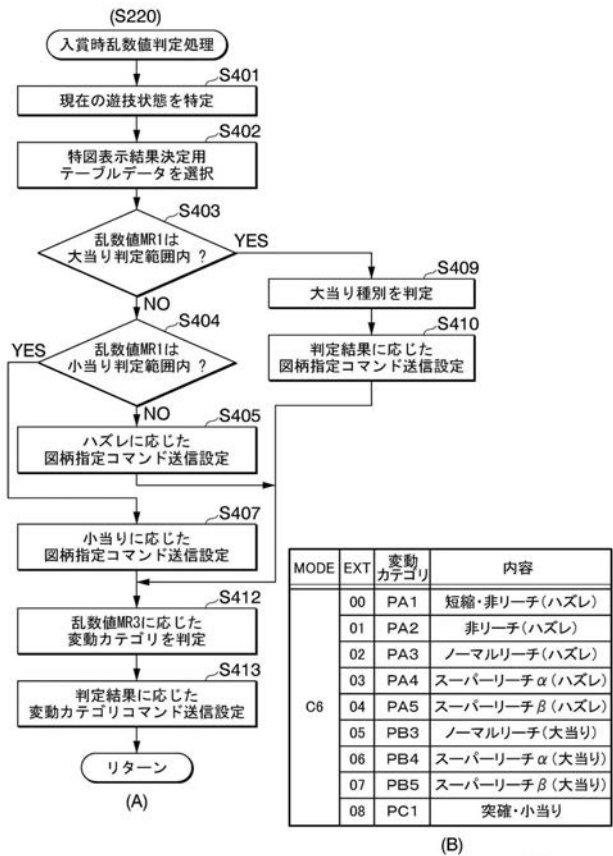


図 1 5

【図 1 6】

特図表示結果	保留記憶数		
	1	2, 3	4
ハズレ	C-TBL1	C-TBL2	C-TBL3
大当り	C-TBL4	C-TBL4	C-TBL4

図 1 6

【図 1 7】

(A) C-TBL1

変動カテゴリ	内容	判定値(MR3)
PA1	短縮・非リーチ(ハズレ)	—
PA2	非リーチ(ハズレ)	0~69
PA3	ノーマルリーチ(ハズレ)	70~96
PA4	スーパーリーチα(ハズレ)	97~98
PA5	スーパーリーチβ(ハズレ)	99

(B) C-TBL2

変動カテゴリ	内容	判定値(MR3)
PA1	短縮・非リーチ(ハズレ)	0~3
PA2	非リーチ(ハズレ)	4~88
PA3	ノーマルリーチ(ハズレ)	89~96
PA4	スーパーリーチα(ハズレ)	97~98
PA5	スーパーリーチβ(ハズレ)	99

(C) C-TBL3

変動カテゴリ	内容	判定値(MR3)
PA1	短縮・非リーチ(ハズレ)	0~63
PA2	非リーチ(ハズレ)	64~88
PA3	ノーマルリーチ(ハズレ)	89~96
PA4	スーパーリーチα(ハズレ)	97~98
PA5	スーパーリーチβ(ハズレ)	99

(D) C-TBL4

変動カテゴリ	内容	判定値(MR3)
PB3	ノーマルリーチ(大当り)	0~19
PB4	スーパーリーチα(大当り)	20~59
PB5	スーパーリーチβ(大当り)	60~99

図 1 7

【図 18】

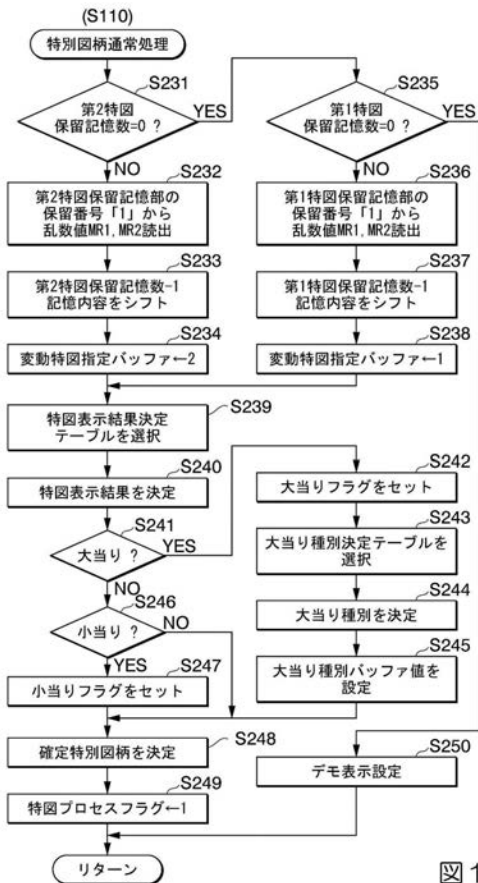


図 18

【図 19】

(A) 変動パターン決定テーブルによる
設定例 (PA1の場合)

変動パターン	決定割合 (MR5)
PA1-1	100

(B)

変動パターン決定テーブルによる
設定例 (PA2の場合)

変動パターン	決定割合 (MR5)
PA2-1	40
PA2-2	30
PA2-3	30

(C) 変動パターン決定テーブルによる
設定例 (PA3の場合)

変動パターン	決定割合 (MR5)
PA3-1	80
PA3-2	20

(F) 変動パターン決定テーブルによる
設定例 (PB3の場合)

変動パターン	決定割合 (MR5)
PB3-1	20
PB3-2	80

(D) 変動パターン決定テーブルによる
設定例 (PA4の場合)

変動パターン	決定割合 (MR5)
PA4-1	40
PA4-2	30
PA4-3	20
PA4-4	10

(G) 変動パターン決定テーブルによる
設定例 (PB4の場合)

変動パターン	決定割合 (MR5)
PB4-1	25
PB4-2	25
PB4-3	25
PB4-4	25

(E) 変動パターン決定テーブルによる
設定例 (PA5の場合)

変動パターン	決定割合 (MR5)
PA5-1	40
PA5-2	30
PA5-3	20
PA5-4	10

(H) 変動パターン決定テーブルによる
設定例 (PB5の場合)

変動パターン	決定割合 (MR5)
PB5-1	20
PB5-2	20
PB5-3	30
PB5-4	30

図 19

【図 20】

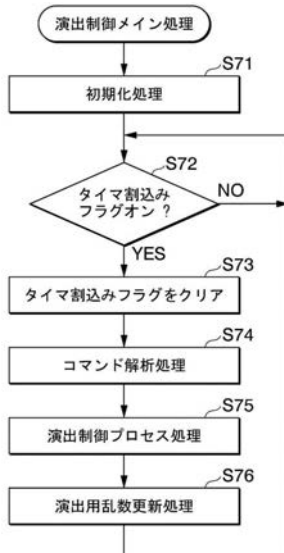


図 20

【図 21】

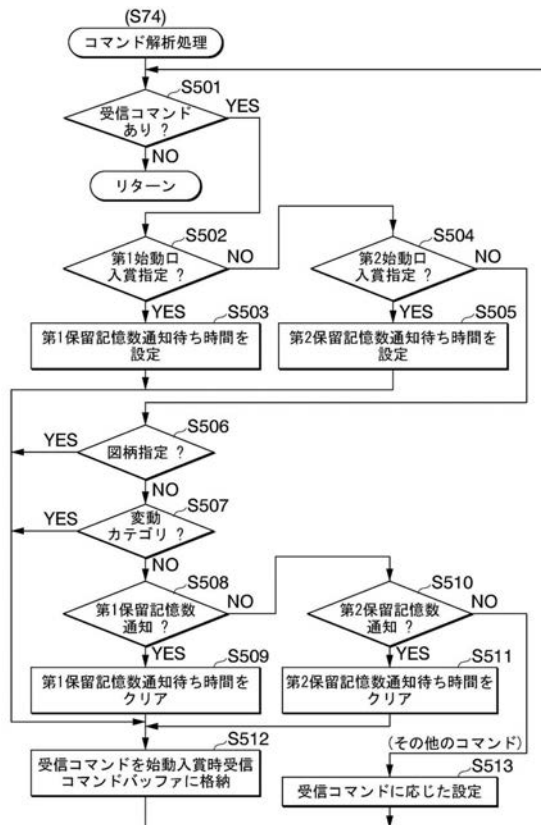


図 21

【図 22】

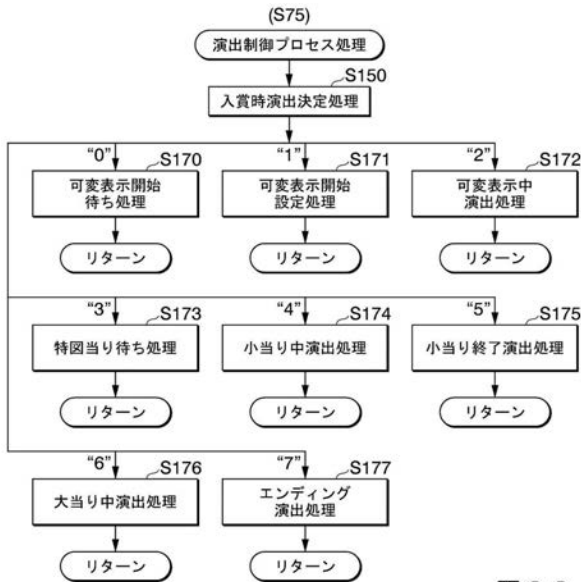


図 22

【図 23】

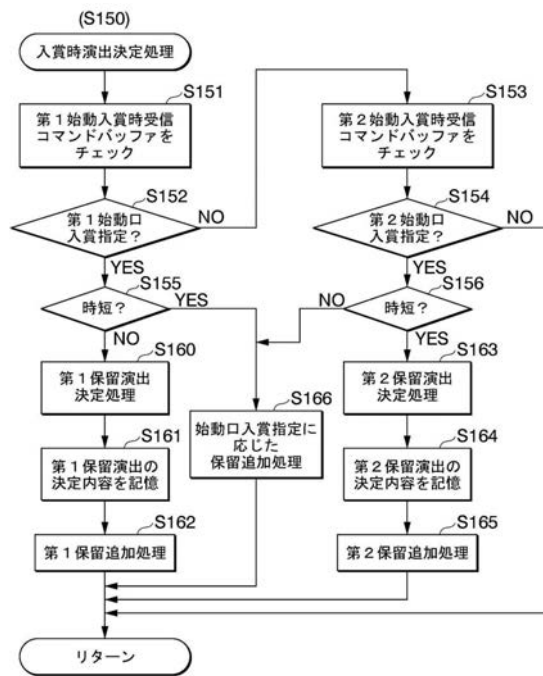


図 23

【図 24】

(A) H-TBL1

保留表示の表示態様	決定割合 (MR6)
赤色	0
黄色	0
青色	10
白色	90

(B) H-TBL2

保留表示の表示態様	決定割合 (MR6)
赤色	0
黄色	10
青色	50
白色	40

(C) H-TBL3

保留表示の表示態様	決定割合 (MR6)
赤色	20
黄色	20
青色	20
白色	40

(D) H-TBL4

保留表示の表示態様	決定割合 (MR6)
赤色	30
黄色	30
青色	30
白色	10

(E) H-TBL5

保留表示の表示態様	決定割合 (MR6)
赤色	0
黄色	20
青色	60
白色	20

(F) H-TBL6

保留表示の表示態様	決定割合 (MR6)
赤色	30
黄色	30
青色	20
白色	20

(G) H-TBL7

保留表示の表示態様	決定割合 (MR6)
赤色	40
黄色	30
青色	20
白色	10

図 24

【図 25】

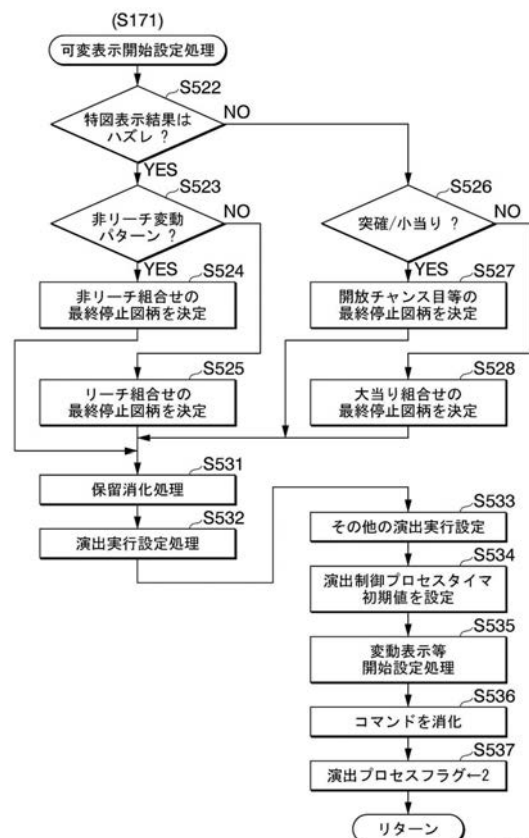


図 25

【図 26】

変動パターン	実行有			実行無
	第1系統変化演出	第2系統変化演出	第1系統変化演出および 第2系統変化演出	
PA1-X	0	0	0	100
PA2-X	0	0	0	100
PA3-X	10	10	10	70
PA4-X	15	10	20	55
PA5-X	20	15	30	35
PB3-X	15	15	40	30
PB4-X	20	17	45	18
PB5-X	22	17	50	11

図26

【図 27】

(A)

アクティブ表示 変化演出 パターン	第1系統 変化演出	PA3-X	PA4-X PA5-X	PB3-X	PB4-X PB5-X
BP1	変化無 (形状「球」)	85	5	5	5
BP2	変化有 (形状「三角形」)	10	75	10	10
BP3	変化有 (形状「五角形」)	5	15	30	15
BP4	変化有 (形状「星」)	0	5	55	70

(B)

アクティブ表示 変化演出 パターン	第2系統 変化演出	PA3-X	PA4-X PA5-X	PB3-X	PB4-X PB5-X
CP1	変化無 (太さ「通常」)	80	10	10	5
CP2	変化有 (太さ「中太」)	20	60	35	35
CP3	変化有 (太さ「極太」)	0	30	55	60

(C)

アクティブ表示 変化演出 パターン	第1系統 変化演出	第2系統 変化演出	PA3-X	PA4-X PA5-X	PB3-X	PB4-X PB5-X
AP1	変化無 (形状「球」)	変化無 (太さ「通常」)	36	0	3	1
AP2	変化無 (形状「球」)	変化有 (太さ「中太」)	30	15	4	1
AP3	変化無 (形状「球」)	変化有 (太さ「極太」)	0	15	4	2
AP4	変化有 (形状「三角形」)	変化無 (太さ「通常」)	12	16	5	2
AP5	変化有 (形状「三角形」)	変化有 (太さ「中太」)	6	12	7	3
AP6	変化有 (形状「三角形」)	変化有 (太さ「極太」)	3	10	7	6
AP7	変化有 (形状「五角形」)	変化無 (太さ「通常」)	7	12	10	3
AP8	変化有 (形状「五角形」)	変化有 (太さ「中太」)	1	4	20	10
AP9	変化有 (形状「五角形」)	変化有 (太さ「極太」)	3	10	20	15
AP10	変化有 (形状「星」)	変化無 (太さ「通常」)	0	4	0	4
AP11	変化有 (形状「星」)	変化有 (太さ「中太」)	1	2	10	20
AP12	変化有 (形状「星」)	変化有 (太さ「極太」)	1	0	10	33

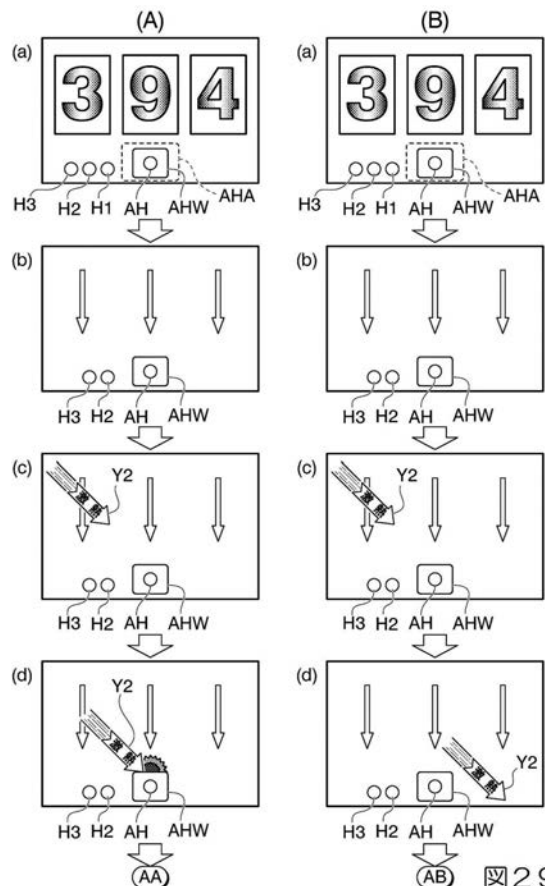
図27

【図 28】

	成功期待度「小」		成功期待度「中」		成功期待度「大」		成功期待度「最大」	
	PA3-1	PA3-2	PA4-1, PA4-2, PA5-1, PA5-2	PA4-3, PA4-4, PA5-3, PA5-4	PB3-1	PB3-2	PB4-1, PB4-2, PB5-1, PB5-2	PB4-3, PB4-4, PB5-3, PB5-4
タイミング1	80	65	50	30	20	10	5	5
タイミング2	—	20	—	25	—	15	—	5
タイミング3	15	10	30	25	30	25	15	10
タイミング4	5	5	20	20	50	50	80	80

図28

【図 29 A】



【図 29 B】

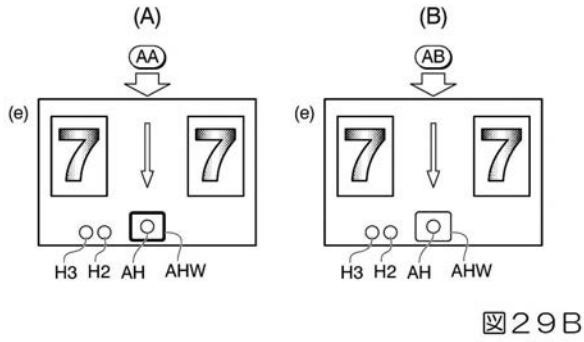


図 29 B

【図 30 A】

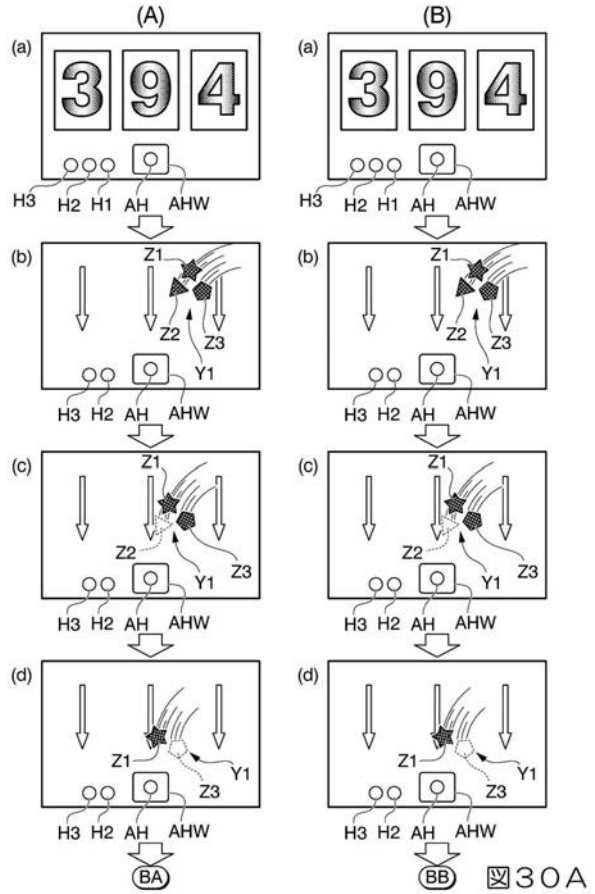


図 30 A

【図 30 B】

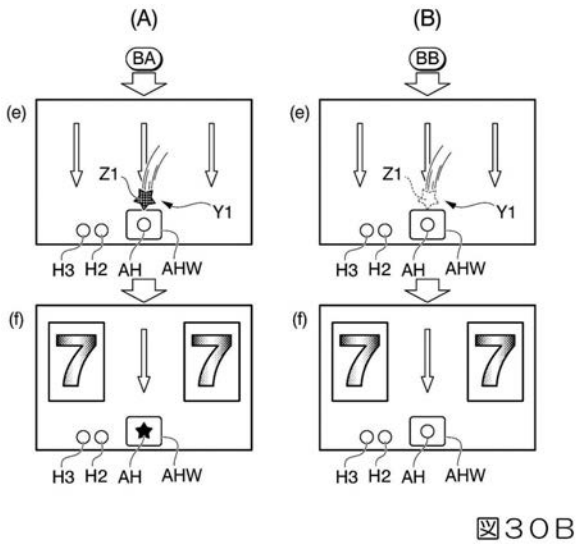


図 30 B

【図 31 A】

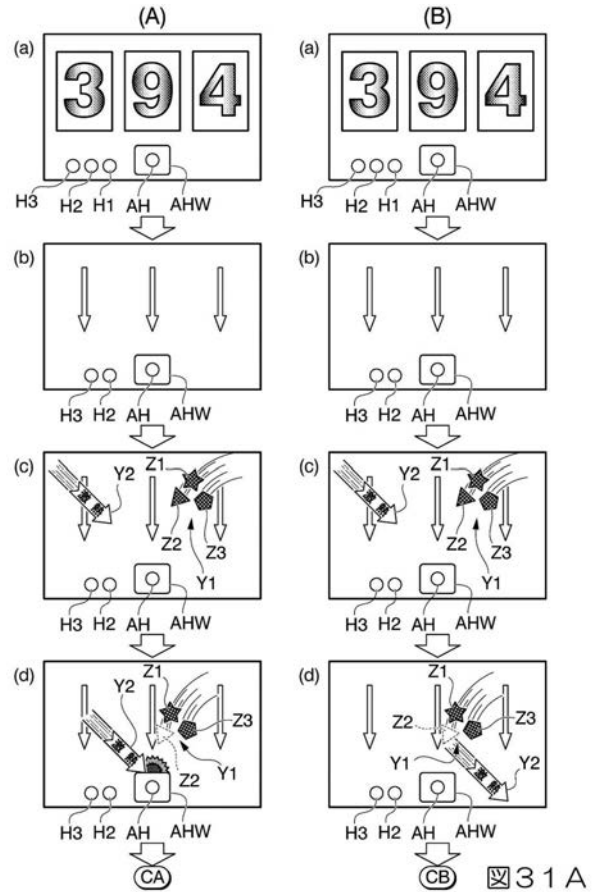


図 31 A

【図 3 1 B】

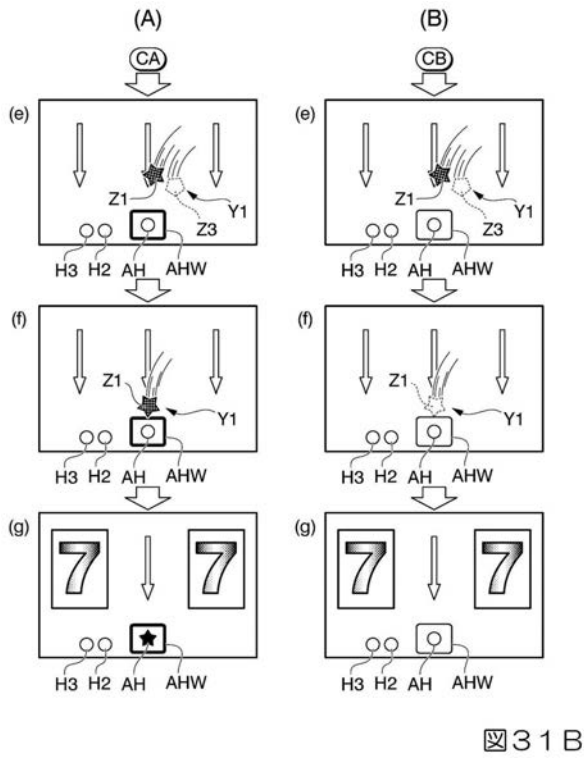


図 3 1 B

【図 3 2 A】

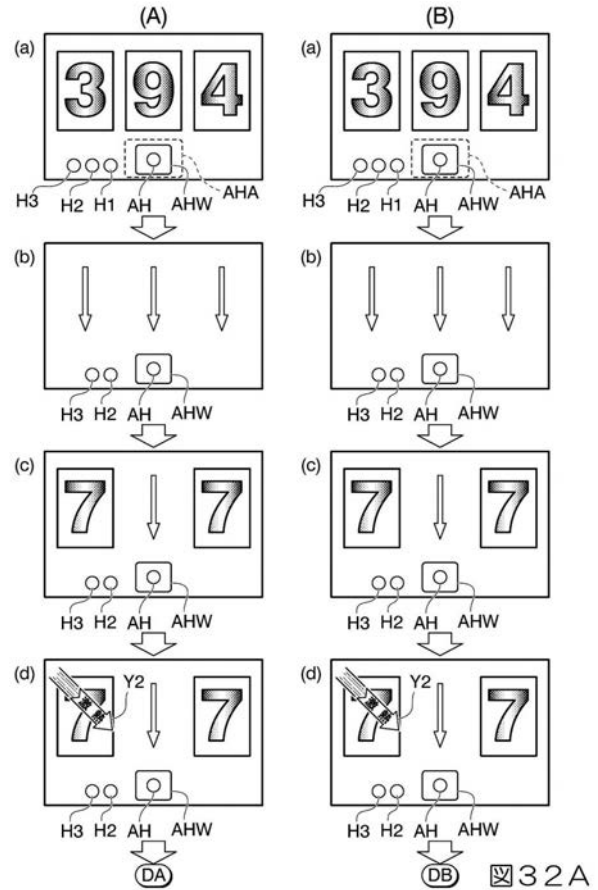


図 3 2 A

【図 3 2 B】

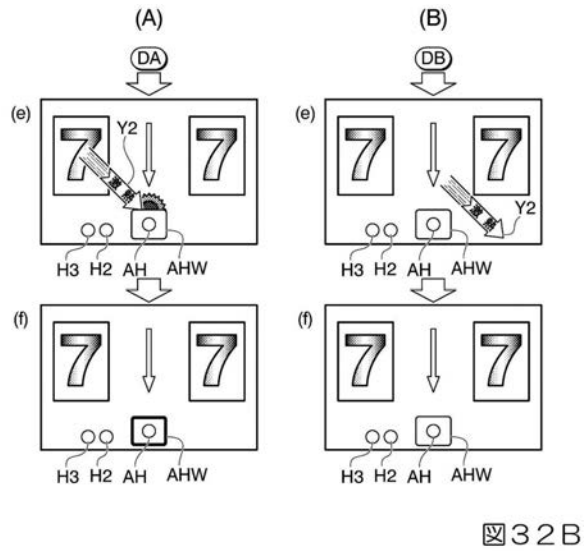


図 3 2 B

【図 3 3 A】

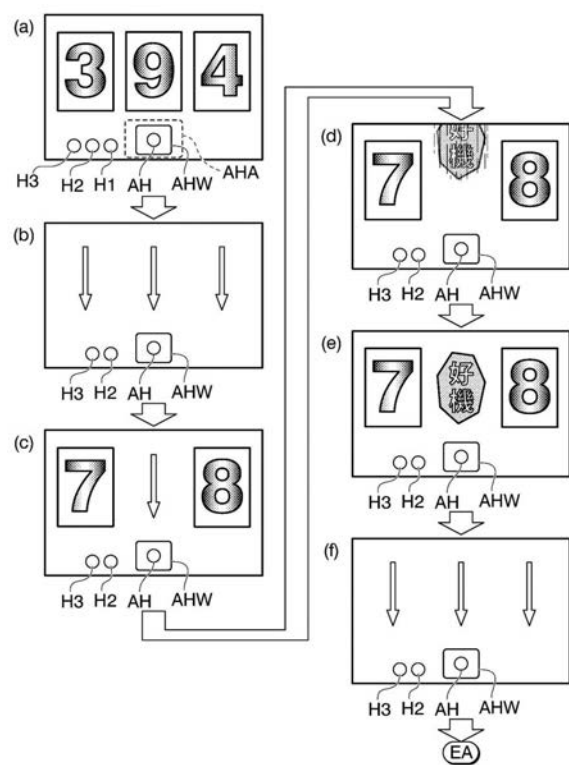


図 3 3 A

【図 3 3 B】

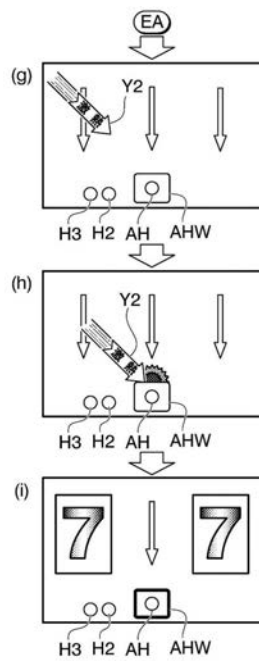


図 33B

【図 3 4 A】

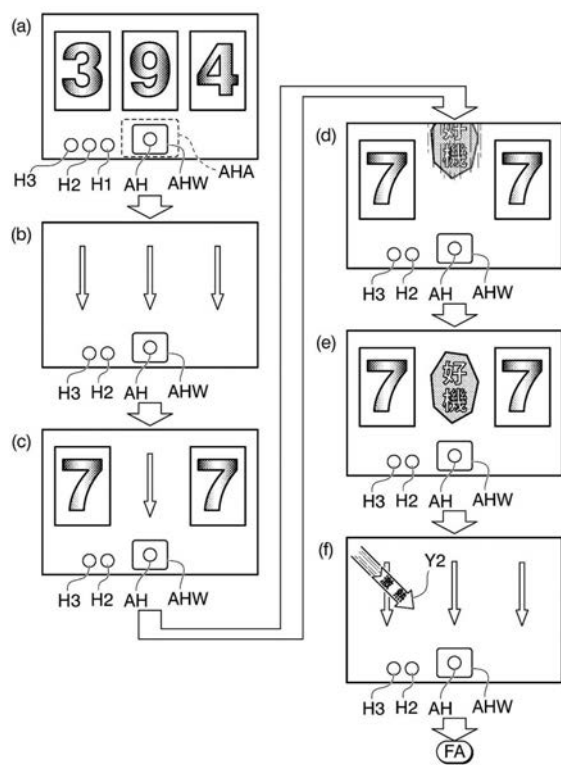


図 34A

【図 3 4 B】

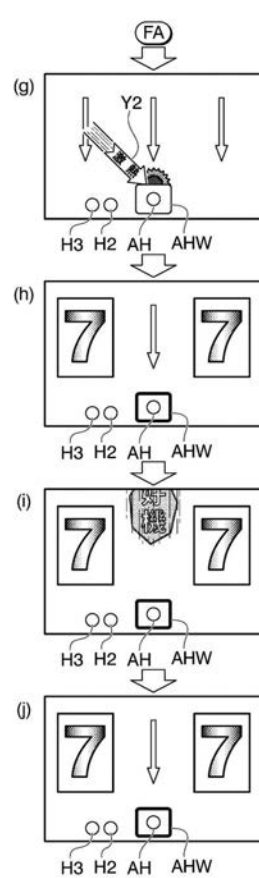


図 34B

【図 3 5 A】

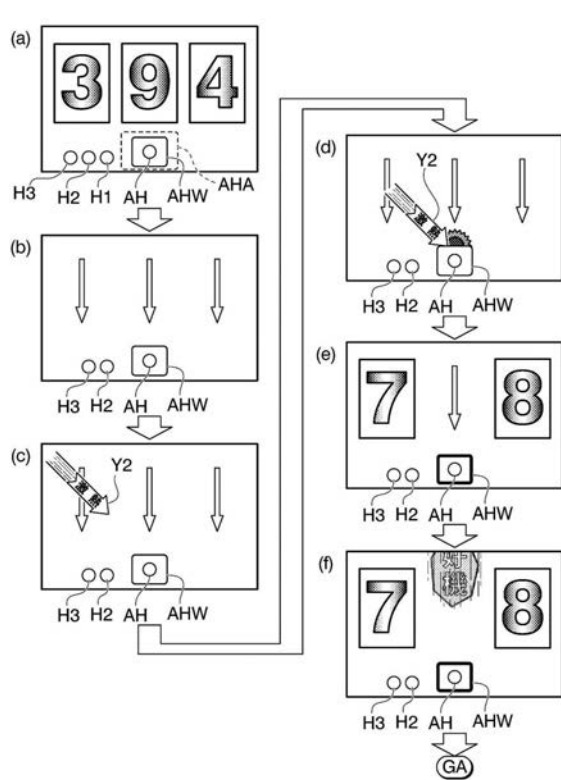


図 35A

【図 3 5 B】

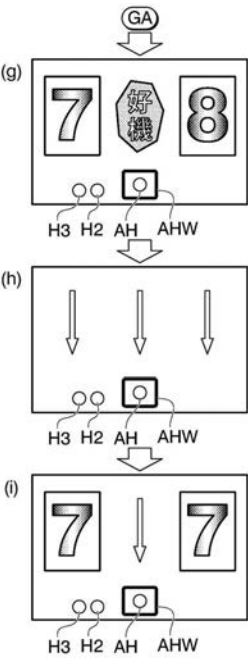


図35B

【図 3 6 A】

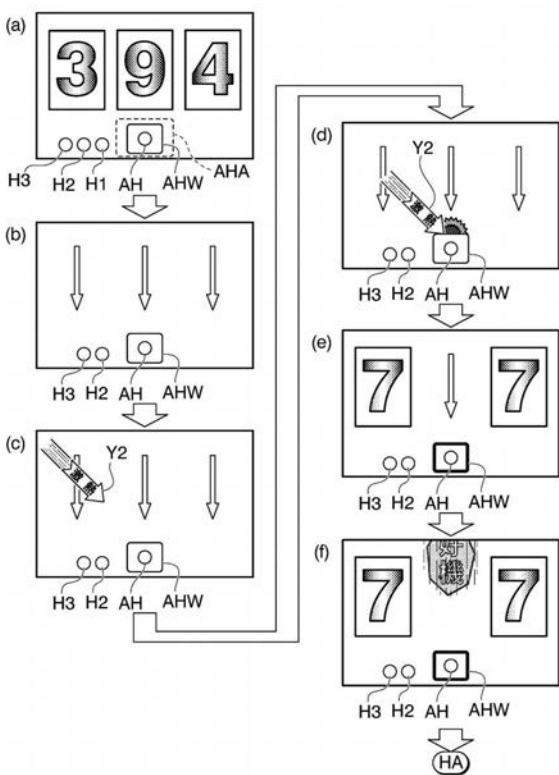


図36A

【図 3 6 B】

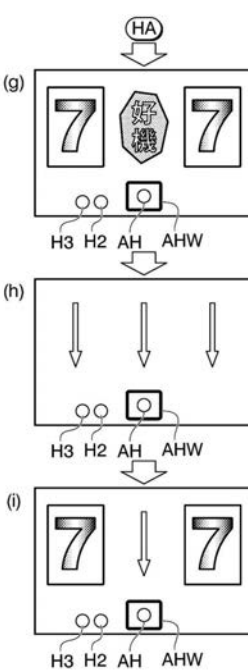


図36B

【図 3 7】

(A) H-TBL1

保留表示の表示態様	決定割合 (MR6)
赤色	0
黄色	0
青色	10
白色	90

(B) H-TBL2

保留表示の表示態様	決定割合 (MR6)
赤色	0
黄色	10
青色	50
白色	32
灰色	8

(C) H-TBL3

保留表示の表示態様	決定割合 (MR6)
赤色	20
黄色	20
青色	20
白色	32
灰色	8

(D) H-TBL4

保留表示の表示態様	決定割合 (MR6)
赤色	30
黄色	30
青色	30
白色	8
灰色	2

(E) H-TBL5

保留表示の表示態様	決定割合 (MR6)
赤色	0
黄色	20
青色	60
白色	16
灰色	4

(F) H-TBL6

保留表示の表示態様	決定割合 (MR6)
赤色	30
黄色	30
青色	20
白色	16
灰色	4

(G) H-TBL7

保留表示の表示態様	決定割合 (MR6)
赤色	40
黄色	30
青色	20
白色	8
灰色	2

図37

【図 38】

(A)

変動パターン	実行有			実行無
	第1系統変化演出	第2系統変化演出	第1系統変化演出および第2系統変化演出	
PA1-X	0	0	0	100
PA2-X	0	0	0	100
PA3-X	8	8	8	76
PA4-X	13	8	18	61
PA5-X	18	13	28	41
PB3-X	13	13	38	36
PB4-X	18	15	43	24
PB5-X	20	15	52	13

(B)

変動パターン	実行有			実行無
	第1系統変化演出	第2系統変化演出	第1系統変化演出および第2系統変化演出	
PA1-X	0	0	0	100
PA2-X	0	0	0	100
PA3-X	12	12	12	64
PA4-X	17	12	22	49
PA5-X	22	17	32	29
PB3-X	17	17	42	24
PB4-X	22	19	47	12
PB5-X	24	19	56	1

図 38

【図 39】

第1系統 詳細パターン (組み合わせ)	当初表示	AP1~AP3, BP1	AP4~AP6, BP2	AP7~AP9, BP3	AP10~AP12, BP4
SHP1	「三」「三」「三」	42	70	—	—
SHP2	「五」「三」「三」	20	15	35	—
SHP3	「五」「五」「三」	10	8	30	—
SHP4	「五」「五」「五」	10	—	25	—
SHP5	「星」「三」「三」	3	4	—	5
SHP6	「星」「五」「三」	6	2	6	10
SHP7	「星」「五」「五」	3	—	3	15
SHP8	「星」「星」「三」	3	1	—	20
SHP9	「星」「星」「五」	3	—	1	40
SHP10	「星」「星」「星」	0	—	—	10

「三」: 形状「三角形」
「五」: 形状「五角形」
「星」: 形状「星」

図 39

【図 40】

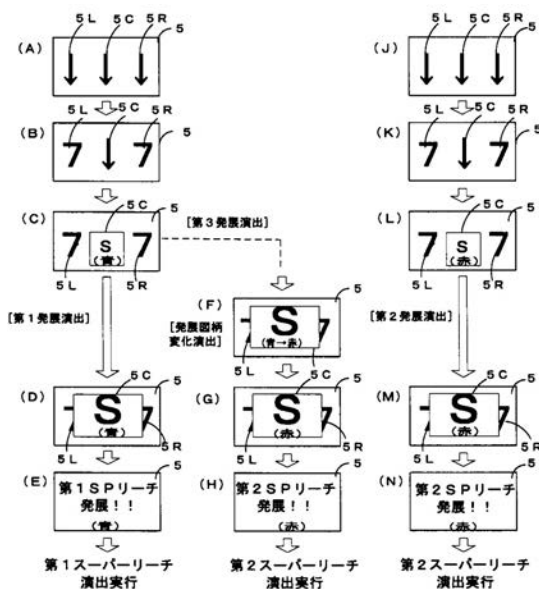


図 40

【図 41】

スーパーリーチ発展演出パターンテーブル

スーパーリーチ種類	スーパーリーチ発展演出種類	発展演出態様
スーパーリーチα	第1発展演出	青色発展図柄停止表示 → 青色発展図柄拡大表示 → 第1SPリーチ発展告知 → 第1スーパーリーチ演出実行
	第2発展演出	赤色発展図柄停止表示 → 赤色発展図柄拡大表示 → 第2SPリーチ発展告知 → 第2スーパーリーチ演出実行
スーパーリーチβ	特殊図柄変化演出	青色発展図柄停止表示 → 青色発展図柄拡大中赤色変更表示 → 第2SPリーチ発展告知 → 第2スーパーリーチ演出実行

図 41

【図 42】

(A) はずれ決定時発展演出選択テーブル(スーパーリーチβ決定時)

スーパーリーチ発展演出種類	決定割合(MR10)
第2発展演出 (青色演出発展)	60
第3発展演出 (青色→赤色演出発展)	40

(B) 大当たり決定時発展演出選択テーブル(スーパーリーチβ決定時)

スーパーリーチ発展演出種類	決定割合(MR10)
第2発展演出 (青色演出発展)	40
第3発展演出 (青色→赤色演出発展)	60

図 42

【図 4 3】

(A) ノーマルリーチ演出 (ハズレ)



(B) 第1発展演出



(C) 第2発展演出



(D) 第3発展演出



図 43

【図 4 4】

(S532の一部処理)

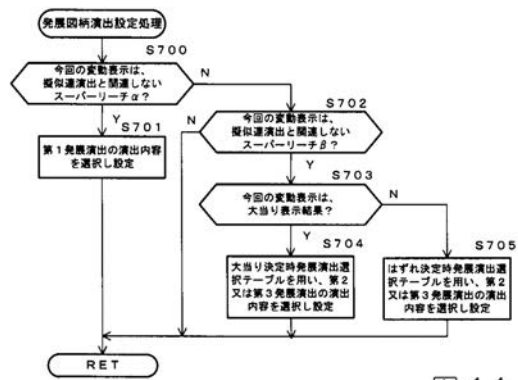


図 44

【図 4 5】

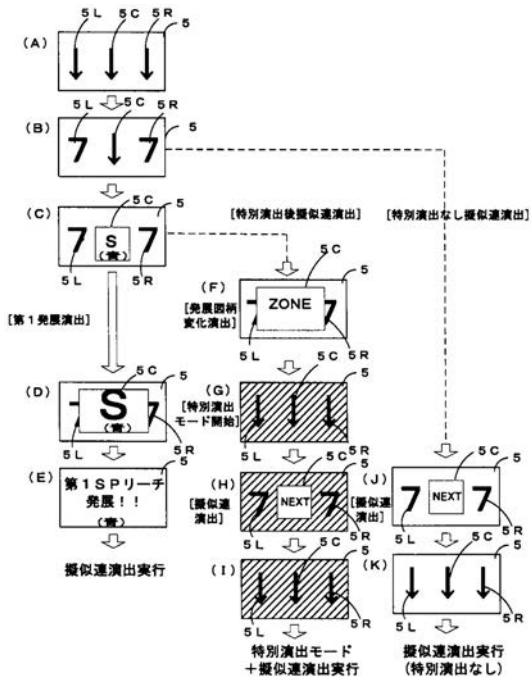


図 45

【図 4 6】

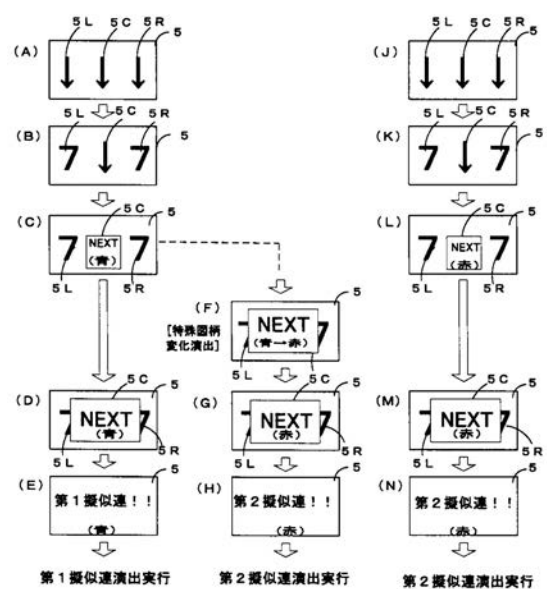


図 46

【図 47】

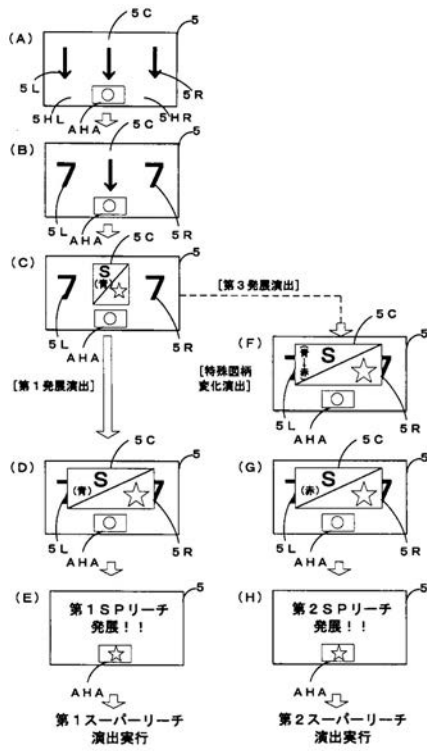


図 47